

4年12月30日
台帳記入

No. 165

昭和十二年版

滿洲紳士錄



東京 滿蒙資料協會藏版

序

ひと口に、紳士録の編纂といつてしまへば、それまでですが、缺點の無い、本當に役に立つ、利用價值の多いものを出さうとすれば、これ程面倒な、至難な、仕事はありません。併し、それが、營利本位の目算から、いゝ加減なところで纏め上げるとすれば、こんなまた算盤のたしかな出版事業は、他にタントはありますまい。ましてや、その編纂が、既刊類書の何ものかを材料とするものであつたとしたら、それこそ人の禪で角力のボロイこと此上無しです。此種類書の刊行が年々殖える一方なものも、こうした穴があるからであり、出るもの、どれもが、大抵大同小異、實用に適せぬものが多いといふ譯合ともなります。

本書は、どうかして在來類書の缺陷を補ひ、前人未到の事業としての眞面目を發揮すべく、また本協會誕生の本來の使命をも示顯すべく、着手後に於ける總ゆる困難の場合を豫想して、一々これに應ずる細心の對策と、不動の覺悟をきめるところがありました。満日の總務局長本村さんや、弘報協會の奥村理事その他、お世話になつた諸先輩どなたもが、必ず判を捺したやうに、『仲々の大事業ですな、骨が折れませう』と仰有る。これは強ちお座なりのお上手では無く、編纂上にも、經營上にも、幾多の困難を見抜いてゐられるからのお言葉です。また解しやうによつては、説明書通りそんな立派なものが出来やう筈は無いといふ、言外の意味も含まれてゐたかも知れません。

さて、やり出して見ると、果して苦難殺到の光景で、尠なかつず僻易したものです。第一には材料蒐集の困

難だつたことです。殊に街の訪問先では、多く商店ですが、頭から書物の押賣りと感違ひして、門前拂ひ軒並です。中には説明も聞かぬ中に罵詈雑笑、今にして考へれば、人一倍血の氣の多い我々が、よくも辛抱し通したものだと思ひます。それが領事館や、民會や、會議所や、商工會や、組合やの例外無しの御理解ある御援助を得たのと、隠忍撓まざる特派員諸君の努力とで、比較的小魚は逃がしても、肝腎な大物ば先づ漏るゝ無き結果を得ました。これら街の人々とは違つて、官廳の人や、滿鐵人の朗かき、この方面へは我々の眞剣な誠意が其の儘に受け容れられて、これは逆に豫想外の好成绩でした。何れも快よく面會もして下さるし、寫真も撮らせて下さる、進んでは御多忙の中を、色々編輯上のお手傳までして下さるといふ、實に有難いことのみでした。お蔭で官界と滿鐵人に限り一人の遺漏無しと斷言し得るものとなりました。

第二は編輯の苦勞でした。異動が目まぐるしいまでに烈しいからです。大世帯の滿鐵、その五月一日の大異動が、組版着手間もなくでありましたし、其後の毎日の異動、それに七月一日發令滿洲國行政機構改革に伴ふ主要人事異動の如き、既に三分二の組版を終つた校正の眞ッ最中でありましたから、これを出來る限り補訂するのに、印刷工場とは毎日朝から晩まで喧嘩です。それでも間に合はなかつた分は、卷末に「追補表」を附けることゝしましたが、兎に角印刷終了の間際まで内容の補訂に忠實だつたことは、苦勞しながらも、汗の後の喜び、といつたものを感せずには居られません。

第三は經濟關係でした。瘠我慢にも樂だつたとはいへないので。その筈です。豫約出版の手續を履みながら豫約金はおろか、材料さへ蒐め得れば、此際申込は要らないといふ建前でしたから、莫大な出張費用、其の

他印刷製本費を除く編纂費用だけで、十萬圓近いものが皆寝てしまつたのです。十萬位とお嗤ひ下さるな、書生の寄合に微力な協會、殊には色々の上梓計畫で、資金の寝てる最中のことです。相當冷汗をかいたものです。次版からはいくらかでも、この埋め合せがついてゆくやう、イヤ來年の話では無い、精々この初版の賣れますやう、此上の御引立を願つてやみませぬ。

次が人的問題でした。特派員中一人が怪我、二人が病を得て途中歸還の餘儀なきこととなり、その補充が出來ず弱りました。そしてその一人は、校正終結の日醫師から最後の宣告を受けました。チト大袈裟な言ひ方で、内容を検討しますのに、千四百九十頁から寫真不足の不手際を演じたほか、他にも遺憾の點無しとしません。が、初版計畫として、マア此程度なら、どなたの前へ出しても、在來の書どれと比較して戴いても、ヒケは取るまいと確信してゐます。唯だ滿洲國人の収録を次版に譲つたことは、本書刊行趣旨の上からも、躍進滿洲の現状からいつても、發行者の最も遺憾とする所ですが、初版計畫の完璧を期する上に於て、やむをえなかつたことでもあります。大方の御寛恕を請ふ次第でございます。

顧みますれば、王道樂土滿洲帝國の創建以來、茲に五年餘、世界環視の中に、遂に克く近代國家としての體系を築き上げ、儼乎世界の認識を新たにしたその躍進ぶりの目覚ましきは、正に世紀を搖がす驚異的の一大事實であります。今や國礎愈々固く、建業日に旺んなる、これ偶然の出來事ではありません。申すも畏い極み乍ら聖明萬世を照し給ふた、明治大帝より今上陛下の、この昭和の御代に至るまで、半世紀に亘つて、日本は一貫

不撓の全幅的努力をこれに傾注して来たのです。三度びまでも國運を賭したのであります。この三度びの聖戦に、護國の人柱となられた數萬の英靈と、今猶ほ續く治國犠牲の英靈に對しては、今更乍ら國民として感謝措く能はざるものであります。我々はまた、現に生命線滿蒙の第一線に活躍しつつある在滿邦人の先達に對しても、等しく感謝の念を禁じ得ぬものであります。

滿鐵人が常に軍鐵一致の信念に立ち、只管其の使命の達成と、國軍の神速果敢なる行動を助け、生死の間に身を挺しての不斷の努力、建國後我が日系官吏が、山險僻陬を問ふことなく、右に筆、左に劍の指導的決死の奮闘、また日露戦争直後乃至遠くは其以前から、漂渺無邊際の大荒野に、百年の理想を描き、平和の戦士として幾多の嶮峻起伏と闘ひ通して来た、先覺者のその崇高な精神には、自から頭の下がるものがあります。

本書が徹頭徹尾實用本位を標榜しながら、【経歴】の詳述の他に、特に【特記】【功賞】の各欄を特設して、それら過去奮闘の事實、功績の具體的事實を特筆したのは、内地に暖衣飽食、目先の安易のみを念願として、滿洲開發急務の現實に對しては、耳を掩ふて知らん顔の、そこらの成金輩への一警鐘たるを信するがためであります。内地の事業家は本書の示唆によつて一日も早く、一人でも多く、滿洲を視察し、滿洲投資を敢行することです。自分の懐ろばかり氣にしてゐる時代ぢやありません。「生命線滿蒙」といふことも、滿洲を視察して初めて味得しうる實感です。

また本書が一部でも多く、全國到る處に利用され、政治に、經濟に、産業に、交通に、滿洲のよりよき發展に資するところあらうことを信じ、今後共大方の御後援に依り愈々益々内容の充實を冀望してやみませぬ。

尙ほ本書編纂着手以來、關東局、日本大使館、滿洲國全官廳、滿鐵、滿鐵傍系會社その他、地方の商工會議所、商工會、居留民會、新聞社等から常に多大の御便宜を辱うしましたその御厚情に對しましては、本書が今後毎年重版され、「滿洲紳士録」の名の、永久存続する限り、同人の絶對忘れることの出来ないところでありま。茲に一々その御尊名を列舉し、謝意の一端を記録したのでございますが、中には御職掌柄、こちらから御遠慮申上げねばならない向もあり、これを省略することの却つて禮儀かとも存じ、單に完成御挨拶旁本日夫々御禮狀を差出すにとどめました。

終りに酷寒の滿洲、我々としては相當心身に應へた冬季の出張調査に、また極めて短時日の難編纂に、晝夜兼行、不眠不休の活動を續けられた協會幹部の勞を多とせねばなりません、初版の門出に、その氏名を録し、以て記念したいと思います。

- 飯田常男君、黒田三枝君、坂齋雅美君、鈴木政男君、富塚知聡男君、中西元治君、中村一郎君、濱田藤吉君
- 林冬雄君、保科久治君、三角俊一郎君

ソ兵撤退承認に依り乾谷子事件解決間も無く北支事變突發の報を聞く、暑熱猛烈の日記之

主幹 中西未耕

青山乙二郎	150	明石清一	188	浅野良三(實)	151
青山覺五郎	150	明石平藏	188	浅野慶一	151
青山勝藏	150	明石秀子	188	浅見節二	151
青山邦一	151	明田豐作	189	浅海清一	151
青山敬之助	151	秋田文之	189	浅輪三郎	151
青山三郎	151	秋田春友	189	朝枝義典	152
青山正	151	秋田久之郎	189	朝倉貴九郎	152
赤井輝雄	152	秋田文之	189	朝倉智教	152
赤川章一	152	秋田久太郎	189	朝日直樹	152
赤木毅	152	秋富久太郎	189	朝比奈敬三	152
赤坂悠一	152	秋永彌助	189	朝比奈治道	152
赤坂三六	152	秋庭久嘉	189	朝比奈治道	152
赤澤三六	152	秋元金之助	189	朝比奈治道	152
赤司康太	152	秋元武	189	朝比奈治道	152
赤司初太郎	152	秋元豐二	189	朝比奈治道	152
赤鹿文雄	152	秋本千秋	189	朝比奈治道	152
赤瀬川安彦	152	秋森正義	189	朝比奈治道	152
赤塚吉次郎	152	秋山卯八	189	朝比奈治道	152
赤塚眞清	152	秋山和夫	189	朝比奈治道	152
赤塚正朝	152	秋山兼雪	189	朝比奈治道	152
赤沼茂芳	152	秋山治郎	189	朝比奈治道	152
赤羽一	152	秋山眞造	189	朝比奈治道	152
赤羽柳吉	152	秋山太助	189	朝比奈治道	152
赤羽林太郎	152	秋山三郎	189	朝比奈治道	152
赤星武房	152	秋山政男	189	朝比奈治道	152
赤松三	152	秋山三夫	189	朝比奈治道	152
赤松智	152	秋山保太郎	189	朝比奈治道	152
赤松常吉	152	秋山保太郎	189	朝比奈治道	152
赤松義区	152	秋吉郷造	189	朝比奈治道	152
赤松一夫	152	秋吉重藏	189	朝比奈治道	152
赤石勝利	152	秋田信十郎	189	朝比奈治道	152
		芥川長治	189	朝比奈治道	152

雨夜甚將	150	荒木利恭	188	井上竹四郎	151
網野駒雄	150	荒木秀治	188	井上辰藏	151
網本正三郎	150	荒瀬恒雄	188	井上忠也	151
網野シナ子	150	荒牧孝	188	井上忠也	151
荒井章昇	150	荒卷繁之丞	188	井上忠也	151
荒井卯三郎	150	荒卷敏治	188	井上忠也	151
荒井借太郎	150	荒卷吉郎	188	井上忠也	151
荒井啓五郎	150	荒谷千次	188	井上忠也	151
荒井静雄	150	荒井三郎	188	井上忠也	151
荒井退造	150	荒井重巳	188	井上忠也	151
荒井信行	150	荒井重美	188	井上忠也	151
荒井芳太郎	150	荒井俊五郎	188	井上忠也	151
荒井善治	150	荒井静二	188	井上忠也	151
荒井棟	150	荒井静二	188	井上忠也	151
荒尾策謀	150	荒井静二	188	井上忠也	151
荒賀直彦	150	荒井静二	188	井上忠也	151
荒川海太郎	150	荒井静二	188	井上忠也	151
荒川金一	150	荒井静二	188	井上忠也	151
荒川長太郎	150	荒井静二	188	井上忠也	151
荒川秀次	150	荒井静二	188	井上忠也	151
荒木章	150	荒井静二	188	井上忠也	151
荒木伊平	150	荒井静二	188	井上忠也	151
荒木猪象	150	荒井静二	188	井上忠也	151
荒木和成	150	荒井静二	188	井上忠也	151
荒木勝太郎	150	荒井静二	188	井上忠也	151
荒木清	150	荒井静二	188	井上忠也	151
荒木幸七郎	150	荒井静二	188	井上忠也	151
荒木忠孝	150	荒井静二	188	井上忠也	151
荒木辰馬	150	荒井静二	188	井上忠也	151
荒木哲之助	150	荒井静二	188	井上忠也	151

イ之部

石田見勇	石原次郎	磯部佑治	市川正俊	稻垣恭一郎
石田知義	石原重高	磯邊新	市川保一	稻垣其兵衛
石田又次	石原秋朗	磯村治太郎	市川倫	稻垣三夫
石田芳雄	石原清吉	磯村一三	市川武	稻垣茂一
石田隆造	石原善吉	磯倉眞五	市川萬作	稻垣三郎
石津泰一	石原辰蔵	板倉眞平	市成太三郎	稻川利一
石津半治	石原正規	板橋喜久治	市橋良治	稻田虎熊
石津房夫	石原一雄	板橋竜生	市原三六郎	稻田豊
石塚武	石松興一郎	板橋祐準	市原善積	稻田實
石塚保	石丸三郎	一木且治	市丸善正	稻次義一
石戸谷勲	石村英造	一木敏之	市丸善正	稻富幸一
石動品五郎	石村長七	一條信一	市丸善正	稻富幸三郎
石野軍平	石元正勇	一條英太郎	出光計助	稻富芳松
石橋義祐	石本力蔵	一條勇進	出光佐三	稻野英吉
石橋清	石森延男	一瀬安平	泉顯彰	稻葉英一
石橋竹苞	石谷清一	一瀬七郎	泉正一	稻葉亨二
石橋東洋雄	石山憲一	一宮章	泉貞輔	稻葉幸太郎
石橋徳次	石山泰三	一柳庄助	泉三郎	稻葉好延
石橋徳太郎	石和柏蔵	市江房一	泉孫七郎	稻葉喜久
石橋信延	石渡五六	市岡猪之助	泉芳政	稻葉龍三郎
石橋信弘	石渡晴雄	市岡永七	泉田光雄	稻見繁太郎
石橋壽人	磯尾長優	市岡忠義	和泉研	稻村峯一
石橋弘毅	磯兼益三	市川金太郎	和泉正男	稻森誠一
石橋房吉	磯野文蔵	市川健吉	和泉正男	稻森彦左衛門
石橋由太郎	磯野治作	市川次郎	永永幸一	大岡憲治
石橋美之介	磯野長蔵	市川頼治	稻井清一	大塚善吉
石橋米一	磯端宗次郎	市川時義	稻垣菊五郎	大丸春美
石畑傳藏	磯部慶三	岩崎久男		乾嘉三郎
石林玉塚				

乾彦藏	今中良	岩井勘六	岩崎丙午郎	岩永保馬
庵原豊	今西莞爾	岩井三郎	岩崎安美	岩永雨之助
庵谷忱	今西喜蔵	岩井忠三	岩崎義雄	岩波藏三郎
今井英一	今西米次郎	岩井鐵吉	岩澤三郎	岩並保
今井覺太郎	今堀福太郎	岩井寅藏	岩澤専次郎	岩根元三
今井克彦	今村猪之吉	岩井仁吉	岩澤三郎	岩淵一夫
今井銀瓶	今村宇市	岩尾眞一	岩重達三郎	岩淵昇太郎
今井國三	今村貫一	岩尾精一	岩島勇太郎	岩淵藤一郎
今井健五郎	今村矩八	岩男其二郎	岩瀬儀一	岩間甲斐之助
今井行平	今村金三	岩岡俊一	岩瀬幸二	岩間啓次郎
今井三郎	今村佐太郎	岩上鷹一郎	岩田勝利	岩間信一
今井主	今村辰四郎	岩川完	岩田勘造	岩間徳也
今井春一	今村精男	岩城武藤	岩田邦夫	岩松英一
今井節夫	今村知光	岩城達夫	岩田作十郎	岩丸軍三郎
今井善治	今村貞治	岩切受敬	岩田繁	岩滿虎二
今井忠夫	今元盛市	岩切惣吉	岩田秋二	岩滿三七男
今井民造	今吉均	岩熊之士	岩田正五	岩滿三男
今井貞治		岩佐義一	岩田常雄	岩村卯吉
今井俊彦		岩佐四郎	岩田廣次	岩村米蔵
今井博幸		岩佐徳二	岩田文男	岩室茂
今井良平		岩坂三三郎	岩田平造	岩元岩次郎
今井鍊一		岩崎伊三郎	岩田又兵衛	岩本慶吉
今井吉		岩崎卯一	岩田實	岩本慶之進
今泉卯吉		岩崎儀三郎	岩田保次郎	岩本四郎
今泉經		岩崎金十郎	岩田博	岩本實造
今川伊介		岩崎賢太郎	岩竹松之助	岩本信治郎
今川和		岩崎小虎	岩永末次	岩本政夫
今川高		岩崎時夫	岩永唯一	岩本善男
今川嘉高		岩崎伯一	岩永友四郎	岩本善東
今里通三		岩崎久男		岩本善東
今清水昌平				岩本善東
今城説次				岩本善東
今蘭龍吉				岩本善東
今津今吉				岩本善東

大橋 慎一	二五〇	大本 猛	八九二	太田 十一郎	二九二	岡崎 繁太郎	二九二	岡野 勇	二九二
大橋 貞一	二五〇	大森 榮助	二九二	太田 信三	二九二	岡崎 昌造	二九二	岡野 榮次郎	二九二
大橋 正巳(附録)	二五〇	大森 見矩司	二九二	太田 清作	二九二	岡崎 得郎	二九二	岡野 清吉	二九二
大橋 正巳(通稱)	二五〇	大森 賢之進	二九二	太田 宗太郎	二九二	岡崎 篤義	二九二	岡野 誠治	二九二
大橋 將實	二九二	大森 貞夫	二九二	太田 辰雄	二九二	岡崎 弘文	二九二	岡野 精之助	二九二
大橋 芳彦	二九二	大森 志郎	二九二	太田 哲夫	二九二	岡崎 森之助	二九二	岡野 保	二九二
大橋 賴三	二九二	大森 清吉	二九二	太田 直一	二九二	岡崎 乙一	二九二	岡野 博一	二九二
大橋 蘇一	二九二	大森 清賢	二九二	太田 寶作	二九二	岡崎 信吾	二九二	岡野 好茂	二九二
大林 勇	二九二	大森 太次郎	二九二	太田 雅覺	二九二	岡崎 島三郎	二九二	岡野 修	二九二
大林 惠美四郎	二九二	大森 爲次	二九二	太田 雅夫	二九二	岡崎 島信吾	二九二	岡野 善修	二九二
大林 太次郎	二九二	大森 銳治	二九二	太田 芳郎	二九二	岡崎 克己	二九二	岡野 嘉市郎	二九二
大原 丑太郎	二九二	大森 廣見	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 銀治	二九二	岡野 金藏	二九二
大原 清逸	二九二	大森 文美	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 倉吉	二九二	岡野 熊治郎	二九二
大原 萬壽雄	二九二	大森 久雄	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 三九生	二九二	岡野 爲吉	二九二
大原 萬千石	二九二	大屋 幾久雄	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 三郎	二九二	岡野 爲吉	二九二
大日方 一司	二九二	大柳 善一	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 順次	二九二	岡野 爲吉	二九二
大人 榮次郎	二九二	大山 龜藏	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 繁三郎	二九二	岡野 爲吉	二九二
大平 銀次郎	二九二	大山 慎一	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 誠次	二九二	岡野 爲吉	二九二
大平 國士	二九二	大山 武彦	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 誠次	二九二	岡野 爲吉	二九二
大藤 傳治郎	二九二	大山 壽一	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 誠次	二九二	岡野 爲吉	二九二
大瀨 竹松	二九二	大山 壽一	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 誠次	二九二	岡野 爲吉	二九二
大瀨 貞吉	二九二	大山 壽一	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 誠次	二九二	岡野 爲吉	二九二
大部 二郎	二九二	大山 壽一	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 誠次	二九二	岡野 爲吉	二九二
大保 時男	二九二	大山 壽一	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 誠次	二九二	岡野 爲吉	二九二
大堀 新治	二九二	大山 壽一	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 誠次	二九二	岡野 爲吉	二九二
大堀 義行	二九二	大山 壽一	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 誠次	二九二	岡野 爲吉	二九二
大宮 二郎	二九二	大山 壽一	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 誠次	二九二	岡野 爲吉	二九二
大村 卓一	二九二	大山 壽一	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 誠次	二九二	岡野 爲吉	二九二
大村 哲太郎	二九二	大山 壽一	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 誠次	二九二	岡野 爲吉	二九二
大本 謙一	二九二	大山 壽一	二九二	太田 重夫	二九二	岡崎 誠次	二九二	岡野 爲吉	二九二

小口 光男	二九二	小田 敬三	二九二	小野 龍三	二九二	尾崎 重三郎	二九二	大池 喜市	二九二
小倉 榮太郎	二九二	小田 敬四郎	二九二	小野 木光次	二九二	尾崎 淳一郎	二九二	大石 義三郎	二九二
小倉 圓平	二九二	小田 孝三	二九二	小野 瀨義男	二九二	尾崎 唯一	二九二	大石 三郎	二九二
小倉 勝誠	二九二	小田 正治	二九二	小野 寺武志	二九二	尾崎 虎太郎	二九二	大石 重義	二九二
小倉 輝二	二九二	小田 虎雄	二九二	小野 寺勉	二九二	尾崎 伸一	二九二	大石 龍彦	二九二
小倉 時義	二九二	小田 基樹	二九二	小野 寺尙	二九二	尾崎 正文	二九二	大石 智郎	二九二
小倉 彦四郎	二九二	小田 要一	二九二	小野 寺兵右衛門	二九二	尾崎 行良	二九二	大石 安太郎	二九二
小倉 正恒	二九二	小田 柿喜次郎	二九二	小野 村米吉	二九二	尾崎 米喜	二九二	大石 義勇	二九二
小倉 吉利	二九二	小田 切政孝	二九二	小幡 秀雄	二九二	尾崎 上之助	二九二	大石 富太郎	二九二
小倉 禮三	二九二	小田 島孝藏	二九二	小幡 直	二九二	尾崎 上慎吾	二九二	大石 正徳	二九二
小栗 牛平	二九二	小田 島興三	二九二	小濱 新	二九二	尾崎 上太市	二九二	大石 銀象	二九二
小栗 元二	二九二	小田 島興三	二九二	小濱 彦三郎	二九二	尾崎 上七八二	二九二	大石 峯吉	二九二
小黒 善藏	二九二	小田 今朝治郎	二九二	小原 貞敏	二九二	尾崎 上芳雄	二九二	大石 峯吉	二九二
小黒 隆太郎	二九二	小田 今朝治郎	二九二	小原 博一	二九二	尾崎 上拾次郎	二九二	大石 峯吉	二九二
小此木 九三	二九二	小田 今朝治郎	二九二	小原 二夫	二九二	尾崎 上拾次郎	二九二	大石 峯吉	二九二
小此木 藤雄	二九二	小田 今朝治郎	二九二	小原 孫四郎	二九二	尾崎 上拾次郎	二九二	大石 峯吉	二九二
小澤 章成	二九二	小田 今朝治郎	二九二	小原 孫四郎	二九二	尾崎 上拾次郎	二九二	大石 峯吉	二九二
小澤 清三	二九二	小田 今朝治郎	二九二	小原 孫四郎	二九二	尾崎 上拾次郎	二九二	大石 峯吉	二九二
小澤 太兵衛	二九二	小田 今朝治郎	二九二	小原 孫四郎	二九二	尾崎 上拾次郎	二九二	大石 峯吉	二九二
小澤 恒三	二九二	小田 今朝治郎	二九二	小原 孫四郎	二九二	尾崎 上拾次郎	二九二	大石 峯吉	二九二
小澤 宜義	二九二	小田 今朝治郎	二九二	小原 孫四郎	二九二	尾崎 上拾次郎	二九二	大石 峯吉	二九二
小澤 茂一	二九二	小田 今朝治郎	二九二	小原 孫四郎	二九二	尾崎 上拾次郎	二九二	大石 峯吉	二九二
小澤 康之助	二九二	小田 今朝治郎	二九二	小原 孫四郎	二九二	尾崎 上拾次郎	二九二	大石 峯吉	二九二
小住 功	二九二	小田 今朝治郎	二九二	小原 孫四郎	二九二	尾崎 上拾次郎	二九二	大石 峯吉	二九二
小住 種次郎	二九二	小田 今朝治郎	二九二	小原 孫四郎	二九二	尾崎 上拾次郎	二九二	大石 峯吉	二九二
小曾根 盛彦	二九二	小田 今朝治郎	二九二	小原 孫四郎	二九二	尾崎 上拾次郎	二九二	大石 峯吉	二九二
小曾根 貞助	二九二	小田 今朝治郎	二九二	小原 孫四郎	二九二	尾崎 上拾次郎	二九二	大石 峯吉	二九二
小曾根 平治	二九二	小田 今朝治郎	二九二	小原 孫四郎	二九二	尾崎 上拾次郎	二九二	大石 峯吉	二九二
小田 梅吉	二九二	小田 今朝治郎	二九二	小原 孫四郎	二九二	尾崎 上拾次郎	二九二	大石 峯吉	二九二

川上茂	川上清	川上長三郎	川上虎男	川上越治郎	川上六馬	川上正時	川上芳助	川北義徳	川市之助	川見蔵	川幸治郎	川清次郎	川口太郎	川口守一	川口盛夫	川口芳遠	川口末廣	川越隆	川越傳治	川越巳之助	川越良光	川越榮之丞	川時重光	川時辰美	川時文雄	川時義生	川時良三	川時喜平	川路吉藏
川島孝太郎	川島順吉	川島定兵衛	川島依治郎	川住忠造	川住勝太郎	川瀬石仙	川副孝	川田佐一郎	川田順	川田正朝	川津謙一	川手與九郎	川戸愛雄	川名繁吉	川名精一	川西重作	川西信藏	川野秀亮	川野通哲	川野宗義	川野吉樹	川野繁	川野勸次	川野喜次郎	川野源一郎	川野篤治	川野友吉	川野豐治	川野秀志
川畑昌秀	川端泰造	川端直一	川原久一郎	川原貞夫	川原清市	川原三吉	川原勝一	川人定男	川邊欽次	川邊謙司	川邊惣作	川又其一郎	川保篤	川村嘉八	川村勝之進	川村龍雄	川村宗嗣	川村元忠	川村元弘	川村與八	川本勝夫	川本善四郎	川本善造	川本泰藏	川合源志	川合源務	川合友次	川合光榮	
河井田義	河内志郎	河内清大	河内由蔵	河上律一	河口眞	河口登	河口精之	河崎泰次	河崎常夫	河崎不吉	河崎精吉	河島常夫	河島常吉	河島常夫	河島常吉	河島常夫	河島常吉	河島常夫	河島常吉	河島常夫	河島常吉	河島常夫	河島常吉	河島常夫	河島常吉	河島常夫	河島常吉	河島常夫	河島常吉
河野通城	河野通一	河野通男	河野通隆	河野良一	河野三郎	河野井	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	
河野通城	河野通一	河野通男	河野通隆	河野良一	河野三郎	河野井	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	河原地悦三	
河本茂次郎	河本照雄	河本辰彌	河本大作	河本文次郎	河村秀雄	河村英夫	河村文次郎	河村大	河村大	河村大	河村大	河村大	河村大	河村大	河村大	河村大	河村大	河村大	河村大	河村大	河村大	河村大	河村大	河村大	河村大	河村大	河村大	河村大	
冠満七二	木内忠雄	木浦和男	木阪規矩三	木島徳太郎	木折澄太郎	北川勝三郎	北川勝夫	北川富雄	北川武八郎	北川稔	北里正吉	北里房義	北里治雄	北里益一郎	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	

木田清	木谷慶悦	木谷繁二	木付鐵雄	木藤品次郎	木虎松之助	木下勇	木下梅之助	木下一男	木下作太郎	木下三郎	木下季吉	木下助男	木下鈴雄	木下竹次郎	木下哲雄	木下初男	木下秀教	木下富士太	木下孫一	木下通敏	木下亮九郎	木下ワサ	木場三好	木原鋭	木原盛	木原猛良	木原二壯	木原仁三郎	木原英雄	木村有雄
木村一恵	木村一男	木村寛	木村喜徳	木村吉輔	木村清	木村國太郎	木村賢太郎	木村孝吉	木村左馬輔	木村甚吾	木村常治	木村貞次郎	木村徳助	木村知彦	木村幸太	木村春雄	木村秀彦	木村廣吉	木村正身	木村正道	木村松之助	木村彌造	木村要平	木村要平	木村要平	木村要平	木村要平	木村要平	木村要平	木村要平
木村六郎	木元等	木本氏房	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏	木本喜藏
菊地佐市	菊地定治	菊地茂	菊地正三	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也	菊地也
北折澄太郎	北川勝三郎	北川勝夫	北川富雄	北川武八郎	北川稔	北里正吉	北里房義	北里治雄	北里益一郎	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	北里通康	

佐々木貞治郎	一〇六	佐藤重明	一〇六	佐藤八郎	一〇六	佐野峰吉	一〇六
佐々木貞之助	一〇六	佐藤一	一〇六	佐藤明雄	一〇六	佐野義雄	一〇六
佐々木三郎	一〇六	佐藤平治太郎	一〇六	佐藤象次郎	一〇六	佐野米雄	一〇六
佐々木藤三郎	一〇六	佐藤榮次郎	一〇六	佐藤信次郎	一〇六	佐野光治	一〇六
佐々木藤吉	一〇六	佐藤榮作	一〇六	佐藤信二	一〇六	佐野光	一〇六
佐々木藤太	一〇六	佐藤榮藏	一〇六	佐藤信一	一〇六	佐野光	一〇六
佐々木常磐	一〇六	佐藤榮次郎	一〇六	佐藤新藏	一〇六	佐野平太郎	一〇六
佐々木敏郎	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤仁十郎	一〇六	佐野正明	一〇六
佐々木知一	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐野正浩	一〇六
佐々木春人	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐野雅英	一〇六
佐々木謙七郎	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐野通男	一〇六
佐々木力策	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐々木正章	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐々木松四郎	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐々木満五郎	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐々木元三	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐々木求	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐々木彌太郎	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐々木保次郎	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐々木保之助	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐々木雄哉	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐々木良七	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐々木遠太郎	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐志辰次郎	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐志雅雄	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐治誠吉	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐多美	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐多彦美	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐竹晋次郎	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐竹榮	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐武金治	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六
佐戸義治	一〇六	佐藤和男	一〇六	佐藤其左衛門	一〇六	佐藤通男	一〇六

齊藤茂信	一〇六	齊藤龍吉	一〇六	坂田昌亮	一〇六	酒井茂	一〇六	作本定	一〇六
齊藤周齊	一〇六	齊藤亮	一〇六	坂野男	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井教輔	一〇六
齊藤重英	一〇六	齊藤良三郎	一〇六	坂元亮助	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井長市	一〇六
齊藤重治	一〇六	齊藤良象	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井友一郎	一〇六
齊藤末次	一〇六	齊藤六兵衛	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井弘之	一〇六
齊藤孝太	一〇六	道風尾要	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井平四郎	一〇六
齊藤太郎治	一〇六	道風尾要	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井正春	一〇六
齊藤高吉	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤孝康	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤竹次郎	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤忠雄	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤忠士	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤忠之丞	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤忠行	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤利光	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤留男	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤寅吉	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤直友	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤仁吉	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤武平	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤文二	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤文吉	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤光雄	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤茂一	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤安治郎	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤康治	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤生	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六
齊藤利三	一〇六	財津正生	一〇六	坂本英一	一〇六	酒井茂	一〇六	櫻井辰三	一〇六

里井揚之助	四方辰治	豐谷孝治郎	繁本國光	柴田賢治郎
里村英夫	四道爲人	豐谷末吉	柴田保	柴田五郎(官更)
眞田綱一	四戸友太郎	豐谷茂登作	柴田榮太郎	柴田五郎(通稱)
實吉吉郎	四本直孝	豐谷重造	柴田積	柴田季太郎
寒河江隆清	志賀俊夫	豐見寅一	柴田行易	柴田正
鮫島光彦	志崎九郎	豐見峰治	柴田有邦	柴田智機
鮫島宗起	志藤榮三郎	鹿野千代捕	柴田健一	柴田直光
猿渡實政	志村悅郎	鹿野又吉	柴崎幸榮	柴田博陽
澤井喜久太郎	志村松右衛門	鹿野八千代	柴崎和吉	柴田廣吉
澤井純一	志和俊陽	鹿村美久	柴田重行	柴田三郎
澤木國麿	始關伊平	鹿「カ」ニモ掲出	柴田武助	柴田基次
澤田治三郎	推名政次郎	重田卓一	柴田房次	柴田良次
澤田貞一	推名義雄	重田文男	柴田勇	柴田亮一
澤田幸雄	推名末雄	重田恒輔	柴田喬亮	柴田房太郎
澤田康三	推名義雄	重田竹二郎	柴田史郎	柴田亮之助
澤田貞之介	潮海辰友	重政文夫	柴原武之	柴田正雄
澤邊安太郎	澤川満彦	重松三郎	柴原喜代二	柴田藤作
澤山政太郎	澤定平	重満新	柴原喜代二	柴田藤作
三崎功	澤尾彌太郎	重村信三郎	柴原喜代二	柴田藤作
三崎又三	澤川重雄	重村聖富	柴崎春吉	柴田信三
三宮春吉	澤田信次	重本龜一	柴崎白尾	柴田信三
	澤田幸一	重「才」ニモ掲出	柴田官一	柴田信三

シ之部

島岡亮太郎	島本秀行	下尾彌太郎	庄拾吉	白石順藏
島川清久	島本齊	下川與市	庄司清	白石竹市
島崎役治	島屋進治	下河邊正直	庄司益吉	白石藤吉郎
島崎和彦	清水卯治	下澤義夫	庄司光雄	白石直吉
島崎龜治	清水龜吉	下田一夫	庄司行男	白石半三郎
島崎龜藏	清水喜一郎	下田忠兵衛	庄司龍兵衛	白石廣藏
島崎久座	清水喜七	下田鐵三郎	庄司國四郎	白石光義
島崎辰美	清水補次郎	下田萬次郎	庄司慶次	白石實藏
島崎豐太郎	清水兼次郎	下田米藏	庄司慶次	白石實藏
島崎昇	清水行兵衛	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島崎庸一	清水三三	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島崎連	清水三三	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島崎久一	清水三三	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島崎勝之助	清水助太郎	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島田兼義	清水祐太郎	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島田寛二	清水外雄	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島田欽一郎	清水孫乘	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島田三郎	清水賢雄	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島田繁造	清水則良	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島田信吉	清水豐太郎	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島田武志	清水寛之	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島田千代治	清水松之助	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島田文七	清水光雄	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島田元麿	清水宗雄	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島田吉郎	清水本之助	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島田林太郎	清水勇吉	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島津春雄	清水要次	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島名福十郎	下井多四郎	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島村登吉	下尾榮	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏
島村枝太郎	下尾榮	下田重三郎	庄司慶次	白石實藏

新宮勇六	須藤清	菅野茂一	杉本恒記	鈴木謙
新宮啓三	須藤正彦	菅原久治郎	杉本安造	鈴木健次郎
新谷多喜地	須藤陽一	菅原建郎	杉本直	鈴木健次郎
新屋榮治	須藤義利	菅原恒男	杉山治	鈴木健次郎
(新「ア」ニモ掲出)	須藤長次郎	菅原吉雄	杉山太夫	鈴木健次郎
梅葉可省	須本千代治	菅原時春	杉山武太郎	鈴木健次郎
神喜久夫	壽賀千代治	助川良輔	杉山俊太郎	鈴木健次郎
神辰三	諏訪	小太郎	杉山武太郎	鈴木健次郎
神宮司純紀	水津文夫	廣三郎	杉山武太郎	鈴木健次郎
神野要	水津利輔	廣三郎	杉山武太郎	鈴木健次郎
神保實正	吹田信行	廣三郎	杉山武太郎	鈴木健次郎
神保良助	末石久人	廣三郎	杉山武太郎	鈴木健次郎
神力橋樑	末石義衛	廣三郎	杉山武太郎	鈴木健次郎
(神「カ」ニモ掲出)	末木義種	廣三郎	杉山武太郎	鈴木健次郎

又之部

洲崎正俊	末武時太郎	杉浦守次郎	鈴木梅太郎	鈴木新吉
洲崎孝	末永嘉吉	杉浦由郎	鈴木梅太郎	鈴木新吉
首藤定	末永善三	杉浦由郎	鈴木梅太郎	鈴木新吉
栖原豊太郎	末永善三	杉浦由郎	鈴木梅太郎	鈴木新吉
陶山太平	末光俊介	杉浦由郎	鈴木梅太郎	鈴木新吉
須藤徳太郎	末光高義	杉浦由郎	鈴木梅太郎	鈴木新吉
須藤朝則	末宗安吉	杉浦由郎	鈴木梅太郎	鈴木新吉
須藤貞夫	末安儀一	杉浦由郎	鈴木梅太郎	鈴木新吉
須田亨	末吉國藏	杉浦由郎	鈴木梅太郎	鈴木新吉
須田徳市	菅由布人	杉浦由郎	鈴木梅太郎	鈴木新吉
須田健次郎	菅井直三郎	杉浦由郎	鈴木梅太郎	鈴木新吉
須知省三	菅川貞雄	杉浦由郎	鈴木梅太郎	鈴木新吉
須東忠三	菅田泰好	杉浦由郎	鈴木梅太郎	鈴木新吉

セ之部

鈴木俊久	清野謙藏	千石眞雄	宗川敏雄
鈴木直吉	清野源之助	千崎眞	宗川敏雄
鈴木長明	清宮外記	千秋寛	宗川敏雄
鈴木兵一	(清「ヤ」ニモ掲出)	千田貞康	宗川敏雄
鈴木正雄	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
鈴木正一	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
鈴木正吉	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
鈴木正之	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
鈴木正太	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
鈴木連徳	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
鈴木峯一	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
鈴木茂利治	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
鈴木勇吉	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
鈴木嘉男	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
鈴木義男	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
鈴木義孝	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
鈴木義保	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
鈴木良太	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
鈴木恵良	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
砂川貞吉	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
砂山權九郎	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
住吉勇藏	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
角徳一郎	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
角由吉	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
角一雄	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
角田勝三郎	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
角田恵太郎	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
角田壯次郎	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
(角「カ」ニモ掲出)	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
隅清廣	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
隅田順吉	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄
隅田虎二郎	伊勢松	千田次郎	宗川敏雄

ソ之部

鈴木俊久	曾根保藏	夕之部
鈴木直吉	曾根保藏	夕之部
鈴木長明	曾根保藏	夕之部
鈴木兵一	曾根保藏	夕之部
鈴木正雄	曾根保藏	夕之部
鈴木正一	曾根保藏	夕之部
鈴木正吉	曾根保藏	夕之部
鈴木正之	曾根保藏	夕之部
鈴木正太	曾根保藏	夕之部
鈴木連徳	曾根保藏	夕之部
鈴木峯一	曾根保藏	夕之部
鈴木茂利治	曾根保藏	夕之部
鈴木勇吉	曾根保藏	夕之部
鈴木嘉男	曾根保藏	夕之部
鈴木義男	曾根保藏	夕之部
鈴木義孝	曾根保藏	夕之部
鈴木義保	曾根保藏	夕之部
鈴木良太	曾根保藏	夕之部
鈴木恵良	曾根保藏	夕之部
砂川貞吉	曾根保藏	夕之部
砂山權九郎	曾根保藏	夕之部
住吉勇藏	曾根保藏	夕之部
角徳一郎	曾根保藏	夕之部
角由吉	曾根保藏	夕之部
角一雄	曾根保藏	夕之部
角田勝三郎	曾根保藏	夕之部
角田恵太郎	曾根保藏	夕之部
角田壯次郎	曾根保藏	夕之部
(角「カ」ニモ掲出)	曾根保藏	夕之部
隅清廣	曾根保藏	夕之部
隅田順吉	曾根保藏	夕之部
隅田虎二郎	曾根保藏	夕之部

ノ之部

乃美熊太郎	野尻彌一	野村喜市	羽田増造	拜村朝吾
龍登庄三郎	野添孝生	野村清	羽田雄三	萩尾開造
龍美茂博	野田勘次	野村均	羽田野三	萩尾全一
野上一郎	野田寛次	野村欽二	羽田野平三	萩尾長一郎
野上利平	野田喜三郎	野村重治	羽月治郎兵衛	萩野信太郎
野木定吉	野田武	野村太一	羽根友治	萩野鐵次郎
野木政雄	野田九郎	野村保	羽野正(安重)	萩原香一
野久尾伊左衛門	野田惠	野村鐵翁	羽野正(公吉)	萩原策藏
野口秋利	野田慶	野村富三郎	羽原力太郎	萩原四郎
野口清	野田武雄	野村篤三郎	羽生秀吉	萩原昌彦
野口經翁	野田德一	野村村人	羽山秀五郎	萩原八十盛
野口茂正	野田信之	野村安治	芳賀千代太	萩原康男
野口勝家	野田正雄	野村龍次郎	波田傳次郎	萩原辰二
野口佑夫	野田保治郎	野村小一	(波「ホ」ニ毛掲出)	萩谷正巳
野口宗太郎	野田利太郎	野元清藏	馬頭市二郎	箱田峰太郎
野口鶴市	野地太助	野本謙治	馬場義男	橋口嘉三
野口萬三甫	野津孝太郎	野本徳男	馬場徳一	橋口八郎
野口隆一	野津長三郎	野原晋五郎	馬場誠一	橋口房雄
野毛四郎	野鶴秀人	信川政信	馬場重一	橋口美乎
野坂卓算	野中勇雄	則俊増治	馬場多平	橋田三郎
野坂敏繼	野中時雄	乘松和政	馬場武雄	橋立休藏
野崎嘉英	野上静雄	羽柴榮一	馬場利秀	橋立清
野澤金太郎	野原正次	羽柴鍊太郎	馬場義男	橋爪良一
野澤正雄	野間忠藏	羽田重吉	馬場義生	橋本植松
野尻哲二	野村一郎	羽田局		橋本乙次

ハ之部

橋本 馨	長谷川 清	服部 莊太郎	濱田 治太郎	早川 與之吉
橋本 勝藏	長谷川 銀一	服部 信三	濱田 茂雄	早坂 不二雄
橋本 貫一	長谷川 九吉	服部 辰藏	濱田 周洞	早崎 保藏
橋本 喜代治	長谷川 熊彦	服部 察	濱田 武士	早瀬 由藏
橋本 圭三郎	長谷川 健二	服部 實	濱田 辰敏	早田 宗雄
橋本 順一郎	長谷川 幸平	服部 榮	濱田 直吉	早野 昌藏
橋本 正治	長谷川 重雄	花井 文治	濱田 秀雄	早野 登
橋本 眞松	長谷川 信平	花岡 静一郎	濱田 元勝	早野 文雄
橋本 新平	長谷川 甚雄	花岡 直	濱田 陽兒	伊太 明
橋本 徳義	長谷川 通	花澤 儀助	濱田 與八郎	伊太 雄
橋本 富三郎	長谷川 太郎吉	花田 儀博	濱田 吉孫	伊太 雄
橋本 虎之助	長谷川 長治	花房 武藏	濱田 義丸	伊太 雄
橋本 八五郎	長谷川 正雄	花見 昇孝	濱田 米吉	伊太 雄
橋本 福一	長谷川 勇三	花見 美	濱田 三三	伊太 雄
橋本 滿次	長谷川 兵庫	塙 孝一	濱谷 三	伊太 雄
橋本 節	長谷川 唯丸	塙 美	濱野 重雄	伊太 雄
橋本 義雄	長谷川 梅吉	塙 一	濱野 誠一	伊太 雄
橋本 茂子郎	長谷川 幸之輔	濱 香三	濱村 善吉	喜 一郎
橋本 政雄	長谷川 佐太吉	濱 清一郎	濱本 權七	喜 一郎
橋本 行正	長谷川 武雄	濱 卓次	濱本 多美	喜 一郎
橋本 要次郎	中山 善作	濱 口龜三郎	濱本 忠吉	喜 一郎
橋本 芳廣	島中 繁藏	濱 崎 巖	濱本 忠吉	喜 一郎
橋本 義雄	蜂須賀 正	濱 崎 清人	濱本 忠吉	喜 一郎
橋本 義雄	蜂須賀 美	濱 崎 眞二	濱本 忠吉	喜 一郎
支倉 平之丞	八田 喜明	濱 崎 眞二	濱本 忠吉	喜 一郎
長谷川 孝彦	八田 喜三郎	濱 崎 眞二	濱本 忠吉	喜 一郎
長谷川 次	八丁 虎雄	濱 崎 眞二	濱本 忠吉	喜 一郎
長谷川 巖	服部 伊勢松	濱 崎 眞二	濱本 忠吉	喜 一郎
長谷川 晋一	服部 榮七	濱 崎 眞二	濱本 忠吉	喜 一郎
長谷川 和美	服部 信次	濱 崎 眞二	濱本 忠吉	喜 一郎
長谷川 喜久雄	服部 齊一郎	濱 崎 眞二	濱本 忠吉	喜 一郎

山下伊太郎	二四八	山田直之介	三三	山中德二	二五	山本紀綱	二四
山下晋五郎	二四八	山田春雄	二七	山中友治郎	二五	山本久治	二四
山下兼文	二四九	山田彦一	二七	山中秀一	二五	山本謙吾	二四
山下寛	二四九	山田彦三郎	二七	山中英男	二五	山本國平	二四
山下清治	二四九	山田弘之	二七	山梨武夫	二五	山本熊一	二四
山下幸作	二四九	山田浩通	二七	山成興政	二五	山本啓治	二四
山下徳市	二四九	山田廣	二七	山西恒一郎	二五	山本慶作	二四
山下七太郎	二四九	山田智次郎	二七	山西直夫	二五	山本慶藏	二四
山下精一郎	二四九	山田道彦	二七	山西由太郎	二五	山本謙幹	二四
山下仙次郎	二四九	山田空次	二七	山根市右衛門	二五	山本謙太郎	二四
山下善代	二四九	山田彌市	二七	山根信太郎	二五	山本貞郎	二四
山下泰藏	二四九	山田有城	二七	山根高次郎	二五	山本此郎	二四
山下辰治	二四九	山田好一	二七	山之内末盛	二五	山本茂	二四
山下種吉	二四九	山田吉久	二七	山之内珍規	二五	山本繁雄	二四
山下鶴龜	二四九	山田立藏	二七	山野邊正善	二五	山本周次	二四
山下俊秀	二四九	山田準太	二七	山葉龜五郎	二五	山本純次	二四
山下永幸	二四九	山地世夫	二七	山邊一郎	二五	山本庄吉	二四
山下信雄	二四九	山地漢久朗	二七	山邊調	二五	山本壽喜太	二四
山下六	二四九	山地豊樹	二七	山見慶三郎	二五	山本澄江	二四
山下正樹	二四九	山名義觀	二七	山領貞二	二五	山本誠三郎	二四
山下好	二四九	山中卯三郎	二七	山領東一	二五	山本武男	二四
山下靖信	二四九	山中繁雄	二七	山元喜二	二五	山本長次郎	二四
山下良夫	二四九	山中數雄	二七	山元貞義	二五	山本同	二四
山下義明	二四九	山中和彦	二七	山元新九郎	二五	山本謙一郎	二四
山代千代藏	二四九	山中定助	二七	山本一	二五	山本土岐彦	二四
				山本泉	二五	山本藤吉	二四
				山本馬夫	二五	山本直吉	二四
				山本榮壽	二五	山本信夫	二四
				山本龜太郎	二五		

山本登	二四九	湯淺長四郎	二五	横尾正雄	二五	吉岡行雄	二五
山本博光	二四九	湯淺每一	二五	横尾和六	二五	吉岡米吉	二五
山本廣	二四九	湯淺翁道	二五	横澤金吉	二五	吉岡龍作	二五
山本富久雄	二四九	湯淺信一郎	二五	横瀬花見七	二五	吉賀徳次郎	二五
山本冬彦	二四九	湯淺義知	二五	横田源次	二五	吉賀亮二	二五
山本正夫	二四九	湯川武雄	二五	横田三磨	二五	吉川市太郎	二五
山本正夫	二四九	湯川秀夫	二五	横田提壽	二五	吉川浦次	二五
山本雅次郎	二四九	湯下誠一郎	二五	横田都成	二五	吉川榮之助	二五
山本松次郎	二四九	湯地利市	二五	横田直藏	二五	吉川定治郎	二五
山本萬兵衛	二四九	湯野定	二五	横谷正次	二五	吉川修平	二五
山本遠酒三郎	二四九	湯目文雄	二五	横地信果	二五	吉川武雄	二五
山本盛正	二四九	湯有戒心	二五	横地鐵之助	二五	吉川武雄	二五
山本八十七	二四九	結城司郎次	二五	横手政太郎	二五	吉川忠一	二五
山本勇治	二四九	結城清太郎	二五	横手巳之助	二五	吉川俊雄	二五
山本義男	二四九	行武順市	二五	横山勝隆	二五	吉川正登	二五
山本頼男	二四九	幸貞雄	二五	横山圭一	二五	吉川政市	二五
山本隆次	二四九	弓岡義一	二五	横山重起	二五	吉川勝	二五
山本六太郎	二四九	弓岡義一	二五	横山滋樹	二五	吉川光重	二五
山本直太郎	二四九	大和新一郎	二四九	横山常二	二五	吉川裕喜之祐	二五
山屋八郎	二四九			横山安起	二五	吉田市郎平	二五
大和新一郎	二四九			横山龍一	二五	吉田市郎平	二五

ユ之部

ヨ之部

由利元吉	二四九	余田莊太	二五	吉田豐太郎	二五	吉田兵衛	二五
油井文市郎	二四九	依田四郎	二五	吉田武男	二五	吉田秀盛	二五
油谷重三	二四九	楊基振	二五	吉田俊夫	二五	吉田秀義	二五
油谷重三	二四九	依田義重	二五	吉田富吉	二五	吉田智一	二五
油谷重三	二四九	横井秋次郎	二五	吉田榮夫	二五	吉田其治	二五
油谷重三	二四九	横井謙介	二五	吉田義三郎	二五	吉田止雄	二五
油谷重三	二四九	横井太郎	二五	吉田三美	二五	吉田智一	二五
油谷重三	二四九	横井武夫	二五	吉田茂雄	二五	吉田智一	二五
油谷重三	二四九	横内徳男	二五	吉田敏生	二五	吉田智一	二五
油谷重三	二四九	横尾徳市	二五	吉岡豊太郎	二五	吉田智一	二五
湯淺唯二	二四九					吉田智一	二五



邦護藤齋

醫學博士、滿鐵新
京醫院產婦人科醫
長兼新京婦人醫院
長【本籍】福岡縣筑
紫郡太宰府【生年
月日】明治廿七年
九月十六日【履歷】

月大阪府朝日橋四年八月同府橋岡月泉尾六年
一月川口同四月或七年一月九條同八月天滿各警
察署長に歴補の後康徳元年四月滿洲國北滿特別
區公署警正に任じ熱河省公署理事官警務處警務
科長を経て同三年九月現職に轉ず同四年應任三
等に陞叙さる【趣味】園藝釣魚大和民族姓氏蒐集
等【信仰】眞宗【家族】妻タマ(明二七生)長男憲三
(大四生)二男省三(大九生)四男裕三(大二五生)
長女早苗(昭三生)【住所】黑河省黑河九道街代用
官舎電二四八

故文山二男【學歷】大正八年京都帝國大學醫學部卒業
【經歷】大正九年一月京大助手を命ぜられ婦人科
教室に勤務同十一年五月助手となり附屬醫院產
婦人科教室勤務たり同月京大大學院に入學す同
十四年五月滿鐵に入社し撫順醫院院長となる同
十五年十二月醫學博士號を受く昭和九年十二月
産婦人科に於ける治療の方面に關する調査研究
の爲め米獨佛境各國に出張を命ぜられ同十一年
三月現職に就く同月以降六月迄滿洲醫大講師を
囑託同十二年四月現職を命ぜらる【趣味】讀書
洋畫佛像【信仰】眞宗【家族】母スミ(安政元生)妻
マチ子(明三五生)長男山田太良三(女)長女マリ
子(大一四生)長男是邦(昭四生)二男孝雄(昭八
生)【住所】新京常盤町二ノ二電三三二七



大善柳

從七位勳七等、滿
鐵副參事、齊々哈
爾濱鐵路局工務處改
良科長【本籍】福島
縣安達郡旭村【生
年月日】明治廿六
年九月十七日【履
歷】警作長男【學歷】大正六年東北帝大土木工學
科卒業【經歷】大正六年九月九州鐵道管理局に奉
職門司保線事務所勤務爾來折尾在勤神戶改良
事務所工務局國府津派出所改良事務所東京第
二改良事務所工務局計畫課各勤務を経て昭和八
年三月滿鐵に入社し吉林建設事務所鐵道建設局
總局工務處工務課各勤務同十一年九月副參事同
十月工務局改良課勤務を経て同十二年三月現職
に就任す此間從事したる主なる工事に築豊線折
尾直方間第三線建設工事現場監督橫濱濱海
鐵道線復興工事設計及承練第六工區第七工區
現場監督等あり【功賞】昭和三年十一月大鐵紀念
章を同六年五月帝都復興紀念章其他從軍紀念章滿
洲國建國功勞章勳七等瑞寶章を各賜ふ【趣味】旅

小田孝三

正六位、黑河省公署理事官、警務處警務科
長【出生地】香川縣三豐郡觀音寺町【本籍】
松山市宣町七ノ四四【生年月日】明治廿六
年七月廿一日【學歷】大正四年警視廳巡査を拜
命し歸來八王子警務署町田分署西神田警
察署各勤務警視廳警務部補同八年警視廳監
官房外事課勤務同九年警視廳警務部同十一月内務
廳警保局外事課同十三年中華民國北京駐在事務
官附十五年歸朝後警保局保安課勤務昭和二年一

行讀書觀世流諸曲【信仰】眞宗【家族】妻雲子(明
三三生)福島縣安達郡油井村坂上祐作四女同縣二
本松町實科高女卒)長男健男(六一〇生)福島縣立
安達中學在)二男裕(昭二生)二女二三江(昭四
生)【住所】齊々哈爾濱鐵路局工務處改良科

大谷清

大谷寫眞館主、寫眞業【公的關係】海拉爾
日本商工會議所創立發起人、同日本居留
民會區長、同國防青年團團長【本籍】北海
道札幌郡江別町大字江別町六二【生年月
日】明治廿二年九月二日【學歷】昭和七年
滿洲騎兵第一旅團騎砲兵隊附從軍寫眞班
として活躍せしが同八年一月海拉爾に到
り同九年十月大谷寫眞館を開業今日に及ぶ傍ら
公共の事に盡心し居住以來東日なき奮闘を續く
【事業】現營業所は洋間五室あり門生二名技師三
名を擁し軍部關係を最大得意先とし海拉爾第一
の寫眞業者たり【家族】妻トミコ(明三五生)長女
ミツコ(昭七生)長男眞治郎(昭九生)二男健(昭
一一生)【店舖】興安北省海拉爾消防街電二五七



今城説次

滿洲特産中央會本
部調査部主事兼大
連支那主事【本籍】
岡山縣淺口郡大島
村八三四一〇【生
年月日】明治二十
五年十月四日【學
歴】大正五年神戶高等商業學校卒業【經歷】大正
五年四月神戶鈴木商店に入り爾來香港會館支
店に勤務昭和二年四月同店の閉鎖と共に豐年製
油株式會社會館出張所長となる同四年六月同本

社に轉勤六年七月倫敦に再勤の後同八年十二月
本社に歸任翌九年二月退社同年六月大阪の株
式會社日和商會に入り同十年十一月滿洲特産中
央會に轉じて現職に任ず【趣味】運動特にゴルフ
テニス【家族】妻照代(明四〇)生東京千代田高女
卒【住所】大連市對馬町三〇ノ二〇六



木末 義種

從七位勳八等、關
東局理事官、安東
稅務署長【本籍】山
梨縣西山梨郡千代
田村上帶那六一七
【年生日】明治廿
八年三月六日【職

柄) 濟安部長男【學歷】大正三年山梨縣立甲府中
學校卒業【經歷】學校卒業後直に甲府稅務署に勤
務大正五年十一月稅務署に任じ甲府稅務署を
振出しに矢板高崎前橋各稅務署勤務を経て
大正十四年十二月水道稅務署直稅課第二主任
兼第一主任昭和六年十二月京橋稅務署直稅課第
二主任兼第一主任同七年五月關東廳屬稅務部財
務課勤務同年十二月大連民政署直稅係長同十年
五月關東州廳內務部財務課稅務係主任兼外地價
調查係主任同東州廳收入役同十一年五月關東局
理事官司政部財務課勤務を経て同六月現職に就
く【特記】昭和三年昭和六紀念章同六年帝都復
興紀念章を拜受處世調亦深々に明瞭此信念の爲
め今日迄自己及家族中一人の病者を出さず【趣
味】野球【信仰】佛教【家族】妻波津世(明三三)生
長女千鶴子(大八)生大連神高女卒【長男】大一郎
(大一〇)生旅順中學校【二女】惠美子(大一二)生安
東高女在【住所】安東四番通一ノ三電一三九三

本 間 徹 彌

從六位、勳五位、審判官、吉林地方法院次
長兼吉林高等法院審判官兼吉林區法院監
督審判官、學習法官指導官【本籍】東京市
麻布區三河臺町一三【生年月日】明治廿年
二月十四日【學歷】大正十年三月東京帝國
大學法學部法科卒業【經歷】昭和三年末
迄東京にて辯護士開業同年關東廳法官官
官となり大同元年六月任滿洲國司法部事務官
務司人事科長同二年六月奉天高等法院推事同年
七月水吉地方法院廳長(首座)を経て康徳三年七
月現職に就く處任一等たり【功賞】建國功勞章大
典紀念章皇帝訪日記念章拜受【家族】妻長男長女
二男【住所】吉林商埠地



金丸 重徳

從七位、交通部理
事官、總務司會計
科長、郵政權調整
準備委員【本籍】山
梨縣中巨摩郡南湖
村西南湖四二六八
【生年月日】明治廿
三年八月廿四日【職柄】美貞の弟【學歷】明大法科
專門部及專檢合格を経て昭和二年東北帝國大學
法文學部卒業【經歷】大正十四年十一月高文行政
科合格昭和四年十二月任通信書記下谷郵便局勤
務同五年八月任通信局書記東京通信局保健課勤
務八年三月任簡易保健局書記兼通信局簡易保健
局庶務課大臣官房保健課勤務康徳元年六月任交
通部事務官郵務司辦事同三年十月任交通部理事
官郵務司課長同十一年一月現職に就く【特記】
「英國郵政の話」と題する著あり【趣味】寫眞讀書
弓術【信仰】日蓮宗【家族】妻富美子(明四一、八生

埼玉縣人水村恒三妹東京佐藤女學校卒【長男】重
郎(明四生)【二男】洋二(明五生)【長女】多美子(明八
生)【住所】新金鐘路四〇一電二一〇二〇

上 谷 正 道

高岡縣(資)代表社員、貿易商(公的關係)
牡丹江商工會議所議員、同商事部長【本
籍】京都府竹野郡同久町三八六五【生年月
日】明治廿三年四月七日【職柄】岩藏三男
【學歷】神戸市立神港商業學校卒業【經歷】
大正八年十二月渡滿以來主として哈爾濱
に在任滿洲事變の際には親安縣籌安に在り
昭和八年五月鐵道の牡丹江線由線開通決定を見
るや同年十月現住地に居を定め合資會社高岡號
を設立して其の代表社員に就任して今日に及ぶ
【事業】資本金十五萬圓課目、各種雜貨建築材料
食料品砂糖麥粉綿絲布白米、精米所【一日】製産
高約四十石、従業員、卸部六名小賣部三十名、仕
入先、大阪名古屋東京、販路、濱線線沿線諸佳
線林密線の各沿線、取引銀行、滿洲中央銀行興
業銀行、支店、牡丹江新市街大平路【趣味】文學
讀書【信仰】神宗【家族】妻トシ(明四一生)長男岩
三(明五生)二女美智子(明六生)三女三枝子(明
九生)【住所】牡丹江長安街四ノ二電二七四



内田 信夫

滿鐵職員、奉天鐵
道事務所事務課勤
務【本籍】下關市大
字大坪【生年月日】
明治四十年十月十
一日【職柄】菊太郎
二男【學歷】昭和三
年滿工專機械工作分科卒業【經歷】昭和三年四



加原 兼吉

勳八等、滿鐵牡丹
江鐵路局事務處事
故科勤務【本籍】岡
山縣御津郡江與味
村江與味一六九二
【生年月日】明治廿
二年十一月十七日
【職柄】德太郎女子【學歷】吳市立成徳中學校四年
修了【經歷】大正十二年十二月朝鮮總督府通達を
拜命昭和五年四月同部長に昇進同八年八月警部
補考試驗に合格同九月渡滿同十一月鐵路總局
圖們警務段巡檢に任じ同十二年二月現職に就く
善に圖們創道有限會社理事たり【特記】常に世界
事情の研究を怠らず【趣味】狩獵劍道(初段)柔道
(初段)【信仰】天台宗【家族】妻以知子(明三)生
美父徳太郎(二女)長男裕(大一二)生(二男)健次(大
一四生)三男可弘(明五生)四男實(明七生)長女
澄恵(明二生)【住所】牡丹江鐵路局事務處

滿鐵職員、新阿山驛長【本籍】朝鮮京義長
湖郡津南面場里三七七【生年月日】明治卅
二年十一月十三日【職柄】真長男【學歷】
私立養正義塾卒業大正十三年關山從事員
養成所事務講習科卒業【經歷】大正七年十
一月釜山驛々務練習生拜命爾來大田驛慶
山驛京城列車區車掌津津列車區會察在勤
朱乙驛助役古茂山驛助役新田驛長等に歴任書記
に任ず昭和八年十月滿鐵に入り新田驛長となり
同十年六月現職に就く【功賞】昭和九年四月十五
年勤績表彰を受く【住所】朝鮮咸北新阿山新阿山
驛長社宅

柳 昌 浩

滿鐵職員、新阿山驛長【本籍】朝鮮京義長
湖郡津南面場里三七七【生年月日】明治卅
二年十一月十三日【職柄】真長男【學歷】
私立養正義塾卒業大正十三年關山從事員
養成所事務講習科卒業【經歷】大正七年十
一月釜山驛々務練習生拜命爾來大田驛慶
山驛京城列車區車掌津津列車區會察在勤
朱乙驛助役古茂山驛助役新田驛長等に歴任書記
に任ず昭和八年十月滿鐵に入り新田驛長となり
同十年六月現職に就く【功賞】昭和九年四月十五
年勤績表彰を受く【住所】朝鮮咸北新阿山新阿山
驛長社宅



横山 常二

滿鐵待命副參事、
鐵道總局勤務(前
北安站長)【本籍】
宮崎縣北諸方郡中
野村【生年月日】明
治廿年四月【職柄】
高行二男【學歷】明
治四十二年滿鐵從事員養成所卒業【經歷】明治四



加治 木榮吉

勳八等、滿鐵牡丹
江鐵路局事務所監理
員【出生地】東京廣
布區材木町【本籍】
鹿兒島市山下町三
一四【生年月日】明
治廿二年三月十九
日【職柄】故榮介ノ男【學歷】明治四十二年岩倉鐵
道學校卒業【經歷】明治四十二年五月鐵道省に奉
職昭和七年十一月退官同十二月滿鐵に入り本社
工事課勤務同八年三月より五月迄拉演線工事に
同五月より九年十二月迄鐵道建設事務所演線よ
り三十家子同四十五年の測量工事に従ひ次で總
局圖們工務段に轉勤し同十一年六月現職に就く
【功賞】滿洲事變の功に依り授勳旭日章を賜はる
【趣味】釣魚園藝支那事情研究【信仰】神道【家族】
妻タカ子(明三三)生長男久夫(大一一)生長女雪
子(大一一)生二女榮子(明三三)生二男國博(明六
生)【住所】牡丹江昌德街圖佳寮電二六四

奥 田 貞 夫

齊々哈爾濱警務處警正、警務科長【本籍】札
幌市北七條西六ノ二【生年月日】明治廿六
年五月廿一日【職柄】春貞六男【學歷】北海
道立札幌中學校弘前高等學校を経て昭和
二年京都帝國大學法學部法律科卒業東京
帝國大學經濟學部在學一箇年【經歷】昭和
四年十二月青森縣逓査を拜命爾來逓査部
長警部補警部に昇進し特別高等課勤務たりしが
同九年五月依願退官康徳元年五月北滿特別區公
警警佐に任じ警務處に勤務同年十二月齊々哈爾
濱警務處警佐に轉じ次で同二年十一月現官職に就
く應任官六等たり【信仰】真宗【家族】父春貞母リ
々妻貞子長女和子【住所】齊々哈爾濱警務處警務科



佐々木恒治

滿鐵奉天驛內助
役(公的關係)社員
會評議員(本籍)宮
城縣玉造郡東大崎
村新田大字上宿二
七(生年月日)明治
卅一年八月十八日
【履歷】故利惣太二男(學歴)宮城縣立吉川中學校
を経て大正六年八月東部鐵道管理局教育所卒業
【經歷】大正六年五月仙臺驛駐在車掌練習生を拜
命同八月小牛田驛業務見習同七月一月間駐在車
掌同八月一月宇都宮驛駐在車掌同十三年九月白
河驛貨物掛十五年三月東部鐵道野驛助役昭和三年
七月間本驛助役を経て同十二月鐵道局書記に
任じ東京鐵道局勤務たり同六年七月仙臺局勤務
となり宮田驛助役たりしが同八年二月滿鐵に入
社奉天鐵道事務所勤務し同六月現職に就く
【功賞】滿洲事變の功に依り木杯一個並從軍記章
を賜ふ【趣味】テニス、排球、書畫、信託、書道
【家族】妻よし(明三、四生)宮城縣庄司將規
二女(長男)酒造男(大、二、一生)奉天一中在【住
所】奉天紅梅町一〇ノ一五

本多 篤

從六位、在郷陸軍歩兵中尉、滿鐵奉天朝日
高等女學校校長兼教諭(出生地)群馬縣邑樂
郡中野村(本籍)同上(生年月日)明治廿七
年五月【履歷】高崎市藏男(學歴)福岡縣立
東筑中學を経て大正四年東京高等師範國
語漢文科卒業【經歷】大正四年福井縣立小
濱中學校教諭同六年九月高知縣師範學校
教諭同九年四月小學校教員試験檢定委員同五月
滿鐵入社南滿洲工業學校舎監兼教諭同十月兼南



岩満虎二

滿洲工業專門學校教諭同十二年七月發同會監同
十四年十月撫順高等女學校教諭昭和九年三月奉
天中學校教諭同十年十月新京商業學校教諭同月
新京青年學校校長を兼任同十二年四月現職に就く
先に南北支那を巡遊す【特記】一年志願兵として
軍務に服し正八位陸軍歩兵少尉に任ぜられ其後
在郷中の功勞に依り中尉に進み從六位に就き
昭和十一年四月滿鐵十五年勤績表【趣味】讀書
讀書スボーテ水泳、柔道【家族】妻貞子(明二、九生)
長男隆(大、一〇生)長女静子(大、七生)二女節子
(大、二生)二男泰(昭五生)【住所】奉天雪見町二
〇朝日高等女學校

勤七等、滿鐵職員
新京鐵路醫院庶務
員(公的關係)滿洲
帝國協會會東新
鐵路分會班長、宮
崎縣人會幹事【出
生地】宮崎縣都城
市上町(本籍)宮崎市川原町(生年月日)明治廿三
年五月十九日【履歷】故甚吉三男(學歴)都城商業
學校卒業【經歷】明治四十二年十二月歩兵第六十
四聯隊入營大正元年十二月任伍長果進して大正
十二年三月特務隊長に任じ十四年五月除隊同十
月滿鐵入社鐵道機關區勤務昭和六年四月青年訓
練所指導員兼務同五月四平街機關區勤務同九月
青年訓練所指導員兼務八年八月鐵路總局局長吉
教鐵路局運輸處事務課九年四月新京鐵路局人事
課勤務十年九月吉林鐵路局人事科十一年七月新
京鐵道區區務課副課長同九月新京鐵道區區務助役
十二年四月現職に就く【特記】軍曹時代中支那漢



加藤清

滿鐵職員、安東保
險所庶務課長(公
的關係)滿鐵消費
組合理事(出生地)
三重縣桑名町(本
籍)同上(生年月日)
市二男(生年月日)
年日)明治四十三年四月廿四日【履歷】万次郎

長男(學歴)昭和八年日本大學專門部工務土木科
卒業【經歷】昭和八年四月滿鐵入社鐵道部勤務同
五月新京鐵道事務所技術方に轉じ同十年四月奉
天鐵道事務所工務課勤務同五月新京保線區工事
助役となり同十二年三月現職に就く【趣味】野球
音樂スケート【信仰】佛教【家族】妻ミチ(大、二生)
東京府阿部一馬長女(長女)諭紀子(昭一、一生)【住
所】安東驛前市場通滿鐵安東保線區

星野金之助

副課長、哈爾濱稅關副課長(出生地)
東京市日本橋區村松町一五(生年月日)明
治卅三年五月廿一日【學歴】東京府立一中
を経て大正十二年東京高商卒【經歷】大正
十二年七月支那海關に採用せられ關稅課
進昭和六年十二月二等一級幫辦に任ぜら
る此間青島上海寧波大連安東外各港海關
に勤務大同元年六月支那海關を辭し滿洲國安東
稅關に勤を命ぜらる同十一月財政部稅務司兼務
康德元年三月稅關事務官兼財政部事務官同四月
稅關理事官同二年十一月旅順分關長等を経て同
三年十月現職に就く【家族】妻收女
(明三、八生)長女鞠子(昭三生)【住所】哈爾濱北京
街二九號稅關官舎電四四七二



野野愛敏

學同十一年都合により退學し昭和二年奉天教育
專門學校卒業【經歷】昭和二年八月晉口尋常高等
小學校訓導を拜命同四年四月滿鐵より一ヶ年內
地に留學を命ぜられ同五年四月四平街尋常高等
小學校訓導に任じ同七月家事部令の爲め辭職す
昭和七年一月奉天城内自治指導所に入所同
年五月同所卒業後直に奉天省製糖課副課長に就
任し大同二年三月吉林省實務課參事官同年五月
富錦縣參事官兼實務課參事官に轉じ康德三年四
月現職に任じ【趣味】繪畫、音樂、信
仰【基督教】(家族)妻富士子(明四、四生)長女玲子
(昭二、二生)二女留美子(昭五生)三女章子(昭一〇
生)【住所】濱江省望奎縣參事官公館

勤八等、滿鐵職員
教化列車分段長
【本籍】長野縣北安
曇郡常盤村(生年
月日)明治卅六年
二月一日【履歷】直
ノ長男(學歴)通信
講習所鐵道教育所各卒業【經歷】大正八年通信界
に入り果進して通信書記補たりしが同十三年之
を辭すと共に渡滿し滿鐵に入り大石橋驛に勤務
す昭和二年大石橋驛車區勤務同八年四月大石橋
驛助役同八月第一回國鐵鐵道に遷じ教化車務
段車務副段長を拜命し其後職制改正に依り教化
列車分段と改められ現職に就く【功賞】滿洲事變
の功にて授勳八等【趣味】釣魚及滿人教育【信仰】
不動尊【家族】妻サツ子(明四、七生)長男英樹
(昭七、一生)長女潤子(昭四、七生)二女道子(昭
九、九生)【住所】吉林省教化朝陽街局宅電三八



金森英一

滿鐵參事、中央試
驗所庶務課長(公
的關係)滿鐵消費
組合理事(出生地)
三重縣桑名町(本
籍)同上(生年月日)
市二男(生年月日)
年日)明治四十三年四月廿四日【履歷】万次郎

原原勝治

轉原仁天堂藥局主、藥劑師(公的關係)關
東州外藥劑師會會長、奉天中央會會長、區長福
社委員(出生地)愛知縣寶飯郡三谷町【本
籍】同上(生年月日)明治十六年一月【學
歴】明治醫學專門學校卒業後東京帝國大
學醫院模範藥局にて調劑學及藥理學研究
【經歷】明治四十四年滿鐵大連醫院に入り
大正元年滿洲醫大附屬醫院藥局勤務奉命歸來勤
履十九年昭和四年現職同大學細菌教室にて研究
に要頭同七年一月獨立現地に現職を創設す【專
業】一般調劑の外醫藥藥品賣藥衛生材料等の販
賣を兼み販路全滿に亘る【特記】醫大勤務中同大
學專門部講師を兼ね又關東總衛生事務委託たり
【店舗】奉天青葉町一電三三四二三一



宇慶勉

濱江省望奎縣參事
官(本籍)京都府下
加佐郡舞鶴村字四
【生年月日】明治三
十五年七月二十七
日【履歷】稻次郎二
男【學歴】旅順中學
大連第一中學を経て大正九年中央大學豫科に入



郎一齊部

【本籍】福井縣敦賀市
 【生年月日】明治廿七年五月廿七日
 【職】福井縣立教員商業部
 【學歴】福井縣立教員商業部
 學校卒業【經歷】學校卒業後北海道留學於礦業社に奉職せしが大正三年九月關東都府府に轉じ民政部財務課勤務となる昭和七年十月辭職して哈爾濱金融組合の設立事務に従事し其成立と同時に理事に就任して今日に至る【事業】關東州及南滿鐵道附屬地金融組合に依る組合、組合員に對する預金の取扱及貸出、組合員五七四名、貸出約七十萬圓、預金約十五萬圓、組合區域哈爾濱市内【趣味】語學、棋、武宗【家族】妻ヲル【明】一子大連高女卒、長男領一、一四生、二男外海、昭二生、長女昭七生【住所】哈爾濱道裡石頭道街九五電二五七九



雄保桂

【本籍】滿鐵職員
 【生年月日】明治廿二年八月廿五日
 【職】六等、滿鐵職員
 新京檢車區長【公的関係】社員會評議員、消費組合總代【本籍】福井縣敦賀市神津町【生年月日】明治廿二年八月廿五日
 【學歴】大正七年三月滿洲工業學校機械科卒業【經歷】大正七年三月長春車輛檢務同八年八月長春車輛檢務同九年三月長春車輛檢務同二年十一月鐵道部運輸檢務同四年十一月大連檢車區檢車助役同六年九月檢車主任同七年二月長春檢車區長となり新京檢車區と改稱の後も引續き區長として執筆今日に及ぶ【功賞】滿洲事變にて鐵道六等功章授與軍記章授與功章授與昭和八年四月十五年勤績表を受く【趣味】盆鼓、武車、關係機械の研究【信仰】眞宗【家族】妻ハル子【明】



勝山正

【本籍】新滿鐵
 【生年月日】明治三十七年十月十六日
 【職】醫學博士、前滿鐵副參事
 長岡中學を経て昭和六年三月滿洲醫科大學卒業

【本籍】香取眞策
 【生年月日】明治十五年十一月十日
 【職】滿洲市場(株)常務取締役、鞍山不動產信託(株)取締役支那人(公的関係)奉天地方委員、奉天商工會議所議員【出生地】東京市神田區猿樂町【本籍】同市牛込區市ヶ谷左内町八【生年月日】明治十五年十一月十日
 【職】士族第十師團長男【學歴】明治廿五年東京法學院卒業【經歷】明治廿八年七月野戰鐵道提理部大連運輸長附として渡滿同四年四月滿鐵の設立と同時に入社爾來遼陽經理係鐵道地方事務所鞍山製鐵所庶務課等に歷勤大正九年五月退社し滿鐵を背景に鞍山不動產信託株式會社を設立し其代表事務取締役に就任務ら鞍山市職場を經營し昭和三年十一月專務を辭して平取務となり同時に滿洲市場株式會社取締役に支那人に就任其常務取締役に任じ此間鞍山地方委員及鞍山實業協會會長に推される【趣味】曲讀書【家族】妻千代(明)二子香川、野中友次、郎女丸龜高女卒、長男啓亮(大)一〇生、長女モト(大)七生、奉天高女在學、二男庸平(大)二生、二女セツ(大)四生、三女ユミ(明)三生、四女マナ(昭)六生【住所】奉天蘇州一七電三一六一八八

山下永幸

【本籍】公的關係
 【生年月日】明治廿八年四月廿五日
 【職】醫學博士、前滿鐵副參事、日本滿洲傳導會在滿代表、滿洲基督教會代表、錦州育賢中學校及基督教青年會各顧問、奉天土佐人會長【本籍】高知縣長岡郡本山町【生年月日】明治廿八年四月廿五日
 【學歴】明治廿三年北滿事變に際し北滿駐屯軍軍醫として渡支同廿五年辭して陸軍御用及及神樂請負業を經營同廿七年七月自口次で新民屯を経て翌年十一月奉天縣城内の貨客運送業を開始馬車百餘輛を常備せり大正二年小西關に移り鉄道火藥商並に畜産業を營み同十五年慶豐合資會社三利公司を設立し土地

【經歷】昭和七年八月滿洲醫大病理學室助手同十一月同助手となり翌八年五月滿鐵入社衛生研究所に勤務同十一年二月學位論文『衣虱ノ同病毒媒介機轉ノ研究』の功により滿洲醫大より醫學博士の學位を授けらる同十月副參事となり十二年四月持命地地方勤務同五月依願退職【功賞】滿洲事變にて賜品並從軍記章昭和十年六月滿洲醫學會より勳見賞を受く【特記】最近の研究業績に『滿洲チアス發疹チアス』の研究あり【趣味】水泳、野球、讀書【信仰】眞宗【家族】妻シヅノ(明)四生、佐賀縣坂田宗太郎長女、奉天高女卒、長男亮(昭)八生、長女美智子(昭)一〇生【住所】前大連市聖德街一ノ一四

奥山丸乙

【本籍】滿洲化學工業(株)工務部長【本籍】山形縣南村山郡上山町鶴野町五三〇【生年月日】明治二十三年一月十九日
 【學歴】明治十四年東京高等工業學校機械科卒業【經歷】明治十四年八月專賣局技手を拜命し大正六年六月依願免官となる同八月滿鐵に入社し撫順炭礦機械科勤務たりしが昭和七年二月依願退社し現職に就く【住所】大連市外甘井子中町八ノ二



熊武城岩

【本籍】滿鐵職員、蘇家屯機關區運轉助役
 【公的関係】社員會評議員【本籍】鹿兒島縣給良郡東巖山村字松永一三三六
 【生年月日】明治廿二年四月廿九日
 【職】士族旅長衛二男【學歴】大



平芳井升

【本籍】滿洲弘報協會(株)大連支社長【出生地】鳥取縣東伯郡由良町大字由良宿二九九【本籍】同上
 【生年月日】明治二十二年八月二十四日
 【職】日【職】勇藏二男【學歴】明治四十二年通信官史練習所大正三年同所無線電信專攻科卒業【經歷】大正八年十月國際通信社(後新開聯合社と改稱)に入社し昭和六年二月新開聯合社社長兼調査部長同七年十二月滿洲國通信社に入社同十一年八月滿洲弘報協會に入社職務課長を経て同十二年二月現職に就く【特記】眞宗愛に生き健康第一を旨とし【趣味】音樂、ハイキング【信仰】眞宗【家族】妻美(明)三子、三生、梅田高女卒、長男恒友(大)一、二生、大連中在二男、孝行(大)一、九



三益山丸

【本籍】滿鐵職員、新京事務局庶務課庶務係住宅主務者【公的関係】西廣場町內會副會長【本籍】三重縣名賀郡藤村
 【生年月日】明治三十三年八月九日
 【職】故松三男、主庄七ノ弟
 【學歴】大正五年東洋協會旅順語學校漢數科卒業
 【經歷】大正五年十月關東廳奉職同八年十月退職次で滿鐵入社地方庶務課同十二年四月庶務部社會課同五年六月人事課同九年一月新京地方事務局を経て同十一年十月現職に就く【功賞】昭和十年四月滿鐵十五年勤績表を受く【趣味】園芸、旅行、釣魚【信仰】佛教【家族】母コノ(安政)六生、妻ツヤ(明)三子、三子、三子、田中(一)夫婦、長女弘子(大)一五生、長男齊夫(昭)八生【住所】新京錦町四ノ二三ノ二電三三五五四

細川正一

【本籍】滿洲電信電話(株)副參事、大連中央電報局通信課長【本籍】名古屋市中區長久寺町
 【生年月日】明治廿三年二月【職】林七二男、大正七年七月家督相續【學歴】明治廿九年三月名古屋通信傳習生養成所卒業【經歷】明治廿九年名古屋郵便局に勤務し通信書記任官大正十二年七月大連電報局に轉任翌十三年同局電信課主事たり後電々に轉

現職に就く【家族】妻つね男國長女麗子二男
卓【住所】大連市柳町八四ノ一六電二一六〇六九



藤原源太郎

醫學博士、滿鐵教
化分院長【公的關
係】社員會評議員
【本籍】仙臺市北日
町三九【生年月日】
明治廿七年十二月
廿九日【遺稿】故源
之助長男【學歷】昭和四年東北帝國大學醫學部卒
業【經歷】學校卒業後東京帝大山川内科教室にて
内科學を研究昭和八年八月滿鐵に入社教化分院
長兼内科部長として今日に及ぶ昭和九年二月主
論文「種々ナル分散度ノ脂肪乳注射液ノ靜脈内注
射後ニ於テノ反應」を東北帝大に提出し學位を
受く【趣味】野球、テニス【信仰】神宗【家族】妻文子
【明三】三女宮城縣中名生文治二女東京成城學
園女學部卒【長男】源雄【昭六】一〇生【長女】源惠
【昭九、九生】【住所】吉林省教育廳局生電二一

深尾商店主、硝子並鐵道信託用燈類製作
販賣業【出生地】大連市東區伏見町【本籍】
同市港區九條南浦【生年月日】明治廿二年
十二月十二日【經歷】夙に實業界に入り後
渡滿して大連市の硝子並鐵道信託用ラ
ンプ商として古き歴史を有する深尾商店
主深尾榮吉氏に健康繼承せしめて其業務を
他に譲渡せんとするや大正九年十二月同商店の
營業一切を繼承爾來商號は其信として經營に努
め大正十二年九月監部通の從來の店舖を現但馬
町に移轉擴張し今日の盛業を招來せり【事業】深

尾商店は創業明治廿八年個人經營にして滿鐵並
滿洲國側諸官衙方面に納入せる外滿洲一圓北支
山東方面とも取引あり仕入先は内地各製鐵會社
其他にして年商内高二十萬圓從業員日滿人廿五
名【特記】富店製作發賣の鐵道用信號燈類は其考
案に多大の經費を要し各鐵道共に一定の規格を
制定しある事として一々注文に應じて納入する受
動的立場に在り從つて積極的製作をなさざるも
同業者の模倣し得ざる獨占的事業として多大の
堅實性を有せり【店舖】大連市但馬町三四電二
一四二八二



上坂卓逸

滿鐵職員、鐵道研
究所大連在勤【公
的關係】工業標準
規格委員會地金規
格小委員會委員兼
幹事、同車輛用品
規格小委員會委員
【本籍】熊本縣上益城郡御船町九〇二【生年月日】
明治廿六年九月六日【遺稿】土族午男長男【學歷】
昭和三年三月九州帝國大學工學部機械工學科卒
業【經歷】昭和三年七月滿鐵入社技術研究所勤務
同五年六月命題學試驗所勤務八年八月機械車輛
其他構造物の銜接強度特に銜接物の疲勞強度並
發生内力及高温高壓工業用金属材料應用上の研
究主として加知現象研究のため滿二ヶ年間獨逸
へ給費修學を命ぜらる歸朝後昭和十年十一月中
央試驗所勤務となり十一月中央試驗所機械
研究室主任同十二年三月現職に就く【特記】實驗
機械工學の研究家にして現に前掲各委員の外機
械學會滿洲技術協會各會員たり【趣味】散步寫真

年七月十七日【遺稿】故方吉長男【經歷】長じて事
業を卒ふるや實業に志し機を得て滿各地視察
を経て後海拉爾に來り昭和五年六月一日哈克牧
場を開設し順調の發展を遂げしが新國家建設後
の時運に鑑み同八年七月外に三河製粉公司を開
設し逐年發展今日に及ぶ【事業】現在事務所を海
拉爾西二道街に製粉工場並に雜貨部を興安北省
三河ナラトに置く外ウエルグラー、ウエルフ
ルガ、クリチヨウリヤ等の大部落に夫々雜貨部
出張所を設け日本製產品の販路擴張に盡力しア
ルゲン國境第一線に立つ邦商第一人者として萬
丈の氣を吐くと同時に滿洲線哈克站前には規模
廣大なる哈克牧場を經營し馬匹及乳牛の改良乳
製品の製造販賣を爲し品質優良を以て其の商標
を全滿に張り近時蒙疆兩省旺盛なり殊に同牧場
產物は滿洲國立賽馬場並に天津上海方面の各競
馬場に於て常に最優秀の成績を占め賞讃の的と
なれり年商内高五十萬圓を計上せり【趣味】乘馬
狩獵【信仰】眞言宗【家族】妻タメ【明三】一生趣味
茶道生華【長男】大七生長崎高商在【あり長女
幸子【大五生大連彌生高女卒】は熱河承德稅務監
督署在勤田中實に嫁す【店舖】三河製粉公司【興
安北省海拉爾西二道街七〇

卒業【經歷】同年母校工學部勤務昭和三年名古屋
市役所水道部勤務を経て同八年滿鐵入社地方部
工事課土木係勤務を経て現職に就く【特記】都市
に於ける土木施設に關する造詣深し【趣味】園藝
音樂麻雀【信仰】神宗【家族】父利吉【明七生】母タ
ケ【明一二生】妻田鶴子【大元生金澤市高橋虎二
郎長女名古屋市立第一高女卒】長男達也【昭六
生】二男潤【昭七生】三男正雄【昭一〇生】【住所】
新京花園町四ノ五七ノ二



金丸保

滿鐵職員、皇姑屯
鐵道工場鐵工科旋
盤主任【公的關
係】興亞技術同志
會員、滿洲技術協
會員、大分縣立作
業中學校奉天支部
幹事【本籍】大分縣東國東郡東町宇田深四二一
【生年月日】明治廿三年六月廿六日【遺稿】健造長
男【學歷】縣立作業中學校を経て大正十一年旅順
工科大学附屬工專機械工學科卒業【經歷】大正十
二年三月神戸市の川崎車輛株式會社に入り昭和
二年八月退社同市の日本メーカプレーヤ會社に
奉職同六年十一月退職す同七年八月大連市の橋
本商會に奉職同九年二月鐵道總局職員を拜命奉
山鐵路局に派遣さる同十年四月皇姑屯工廠工務
員同年八月同工廠鐵工科旋盤主任同十一年九月
月現職に就く【特記】鐵道車輛用空氣制動裝置の
設計及理論に造詣深し【趣味】西式健康法及讀書
遊球【信仰】神宗【家族】妻ヤキ【明三三、一女生大
分縣人中井義彦姉大分縣女子師範卒】長女延子
【昭三、二生】二女恭子【昭四、一〇生】三女幸子



井關延雄

滿鐵職員、新京事
務局地方課土木係
道路及下水道主務
者【本籍】愛媛縣北
宇和郡吉田町【生
年月日】明治廿五
年五月十日【遺稿】
利吉男【學歷】大正十四年北海道帝國大學專門部

【信仰】眞宗【家族】父午男【明三生】母サヤ【明七
生】妻文【明四二、一二生埼玉縣利根川藩作二女
神明高女禮井英學塾各卒】長女典子【昭八、二生】
【住所】大連市芙蓉町六一ノ一

小西新一郎

勤六等、滿鐵副參事、牡丹江建設事務所
棟梁長【出生地】福岡縣飯塚市【本籍】同上
【生年月日】明治廿二年十月【遺稿】松次郎
長男【學歷】明治四十四年縣立福岡工業學
校卒業【經歷】明治四十四年四月滿鐵に入
社し鐵道部工務課建築係に勤務す次で廣
陽連山關本溪湖長春等の各保線係に歷勤
更に長春工務事務所公主嶺工事係を経て大正十
四年奉天鐵道事務所棟梁係主任に進み昭和八年
一月鐵道部工務課建築係主任となり後鐵道建設
局職制成立後現職に就き昭和十一年九月副參事
となる同年十月新職制に依り鐵道總局建設局直
屬となる【功賞】滿洲事變の功績により勤六等瑞
寶章を賜る【趣味】讀書野球麻雀圍碁【家族】妻と
く子【明二七生福岡縣渡邊竹次郎女】【住所】濱江
省牡丹江滿鐵建設事務所内



辻本茂

三河製粉公司、哈
克牧場各經營主、
メリケン粉製造販
賣農具農服日用雜
貨販賣馬用馬匹
乾草乳製品製造販
賣業【公的關係】海
拉爾日本商工會議所選定議員、同日本居留民會
評議員【出生地】和歌山縣【本籍】北海道北見國常
呂郡相ノ内村字上相ノ内四【生年月日】明治廿四
【昭七、三生】五女恵子【昭一〇、一二生】【住所】奉
天蘇町四六ノ一七ノ二電三一六一九



伊藤利喜藏

勤八等、滿鐵職員
齊々哈爾濱鐵路局
務【本籍】長崎縣南
高來郡有家村【生
年月日】明治二十
二年十月二十四日
【遺稿】故富士太郎

長男【學歷】東京土木技術養成所終了【經歷】大正
元年十二月滿鐵入社同四年二月山東鐵道に派遣
臨時鐵道隊勤務たり同六年十月青島保線事務
所同八年九月鐵道部坊子保線事務所青島在勤同
十年二月濟南保線隊在勤同十月青島守備軍民
政部鐵道技手同十一年十二月鐵道引續實施委員
同十二年六月長春鐵道事務所同十三年三月昌圖
保線區保線助役同十五年二月鐵道保線區昌圖在
勤同三月開原在勤昭和二年十一月鐵道保線區工
事助役同年十二月同保線助役同八年三月齊々哈
爾濱建設事務所同九年七月建設局新京分所同十年
四月新京建設事務所同九月四平街建設事務所同
同十一月前郭旗工務段長同十一年六月四平街
鐵道監理所監理員を経て同十二年六月現職に就
く部内加増の人員を稱せらる【功賞】滿洲事變に
て勤八等及從軍記章滿洲國功勞章を賜ふ【趣
味】弓道【四段】馬曲【梅若】【信仰】日蓮宗【家族】
母ノブ【慶應元生】妻メサエ【明三五生長崎縣田
浦京治姉】長男行也【大正生國際運輸齊々哈爾濱支
店員】二男敏夫【大五生鹿島島高商在學】三男直
也【大八生新京商會在】五男清【昭三生】【住所】齊
々哈爾濱鐵道齊々哈爾濱鐵路局



夫文塚謙

滿鐵職員、撫順炭礦古城子探炭所工務主任、(公的關係)學士會會員、(本籍)北海道札幌市北三條西一ノ一(生年月日)明治四



次政 顯

滿鐵職員、錦縣鐵路局經理處主計科勤務(本籍)旭川市九條通十一丁目左十號(生年月日)明治四十四年十一月十五日(籍柄)喜市



績 藤 佐

滿鐵職員、吉林機務段技術主任(本籍)長野市中御所三三五ノ二(生年月日)明治十八年一月九日(籍柄)故濱吉二男(經歷)那

山田三郎

山田商店(株)専務取締役、五品代行、遼東オテル、南滿洲倉庫建物、奉天機關、大連車夫合宿所各(株)取締役(公的關係)大連

務し爾來新橋工場濱松機務所新津機務所津若松機務所福島機務所等に歴勤の後昭和八年十二月滿鐵に入社し皇姑屯機務段機務主任たり次て

田正次郎

奉天省西豐縣參事官(本籍)秋田縣仙北郡六郷町米町六三三(生年月日)明治卅五年一月廿日(學歷)縣立秋田農林學校を



敏正澤萬

正八位、勳五位、滿鐵職員、吉林鐵路局總務處文書科長(本籍)滋賀縣坂田



亭 析 井

正八位、在郷陸軍工兵少尉、滿鐵職員、撫順炭礦探炭所探炭係主任(公的關係)在郷

馬郡八幡村(生年月日)明治卅三年二月二十五日(籍柄)故多司馬四男戸主武志弟(學歷)大正十年



郎一榮子金

動八等功七級、滿鐵副參事、錦縣鐵路局經理處會計科長(出生地)長崎縣南高來郡南串山村(本籍)同上(生年月日)明治二十五年三月十四日(籍柄)龜八郎長男(學歷)滿鐵見習



新藤 作

前滿鐵職員(鐵道
總局水道課勤務)
【本籍】宮崎縣兒湯
郡川南村大字平田
五三一(生年月日)
明治三十九年九月
五日(預柄)今朝吉

二男【學歷】昭和三年三月南滿洲工業專門學校卒
【經歷】昭和三年四月滿鐵に入社し地方部土木
課兼大連工事事務所勤務同六年四月奉天地方事
務所上下水道主任等を経て同十年三月奉天鐵道
技師として派遣され哈爾濱鐵路局開設と共に工
事課土木係副主任たり同十一月同局工務所改良
科十一月十一月三棟樹工務段技師同十二年二
月總局工務局水道課等に歴同四月待命となり
總局勤務たりし同五月依願退職す【特記】滿洲
事變にて從軍記章並勳品滿洲に於ける水道施設
の改良に關して研究深し【趣味】園藝將棋釣魚業
馬野遊【信仰】神教【家族】父今朝吉(明五生)母
シ(明一〇生)妻宇智子(明四四、九生宮崎縣黒木
重津四女)長女陽子(昭七、二生)二女潤子(昭九、
一一生)【住所】(前)奉天

久 夏 川 細

從五位勳四等、在滿陸軍砲兵少佐、滿洲火
藥製造技師、南滿洲工業專門學校講師
【公的関係】大連火藥協會長【本籍】岩手縣
一ノ宮町【生年月日】明治九年二月【預柄】
總之助四男【學歷】陸軍士官學校を経て陸
軍砲工學校同砲兵學校各甲金學科卒業
【經歷】明治廿三年六月陸軍砲兵少尉任官
後ち使歩砲兵第一聯隊第一中隊附中尉として旅
順攻圍戰に参加す戰後北朝鮮永興浦要港副官に



松本 彰

轉じ等て横須賀重砲兵隊名古原兵隊廠砲兵隊
廠廠長重砲兵大隊中隊長横須賀重砲兵第一聯隊
附に歴補し大正五年六月砲兵少佐に任官翌六年
依願退役となる同八月旅順工科大学工學專門部
講師及關東廳廳託となりしが昭和四年現職に就
く【趣味】狩獵讀書【住所】大連市晴明臺二一八電
二一七四〇

十一月一日【預柄】故大連市醫師會長一郎長男
代々家は醫を業とし親父松本清三は兵庫縣水上郡
沼貫村に居住し今尚舊邸を存せり父一郎は太
阪市東區高麗橋一丁目を開業せり【學歷】大正十
一年京都帝國大學醫學部卒業【經歷】大正十一年
七月畢業後同大學外科學教室に入り實地研鑽を
積み助手講師を経て助教の任にありしが昭和
四年八月滿鐵の招聘に應じて瀋陽大連醫院に外
科部部長として勤務し今日に及ぶ此の間學位論
文「家鴉枯液肉腫ノ生物學的的特異性ニツイテ」を
京大に提出して昭和四年十月醫學博士の學位を
授與せらる同六年二月歐米留學を命ぜられ渡歐
翌七年末歸任す【特記】専門的研究として消化器
系統の外科的疾患の臨床的研究免疫學的實驗的
研究を爲しつゝあり【趣味】讀書遊球【信仰】神宗
【家族】妻可津子(明三三、三三生趣味和歌)長女照
子(天一三、三三生大連神明高女在)長男淑(大一

理事官に轉じ總務課長たりしが康徳三年
八月現職に就く前任一等たり【趣味】乗馬庭球
【家族】妻ジエウ(明三三生愛知縣飯田十妹)長
男源(天一〇生)二男況(大一二生)長女美枝子
(大一四生)三男漢(昭三生)【住所】黒河省黒河省
公署總務課長公館



加藤 嘉三

勳八等、共愛洋行
主【公的関係】齊々
哈爾濱商協會評議
員【本籍】熊本市坪
井町三軒町【生年
月日】明治十五年
一月三日【經歷】夙

に臺灣に渡り臺東にて大和屋號を經營し次で上
海に移り婦人小供洋服店を營む事約十四ヶ年昭
和七年九月第十四師團附御用商人として齊々哈
爾に赴き同八年五月現職を創め共愛洋行と號す
【事業】日下百貨部(正陽大街一〇)器械材料部
(同上)一二二昭和九年三月開設の兩部を置き前
者は和洋百貨の小賣販賣並に兩部の購入事務を
取扱ひ店員十一名を使用養子留蔵氏之を擔當後
者は度量衡器及び家具類を取扱ひ尙兩部の一般
卸賣並に軍部官廳鐵路局方面への納入事務を
兼ね氏之を擔當店員三名を使用す【特記】滿洲事
變當時陸軍御用商人として馬占山蘇炳文等の討
伐に従ひ功績からず又義に日露戰役には熊本
聯隊補充兵として出征功に依り勳八等に叙し旭
日章を賜る【信仰】天理教【家族】養子留蔵(明三
二生)婦尚子(六七生養子留蔵妻)孫登志惠(昭八
生養子留蔵長女)【店舗】齊々哈爾濱正陽大街一三
〇電二〇八九・二五二六同上二二電二〇八九

新 谷 多 喜 地

正八位、滿鐵職員、齊々哈爾濱工務段庶務
助役【出生地】石川縣金澤市旭町六【本
籍】同上【生年月日】明治卅年五月十五日
【預柄】吉太郎男【學歷】石川縣立金澤第二
中學校卒業【經歷】大正八年鐵道省に奉職
上野保線事務所勤務大正十四年鐵道
局書記に任じ富山保線事務所助役たり昭
和八年轉じて滿鐵に入り齊々哈爾濱工務段庶務副
段長を拜命其後職制改革にて現職に就く【特記】
「行徳而安樂生活即無安樂生活得失一體失得二
體」は其の家訓處世訓なり【趣味】乗馬釣魚宗教
の研究【信仰】神佛【家族】父吉太郎(明五、九生)
母ため(明一四、七生)妻菊子(大三、六生簡範卒)
二女睦美(昭三、一一生)三女百代(昭五、一〇生)
【住所】齊々哈爾濱前信永街一二電七八七



刀橋 東水

利達公司支那人兼
アジア毛皮(株)出
張所主任【出生地】
山口縣美禰郡伊佐
町【本籍】同縣大
津郡日置村五二九
【生年月日】明治卅
三年七月一日【學歷】夙
より實業界に投じ神戸日本毛皮株式會社に在
職すること十有二年同社解散後亞細亞毛皮株式
會社に轉じ昭和八年同社更名事務の個人の資格
を以て奉天利達公司に投資するや扶養されて同
支配人となり爾來指摺經營に現在の盛衰を招
來せしむ曾て日本毛皮在職中には毛皮研究の爲
めカムサツカ並露領沿海西伯利亞蒙古地方に
出張調査を遂ぐる事屢次現にアジア毛皮株式會

細 川 爲 吉

細川紙店主、和洋紙卸商【本籍】岐阜市元
宿町四四四【生年月日】明治三年六月十五
日【預柄】太兵衛二男【經歷】學を卒へ家業
紙商に従事し明治廿七年戰役後獨立店
舗を構へ紙商を營みしが其後店舗を閉鎖
同市紙商武井商店に入り明治卅六年神戶
支店詰となる同卅八年八月同店大連支店
主任となり同四十二年同支店の光明洋行に
合併と同時に退店同四十二年六月獨立現職を開
始今日に及ぶ【信仰】眞宗【家族】妻秋子男友次郎
(明三六生商業學校卒)【店舗】大連市伊勢町一三
電二一四七〇四



河内 由藏

黒河省公署總務課
長【出生地】新海縣
南滿州郡中之島村
【本籍】同上【預柄】
與市四男【生年月
日】明治二十二年
一月【學歷】大正五
年日本大學商科學校卒業【經歷】大正五年滿鐵に入り
爾來遼陽地方事務所安東地方事務所奉天地方事
務所長春地方事務所等に歴同十四年四月本社
地方部地方課に勤務昭和二年十一月大石嶺地方
事務所長に就任し次で五房店地方事務所長大連
醫院事務局長を経て大同元年滿洲國の聘に應じ
て奉天省公署事務官民治科長に任じ康徳元年七
月官制改正により同省理事官となる次で錦州省

社出張所主任を兼任す【事業】利達公司是皮革毛
皮豚毛馬尾輪出機械金物雜貨輸入並特産物商を
取扱ひ個人經營にして民國九年一月當時の東三
省官銀並に丁福雲其他四氏の出資にて合資組
織の下に創立されしが約六個年にして蹶跌を來
し民國十五年十月一切を官銀の經營に委ね資
本金一百萬元全額持込済とし約九割迄は官銀
の出資たり滿洲事變後官銀は滿洲中央銀行に
繼承され同公司も同銀行の經營に移れるが昭和
八年八月前記奥名恭平氏及び奉天榮成總經理
劉成儒氏の兩氏出資の下に經營を繼承せるもの
なり從業員邦人五名滿人十五名商内高一百五
十萬圓銀を取引銀行とす【趣味】寫眞【信仰】佛
教【家族】妻時子(明四一、一一生)長男榮太郎長女智都
代二男浩見【店舗】利達公司「奉天八橋町一〇電
二三一二七七



大 家 清

勳八等、滿鐵職員
蘇家屯驛助役【公
的関係】元社員會
運動部員、現在奉
天人評議員【本籍】
佐賀縣佐賀郡川上
村大字久留間一二
四一【生年月日】明治三十二年十二月二日【預柄】
故清成長男【學歷】大正七年龍山鐵道從事員養成
所卒業【經歷】大正十二年五月滿鐵新京驛電信方
を拜命し昭和三年十二月新京列車區車掌同六年
五月蛇牛宿驛々務方同八年十一月員團驛助役を
經て同十年八月蘇家屯驛助役に就任す【功賞】勳
八等旭日章從軍記章滿洲國建國功勞章同皇帝訪
日記念章を賜ふ【趣味】釣園弄【信仰】淨土宗【家

【妻】長女サヨ子(六一五、五五) 二女美英子(昭三、四生) 五女康子(昭九、三三) 六女道子(昭一〇、一〇生) 【住所】奉天省蘇家屯縣高町九六ノ三

滿鐵職員、哈爾濱鐵路局機務處車輛科勤務【本籍】佐賀縣佐賀郡兵庫村【生年月日】明治二十八年九月二十五日【學歴】佐賀中學修業【經歷】明治四十四年鐵道省九州管理局に奉職果敢し鐵道省技手となり四級を以て過ぐる昭和八年十二月轉じて滿鐵に入り部家屯機務段年機務段勤務を経て同十年十二月滿洲里機務段海拉爾分段副段長に轉じ同十一年十月奉命運轉助役兼檢點助役命機務段副段長に轉じ【趣味】骨董並に書道【信仰】神佛【家族】母イ、(明三)妻ツ子(明三五)長男正彦(六一一)生哈爾濱中學在 長女和子(六九)生宮崎高女在 二男輝彦(昭三) 二女美智子(八一四)生 【住所】哈爾濱濱海鐵路局機務處

内務省

從六位、外交部北滿特派員公署事務官【本籍】東京市牛込區市ヶ谷加賀町二ノ二【生年月日】明治廿六年十二月廿二日【學歴】故元三長男【學歴】昭和三年東京帝國大學法學部佛法科を卒業同五年同大學院修了【經歷】昭和五年二月宮内省侍從廳事務廳託拜命同十月文官高等試験外交科に合格同十一月宮内省を辭し同十二月



河野 遠一

外務書記生拜命佛國在勤次で外交官補に過ミソ聯勤務を経て滿洲國に轉出外交部事務官政務司勤務たり康德四年三月現職に就く前任六等たり 【趣味】運動一般【家族】妻島代(明四)生お茶の水高女東京音楽學校師範科各卒 【住所】哈爾濱地段街北滿特派員公署

正八位勳六等、勳六位、滿鐵參事、工務局保線課勤務【公的關係】土木學會、滿洲技術協會、各會員【本籍】大分縣宇佐郡柳ヶ浦村【生年月日】明治廿七年十一月廿八日【學歴】岡田又右衛門五男故藤一養子【學歴】大正七年名古屋高等工業土木科卒業【經歷】大正七年四月滿鐵に入社保線課勤務となり爾來技術部線路課運輸部線路課大連工務事務所各勤務同鐵道事務所鞍山保線區主任同區區長安奉天各鐵道事務所勤務同保線區區長洗馬鐵路局長吉長各鐵路局各派遺新奉鐵路局長工務所長心得を歴職し昭和九年六月技師となり同所所長吉林在勤機務工務所工務課保線課主任を経て同十一年九月參事に同十月現職に同十二月工業標準規格委員會委員に就任【特記】勳六等旭日章の外滿洲事變の功により勳六位並に從軍記章建國功勞章奉天功勳章を賜ひ昭和八年四月滿鐵十五年勳章を授かる保線改良工事上の功績【趣味】關其特棋運動旅行【信仰】眞宗西本願寺派【家族】妻トツ(明三〇)生美父藤一長女下關高女卒 長女芳子(八一〇)生浪速高女在 長男一郎(八一五) 三女正子(昭五



大木 延色

【生年月日】明治廿七年十一月廿八日【學歴】岡田又右衛門五男故藤一養子【學歴】大正七年名古屋高等工業土木科卒業【經歷】大正七年四月滿鐵に入社保線課勤務となり爾來技術部線路課運輸部線路課大連工務事務所各勤務同鐵道事務所鞍山保線區主任同區區長安奉天各鐵道事務所勤務同保線區區長洗馬鐵路局長吉長各鐵路局各派遺新奉鐵路局長工務所長心得を歴職し昭和九年六月技師となり同所所長吉林在勤機務工務所工務課保線課主任を経て同十一年九月參事に同十月現職に同十二月工業標準規格委員會委員に就任【特記】勳六等旭日章の外滿洲事變の功により勳六位並に從軍記章建國功勞章奉天功勳章を賜ひ昭和八年四月滿鐵十五年勳章を授かる保線改良工事上の功績【趣味】關其特棋運動旅行【信仰】眞宗西本願寺派【家族】妻トツ(明三〇)生美父藤一長女下關高女卒 長女芳子(八一〇)生浪速高女在 長男一郎(八一五) 三女正子(昭五

生) 二男貞次郎(昭七) 四女信子(昭一一) 生【住所】奉天平安通三五ノ一 電局内二七九二



葛清 次

勳八等、滿鐵職員 哈爾濱列車段列車助役【公的關係】在鄉軍人會列車段班長、協和會委員、消防組役員【本籍】佐賀縣佐賀郡高木

瀨村【生年月日】明治廿八年一月三日【學歴】故徳一二男【學歴】大正九年滿鐵從事員養成所電信科卒業【經歷】大正九年十月滿鐵に入社し長春縣に勤務昭和四年四月長春列車區同七年十二月新京列車區機務分區に應勤同八年四月龍平附屬同十年六月哈爾濱列車段副段長を経て同十一年十月現職に就く【功賞】滿洲事變にて勳八等及從軍記章並滿洲國建國功勞章を賜ひ又昭和十一年四月十五年勳章表彰を受く【趣味】テニス野球歌留多卓球【信仰】日蓮宗【家族】妻ムメ(明四一)、三生佐賀縣水園次二女、長女芳子(昭七、一) 生 長男俊紀(昭一〇、二) 生 【住所】哈爾濱濱海街六二

三原 重俊

中央ビルホテル(株)監査役、大連滿鐵社員會職員【出生地】鹿児島市殿治屋町【本籍】同上【生年月日】明治三十年十月十一日【學歴】善兵衛三男明治二十三年家督相續【學歴】明治廿一年鹿児島造士館卒業【經歷】明治廿二年橫濱税關に入り六年間勳職同廿七年渡米しホテル及俱樂部事業經營研究の爲大西洋沿岸諸州及メキシコ等を歴遊傍ら各ホテル及俱樂部の實務に就く同四十三年

同朝朝午滿鐵ホテルの食堂主任となり次で故顯奉天大連各ホテルの支配人を歴勤大正十四年十月停年退職と同時に大連星ヶ浦ゴルフ俱樂部書記に任じ昭和十一年九月中央ビルホテル設立と共に現職に就き同月大連滿鐵社員會囑託となる【趣味】養生流曲ゴルフ狩獵【家族】妻薰(八一八)生石川縣水井孝一女【住所】大連市樓町八八電二七八五七七



龍 靈 法

松花ホテル經營主 【公的關係】哈爾濱日本居留民會第一區々長、哈爾濱旅館組合副組合長 【本籍】石川縣鹿島郡七尾町字府中 部一九【生年月日】明治廿二年九月二十八日【學歴】豐典二男【經歷】明治廿九年渡滿語學研究の上林鏡調査に興味を持ち各地を踏査観察し東洋炭鐵礦塔塔塔坑吉林富源造紙公司黃川探木公司各職員吉林探木公司支配人長春豐材公司囑託長春和登商行木材部主任等に歴勤斯界に活躍せしが大正十二年演藝線一面坡に移り資本金一萬五千圓を投じて材木商及金融業を營み傍ら民會長の公職に在ること九年其間日鮮人の融和に露支人との提携に盡せし所あり滿洲事變後昭和八年哈爾濱に資本金一萬五千圓を以て旅館松花ホテルを開設更に同十一年圓作線街木所に資本金二萬圓を投じて新築生を兼營す爾來常に新なる顧客本位の經營方針を執り而かも應接に料理に細心の注意を拂ひ設備完備せるを以て業務日に月に進展し現時使用人二十餘名を擁し

取引銀行たる正金中銀其他顧客同業者間の信用頗る厚し【特記】民國第一革命當時滿洲事變當時國庫移民地買収工作等には民衆特の力量により功績多からず滿洲國キ務院職務廳事務官たりし事あり【趣味】スゴーツ特に遊球旅行カメヲ 【信仰】神佛【家族】妻百代(明三五)生島原高女卒 長男健一(八一〇)生中學在 長女嘉美代(八一三) 生高女在 二女美千代(八一五) 三女喜美代(昭三) 生 二男剛二(昭六) 生 四女美津代(昭八) 生 【住所】哈爾濱中國六道街三五松花ホテル電五六四三

坂田商會主、哈爾濱土木建築公司主 【本籍】長崎市伊勢町三一【生年月日】明治廿九年三月廿六日【學歴】東京學院卒大正六年浦墾院卒大正六年浦墾院卒大正六年浦墾院卒大正六年浦墾院卒



坂田 秀太 郎

斯德露語學校卒業【經歷】大正七年浦墾院に於て合資會社フランク商會を設立對日輸出入業を經營又大阪に於て對露石油貿易業を經營大正十一年大阪山崎浦墾院支店主任に任じメルクターロフ政府借款事務に従事せるが革命にて支店閉鎖す大正十三年於沿海漁場經營昭和五年外務省囑託として哈爾濱第一回極東學術大會日本側通譯並に農林省露領水田調査に任ず昭和七年東京野澤租浦墾出張所主任として木炭對日貿易に任ずる傍ら海草貿易業を經營昭和十年坂田商會哈爾濱土木建築公司を設立現在に至る【家業】現在同店は資本金五萬圓にして哈爾濱道外外國街に出張所を設け土木建築業金融業並に油糧油糧油糧を營み邦人五名滿人十名を使用滿洲中央銀行に取



大倉 清 七 郎

勳七等、滿鐵特命 參事(前吉林鐵路 監理所監理員)【本籍】岡山縣御津郡 牧山村中牧八六二 【生年月日】明治十七年十一月廿四日

引を有し滿洲國軍管區御用達たり【趣味】演藝スゴーツ【家族】妻リレンチーナ二女直子(八一) 生 【住所】哈爾濱外國三道街四三電四一四二

され功績章を受く【家族】妻金子(明二一生)長男
【明四一生】京成齒科醫専卒(二男)壽(大元生)總
局勤務(三男)正憲(大五生)長女貞子(大八生)新京
高女卒(二女)君子(大一生)奉天高女在(三女)吉
子(大一生)【住所】奉天雪見町四三ノ二

木助下男

滿鐵新京圖書館長(出生地)愛知縣知多郡
大高町高見【本籍】同上(生年月日)明治卅
二年十二月廿一日【履歷】平之助長男【學
歴】大正十年東亞同文書院商務科卒業【經
歴】大正十年八月滿鐵に入り地方部庶務
課勤務同十一年五月長春地方事務所勤務
同十二年四月長春地方事務所同五月長
春實業補習學校講師嘱託同十四年四月長春地方
事務所勤務昭和二年三月大連圖書館司書同八年
四月新京圖書館主事同九年四月新京圖書館長に
就任今日に及ぶ尙十二年五月滿鐵設立幹事
に任ず【特記】處世調順かざるものは噴ふ可ら
ず【趣味】和歌俳句【信仰】佛教【家族】妻ひら(明
三二、二生)長男明美(昭五、五生)長女静江(昭
七、七生)【住所】新京花園町四ノ五七ノ一



松原龍太郎

金光教護順教會長
【本籍】和歌山縣有
田郡湯淺町(生年
月日)明治廿九年九
月十七日【履歷】遠
祖は織田家々臣に
して地方名門の流
れを汲めり【學歴】天王寺中學を経て明治四十五
年早稻田大學哲學科卒業【經歷】十三歳金光教に
歸衣し十五歳大區難波教會に入り金光教元老た

る教祖直信近藤々守師の薫陶を受け修行の傍ら
前記學校を卒へ専ら巡教を擔任して大阪布教に
奉仕し大正五年金光教本部職員に任命宣教部並
に禮典部に出席し大正九年推順教會長に就任し
今日に及ぶ豫ねて滿洲布教管理所參與支那滿洲
布教聯合會幹事長並に金光教青年會聯合本部理
事滿洲地方付として滿洲的に活躍せり【特記】同
教界に定評ある「生神の道を辿りて」の著書等の
外常に文書傳道に執筆せり【趣味】日本刀尺八
【信仰】金光教【家族】妻ツルエ(明三〇、四生)長
女登喜子(大六、二生)二女眞子(大八、一〇生)撫
順高女卒(三男)繁雄(大一一、一一生)四男一美
(昭九、八生)【住所】金光教護順教會所(津田東
六條通五五電二二九五)



松村榮三

延吉ヤマトホテル
經營主【本籍】米子
市愛宕町(生年月
日)明治九年八月
十二日【履歷】舊米
子藩老職岡本可春
ノ男【經歷】夙に渡
鮮し或は南道成興に居をトし在成十有八年成南
商工株式會社々長として貿易に従事し傍ら雜貨
卸小賣業を營み此の間三期連續して道會議員に
官選され又成興商工會會長府會議員面協議員等
の公職に盡す事十數年傍ら幾多會社の顧問
相談役等を兼ねしが昭和十一年八月間島省延吉
の現地にヤマトホテルを開業し今日に及ぶ【事
業】延吉ヤマトホテルは娯房ベータカを始め諸
設備一切新調の上清澄なる一千餘坪の庭園を絶
好の閑靜なる場所に占め開業草々より斷然同地

第一流の高級旅館として頗る好評を博し大いに
將來の發展を期待せられ最近更に三階建洋室
増築を計畫せり【家族】妻ウタ(明一〇生)嗣子昭
臣(昭二生)二男延彦(昭八生)【住所】延吉ヤマト
ホテル(間島省延吉新安街電一〇四・四一五)



興津禮三

勳八等、滿鐵職員
奉天驛構内助役
【本籍】靜岡縣庵原
郡柳井村西久保一
〇一(生年月日)明
治卅五年四月六日
【履歷】土族故六郎
三男【學歴】大正十年省會鐵道學校卒業【經歷】大
正十年四月滿鐵奉天驛車庫方を拜命運輸部附非
役奉天驛助務奉天列車區區頭分區車掌心得車掌
事務員助役資格試驗合格奉天驛助役奉天驛構内
助役を経て同十一年九月命職員同十月現職に就
く【功賞】昭和九年四月滿洲事變の功に依り勳
八等授瑞寶章及勳從軍記章滿洲國功勞章奉天
助日記念章【趣味】乗馬釣魚【信仰】日蓮宗【家族】
妻フジエ(明四三生)佐世保市福石町山下榮太郎
四女【住所】奉天驛町六〇ノ三二ノ四

三根眼科醫院長、果樹園南山園經營主【本
籍】佐賀縣杵島郡須古村(生年月日)明治
十六年十一月【履歷】大正十一年九月家督
相續【學歴】明治卅九年京都府立醫科大學
卒業【經歷】卒業後京都帝國大學醫學科大學
附屬醫院に奉職の傍ら研究を續け明治四
十一年七月之を辭し翌八月滿鐵に入り其
大連醫院眼科勤務約十一年此間明治四十二年四

月以降東京小學校々醫を囑託さる大正八年二
月滿鐵を辭し同時に獨立開業す現に病氣靜養中
にて醫院は醫館小森正也氏を聘せり尙金州にて
南山園を經營す【趣味】讀書運動【家族】妻タマ
(明二二生)福岡縣人(長男)京都府立醫大卒(長女)
淑子(大四生)神明高女卒(二男)亨(大九生)大連一
中在學(三男)久(大一生)同上校在學(三女)節子
【住所】大連市小波町二五・三根眼科醫院(同市
信濃町二二〇電二一六四一〇)



松田進

勳六等、滿鐵參事
地方部勤務兼地方
行政權移讓準備委
員會委員兼地方部
地方課土地建物係
主任(公的関係)社
員會聯合會長、在
滿軍人分會顧問【本籍】鹿兒島縣出水郡阿久根村
波留(生年月日)明治二十九年七月十日【履歷】德
藏二男【學歴】縣立川内中學校五高を経て大正十
二年東京帝大法學部政治科卒業【經歷】大正十二
年五月滿鐵に入社地方部庶務課同地方課長奉安
東各地方事務所四平街地方事務所地方係長計畫
部業務課總務部人事課地方部地方課鞍山地方事
務所地方係長鞍山消防監督署東軍司令部嘱託
兼職兼工事係長大石橋地方事務所長を経て昭和
十年七月參事に就任し同十一年十月現職に轉ず
【特記】勳六等瑞寶章の外從軍記章滿洲國功勞
章帝皇勳日記念章拜受上地問題に造詣深く報德
會の主旨を處世調とす【趣味】圍棋球【信仰】眞
宗【家族】父德藏(明元生)母とき(明四生)妻道子
(明三五、八生)鹿兒島中山支女郎四女縣立第二高

女卒)二女和子(昭二、八生)三女信子(昭五、二
生)【住所】大連市眞金町三電四一〇一四〇



宇土正司

土木建築請負業吉川組土木部長(出生地)
大分縣宇佐郡豐川村【本籍】同上(生年月
日)明治廿六年二月【履歷】村次郎ノ男【學
歴】大正六年東京中央工學校卒業【經歷】
大正六年四月渡滿奉天の土木建築請負業
吉川組に入り四平街出張所主任を経て同
八年奉天本店營業主任に轉じ同十五年本
店支配人となり爾來營業の第一線に活躍中昭和
七年五月敦圖線建設にあたり匪彈に傷き一時郷
里に療養同九年一月吉川組改組と同時に復歸上
木部長として今日に至る【特記】滿洲事變の功に
依り賜杯義に奉天大分縣人會副會長奉天中學校
父兄會々計幹事等に擧げらる【趣味】圍棋曲等
【家族】妻安枝(明二八生)大分縣佐藤松市女(長男)
一郎(大三生)早稻田高工卒(四男)正幸(昭二生)長
女久子(大七生)四日市高女卒【住所】奉天稻葉町
三電四三一四六



河本照雄

正八位勳八等、在
滿鐵軍輔重兵少尉
滿鐵職員、吉林站
長兼吉林自動車會
會所主任(公的關
係)帝國在滿軍人
會分會役員【本籍】
名古屋市西區泥町二ノ一(生年月日)明治卅四
年三月十一日【履歷】故鐵次郎二男【學歴】大正十
四年早稻田大學商學部卒業【經歷】大正十四年滿
鐵に入り奉天驛助役を拜命す時て安東驛貨物助



奥大蔵

從六位、滿鐵副參
事、哈爾濱鐵路局
工務處建築科長
【公的関係】滿洲建
築協會評議員【出
生地】大阪府豊能
郡箕面村大字新稻七四一(生年月日)明治廿四年
七月八日【履歷】故藤之助長男【學歴】大正十四年
東大工學部建築學科卒業【經歷】夙に東京市役所
建築課に勤務し後一年志願兵として工兵第四大
隊入隊大正十五年除隊神奈川縣警務部建築監督
官たり昭和八年十二月渡滿し鐵道總局工務處工
務課建築設計係主任を経て同十一年九月現職に
轉ず【特記】建築設計方面に造詣深く義に東京横
濱小學校建築を監督して功あり帝都復興記念章
を拜受又昭和四年公共事業乳兒院建築資金に一
千圓寄附せる功により賞勳局より表彰状を受く
【趣味】ボート麻雀擲球【信仰】淨土眞宗【家族】母
波江(明九生)妻家壽子(明三六、六生)岡山縣岡本
佐市二女岡山縣立高女卒(長女)孝子(大一一、一

生哈爾濱高女在(長男忠夫(大一一五、一生)(佳所)哈爾濱交通街三三號電四六四七

萬羽七郎

大連取引所信託(株)受渡保主任(本籍)新瀉縣東頸郡松代村大字會澤九四五(生年月日)明治十八年四月十三日(學歷)舊書院出身(經歷)明治三十六年北京警務學堂監督川島浪速方に於て支那語及支那事情研究同四十五年二月旅順廣親王府通譯及會計大正七年十月同府退職大正八年大連取引所信託株式會社入社後現職に就く(趣味)園芸(家族)妻セイ子長男滿雄(大連商業卒)長女千鶴子二女久仁子三女慶子四女清子(佳所)大連市淺間町二三



板本武

動八等、滿鐵職員
梅河口站長(本籍)山梨縣北巨摩郡玉村(生年月日)明治廿一年十二月廿四日(續柄)濱苗長男(學歷)甲府中學修了(經歷)大正六年九月鐵道省に奉職同七年十一月辭職同時に滿鐵に入社奉天列車區に勤務同八年五月鐵道省に奉職同九年七月八家子驛助役十二年四月虹牛驛助役昭和二年一月公主嶺驛助役同四年五月奉天鐵道事務所同五年六月鐵道省奉天在勤同六年八月沙河驛長等に歷任同八年一月總局勤務となり吉海鐵路局に派遣さる同九年四月新京鐵路局總務處文書科事務股長同十年十一月同文書科附同十一年三月東新京站長を経て同十二年六月現職に就く此の間社員會評議員消費

組合總代たり(功賞)滿洲事變にて勳八等及從軍記章並滿洲國建國功勞章を賜ふ(趣味)寫眞旅行讀書(信仰)日蓮宗(家族)妻朝榮(明四〇、八生兵車縣三宅濱治三女)長女光子(昭五、一二生)長男佩(昭七、一二生)二男良二(昭一〇、五生)(佳所)奉天省海龍縣梅河口站

荒卷繁之丞

滿鐵職員、哈爾濱鐵路管理局監理員(本籍)福岡縣三井郡小郡村大崎四六(生年月日)明治廿四年五月廿八日(續柄)土族龜太郎弟(學歷)錦城中學校を経て大正七年滿鐵從事員養成所卒業(經歷)大正五年十一月滿鐵に入り大石橋驛に勤務次て同七年六月海城驛同八年八月大連驛同九年八月哈爾濱鐵路局運轉處貨物科貨物股長同十年三月同上運轉處勤務を経て同十年十一月現職に就く(佳所)哈爾濱鐵路管理局



酒井熊太郎

勳八等、滿鐵職員
教化機務段運轉助役兼檢査助役兼機務士(本籍)福岡縣小倉市長濱中之丁二〇九(生年月日)明治二十年八月五日(續柄)故父次郎五男(經歷)學校卒業後明治廿七年鐵道省に奉職大里機關庫に勤務同四十二年滿鐵入社大石橋驛車庫勤務となる昭和九年六月迄勤続同年同月吉林機務段副段長を経て十年五月教化機務段運轉副段長たりしが十一年十月現職に就く(功賞)滿洲事變にて勳八等及從軍記

草並滿洲國建國功勞章を賜ふ(特記)敬神崇風の念篤く食前神佛に禮拜を怠らずといふ(趣味)劍道支那語(信仰)淨土真宗(家族)母リセ(嘉永五生)妻千鶴(明三〇)生大分縣東辰雄妹)長女久子(六七生)廣順女學校卒)三男實(大一一二生)鞍山中學在)二女慶子(大一一四生)四男忠(昭三生)(佳所)吉林省敦化通河街二



猪口保理

正八位、信義洋行(株)代表取締役、糖粉特産輸出貿易商(公的關係)龍井居留民會議員、同島在郷軍人會評議員(本籍)鳥取市庵子町二七(生年月日)明治二十一年三月二日(續柄)繁太郎長男(學歷)明治四十年鳥取縣立第一中學校卒業(經歷)學を卒ふるや伊藤軍需品製造株式會社に勤務し大正元年滿津龜谷商店に轉ず同四年六月渡滿龍井に於て獨立し糖粉特産輸入貿易商を開業し昭和七年十一月大阪合同自動車學校に入學翌年二月大阪府より甲種運轉手免狀を受け龍井に於て自動車運轉業を兼營大規模發展を策したるが同十一年七月其筋の命に従ひ同島自動車統制に參加一切の車輛を譲渡し他面杜丹江方面に新地開拓の歩を進めつゝあり(猪口理參照)(事業)個人組織なるも株式組織に變更の由にて本書編纂中すでに其準備に着手せり大阪下關方面より仕入れ主として間島一國を販賣區域とし店員五十名商高五十萬圓内外を計上す(特記)同島在郷軍人會の設立者にして今日迄正副會長評議員副支部長として盡瘁し又義

に間島防衛協會に金一千圓を寄附す(趣味)音楽(其球釣魚狩獵運動野球(家族)妻はる子(明二五生)鳥取縣高橋廣吉長女(婦高女卒)長女美恵子(大六生)鳥取高女卒)二女節子(大一一〇)生高女在)長男高明(大一一五生)三女榮子(昭三生)(佳所)間島省延吉縣龍井橋頭街

山下善代

新京取引所信託(株)事務取締役(出生地)鹿兒島縣薩摩郡下飯村(本籍)同上(生年月日)明治廿一年九月(續柄)善作三男(學歷)明治四十一年滿鐵に入社し運轉課員督口驛助役本社運轉課員を歷任大正六年吉長鐵路局に派遣同八年滿鐵を辭して大連浪速町に獨立商業を開始せるが翌年創立の極東業地株式會社支那人に就任次て同十年長春取引所信託株式會社支那人昭和三年一月取締役兼支那人等を経て同九年七月現職に就き爾來同此の經營を統轄し今日に至る(趣味)スポーツ庭球撞球ゴルフ(信仰)眞宗(家族)妻カネ(明三〇)生山口縣小田原二女蘇立豐浦高女卒(佳所)新京蓬萊町一ノ一〇電三三二二二一〇



鎌田敬三

勳七等、辯護士、鎌田法律事務所長(出生地)東京市日本橋區(本籍)東京市麻布區仲ノ町一(生年月日)明治十九年六月二十八日(學歷)明治四十五年東京帝國大學法科卒業(經歷)明治四十五年より大正七年二月迄三井物

産會社に奉職し本店上海支店等に歷勤同七年四月より同九年十月迄及本合名會社に奉職し本店檢査役大連支店長等に歷任同九年十一月より昭和七年七月迄獨立して仲立業に従事し昭和七年辯護士を開業以て今日に及び陸軍大佐指定たり(功賞)シベリア出征の功に依り勳七等青色桐葉章を賜る(趣味)讀書水泳釣魚(信仰)眞宗(家族)妻松子(明二〇)生)長女道子(大四生)大連神明高女卒)二女正子(大六生)同校卒)三女義子(大七生)同校卒)五女日出子(大一一生)同校在) (佳所)鎌田法律事務所(大連市八橋町二電二二二〇七八)同出張所(哈爾濱市道裡斜紋街四七電七三〇四)自宅(大連市眞金町一七電四九八五五)



松本道藏

日滿鋼材工業(株)旗原出張所長(出生地)長崎縣南高來郡島原町(本籍)同上(生年月日)明治十七年九月十三日(經歷)明治四十四年春滿鐵に入社し旗原炭礦機械課に勤務爾來大山嶺東郷各坑に歷勤大正十年再び機械課第二工場に轉じ専ら工作物保安監査擔當に任ず昭和九年龍鳳炭坑臨時建設事務所主任となり同十一年四月其竣工と同時に日滿鋼材工業會社に轉じ現職に就く(特記)前記龍鳳炭坑は世界有數東洋一の堅坑にして其建設には幾多困難を伴ひしが克く短期間に之を完成せり(趣味)梅若流讀書光畫(家族)妻しめを(明二五生)長男茂壽(大四生)二男博喜(大一一〇)生)三男直喜(大一一三)生(佳所)日滿鋼材工業株式會社旗原出張所



中山忠吉

正八位勳六等、佳木斯警察廳警務科長兼三江省樺川縣警正(本籍)青森縣南津輕郡大野町大字居土官本五二ノ二(生年月日)明治十七年二月廿二日(續柄)故勝太郎長男(學歷)大野高等小學校卒業後補習科三年修了(經歷)明治三十八年補充兵として歩兵第三十一聯隊に入營軍務に服す同四十年青森縣巡査を拜命大正三年青森縣巡査部長同七年警部補に異進同八年五月警務分署長に補し同十年同縣警部に轉任す同十一年三本木警務分署長同十二年水島分署長同年十二月陸ヶ澤警務署長等に歷勤し同十三年青森縣警務部警務課勤務となり同十五年同刑事課長に榮進す昭和二年八月八戸警務署長に補せられ同四年六月地方警視に昇任弘前警務署長に榮轉同五年三月一旦依願免本官同七年一月再び地方警視に任じ弘前警務署長に補せられしが翌八年五月依願免本官となる康徳元年十一月三江省公署廳託となり同二年四月同公署警正に任じ警務廳勤務同年十月警務廳警正に轉任佳木斯警察廳警務科長に補職同三年四月樺川縣警正兼務を命ぜらる應任六等たり(功賞)明治廿九年四月故勳八等授瑞寶章大正十一年故勳七等授瑞寶章昭和六年八月故勳六等授瑞寶章(信仰)佛教(家族)母ヲ夕(慶應三生)妻喜代(明三八生)長男繁利(明四二生)二女行子(大八生)三女喜美子(大一一四生)四女英子(昭四生)(佳所)三江省佳木斯警察廳内

佳順四九條通り一二電二六四〇



志村悦郎

動六等、滿鐵參事、産業部調査役、滿洲國實業部嘱託、【本籍】神奈川県足柄下郡下府中村大字中里五一二(生年月日)明治廿七年七月七日【履歴】故平八郎長男【學歴】大正三年東亞同文書院商科卒業【經歷】大正三年七月森村商事株式會社入社同四年七月上海在勤となり重慶在勤を経て上海出張所に勤務同八年四月上海出張所主任同十二年八月同僚と共に同社支那部事業の擴張を受け華森公司を創立し常務取締役となる同十月歸東重慶に依り辭職同十五年二月滿鐵嘱託となり興業部商工課勤務上海在勤たり昭和三年二月職員となり上海事務所勤務同五年六月礦産部商工課勤務同八月哈爾濱事務所庶務課勤務主任同八年九月哈爾濱事務所産業課營業主任を経て同九年六月參事に任命され鐵道局長兼ハルビン事務所産業課勤務を命ぜられ局長待遇を以て過さる同九月經濟調査會委員兼第六部綜合主任同十一月同第四部商業主任同十一月十月産業部附を経て同十二年二月同職に就く【特記】文章に長じ「浙江財閥」「農村協同組合」等の著あり又滿洲事業の功に依り勳六等に就せられ從軍記章並滿洲國建國功勞章勳大勳章を賜ふ【趣味】讀書、テニス【信仰】佛教【家族】妻滋子(明三四、九生東京府新井町三郎二女)長女倅子(大一二生大連高女在)二女明子(大一四生)長男和夫(昭三生)三女幸子(昭六生)【佳所】大連市桃源臺九四

奥村勝

土木局技佐、牡丹江建設事務所長【本籍】盛岡市加賀野一九六(生年月日)明治二十九年一月十二日【履歴】岩手縣士族【學歴】昭和四年東京帝國大學工學部土木工學科卒業【經歷】昭和四年九月歸國鐵道技師事務士木技手に任じ内務部土木課勤務を命ぜられ後土木部橋梁課技師たり康徳二年滿洲國鐵道局技佐に任じ哈爾濱建設局勤務同江建設事務所長を経て同七月現職に就き同四年一月現官に任ず處任六等たり【佳所】牡丹江土木局牡丹江建設事務所電二三〇一・自宅電二五七七



湯淺毎

從七位勳七等、首都警察廳警正、外事科頭領、局長【公的関係】岡山縣人會幹事【本籍】岡山縣御津郡江與村大字栗井谷八八三(生年月日)明治廿六年九月廿八日【履歴】故秋太郎長男【學歴】大正十二年法政講習所卒業【經歷】大正五年憲兵上等兵となり昭和六年憲兵特務曹長に進み遼瀋憲兵隊本部特務曹長兼警務主任たり同九年四月廣島憲兵隊本部高等係長となり同九月豫備役に編入さる康徳元年十月滿洲國に轉出し首都警察廳警正に任じ外事科特務科附となり同四年三月現職に就く國都建設紀念式典準備委員會警務部幹事たり【功賞】勳七位に就され大正九年勳八等旭日章同十四年勳七等瑞寶章を賜ふ【特記】特務關係に明るく練達の手腕を稱せらる教育勸進軍人勳章を蒙る處世訓とす【趣味】乘馬、圍碁、讀書【信仰】天台宗

【家族】母喜美(明九生)妻千年(明三二生岡山縣津野高平次長女)長女倅子(大一三生)二女和子(昭二生)長男茂(昭五生)三女好子(昭七生)【佳所】新京皇光胡同四〇六電二一三〇一五

堀井朝惠

滿鐵職員、吉林鐵路局總務處人事科勤務【出生地】長野縣上水内郡日里村【本籍】京都府中郡新山村芝山(生年月日)明治卅三年二月十八日【履歴】賢作三男【學歴】大正四年長野縣立西部農學校卒業【經歷】學校卒業後一時農務に従事せしが大正八年十月歩兵第五十八聯隊に入營同九年五月滿洲國立守備隊歩兵第五大隊に轉じ同十一年十月陸軍二等計手となり同十二年二月現役滿期同七月滿鐵に入り大石橋驛に勤務同十四年五月庶務員昭和八年十一月吉長吉敦鐵路局總務處文書科康徳元年四月新京鐵路局總務處人事科勤務等を経て其吉林鐵路局と改稱後も引續き勤務今日に及ぶ【功賞】滿洲事業にて從軍記章及勳品を授與され大石橋驛時代に軍人會評議員として畫十餘年餘其の功勞を表彰さる【趣味】圍碁、盆球【信仰】曹洞宗【家族】妻惠美子(明三六生)三女敏江(昭六生)【佳所】吉林旭街



伊藤藤祐

從七位、勳六位、交通部理事官、郵務司儲金科長兼總務司勤務、郵政權調整準備委員【本籍】福井縣速原郡實濱村西津第一一號ノ一七(生年月日)明治廿三年四月六日【履歴】

川縣丸龜市堀内久吉女九歳敬愛女學校卒【佳所】大連市明臺二一九電二一三七七〇



蒲地正護

滿鐵職員、奉天用度事務所受渡係主任【本籍】鹿兒島縣肝屬郡東串良村池之原四八(生年月日)明治廿八年十月十日【履歴】故正之助三男【經歷】大正七年四月滿鐵に入り事務助手を拜命同八年八月經理部用度課勤務同九年三月商事部倉庫課同十一年一月經理部用度課同十四年十二月經理部倉庫課昭和二年十一月用度事務所倉庫課同五年六月用度部倉庫課同六年八月商事部用度課大連倉庫同八年四月用度事務所倉庫課に遷轉し同十一年九月現職に就く【功賞】滿洲事業の功に依り從軍記章及勳【趣味】盆球、讀書【信仰】眞宗【家族】妻淑枝(明二七生鹿兒島縣人根木齊政母)妻女ニミ子(昭三生)【佳所】奉天若松町六八電社内一九三



重浦卓一

信事二男【學歴】大正七年六月同九年三月同十年三月の三度に亘り郵便電信特種有技者檢定試驗合格【科日外國郵便學英語】同十一年十月通信官吏練習所專修科外國郵便科卒業【經歷】大正四年十二月教習同八年八月教習同九年十月教習各郵便局同十二年二月教習郵便局主任同十三年二月通信局外國郵便課同十四年二月同外信課同五月郵便局外國郵便科昭和四年四月春洋丸郵便局兼務同七年五月兼免同六月任選信局事務官郵便局を各歴勤後滿洲國に轉出大同元年六月交通部郵務司郵政監察官同二年九月郵政管理局事務官(哈爾濱)同十二月郵政事業監察のため歐洲及亞弗利加へ派遣康徳元年七月郵政管理局理事官次て交通部理事官となり同三年十一月郵務司儲金科長を経て同十二月現職に就く處任官五等たり【功賞】昭和三年大勳章同七年六月從從七位康徳元年建國功勞章大典紀念章及勳六位景雲章を各拜受【趣味】圍碁、讀書【信仰】眞宗【家族】妻キタ(明三二生福井縣道久久太郎母)【佳所】新京新發屯集合住宅一六電二一三六四一



松本豊三

五月母校助手を命ぜらる同十一月慶大醫學部醫學教室研究生となり同十三年九月同大學助手を拜命す昭和四年六月同大學醫學部寄生醫學教室研究生となり同九年四月同醫學部講師に任じ同月齒科教室醫局長を命ぜらる同十一年四月同大學助教に任用同五月現職に就く【特記】昭和八年九月醫學博士號を受く【趣味】旅行、スキー登山【信仰】佛教【家族】妻トメ子(明四三、四生靜岡縣大井郡也四女聖學院女學校卒)【佳所】新京花園町五ノ四滿鐵社宅七八ノ一

山下竹雄

從七位、左衛門軍醫中尉、滿鐵哈爾濱鐵路醫院接化診療所主任兼醫員兼接化日本尋常小學校學校醫【本籍】東京市赤坂區榎町五(生年月日)明治四十年九月四日【履歴】士族英男長男【學歴】朝鮮官立大田中學を経て昭和九年滿洲醫科大學本科卒業【經歷】昭和九年六月滿洲醫科大學山外科教授室勤務同十二月軍醫候補生として歩兵第七十九聯隊に入營同十一年五月歸任同年七月鐵路總局職員哈爾濱鐵路醫院接化診療所主任兼醫員等

を経て昭和十一年九月現職に就く【趣味】狩獵
【信仰】日蓮宗【住所】濱江省樺化滿鐵診療所内電
一四四



勳八等、滿鐵職員
哈爾濱工務段保線
助役【本籍】靜岡縣
駿東郡片濱村松長
二四七【生年月日】
明治廿二年六月十
六日【續柄】長谷川
茂三郎二男【經歷】那校卒業後明治四十三年三月
鐵道省に奉職し沼津保線區に勤務す大正三年八
月滿鐵に入社し遼陽保線區に勤務すること二十
餘年の久しきに及ぶ昭和八年十月技術員に任じ
同年六月現職に就く【特記】滿洲事變にて勳八
等及從軍記章並滿洲國建國功勞章を受く先是大
正三四年七ヶ國同盟赤十字記章を受く多年禁酒
を實行し仕事第一主義を奉じ上下の信任篤し職
に盡力し同職人會幹事たり【信仰】神道【家族】妻
マサ(明二二、八生)靜岡縣津田久七二女、長女シ
ズエ(大二、七生)家政女學校卒、長男義男(大七、
一一生)中學修【住所】哈爾濱建築街一四號

勳八等、滿鐵職員、哈爾濱站事務主任【公
的關係】哈爾濱官廳縣人會評議員【本籍】
宮崎縣宮崎郡清武村【生年月日】明治廿八
年三月九日【續柄】故貞高五男【學歷】昭和
二年名古屋高等商業學校卒業【經歷】昭和
二年四月滿鐵に入り爾來鐵道部長春驛長
春列車區長春驛哈爾濱鐵路局文書課に歷
勤し同十一年九月現職に就く【功賞】滿洲事變の
功に依り勳八等に叙し瑞寶章を賜はる【趣味】テ
ニス、圍碁及北滿事情の研究【信仰】神道【家族】妻
綾子(明四三、一一生)宮崎縣人江藤千守長女宮崎
高女卒、長男明雄(二女)淳子【住所】哈爾濱新市街
交通街三五

大坂砲兵工廠に奉職積年明治四十三年一月
滿鐵に入社し遼陽工場に勤務すること二十二年
蘇家屯機關區引立修繕工長を経て昭和九年六月
國營機務段裝車副段長となり職改にて工作助役
を命ぜられ十二年五月現職に就く【功賞】二十七
年無缺勤此の間十五年勤績表彰を受く
滿洲事變にて勳五【趣味】圍碁、將棋、釣魚、狩獵
【信仰】淨土宗【家族】妻アキ(明三三、八生)島根
縣人丸山金松三女、長女静子(大九、八生)島根縣
立高女在、長男廣芳(大一一、一〇生)、二女麗子
(昭二、一一生)【住所】吉林省滿鐵教化機務段



勳八等、滿鐵職員
國營機務段運轉助
役【本籍】神奈川縣
高座郡澁谷村字長
後二四二四【生年
月日】明治十八年
九月二十三日【續
柄】故野次郎二男【學歷】那里にて修業【經歷】學
校卒業後那里に於て郵便局に勤務する事四年の
後明治四十年四月滿鐵入社し爾來大石橋に在り
しが昭和九年六月國營機務段に轉じ現職に就く
【特記】滿洲事變の功に依り勳八等授瑞寶章昭和
十二年四月滿鐵三十年勤績者として表彰の外
記念品表彰状を屢々受く滿洲人指導に獨自の手
腕あり着任以來面目一新す【趣味】大石球、圍碁
盆、鼓曲運動大石各部幹事【信仰】日蓮宗【家族】
妻ヒサ子(明三〇、生)大分縣江藤兵一四女、長男滿
正(大九生)、二女美恵子(大九生)、三男久夫(大一一
生)四男貞男(大一一生)五男保夫(昭五生)【住
所】同島省國營山ノ手局生二〇ノ一

水順洋行(株)取締役兼總支配人【出生地】
高知縣高岡郡波設村【本籍】同上【生年月
日】明治廿八年八月一日【續柄】良次郎長
男【學歷】大正二年通信官史練習所電信課
卒業【經歷】大正二年大阪電信局に入り次
て大連郵便局に轉じ同九年大連市大山通
五八所在總務布毛織物砂糖麥粉商水順洋
行に入り大連奉天各支店勤務を経て昭和六年總
支配人となり社業今日の隆昌を築けり兼に大和
染料株式會社取締役たり【事業】本洋行の創業は
明治廿八年八月にして滿洲に於ける總務布貿易
商出店の嚆矢たり本店は大連市山通に支店は奉
天に出張所は新京哈爾濱青島四平街天津に在り
尙本洋行社長は創立者たる三重縣松阪の人長井
九郎右衛門氏なるが同氏は氏の總支配人兼任と
共に一切之が經營に容喙せざるの特種制度を設
定せり【趣味】テニス、旅行【信仰】基督教【家族】妻
した子(明三一、生)青森縣工藤彌長女、長男俊郎
(大一一〇生)大連一中在、三女道子(昭八生)【住所】
大連市秀月臺一七電圍二一四九六二



滿鐵職員、哈爾濱
工務段庶務助役
【本籍】北海道札幌
市南七條西三丁目
【生年月日】明治卅
三年五月卅日【續
柄】義雄長男【學
歷】大正九年札幌市北海中學卒業【經歷】大正九

三月札幌鐵道局に奉職同十年十月轉女鐵道
事務所勤務となり同十一年十二月同鐵道書記
に任じ昭和九年三月滿鐵に入社哈爾濱鐵路局勤
務たり同十一年一月現職に就く【特記】職に選ば
れて社員會評議員たり【趣味】野球、鼓曲、觀世、柔
道、劍道【信仰】神宗【家族】父義雄(明九生)母みゆ
き(明一一生)妻禮子(明四一、六生)宮城縣吉岡權
十郎二女札幌市立高女卒、長女美保子(昭二、一
一生)二女千保子(昭七、一生)【住所】哈爾濱交通
街七號

滿洲醫科大學助教兼同專門部助教同
醫院副院長【本籍】島根縣飯岡郡神原村字
神原二七三六【生年月日】明治廿二年九月
十六日【學歷】縣立片栗中學校第三高
校を経て昭和二年京都帝國大學醫學部卒業
【經歷】昭和二年四月京都帝國大學醫學部
副手職託同三年八月同大學助手同六年九
月同大學醫學部講師同十年十月同大學醫學部
附屬醫院看護婦產婆養成所看護婦科講師等を経て
同七年四月現職に就き同九年八月外科醫學研究
の爲滿一年半歐米各國へ留學を命ぜられ同十一
年九月歸任す【住所】奉天八橋町九奉信ビル内



滿鐵職員、教化機
務段工作助役【公
的關係】總局運動
部役員【本籍】山口
縣都波郡富岡村上
野四一二【生年月
日】明治廿一年十
二月廿八日【續柄】故仁吉六男【經歷】那校卒業後



岡山洋行主、果實
商【公的關係】吉林
中央卸市場(株)專
屬仲買人組合評議
員【本籍】岡山縣都
窪郡寄香村【生年
月日】明治二十年

八月三日【續柄】故友吉長男【學歷】那里にて修學
【經歷】明治四十四年開城獨立守備隊に入營し大
正五年除隊となる同七年三月渡鮮して大邱其他
に於て總草栽培に従事し草專賣法制定と同時に
に廢業し同年渡滿し安奉線草河口に於て木炭杭
木卸販賣業たる岳父の業を扶く昭和三年吉林に
轉じて獨力ゴム靴商を開業し三年間之れを經營
同六年現業を開始す【事業】岡山洋行は果實卸小
賣相半ばし吉林唯一の果實專門店として著聞す
【特記】滿洲事變當時は自警團分隊長として活躍
し功勞尠からず【趣味】圍碁、盆鼓、釣魚、支那事情研
究【信仰】眞言宗【家族】妻房子(明二九生)岡山縣
江口五十郎長女【店舖】吉林大馬路電二六六三



滿鐵職員、新京驛
事務助役【公的關
係】滿鐵黑水寮幹
事【本籍】高岡市大
手町【生年月日】明
治四十四年十二月
廿六日【續柄】七族
義男ノ弟【學歷】昭和九年東京外國語學校露語科
卒業【經歷】昭和九年四月滿鐵入社新京驛勤務同
十一月大連列車區勤務同十年三月新京列車區勤
務同十一年二月新京驛貨物方同四年四月同驛內
助役同年十月現職【趣味】テニス、音樂、スケート、釣
魚及滿洲交通事情の研究【信仰】眞宗【家族】兄義
男(明二四生)兄重雄(明二九生)海軍少佐、兄新五
(明四〇生)滿鐵社員【住所】新京和泉町風水寮

富德公司、富德銀號經營主、日滿商事指定
石炭販賣人、石炭販賣並兩替【出生地】福
島縣安達郡戸澤村【本籍】同上【生年月日】
明治九年七月【學歷】那校卒業【經歷】明治
四十年義兄經營奉天石炭商富德公司の大
昌煤局と改め擴張するに際し滿洲大正六
年迄勤積獨立現業を開始す同十四年以降
富德銀號なる商號を以て兩替業をも兼營す大正
六年四月滿鐵附屬地第十區委員となり爾來改選
毎に重選同十一年八月第十區長に擧げられ更に
西塔町内會長を兼ね此外滿鐵奉天營業補習學校
商議員職託となり昭和二年關東總務調查委員
を職託さる【功賞】職に滿鐵總裁賞及び町内會上
りその自治方面に致せる功勞に依り感謝状及金
品を贈られ又關東廳より前夜二回に亘りて記
念品及賞金を授けらる【店舖】富德公司、奉天日

吉町三電二二四五四・富徳銀號 同上電二一四八三二・二四五四



松本 本員

管口市民協會會長、管口金融組合監事、管口輸入組合顧問(出生地)福島縣(本籍)東京府(籍)士族官吏男明治十五年八月家督相續(生年月日)明治二十一年十一月十一日(學歷)明治廿四年東京法學院卒業(經歷)凡に渡滿實業界に入り管口水道電氣株式會社の設立に奔走し明治廿九年十一月其創立と共に取締役兼支配人となり爾來茲に三十有一年同社經營の重任に在り此間昭和九年十一月社長に就任し同十年六月現名稱に改め引續き社長として今日に及ぶ傍ら振興銀行取締役を兼ね又凡に管口行政委員に擧げられ大正十二年來毎期最高點を以て滿鐵管口地方委員會委員に當選し議長に累選せらる滿洲事變直後軍警慰問の歸途不慮の災厄により瀕死の重傷を負ひ一時一切の公職を辭せしも病癒後再び起ちて諸要職に就き盡瘁せる處影からず尙曾て中電燈公司董事山海關電燈公司監事たり(功賞)昭和九年四月同六年乃至九年事變に於ける功に依り銀杯一個及從軍記章を下賜同十一年十月關東局施政三十年記念に民間功勞者として表彰さる(趣味)讀書(家族)妻りよ子(明一五生)二男正(明三八生)福島高商卒國際運輸勤務同妻延子(明四二生)山

口縣人葉瀨延壽長女(三男博(明四四生)福島高商卒關東軍經理部勤務(四男健(大七生)松山高校在(長女政(六一〇生)五男安(六一四生)佳所)奉天省管口吉野町電話二二〇

本 田 早 苗

合同法律事務所主、辯護士、齊々哈爾濱信託(株)齊々哈爾濱會館(資)復興工業(名)天德金廠各顧問(公的關係)三州人會幹事、前齊々哈爾濱日本居留民會評議員(本籍)鹿兒島縣始良郡國分町上小川二九三三(生年月日)明治廿四年三月廿六日(籍)仲二長男(學歷)日本大學卒業(經歷)昭和三年外務省に入り上海齊々哈爾濱吉林等各地領事館に於て司法事務を擔當す同九年五月獨立して合同法律事務所を開設し前記顧問及公職を兼ねて今日に及ぶ(特記)省内訥河縣新安に約二千町歩の土地を買收鮮農を使役して水田事業を經營せり(趣味)健筆乘馬(家族)父仲二(明四生)妻秀代(明三九生)長男精(昭四生)(住所)合同法律事務所齊々哈爾濱財神廟街一號電話二四〇〇



佐々木 彦七郎

滿洲電業(株)洮南出張所長(公的關係)洮南日本居留民會長(本籍)宮城縣栗原郡宮野村大字下宮野町一〇九(生年月日)明治廿八年八月二十五日(籍)彦七二男(學歷)宮城縣立築館中學卒大正七年旅順工科學堂電氣工學科卒業(經歷)大正七年十二月滿鐵に入社同十年八月依願退社同年支那漢口既濟水電公司技師囑託同



倉永 毅志夫

勳六等、滿鐵參事皇姑屯鐵道工場長(本籍)關本市田崎町四〇(生年月日)明治二十六年四月(籍)故安基長男(經歷)大正二年本高等工業學校卒業(經歷)大正二年川崎造船所に入社兵車工場に勤務す同八年三月大連機械製作所に轉じたるが同九年三年更らに滿鐵に入社遼陽工場に勤務し同年十一月車輻輳場主任同十三年四月機關車工場主任昭和五年一月大連工場創立仕上工場主任同六年四月客車工場主任に兼任同年六月鐵道局勤務となり奉天山鐵道局に派遣され同年八月技師を拜命同九年四月奉天鐵路局皇姑屯工場長に就任同年九月材料科科長を兼務し同十年九月鐵道學院講師を兼務す同十一年九月參事となり現職に就く(功賞)滿洲事變の功に依り勳六等に就し從軍記章建國功勞章大典記

全職を賜はる昭和十年四月滿鐵十五年勳章表章さる(特記)「明則」を處世訓とし「愉快に働く」を以て部下二十人に臨む機關車工作に關し活潑深し(趣味)釣魚(信仰)日蓮宗(家族)妻俊文(明二八生)熊本縣羽田武足三女(長女富美子(六一二生)(住所)奉天平安通三九ノ四電三三五六八二・局内二八六九



小野 實雄

陸海軍大臣指定辯護士、社團法人大連女子專修學校理事、財團法人大連保健浴場理事、法律新聞大連支社長大連證券信託(株)取締役社長、安東取引所(株)理事、大連株式商品取引所(株)監査役、朝鮮青龍金鐵山主(公的關係)大連市會議員、關東局囑託、日本辯護士協會名譽理事、關東州辯護士會長、大連青年團長、滿洲文化協會評議員、大連教化團體聯盟理事、大連阿山縣人會々長、大連露店商夜店組合顧問、關東州社會教育委員、大連市學務委員、大連市公會堂建設調査委員(出生地)岡山縣倉敷郡高壽村(現倉敷市)(本籍)岡山縣倉敷市(生年月日)明治廿年十一月八日(學歷)大正七年中央大學法科卒業(籍)小野家は第五代孝昭天皇の皇孫彦理津命より出て福來運絶今日に及べり氏は先代陸太の長男なり(經歷)年少家産傾き苦痛を嘗めしも苦學力行大正四年上京中大卒業と同時に辯護士試験に合格直ちに東京に辯護士開業後傍ら故高木益太郎代議士經營に係る法律新聞の編輯を擔當す大正十一年阿片事件古賀康造の

辯護人として渡邊大いに名譽を擧す次で代議士水野辯護士事務所を繼承し引續き大連に於て辯護士を開業す同年海軍大臣より軍法會議囑託士を指定せられ又滿洲法政學院講師囑託法律新開大連支社長となる同十三年大連市會議員に當選次で大連市社會事業委員囑託關東國勢調査參事囑託昭和二年大連青年團を發起創立して初代幹事長たり次で團長に推さる同三年社團法人大連技藝女學校理事社團法人大連法政學院監事同理事に推され又市會議員に再選同四年大連市特別事業委員となり滿洲青年聯盟を發起創立して理事に選ばれる尙日本辯護士協會名譽理事大連株式商品取引所常任監査役等に就任同五年關東國勢調査參與同六年帝國辯護士會理事安東取引所理事に推され更に大連岡山縣人會長に當選大連市會議員に三選名譽職市參事會長大連市學務委員となる昭和十一年四月關東州辯護士會長に就任同五月再び日本辯護士協會名譽理事に推應され同十月關東州總長官より關東州社會教育委員に囑託され大連選舉處正當任委員に推さる同十一月大連市會議員に再選され前掲幾多の要職と共に現任なす外雜誌日滿女性社長中央大學委員會關東州支理理事をも兼ね一方滿洲協會社長重役たる外三井物産大日本鹽業福昌公司滿洲日日新聞泰東日報東洋植花其他在滿著名大會社の顧問たり(特記)此間滿蒙政策の確立滿蒙に於ける我が既得權益の確保滿洲三頭政治の統一等を絶叫し又大連市制の發布上告審判制度の樹立領事裁判制度の改善關東地方法院の移轉檢察局の獨立等悉く主張して其の實現に關與せざるなし滿洲事變勃發と同時に遼早く滿洲國獨立を提唱在滿日本人時局後援會を通じて政府に之を



江 權 寬 夫

勳六位、文教部編審官、學務司勤務(出生地)茨城縣水戸市藤原町一五九(本籍)同上(生年月日)明治明治三十八年二月八日(籍)教育家長三郎長男故祖父林藏は水戸市會議員其他諸公職に任じ硬骨清廉の士を以て知られたり(學歷)水戸中學校水戸高校を経て昭和三年東京帝國大學法學部政治學科卒業後於大學院政治學專攻(經歷)昭和五年一月東京政治學校教授に任じ大同元年七月現職に就く應任四等たり(家族)妻知和(明四三生)長男久木田伊兵衛(二女日本女大文學部卒業)長男敏士(明一〇生)(住所)新京永昌胡同七〇一號第一代用官舎九七



河野 野

勳八等、滿鐵職員
鐵道總局計畫課
務【本籍】島根縣美
濃郡益田町【生年
月日】明治四十
一年一月廿七日【籍
柄】雙吉ノ男【學

【昭和六年東京帝國大學土木科卒業】
昭和六年四月滿鐵に入り中央試驗所の前身たる理
學試驗所に勤務同七年九月建設局勤務に轉じ同
年十一月奥地の建設現場勤務となり同十年五月
牡丹江建設事務所線路係主任を命ぜられ同十二
年三月現職に就任し以て今日に至る【功賞】滿洲
事變の功に依り勳八等に被さる【趣味】寫眞園藝
水泳運動【信仰】日蓮宗【家族】父慶吉(慶應一
母ゆづ(慶應一)生)兄運平(明三六生)同妻滿壽
(明四〇生)及其一男一女あり【住所】奉天鐵道總
局計畫課

植村 眞 男

正六位勳六等、滿鐵奉天浪速高等女學校
長兼教諭【出生地】和歌山市小松原通五ノ
一【本籍】同上【生年月日】明治廿三年三月
八日【學歷】明治四十四年東京高等師範學
校本科數物化學部卒業【經歷】明治四十四
年三月福井縣師範學校教諭拜命次で鹿兒
島師範學校廣島縣立廣島中學校仁川公立
高等女學校各教諭に歷任大正十四年滿鐵に入り
安東高等女學校教諭たり次で瀋陽高等女學校
各校長兼教諭に歷勤昭和十年四月現職に就く高
等官四等たり【趣味】馬曲(觀世流)【家族】長男健
(大五生)二男彌(六七生)二女年子(六一三三)外
三男一女【住所】奉天葵町一九電三三〇四五

岩本 宗 太郎

正七位勳六等、滿洲電信電話(株)副參事、
牡丹江電報電話局長【本籍】長崎市南山手
町二二【生年月日】明治廿一年二月廿七日
【籍柄】宗七長男【學歷】明治四十二年東京
通信官史練習所卒業【經歷】明治廿八年九
月臨時通信事務員を拜命長崎局に勤務同
四十二年十二月任通信手大正五年八月任
通信書記同十四年四月關東廳通信局に轉勤大連
局勤務昭和八年八月副事務官に昇任同九月電々
に入社奉天中央電報局長同十一年八月現職
に就く【趣味】讀書スポーツ【家族】妻鈴子(明二
七生長崎縣谷口豆女)【住所】牡丹江電報電話局



酒田 榮 太郎

勳八等、滿鐵職員
車站車務段運轉
主任【本籍】石川縣
羽咋郡千里濱村八
ノ一四【生年月日】
明治廿一年十月二
日【籍柄】久太郎長
男【學歷】大正五年滿鐵從事員養成所卒業【經歷】
大正三年七月滿鐵入社大連機關區勤務同六年五
月橋頭車輔係同十二月公主嶺車輔係同七年十一
月入替同九年十二月歸任昭和三年十月四平街機
關區勤務等を経て同五年八月點檢助役となる同
六年八月職權機關區運轉助役同九年八月新京鐵
道事務所同十年四月奉天鐵道事務所車務課同五
月奉天鐵路局車務課運轉科等に歷勤同六月山海
關機務段運轉主任となり同十一年五月現職に就
く【特記】氏は滿鐵に入社以來機關車運轉並檢修
方面に一貫し萬般に通曉す滿洲事變にて勳八等
及從軍記章並滿洲國建國功勞章を賜ふ又赤十字

記章を受く【趣味】園藝馬球【信仰】眞宗【家族】妻
こよし(明三七生石川縣吉野太長女)長男隆
一(八一一生)長女久子(八一一生)二女道子
(昭六生)【住所】奉天愛見町五四ノ一ノ七電社内
二八五七

山 澤 一 靜

從四位、男爵、滿鐵職員、鐵道總局庶務課
勤務【本籍】東京市麴町區【生年月日】明治
廿二年十二月【籍柄】親父郎長男明治四十
三年家督相續與爵先々代山澤靜吾齋鹿兒
島藩士にして戊辰の役伏見より東北の野
に轉戦して功あり明治四年陸軍少佐に任
じ米佛に遊學し露土戰爭に従軍歸朝後陸
軍中將に昇進同廿八年日清戰役には第四師團
長として出征し功あり特旨を以て華族に列し男
爵を授けられ從三位勳三等に被さる【學歷】東京
上智大學卒業【經歷】大正十二年四月滿鐵に入社
し爾來埠頭事務所鐵道部貨物課奉天驛昭和二年
六月安東驛次で鐵道總局總務處文書科等各勤務
を経て昭和十一年十月現職に就く【趣味】寫眞
【信仰】佛教【家族】妻晴(明三九生熊本縣内藤官
女)男昭(昭二生)二女清(昭四生)三女惠美子
(昭八生)母幾枝は元滿鐵社長早川千吉郎二女な
り【住所】奉天紅葉町一四



土井 梅 次郎

滿鐵參事、鐵道總
局工作課機械係技
術擔當員兼臨時監
督官【本籍】長野
縣小縣郡依田村六
六三【生年月日】明



大 泉 一

滿鐵副參事、地方
部工事課住宅係主
任【公的關係】關東
州鐵道局工務課
委員、滿鐵
工業標準規格委員
會委員、滿洲建築
協會評議員【本籍】宮城縣志田郡古川町五三【生
年月日】明治二十六年六月十六日【籍柄】平之次
長男【學歷】大正五年早稻田大學理工科建築學科
卒業【經歷】大正六年滿鐵本社技術局建築課に入
社同七年公主嶺工事係建築主任を経て長春工務
事務所建築係に轉任し長春吉林哈爾濱等の建築
工事設計監督を管掌同十一年本社建築課に歸任
學校病院等の建築設計に従事同十三年鐵道部社
會課に轉任住宅の計畫及研究に従事同十四年寒
地家屋研究の爲北支那及北方露西亞方面に視察
を命ぜられ同年十月滿洲に始めて寒地家屋試驗
住宅を奉天に四棟大連に東西南北別二十四棟を
創設し高層三浦兩博士と共に同家屋の研究に従
ひ昭和五年計畫部に轉任一般建築の計畫及び標
準規格制定に従事し同十年地方部工務事務所勤
務を命ぜられ同十二年五月被擢されて現職に就
く【特記】大正九年十一月戰役功勞被賜昭和八年
四月滿鐵勳十五年年表章を受く尙早大在學中故
海運商會等の知名士を屢訪し各地に於て青年の
意氣を振作し後進の指導に貢獻せり大正六年渡

【昭和四年七月一日】【學歷】英國英語小學校同カレ
ンジ準備科同カレッジ機械科卒業【經歷】卒業後
同カレッジ夜學に於て建築學科二年間ストラウ
チニア科二年間コンクリート科二年間各研究一
九一三年より一九二九年迄米國シカゴ市アレ
キサンド・ガルシャ會社に奉職歸朝後昭和四年十
一月滿鐵に入社し瀋陽機關區に勤務同五年六月命
技師炭礦部機械課兼炭礦部探炭課勤務を経て同
六年八月瀋陽炭礦工作課機械係機械擔當員に就
任同八年十一月兼職を命ぜられ同十年三月工作
課長技師岡雄一郎不在中代理となり同十一年九
月參事となる【特記】設計裝飾法構造測量就中
探炭所に於ける給炭、配炭、裝置設計、鑛山各種
巻上機及運炭裝置設計、運炭機各種設計に經驗
造詣深く滿鐵入社以前々記アレキサンド・ガル
シャ會社にて三百萬圓の三臺の運炭機をピツツ
パীগ鑛山會社にて主任として設計せり【趣味】
スポーツ特にゴルフ運炭機設備並に煉炭機研究
【家族】妻春美(明三五生長野縣小縣郡村本海
野日向德太郎三女)長女知壽子(大九生瀋陽高女
卒東京家政學院在)【住所】瀋陽西公園町二ノ四
電三九七九



本 多 重 雄

勳八等、滿鐵職員
産業部資料室統計
班主任【本籍】東京
市澁谷區千駄ヶ谷
町六四〇【生年月
日】明治廿四年七
月十日【籍柄】故法
學博士本多精一長男【學歷】八高を経て大正十五
年東京帝國大學法學部法律學科卒業【經歷】大正



本 多 竹 治

十五年高等試驗外交科に合格一等志願兵として
近衛野砲兵聯隊に入隊昭和二年四月滿鐵に入り
鐵道部に勤務爾來長春驛々務方長春列車區車掌
大連驛々務方總務部經濟調查會調查員第一部長
一任同部世界經濟班幹事室會計班各主任を経て
同十一年十月現職に就く【功賞】滿洲事變の功に
より被勳八等從軍記章建國功勞章各授賞【特記】
早くより國際金融を研究し著書「世界政治經濟
概説」横世界政治經濟概説あり【趣味】ゴルフ
園藝撞球【信仰】キリスト教【家族】母爲子(明一
五生)妻素子(明四二生東京府實業家赤星鐵馬
姪)長男敏雄(昭七、四生)【住所】大連市露島町露
島ビル電二一八三〇二

男【學歷】富岡中學校卒業昭和三年滿鐵々道講習所
卒業【經歷】講習所卒業と同時に滿鐵に入り安東
縣沙河鎮安東列車區奉天驛奉天列車區橋頭列車
區鐵道總局自動車課吉林鐵路局保安自動車營業
所等に歷勤昭和九年六月教化自動車營業所勤務
となり同十一年三月轉じて新京自動車營業所勤
務たりしが同八月現職に就き兼て教化自動車
修理工場主任たり同十二年三月兼務を免ぜられ
今日に及ぶ【功賞】滿洲事變功勞被從軍記章並滿
洲國建國功勞章を賜ふ【趣味】運動テニス園藝ビ

滿以來滿鐵在動既に二十年其間終始一貫勤勉殊に住宅建設に造詣深く大正六年五月開院宮春仁王殿下北白川宮水久王殿下御渡満に際し研究資料の台覽並に滿洲一般住居御前説明の光榮に浴す【趣味】洋畫見學旅行【信仰】神佛【家族】妻八重子(明三二)四生秋田市山二吉田助藏四女旅順高女卒【住所】大連市柳町七一



佐々木 求

正八位、在郷陸軍砲兵少尉、滿鐵職員、撫順炭礦大山探炭所工作部主任【公的關係】在郷軍人會進級第一分會理事、社員會評議員、消費組合總代【本籍】島根縣周吉郡西郷町東町一〇一【生年月日】明治廿五年二月四日【資格】東青二男【學歷】小倉中學五高を経て大正十五年九州帝國大學工學部電氣學科卒業【經歷】大正十五年四月明治鐵業株式會社赤池發電所に入所し昭和三年五月赤池鐵業所機械電氣係員兼安全燈係員同四年四月自家用電氣工作物施設規則に依る赤池炭礦電氣事業主任技術者を命ぜらる同九年二月同所を辭し同年五月滿鐵に入社撫順炭礦工作課に勤務同七月大山探炭所勤務同十年四月大山探炭所坑外係主任となり同十二年四月現職に就く【特記】坑内電氣作業に従事する事久しく造詣深からざるものあり【趣味】園芸麻雀愛馬【信仰】神道【家族】父東吉(明三生)母タケ(明九生)妻希子(明四〇)三生松江高女卒 長男朗(昭四、八生)二男亨(昭八、九生)【住所】撫順北臺町二ノ四ノ五電社内三二八六

本山造酒三郎

新昌洋行、みつわ屋、新昌號、光和洋行各經營主【公的關係】奉天石炭商組合、奉天檢炭組合各常任幹事【出生地】長崎縣北松浦郡小佐々村【本籍】同上【生年月日】明治二十五年十一月二十六日【資格】慶一郎男父は明治四十年渡滿奉天に山本商會を開設し鮮魚及雜貨商並に陸軍御用商を經營産を成す【經歷】明治四十一年渡滿し父の業を扶け同四十三年石炭商公益公司に入り大正元年大村歩兵第四十六聯隊に入營し同三年八月青島に出征同年十二月凱旋除隊翌年一月朝鮮平北鐵山郡に於て松井小右衛門經營の農場監督に赴任し同年十月同氏經營の奉天松昌公司本店に轉ず同年八月獨立石炭販賣業新昌洋行を開設次で平漢湖大子河に出張所を設け又奉天の同所に化粧品商みつわ屋及西塔大街に煤探炭販賣業新昌號を松島町に東京七歐ラヂオ特約販賣店光和洋行等を兼營す【家族】母チヨ(明四生)妻光枝(明三七生)長男太郎(大八生)二女直枝(昭一〇生)【店舗】奉天春日町六電三ノ四六九八



路次省

從七位、滿鐵職員、撫順炭礦大山探炭所工作部主任【公的關係】社員會評議員【本籍】大阪府岸和田市並原町四〇二【生年月日】明治廿三年十月廿九日【資格】故偵視長男【學歷】大阪府立堺中學卒明治四十四年十二月鐵道省中央教育所機械科卒業【經歷】明治四十二年九月西郡鐵道管理局に奉職運輸課に勤務す大正五年四月



大塚 毅

滿鐵職員、撫順炭礦研究所技術擔當員【公的關係】社員會評議員、同組合總代【本籍】茨城縣新治郡高濱町宇北根本【生年月日】明治廿三年七月十六日【資格】實次二男【學歷】縣立土浦中學校を経て大正十二年橫濱高工應用化學科卒業大正十二年七月北米に渡りてミシガン州立大學に入り化學工學を専攻し昭和二年十月歸朝【經歷】昭和四年三月滿鐵職員となり撫炭研究所に勤務同五年六月技術員同九年四月技術擔當員に就任同十一年九月職員を命ぜらる【特記】瓦斯ベンゼンの造詣深からず工學工業燃料協會員たり健全生活を家憲となす【趣味】ゴルフ散步【信仰】神道【家族】父寅次(明三生)母玉(明二生)妻幸(明四三)四生美城藤古仁所傳長女 長男幸雄(昭七、四生)【住所】撫順北臺町二ノ三ノ五



内山安之助

勳八等、滿鐵職員、蛟河站貨物員【出生地】長崎縣壹岐郡武生水町郷ノ浦二二〇【本籍】同上【生年月日】明治廿八年十一月【資格】辨吉二男通稱隆之【學歷】大正四年縣立壹岐中學卒業同六年滿鐵鐵道教育所運輸科卒業【經歷】教育所卒業と同時に滿鐵入社爾來大連撫順公主嶺開原各驛に歷勤鐵道運輸業務に従事せしが大正十五年一旦退社昭和二年九月株式會社金福鐵道公司に入社後滿洲事變と同時に選ばれて滿鐵鐵道部屬託となり齊克港昂昂鐵路局の指導員に任じ同鐵路局運輸現業指導に大いに貢獻する處ありしが昭和八年十月鐵道建設局へ移り哈爾濱建設事務所勤務拉濱線建設に従事更に同九年九月鐵道總局職員を命ぜられ哈爾濱鐵道局勤務十一年四月吉林鐵路局吉林站勤務を経て同十二年三月現職に就く【功賞】滿洲事變の功に依り勳八等に被さる【趣味】讀書と仕事【住所】吉林省額爾蘇蛟河站

奉天警察署警部補同二月警視廳警務部同十二年十二月監察官附昭和二年六月警視廳警務課長を経て同五年七月任警視廳赤坂青山警察署長を拜命同六年九月休職同八年九月退官廣徳元年五月鐵道總局に入り國體鐵路辦事處警務長兼國體警務段長に就任同八月國體警務段長同二年二月哈爾濱鐵路局警務處警務科副科長同三月同科保安係主任同十一月吉林鐵路局警務處警務科長を繼て昭和十一年九月滿鐵警務科長を拜命現職に就く【趣味】釣魚寫眞滿洲匪賊の推移研究【信仰】佛教【家族】母貞(明五生)妻雪子(明三六生)栃木縣人谷原國之助長女東京府立第三高女卒【住所】吉林南大路四二二電二二六九



上田宇之輔

土木建築請負業、大二公司哈爾濱出張所主任【本籍】大阪府住吉區阿部野筋八ノ三一【生年月日】明治廿六年九月十二日【經歷】自大正十五年至昭和七年大阪南海鐵道大阪鐵道大府土木部鐵道省の各諸工事現場主任として活躍大同二年十月渡滿し齊々哈爾濱の土木建築請負業大二公司に入店廣徳二年三月同公司哈爾濱出張所の開設と共に其の主任に選ばれて赴任し爾來之が經營に専念して今日に及ぶ【特記】大二公司是個人經營にして齊々哈爾濱に本店を置き出張所を當所の外新京及び海拉爾に置く當所は從業員十二人省公署國務院警務局哈爾濱特別市公署地政管理局理化木關西鐵道各縣公署を主たる得意先とし氏の統制下に著々好績を収



和田宗雄

勳八等、滿鐵職員、鐵道人事課長兼主任【本籍】橫濱市中區本牧字和田七五【生年月日】明治廿二年五月十九日【資格】故廣説二男【學歷】大正七年濱田中學校卒業【經歷】大正七

福岡謙吉

從七位、滿鐵吉林鐵路局警務處警務科長【公的關係】社員會評議員【本籍】岐阜縣惠那郡明知町四九一ノ一【生年月日】明治廿三年十月廿四日【資格】故源兵衛二男【學歷】明治四十四年陸軍中央幼年學校本科卒同四十五年陸軍士官學校卒大正十年明治大學法科卒業【經歷】大正元年十二月任騎兵中尉同七年六月獲備役編入同十一年四月小石川大

本多文太郎

本多商會主世傳道具漆器金物建築材料等々製品賣物自轉車硝子器電氣電燈器具度量衡器商【本籍】長崎市西坂町四四【生年月日】明治十年三月【資格】鐵次郎長男明治四十年十月家督相續【經歷】明治廿八年八月渡滿管口に於て軍用品の持下げを受け古物商雜貨商等を營み鐵道組合を組織して活動翌廿九年十月遼陽にて同く軍隊の持下げを受け鐵道所を開き後現業を開始す先に遼陽信託重役遼陽實業會輸入組合各評議員信用組合理事たりし事あり【家族】妻ノブ(明九生)長崎縣島谷榮造女 長男政男(明四二生)大連商業卒【店舗】遼陽本町五電一〇一

年四月滿鐵に入り埠頭事務所勤務す同八年九月哈爾濱在勤九年一月運輸部同十月六月哈爾濱運輸營業所同十二月同所運輸課昭和五年十二月洗地鐵路工程局に派遣同七年二月鐵道部同八年三月鐵道局同九年四月洗地鐵路局總務處人事科長兼人事部長十年十一月哈爾濱局總務處人事科長に歴勤十一年十月現職に就く【功賞】滿洲事變にて勳八等及從軍記章並滿洲國建國功勞章を賜ふ【趣味】弓道尺八【信仰】禪宗【家族】妻安喜子(明三九、三生千葉縣宮野利七長女青島女學校卒)二女充子(昭二生)三女京子(昭四生)四女妙子(昭六生)【住所】大連市三堂町二ノ一ノ一、一電三一〇二九



郷本晴太郎

長男【學歷】縣立秋田中學校を経て昭和八年仙臺高等工業學校土木科卒【經歷】昭和八年四月滿鐵に入り鐵道部に勤務同五月技術方鐵道部工務課勤務同九月四月技術員同十年三月奉天鐵道事務所勤務同四月同所工務課勤務同十一年六月奉天保線區工事助役等を経て同十二年六月現職に就く【功賞】昭和六年乃至九年事變の功に依り勳品及從軍記章を授賞す【趣味】運動音楽寫眞【信仰】佛教【家族】父福治(明一七、八生東大農科專門部卒)母けい(明二七、六生妻昭子(大七、七生秋田縣松下一郎二女湯澤高女卒)【住所】奉天紅梅町一四

從六位、關東局事務官、金州民政署長(公的關係)金州農會會長、金州市民會顧問、金州管内營業稅調查委員長、大連民政署管内地價調査委員、關東州輸出農産物標準査定會委員【本籍】大分縣下毛郡鶴居村一八七【生年月日】明治三十四年二月五日【學歴】元吉二男【學歷】縣立中津中學校第六高校を経て昭和三年京都帝國大學法學部卒業【經歷】昭和四年六月關東廳奉職經濟調查事務に従事同五年高等文官試驗司法科合格翌六年同行政科合格同七年五月關東廳長官事務課室勤務旅順工科大学講師兼務同八年二月關東廳理事官長官事務課室長官事務課室勤務引續き旅順工科大学講師兼務同十年六月關東局事務官大連民政署地方課長同十一年十一月現職に就く先に財團法人大連慈善會理事滿洲農産團體中央會理事財團法人大連方面事業助成會理事滿洲社會事業協會理事發明協會監事飛行協會關東州支那理事外二十有餘の職にありし事あり【趣味】將棋【家族】妻茂子(明四二生)長男信夫(昭六生)二男秀夫(昭八生)長女冷子(昭九生)【住所】關東州金州農町官舎電六七

細川清

從六位、關東局事務官、金州民政署長(公的關係)金州農會會長、金州市民會顧問、金州管内營業稅調查委員長、大連民政署管内地價調査委員、關東州輸出農産物標準査定會委員【本籍】大分縣下毛郡鶴居村一八七【生年月日】明治三十四年二月五日【學歴】元吉二男【學歷】縣立中津中學校第六高校を経て昭和三年京都帝國大學法學部卒業【經歷】昭和四年六月關東廳奉職經濟調查事務に従事同五年高等文官試驗司法科合格翌六年同行政科合格同七年五月關東廳長官事務課室勤務旅順工科大学講師兼務同八年二月關東廳理事官長官事務課室長官事務課室勤務引續き旅順工科大学講師兼務同十年六月關東局事務官大連民政署地方課長同十一年十一月現職に就く先に財團法人大連慈善會理事滿洲農産團體中央會理事財團法人大連方面事業助成會理事滿洲社會事業協會理事發明協會監事飛行協會關東州支那理事外二十有餘の職にありし事あり【趣味】將棋【家族】妻茂子(明四二生)長男信夫(昭六生)二男秀夫(昭八生)長女冷子(昭九生)【住所】關東州金州農町官舎電六七



渡利全策

島高校を経て昭和六年京都帝國大學法學部卒業【經歷】昭和六年四月島根縣巡查を拜命同七月任

巡查部長同七年七月任警部補警務部衛生課勤務同八年三月警務部補警務所教官同九年二月依願免大同年二月奉天省公署屬官廣徳二年十月中央警察學校助教同三年十月現職に就任し翌四年三月國都建設紀念式典準備委員會警務部幹事を命ぜらる【特記】中央警察學校時代「行政法總論」を著す【趣味】園芸讀書劍道【信仰】眞宗【家族】妻はる(明四二、二生佐賀縣武藏平長女縣立長濱高女卒)長男千波(昭七、三生)二男千里(昭八、一一生)【住所】新京金線路代官舎二一八



田一直

從七位勳八等、稅務監督署事務官、龍江稅務監督署總務科長兼總務科長【本籍】兵庫縣津名郡洲本町大工町甲二二八【生年月日】明治廿九年九月十七日【學歴】大津介八二男【經歷】大正二年十二月稅務署屬に任じ神戶稅務署に勤務し同九年八月伊丹稅務署庶務課長同十一年一月洲本稅務署庶務課長同十三年十二月稅務監督署屬大阪稅務監督署勤務昭和八年一月兼任預金部關大阪支那稅務同九月稅務官翌十月大正二年十一月稅務監督署事務官奉天稅務監督署屬國有財產科長同三年六月兼任地籍整理局事務官奉天分局勤務を経て同三年八月現官職に轉じ應任四等たり【功賞】昭和七年一月勳八等瑞寶章【趣味】繪畫讀書【家族】妻うめの(明二九生)長男和雄(大一三生)長女美智子(大六生)二男博彦(昭四生)二女庸子(昭七生)【住所】齊々哈爾濱街六



井巴倉吉

勳六等、勳四位、奉天省公署理事官實業廳農務科長【公的關係】協和會省本部委員【出生地】大分縣西國東郡香々地町【本籍】同上【生年月日】明治二十一年二月【學歴】大正元年分家【學歷】明治四十四年東同文書院卒業【經歷】卒業後滿鐵に入社鐵道部奉職後現職に從事大正元年再び本社に復職鐵道部に勤務す次で同九年推願發進に轉じ爾來十有餘年着々席を進め參事に任ぜられ同發進事務係長となりしが昭和六年滿洲事變勃發と共に關東軍囑託として冀金凱の地方維持委員會顧問に聘せられ翌大同元年三月滿洲國創建と同時に奉天省實業顧問となり同五月奉天省公署事務官實業廳總務科長に任じ次で同理事官に進み現職に就き今日に及ぶ【特記】滿洲事變の功により勳六等滿洲國政府より發勳四位滿鐵在社中大正十二年推願發進五萬の勞働者に口籍法に代る指教法を實施勞働管理に劃期的變革を加へ合理的經營の基礎を作れり又現職に就任以來は農業立國の滿洲國農村指導者として一農民道作興二農村の協同組織化三村落合理化の三綱領を設定就中農村經濟機構の改革を以て當務の急とし購買販賣利用信用等四機能を有する一元的综合組合設置を提唱し之が實現に努力しつゝあり【趣味】梅若流曲ゴキヲ道讀書【信仰】眞宗【家族】妻美津留(明二四生)男勝一郎(大一二生)長女捨子(大一〇生)【住

所】奉天省公署實業廳農務科長公館

助産中弘 かどち油舖主、頭髪油類化粧品商【本籍】山口縣熊毛郡平生町四八四【生年月日】明治廿三年四月一日【經歷】夙に實務に就きしが明治廿九年二月渡滿當初旅順に在り大正元年大連市野城町三一に店舗を構へ「かどち」油舖と號し現業を開始昭和四年十二月現所に移轉營業を擴張し長崎大阪東京方面より仕入れ従業員五名を使用す【信仰】佛教【趣味】樂器に龍笛【家族】二男一女子【店舗】大連市連領街心齋橋通電三一二二一五



笠原小馨

從七位勳八等、滿鐵副參事、皇姑屯鐵道工場庶務科長【公的關係】前龜田村會議員【本籍】北海道石狩國札幌郡江別村大字對雁村八九【生年月日】明治廿三年三月八日【學歴】又八二男【學歷】明治四十二年札幌中學校卒業【經歷】學事修了後明治四十二年七月札幌郡代用教員を拜命し同四十二年二月辭して北海道鐵道管理局札幌工場事務科となり同局工作課事務顧問課書記を経て昭和三年札幌鐵道局五稜原工場事務科主任工場事務統計實地調査員同局工作課車輛係等に歷任し同九年滿鐵事務員を拜命し鐵道總局(總理處)奉天鐵路局派遺同局總理處會計課辦事員同九年皇姑屯工場庶務科長同十年會計課主任(同年免職)を経て同十一年九月職制改正と同時に皇姑屯鐵道工場庶務科長副參事に就任す

【特記】内地に於ては鐵道省に於ける工作課事務系統に従事す昭和三年十一月大體記念章を受く【趣味】旅行運動【信仰】法華宗【家族】父又八(慶應二生)母ツヤ(明元生)妻保代(明二三、七生)山口縣人平岡久左衛門長女札幌高女卒)二男大(大六、八生札幌二中卒)三男正(大八、六生奉天中學校)長女悠紀子(大四、一一生滿鐵高女卒)【住所】奉天雪見町四七電局内二七八〇

奥村次六

滿鐵職員、吉林工務段技術員【公的關係】吉林鐵路區委員【本籍】廣島縣豐田郡豐田村【生年月日】明治十五年二月五日【學歴】故順一二男【學歷】那波中學校卒業【經歷】明治廿五年吳海軍工廠に奉職し日露戰後渡鮮度支部に奉職後朝鮮總督府土木局に勤務す大正八年滿鐵に入社鐵道部に勤務昭和六年一月辭職同七年十月吉林長吉鐵道局工務處に勤務同八年二月總局に改稱後現職に就く此間較河教化各工務段業務たり【特記】鐵道建設物工事方面に造詣深し【趣味】園藝釣魚【信仰】神道【家族】母淺野及妻菊江(明一八、一一生岡山縣井上甚平妻母)【住所】吉林豐島街一八、二二、二二



小野寺兵衛右衛門

勳八等、滿鐵職員、新京事務局長【公的關係】勳務【公的關係】勳人會副會長【本籍】岩手縣西野井郡津村【生年月日】明治二十一年十一月廿五日【學歴】故千松養子舊姓鈴木【學歷】都里に於て修學【經歷】明治四十一年十二月歩兵第廿五

年東京高等商業學校卒業【經歷】明治四十三年大
阪商船に入社し漢口シドニー上海各支店長を經
て昭和八年現職に就く【特記】昭和十年七月大連
商工會議所議員に再選せられ同十一年七月社團
法人大連俱樂部理事に重任す【趣味】ゴルフ學生
時代には網球各選手たりき【家族】妻ツマ
子長男一郎(法政大學在)【住所】大連市楠町一電
二一四三四五



加藤 彌

勤七等、加藤商會
主、川連業【公的
關係】鞍山防護團
西部團長、關東局
新設調査委員、鞍
山市衛生委員幹事
在郷軍人會後援會
幹事、宮崎縣人會長、鞍山神戶社子總代、第七
區長、防空協會鞍山支部理事【本籍】宮崎縣東白
杵郡西郷村【遺稿】故田鶴夫長男明治四十二年
五月家督相續す義祖は西郷藩家たり【生年
月日】明治十五年四月一日【學歷】明治廿五年小
學教員養成所卒業【經歷】明治廿五年郷里にて教
職を執る事約三年此間近衛騎兵聯隊に入營次で
日露戰役に従軍出征し明治廿七年四月朝鮮嶺南
浦に上陸朝鮮守備に任ずる事一年有餘後安奉線
鐵道班所屬となり安東驛に在勤同四十年關東都
府府陸軍部に轉じ翌年六月滿鐵に入社大連本社
用度課在勤十餘年大正七年八月辭し翌八年鞍山
に赴き加藤商會と號して川連商を開業昭和十年
十二月現所に事務所を新築移轉工場を擴張せり
曾て帝國在郷軍人會鞍山委員部幹事鞍山地方委
員佐藤團評議員等に擧げらる【事業】坑木丸太薪

炭家具製雜品川連販賣業とし得意先は滿鐵
昭和製鋼所住友鋼管滿洲ローレル滿洲鑄鋼神戶製
鋼鞍山鋼材小野田セメント諸會社其の他仕入先
は滿洲各地及東京大阪中國地方從業員四〇名に
して出張所を海城他山南臺に置き工場は特種板
服製作用工場を改造せり【特記】諸會社の擴張に
準じ事業擴張工場設備改善の計畫を有し現在被
服及坑木に主力を注げり【趣味】網球琵琶圍碁等
【家族】妻花子(明三九生宮崎縣外山千太郎女)孫
味生花彌物洋哉(男)明四三生大分高商卒昭和
製鋼所計畫部勤務長女漢子(明四五生大連神戶
高女卒小學校訓導)四男匠(大六生鞍山中學校)
五男明(大九生大連工專附屬)二女方子(大一一
生鞍山高女在)六男是(大一一生三女民子(昭
二生)七男良(昭四生)四女俊子(昭七生)【店舖】
鞍山北一番町電二二三六



小川 久門

滿鐵參事、鐵道總
局自動車課勤務
【公的關係】滿洲技
術協會、滿洲電氣
協會、興亞技術同
志會各會員【本籍】
大分縣下毛郡東耶
馬溪村大字田田一〇【生年月日】明治二十六年
六月二十日【遺稿】吉吉二男【學歷】大正五年十二
月旅順工科學堂電氣工學科卒業【經歷】大正六年
一月滿鐵に入社し沙河河口工場勤務を命ぜらる次
で同九年六月依願免職員自動車課所屬同九年
月旅順工科學堂助教同十四年二月大分自動車
會社專務取締役昭和二年六月滿洲電氣株式會
社車輻係長電車の補修並バス製作設計に従事同

九年一月滿鐵技術員鐵道局運輸處自動車科施
設主任を経て同十一年九月同參事同十月鐵道
總局營業局自動車課勤務となる【特記】自動車工
學風力工學電氣工學の造詣深し【趣味】網球將棋
圍碁等【信仰】眞宗【住所】奉天商埠地三緯路七緯
路凱興旅館電三三〇五七



山田 金三

正八位在郷陸軍工
兵少尉、滿鐵職員
鐵道總局改良課勤
務【本籍】青森縣弘
前市富田町大通四
ノ二【生年月日】明
治卅一年二月廿六
日【遺稿】故忠助三男【學歷】大正九年北海道帝國
大學土木專門部卒業【經歷】大正九年七月北海道
鐵道汽船株式會社に入り鐵道係拜命同十一年十一月
鐵道第二聯隊に一年志願兵として入營十一年十
二月鐵道省東京改良事務所勤務し果敢して鐵
道技術となる昭和八年十一月滿鐵に轉出鐵道部
に勤務同九年十二月哈爾濱に北鐵接收準備員と
して派遣改良工事計畫を擔任同十年三月哈爾濱
鐵路局鐵路課改良係主任等を經て同十一年十月
哈爾濱鐵路局工務處改良科長となり同十二年三
月現職に就く【特記】大連時代は大連新築計畫
を擔當基礎案を決定哈爾濱時代は接收北鐵改良
計畫其他京濱線滿洲線の軌間改革を擔當し滿鐵
を擧ぐ哈爾濱時代社員會評議員幹事及分會長等
業部長等に推さる【趣味】觀世流曲調書【信仰】
日蓮宗【家族】妻チヨウ(明三四、一)生青森縣水
島七兵衛長女八戸市立女學校卒【住所】奉天滿
鐵鐵道總局工務局改良課



小倉 榮太

小倉商店主、白米
商【本籍】和歌山縣
西牟婁郡朝來村
【生年月日】明治三
十年十一月十三日
【經歷】早くより農
業の傍ら皮革商及
土木請負業に従ひ昭和九年四月團體にて商會勤
務となり後牡丹江に移り獨立して現業を開始し
今日の盛大なる業礎を築く【特記】納稅年額一萬
圓に達す【信仰】眞宗【家族】妻五ん子(明三五生)
長男恒一(大一一生)長女千江子(昭二生)二女笑
子(昭五生)三女ゆき子(昭九生)【店舖】濱江省社
丹江關明街六ノ二七

して戊辰の役に功あり異進して陸軍大將に任ず
其間陸軍士官學校次長歩兵第九旅團長第三師團
長關東都督軍事參議官等に歴補勤功により華族
に列し子爵を授けらる【特記】滿洲事變突發當時
歩兵第四聯隊長として長春に駐屯南嶺寬城子昂
々溪哈爾濱等の戦間に參加す近衛歩兵第二旅團
長在任時代例々二・二六事件に遭遇し引責辭職
せるものなり昭和九年四月功四級金鷲勳章及旭
日中綬章を賜ふ【家族】妻麗子(明二九生子爵藤
堂高寬妹跡見女學校卒)男義明(大五生)長女光
代(大四生)二女孝子(大一一生)あり姉ヒデコは
陸軍々醫監醫學博士本堂恒次郎に妹二三子は法
學博士長岡春一に嫁し弟義三は東京府士族佐久
間マサの養子となれり【住所】新京民政部警務司
東京宅二四谷區花園町八八電四谷三二〇〇

大島 陸太郎

正四位勳三等、子爵、在郷陸軍少將、民政
部警務司長、觀光委員會委員【出生地】山
口縣【本籍】東京市四谷區花園町八八【生
年月日】明治十七年十月八日【遺稿】故正
二位勳一等功二級子爵陸軍大將大島義昌
二男【學歷】陸軍中央幼年學校を経て明治
三十八年陸軍士官學校大正二年陸軍大學
校各卒業【經歷】大正十五年親督才先是明治廿八
年陸軍歩兵少尉に任じ昭和九年八月陸軍少將に
陞任同十一年三月特命同七月豫備役授仰付此間
近衛歩兵第四聯隊附同第二旅團副官參謀本部附
參謀本部々員伊國出征軍從軍武官陸軍技術本部
附參謀省軍務局課員侍從武官兼軍事參議院幹
事歩兵第一聯隊附歩兵第四聯隊長第十六師團參
謀長近衛歩兵第二旅團長等に歴補し此間大正九
年十月平和條約實施委員仰付られ康徳三年八月
現職に就く簡任二等たり父義昌は新山口藩士に



島田 千代治

勳八等、哈爾濱交
易所(股)理事長
【本籍】山梨縣中巨
摩郡實川村【生年
月日】明治十五年
二月【遺稿】政春四
男【學歷】明治四十
年東京外國語學校支那語科卒業【經歷】外語卒業
後三井物産株式會社に入り牛莊支店輸出品係た
る事五年有餘大正元年八月大連支店設廠掛同八
年十二月同掛主任同十一年四月設廠支部長代理
同十二年九月大連支店長代理を経て同十五年三
月哈爾濱出張所長に榮轉し哈爾濱日本商業會議
所議員を兼ね昭和四年秋本店業務課に勤務翌五
年二月上海支店長代理を拜命し同支店の規模縮
少と共に本店に歸任して參事たりしが偶々滿洲

國哈爾濱取引所の日滿合辦改組と共に八年六月
三井を辭し同十月副理事長に就任現に理事長た
り尙滿洲特産中央會評議員たり【特記】日露役從
軍の功に依り勳八等授給日章【趣味】支那問題
研究滿洲國基將棋ゴルフ野球【家族】妻雪子(明
二四生鹿児島縣木正寬妹)嗣子政夫(六七生成
高學校在)女ふじ子(大四生東京府立第三高女
卒)【住所】哈爾濱花園街三二二號地

石川 真三郎

從七位勳六等、石川誠光堂主、養種商【公
的關係】大連市會議員、同學務委員、西大
河養業組合長、帝國在郷軍人會大連海友
分會長、大連海軍展覽會會長【出生地】鳥根
縣鹿足郡津和野町【本籍】同上【生年月日】
明治十二年十月廿五日【遺稿】農藝文七四
男【學歷】郡中學校に學ぶ【經歷】明治卅一
年海軍々籍に入り爾來在職廿五年任海軍看護特
務少尉從從七位勳六等大正十二年三月豫備役編
入と共に渡滿現所に獨立し養種化粧品商を營み
成功昭和七年以降大連市會議員其他諸公職に盡
力す【趣味】圍碁釣魚【家族】妻ヨキ(明一一生山
口縣五十種石岡女)【店舖】大連市大正通三一電
四一九四一八



加藤 米吉

加藤醬油製造公司
經營主、醬油味增
三屋印リ、ス、丸
櫻印食酢味淋製造
【出生地】佐賀縣
【本籍】福岡縣糟屋
郡香椎村演男四三
八ノ二【生年月日】明治十七年四月【遺稿】種三美

子爵村平方先代徳三慶應三年長崎市に生れ明治四十二年二月哈爾濱に現業を創め俄ら日露支の饑饉貿易を兼ね油糧甲徳額甲福額山加等を製出して家産を築き後年別に福徳樓と呼ぶ料理店をも經營して好業積を収む【経歴】十九歳の頃浦鹽に渡り露人の商店に露語を修め日露戦争の際出で、通譯となり後安東縣に於て建築請負業を督む事暫時次で露領浦鹽ハボロワスタ等に於て商業に従事し辛苦を嘗めたるが明治四十三年開業草創の加藤醬油醸造公司に入り露語に達者なるを幸ひ常に業務の第一線に立ち遂に養嗣子に懸望され先代を扶け其業を繼ぐや益々精勵遂に今日の大を成せり近時同地埠頭區北賢賣街一二九に直賣所を設け露界の第一流として知らる義に傳家司共濟會々長厚生社信用相合理事たり【店舗】哈爾濱傳家司北四道街路東二四電九一二〇五三・直賣所一電六四二九



作平谷堀

滿鐵職員、大連鐵道事務所工務課建築主任、工業標準規格委員、委員【本籍】靜岡縣賀茂郡稻生澤村本郷字上濱六五七【生年月日】明治十九年一月五日【経歴】故石川庄吉三男故やま養子【學歴】明治廿六年工手學校造家學科卒業【経歴】明治廿六年六月阪神電鐵會社に入社し爾來鐵道作業局臨時軍用鐵道監部附韓國政府稅關工務部技手度支部建築所技手仁川稅關朝鮮總督府仁川稅關朝鮮總督府各勤務同府技手同府道技手を經て大正九年三月退官滿鐵に入社す

留東技術部建築課第二工事係建築工事係埠頭事務所工務課鐵道部工務課工事部建築課鐵道部工務課各勤務を経て昭和十年四月大連鐵道事務所工務課建築主任に轉ず【特記】日露戦争従軍記章滿洲事變従軍記章及賜杯を各授賞昭和十年四月十五年勤勞表彰章を港灣關係に感謝し【趣味】讀書園棋球【信仰】日蓮宗【家族】妻こと（明治四一、二生東京府西野金次郎三女）長男良平（大元生旅順工大卒滿鐵勤務）四女久美子（大七生大連彌生高女卒）五女惠美子（大一一生）あり長女富美子（明治四三生大連彌生高女卒）は西谷一郎に二女紀美子（大三生同上卒）は田中寅吉に三女登美子（大五生同上卒）は中村光雄に各嫁せり【住所】大連市長春臺二八



德大連渡

大矢和（祥）常務取締役【出生地】香川縣大川郡志度町【本籍】同上【生年月日】明治十九年一月【経歴】戸主【學歴】明治三十八年高松甲種商業學校卒業【経歴】明治三十五年大矢和に入り四十年渡滿大正五年同和支那人となり現に大矢和株式會社常務取締役として全營業を統轄す【特記】ハブチャブ事件率直駁郭松齡事件何れも従軍滿洲事件勃發と共に第一線に活躍す【趣味】讀書舞踊【信仰】日蓮宗【家族】妻喜代壽（明治二八生）長男大（大四生早大法科在）二女美代子（大七生彌生高女卒）三男和夫（昭六生）あり長女德子（大正元生大連彌生高女卒）は新京交通部勤務移

並榮に嫁し次弟綱五郎は郷里にて父業に従事三弟榮一は奉天小林又七支店出張所主任四弟弘行は東京美校卒業順家にして昭和十一年度帝展賞推薦となれり【住所】鐵嶺老松町五



吉象藤齋

滿鐵參事、地方部學務課體育主任【公的關係】社員會體育部長、滿洲體育協會主事、關東州社會教育委員、日本陸軍、全日本體操聯盟各評議員、關東州體育研究所顧問、大連水刺刺會長【本籍】新縣縣佐渡郡相川村木町四五【生年月日】明治二十八年一月二日【経歴】故元次郎長男【學歴】佐渡中學高田師範を経て大正八年東京高等師範學校體育科卒業【経歴】大正四年三月金澤村小學校訓導を拜命同七月六選同現役に服し同八年三月東京高等師範學校體育科研究科入學同月同校教務主任同九年五月オムピマク會出場の爲め米英自他國等へ出發同十年三月大阪府天王寺師範學校教諭兼關東府立天王寺中學校教諭同十一年四月大阪高等學校訓導等に要任同年十月滿鐵入社奉天尋常高等小學校訓導兼滿洲國大體科訓導兼南滿洲醫學堂訓導兼會社たり同十四年三月滿洲教育專門學校勤務兼體操科觀摩委員同五月同校助教昭和三年四月滿洲教育專門學校附屬小學校訓導兼滿洲教育專門學校助教授等を經て同十二月冬期に於ける戶外運動研究の爲め住居共滿六ヶ月間歐米へ出張し同五年四月滿洲教育專門學校教授となる同六月奉天千

代田尋高小學校訓導兼教育研究所講師同九年五月現職に就き同十年七月參事となる【特記】體育理論體育スポーツ實地指導方面に造詣深く往時オリンピック選手として「カネキチ・サイトウ」の合名を馳せ第三回極東大會の際の如き水陸兩方面に活躍一人克く九點を獲得せり【趣味】釣スボーッ音楽讀書【信仰】眞宗【家族】母スキ（明五生）妻リカ（明三一生大分縣伊藤郡三女京都女師卒文檢合格）長男自由（大一一生大連一中在）長女滿晴枝（大一一生神明高女在）二女惠晴那（大一一生）三女阿晴壽（昭三生）四女昌晴（昭四生）【住所】大連市伏見町一四電三三四〇四五



三和高达

動八等、日滿印刷社主、初音旅館主印刷並旅館業【公的關係】吉林北大馬路區長、協和會車站分會幹事長【本籍】旅順市仁豐野【生年月日】明治四十年三月廿九日【経歴】故市太郎長男【學歴】大正十五年京都市立第二商業卒業【経歴】學校卒業前渡滿して吉林第二小學校を経て内地に遊學し京都二商を卒へ爾來伐採事業に従事す滿洲事變後昭和七年三月匪賊に襲はれて父を失ひ該事業を廢し同八年十一月現業に轉ず【事業】日滿印刷社は出張所奉天線磐石活版石版和洋諸紙事務用具製本印章ゴム印活字鑄造を營業課目とし個人經營従業員は邦人十名滿人卅三名年商内高十萬圓以上滿洲興業銀行を取引銀行となし當地一流の廠商たり【功賞】滿洲事變にて勳八等賜瑞寶章【趣味】盆我業馬術

宮竹清介

動七等、宮竹商店主、藥種賣藥商【公的關係】旅順市會議員、同參事會會員、旅順商工協會々長【出生地】山口市【本籍】同上【生年月日】明治七年十二月四日【経歴】密之助二男明治廿四年二月分家【経歴】明治廿七年歩兵第十一聯隊に入り除隊後家業を繼承し從事し分家と共に山口市に於て獨立藥種商を開業す同廿七年六月日露役に應召從軍す同廿九年六月再び渡滿旅順の現所に現業を開始す旅順市會議員たる事多年更に昭和十一年六月旅順商工協會々長に就任す【功賞】日露戦役にて勳七等又帝國在鄉軍人會賞宮殿下より有功章を賜ふ【趣味】讀書釣魚【家族】妻於庫（明二生山口縣安部半助女下關高女卒）長男善祐（明三六生藥劑師家業從事）二女幹（大七生）二男藤三（大一一生）三男豐吉（大一一生）【店舗】旅順市青葉町七二電一七〇・八四四



大友

動八等、滿鐵職員鐵道總局計畫課勤務【本籍】仙臺市柳町二一【生年月日】明治三十二年三月十九日【経歴】榮ノ二男【學歴】仙臺第一中學校を経て大正九年東亞同文書院卒業【経歴】大正九年日支合辦天國輕便鐵道公司に入社同十一年弓長嶺鐵道公司に轉屬同十三年同天國



慶徳敏夫

滿鐵副參事、旅順地方事務所庶務係長【本籍】愛知縣蒲美郡田原町大字田原字池ノ原三四【生年月日】明治廿六年九月五日【経歴】中央大學商科卒業【経歴】大正七年七月滿鐵に入社し地方課に勤務す同八年七月地方部庶務課勤務となり同十一年十月瓦房店地方事務所に轉ず翌年十二月大石橋地方事務所庶務係長となり昭和二年十一月關東地方事務所庶務係長に轉ず同八年一月奉天地方事務所庶務係長に轉ず同九年九月經濟調查會調査員に選ばれ同十一年九月副參事となり現職に就く【功賞】滿洲事變の功に依り銀杯一箇並に従軍記章を賜り昭和九年四月十五年勤勞表彰章を受く【趣味】ゴルフ乗馬【信仰】佛敎【家族】妻こぶく（明三六、一一生關西）中村村太郎女實業家高女卒）長男正敏（大一一生大連二中在）【住所】旅順南大街南安臺二一九五・大連宅一旅順市柳町三八



木村松之助

伊吹川經營主、料理業【公的關係】協和會評議員、海拉爾社專任幹事、關氏子總代、海拉爾料理屋組合評議員【本籍】福岡縣糟屋郡箱崎町【生年月日】明治廿三年三月十六日【籍貫】故郷青島長男【經歷】夙に渡瀋遼陽に於て實兄の經營する料理業正適家の業務に従ひて斯道の修業を積み大正三年青島に渡り陸軍酒保を營む同十一年久留米市に遷り料理業を營み繁榮十同十二年朝鮮に渡り慶南昌寧に於て旅館兼料理業を經營氏の料理論と技術の得えとは廣く知られたるが皇軍の海軍駐屯屯と共に當時の第一旅團長中山閣下の知遇を受け昭和九年六月海拉爾に移り此所に料理業伊吹川を經營今日に及ぶ同地業界の一流たり【趣味】三味線長唄釣魚狩獵【信仰】淨土宗【家族】妻カシ子【明二四、八生】長女翠枝【明四四、三生】【住所】順安北省海拉爾西二道街二電六六・三四九

三省方土

奉天省公署農學官、教育廳勸務【本籍】山形縣海部郡松嶺町字仲町一【生年月日】明治廿七年二月廿二日【籍貫】遠藤二男【學歷】大正三年山形縣師範學校本科第一部卒業【經歷】大正三年四月山形縣南村山郡瀧山小學校調導を拜命し次で海部郡遊佐小學校調導を経て同七年十一月任關東州小學校調導兼沙河小學校本科正教員旅順師範學校調導教科書編纂委員南滿洲教育會教科書編輯部委員等に歷任同十一年七月研究員として



中町香橋

立濱公司代表者【出生地】横濱市神奈川區【本籍】新潟縣刈羽郡高濱町【生年月日】明治十五年一月四日【籍貫】深澤立三【男邦造養子】【學歷】早稻田大學政治經濟科卒業【經歷】明治廿三年支那に渡り上海南京漢口北京の各地に於て實業に従事日露戰爭當時は軍の報務に服し功勞勲からず職後天津山東河南の各地を轉々後ち大阪に於て護謄工業を經營する事約八ヶ年大正十三年哈爾濱に移り實業界に活躍昭和七年資本金十萬圓の匿名組合組織を以て立濱公司を設立代表者となり翌八年以降北滿貿易商社(足立亮一參照)を共同經營す【事業】日下拉濱線背陰川及濱綏線三層甸子密峰二道河子館兒山程站の各地に石山を所有し店員十二名を使用時季に依り滿人二三百名を使用す【家族】妻ふみ【明二〇生】長男香【大一生】【營業所】哈爾濱道裡田地街一〇電五七四五



大島喜美子

大島産院主【公的關係】牡丹江產婆會長、國助婦人會第四部會長【本籍】栃木縣那須郡川西町【生年月日】明治二十五年三月十日【籍貫】故前田縣松三女前通妻【學歷】長時にて女學校教育を受け次で東京にて勉學大正二年岩手縣產婆免狀を受く又東京府產婆免狀を有す【店舖】奉天平安通一九電三二〇八五

宮崎崎竹次郎

宮崎藥房主【公的關係】新京商工會議所議員、新京輸入組合藥部評議員【出生地】佐賀縣西松浦郡有田町【本籍】同上【生年月日】文久三年一月【經歷】夙に郷里實業界に投じ渡瀋後各地に活躍大正五年六月長春に宮崎藥房を開設す【事業】宮崎藥房は藥品並に衛生材料商にして東京大阪大連等より商品を仕入れ新京を中心として北滿一帶に亘り確乎たる販路を有す支店を新京吉野町に置く【店舖】新京光輝路二〇四電三一二七五〇・二九一八



生川庄吉

勳八等、滿鐵職員奉天鐵道事務所營業課貨物係主任【本籍】三重縣四日市市中納屋町五三番屋敷【生年月日】明治廿一年一月六日【籍貫】故庄太郎長男【學歷】大正四年四日市商業學校同五年滿鐵從事員養成所各卒業【經歷】大正五年四月滿鐵に入社し本溪湖驛に勤務す同九



邊政雄

從七位勳八等、關東局警視兼外務省警視、本溪湖警察署長【本籍】福島縣田村郡要田村大字熊耳寺一七【生年月日】明治二十四年一月二十日【籍貫】德次郎長男【學歷】東京內務省警察講習所卒業【經歷】明治四十三年現役志願として歩兵第六十五聯隊に入隊朝鮮駐劄大正元年歸隊除隊大正五年任歩兵伍長長大正六年六月關東都督府奉天警察署大正十三年二月長春警察署昭和五年六月任警備部警務署警務同七年七月范家屯警察署長同八年二月新京警察署同十年三月關東局警務部警備課勤務同十一年三月任警視補本溪湖警察署長現在に及ぶ【特記】滿洲事變中は治安上の重要地區たる鐵嶺范家屯新京本溪湖各警務主任高等主任又は署長の重任にありて皇軍に協力警察部隊を指揮し管内及接隣地の治安維持に懸命の努力を捧ひ此間東北正規軍の遊撃及匪賊討伐に出動交戦すること一百二十數



渡會練三郎

勳八等、滿鐵職員、吉林電氣段勤務【本籍】廣島縣山縣郡加計町【生年月日】明治卅五年十一月十日【籍貫】勝太郎長男【學歷】廣島縣立工業學校中退【經歷】學校修了後廣島通信局に奉職大正十五年滿鐵に入社長春に在勤す後ち吉長吉敦鐵路局に轉じ更に吉林鐵路局と改稱後も引續き勤績今日に及ぶ【特記】滿洲事變に勳八等に放さる通信關係に盡精深し【趣味】撞球水泳野球的骨董【信仰】武宗【家族】妻トヨ子【明四一、一一生】廣島縣渡野野野太郎三女【長男實】【明四、九生】【住所】吉林電氣段内・留守宅・新京花園町二ノ一三

入店同五年東京出張同七年大阪住入部開店と同時に仕入の任に當る同八年滿洲國同島省龍井村山田平行に轉任昭和十年三月現業開始に至る迄業務執行社員たり【事業】同店は金島印燈臺印各體式金物北滿代理店オリエンタルペイント直賣店東印シヨベレスコツア特約店にして大阪及内地各地大連より仕入東滿洲一帶を商圏とし日人二名鮮人三名滿人一名の店員を擁し年商内高四萬三千五百餘圓を計上取引銀行は興銀たり義に牡丹江商工會議議員に選ばれる【家族】妻きみよ(明)八生一長男(昭)八生【店舖】濱江省牡丹江國明街四ノ八電四ノ七



夫説枝國

滿鐵職員、樺樹鐵道工場製鐵場主任【公的關係】滿鐵消費組合哈爾濱區評議員【本籍】關山縣淺口郡玉島町【生年月日】明治廿三年十月十五日【籍柄】喜三郎長男【學歷】大正八年滿洲工業學校卒業【經歷】大正八年三月滿鐵に入社し沙河工場に勤務す次て同九年十一月同工場製鐵場同一年五月同製鐵場同十四年六月同木工課等に歷勤昭和九年四月同製鐵場助役となり同十年六月哈爾濱鐵道工場製鐵場主任に轉ず同十一年十二月松浦鐵道工場業務となりしが同十二年四月現職に就く此間約二ヶ年周期的に見學に來る鐵道警備兵士に實地教育を施せり【功賞】滿洲事變の功に依り木杯を賜る【趣味】滿洲時野球釣魚マントリオン舞に短歌同人



一希谷阪

喜三郎(明)六生(母)一(明)一(妻)江(明)三(七生)岡(明)大橋(明)太郎(長女)長男(大)一(生)大連中學在二男(大)一(五生)一(男)定(昭)四(生)長女(子)一(昭)七(生)二(女)信(江)一(昭)九(生)三(女)里(美)一(昭)一(生)【住所】哈爾濱三樹鐵道工場製鐵場

山下七郎

煉瓦製造及炭坑用品納入業【公的關係】推銷實業協會幹事【本籍】福岡縣宗像郡吉武村【生年月日】明治九年十月十九日【籍柄】其太郎三男【學歷】明治廿八年宗像中學校卒業【經歷】學を卒へ宗像銀行員たる事六年明治廿四年大阪生命保險會社書記となり發收課に勤務同廿八年十二月野戰鐵道提理部第一探炭班事務員として渡滿同十四年滿鐵創立と共に推銷炭礦用度課倉庫係に勤務事務主席に進む大正十年四月辭して推銷信託株式會社取締役兼支那人に就任し同社の奉天信託に合併後も引續き在任後辭して煉瓦製造業を開始し傍ら推銷炭礦に炭坑用品の納入を營む尙義に推銷樂天地監査役たり【趣味】義太夫【家族】妻マヅエ(明)二〇生福岡縣大村郡一(郎)女長男正次(昭)三(生)【住所】撫順東五條通四五電二二四三



吉藤保久

勳八等、滿鐵職員 哈爾濱營業段副段長【公的關係】滿鐵社員會評議員、前海倫在軍軍人分會長【本籍】香川縣木田郡西植田村【生年月日】明治廿五年一月廿五日【籍柄】八藏長男【學歷】明治四十四年大川中學校卒業【經歷】大正二年九歲歩兵十二聯隊入營同四年十二月憲兵に



夫忠井大

林盛堂藥房主、藥品販賣調劑、藥劑師【公的關係】協和會常任幹事【本籍】愛知縣知多郡横須賀町【生年月日】明治廿四年四月十九日【籍柄】故昇三郎ノ男【學歷】大正十年愛知藥學校卒業【經歷】夙に第十五師團に入營す父昇三郎の開業せる現業を昭和六年五月繼業せるものたり此間昭和二年藥劑師試験に合格す【事業】林盛堂藥房は藥品一般を取扱ひ卸小賣半々にして傍ら調劑をなし内地大連大阪名古屋地方より仕入れ滿人邦人相半ばして得意先となし從業員六名滿洲藥業銀行吉林支店を取引行とし吉林第一流の藥舖たり【趣味】撞球盆殺骨董【信仰】神宗【家族】妻春枝(明)四二、五生宗良(西)村岩吉(長女)



作利田平

勳八等、滿鐵職員 齊々哈爾濱鐵道工場務電氣科幹事【本籍】廣島市大手町七ノ二四【生年月日】明治廿六年八月十日【籍柄】吉長男【經歷】夙に滿鐵に入り奉天保線係を経て大正七年四月吉長吉敷鐵道局に派遣され昭和九年四月新京鐵道局工務電氣科勤務同十年十一月四平街監理所監理員となり同十二年四月現職に就く【特記】滿洲事變當時は皇軍及滿洲國軍の通信業務に秩掌功に依り勳八等に叙し奉天軍記章を各賜はる【趣味】不長必有【住所】大連市星ヶ浦水明莊二八



助吾原栗

栗原書店經營主、書籍雜誌販賣並新聞取次業【公的關係】關西十八區長 同防衛團警備第十八班長【本籍】東京市蒲田區今泉町一〇八【生年月日】明治廿三年七月十四日【籍柄】故政五郎男【經歷】埼玉縣人同郡三芳野小學校卒業後私塾に入りて漢學語學を修め次て東京に出て實業に従事精勵大いに識量を増ふ所あり昭和九年二月渡滿現所に東原書店を開業新聞書籍雜誌の外朝日新聞大新京日報の取次販賣を營み今日に及ぶ【特記】内鮮融和の見地より店員十名は悉く鮮人を使用し衣食住を共にしつゝあり年商高十五萬圓内外を計上す【趣味】讀書【信仰】眞言宗【家族】妻さき己(明)三三生長野縣原喜作(四女)長女久子(昭)三(生)二男敏夫(昭)一(生)【店舖】同島省國門中秋街六ノ三

廣瀬節男

從六位、外交部理事官兼外交部北滿特派員公署理事官、外交部政府司俄國科長【本籍】松江府外中津町【生年月日】明治卅四年三月廿三日【籍柄】故昌三三男【學歷】大正十二年早稻田大學政治經濟學部政治科卒業【經歷】大正十四年六月外務省事務屬託昭和三年九月高等試驗外交科合格同年十一月任外務書記生命米國在關同五年五月任外務官補命米國在關同十年五月任外務事務官命職

局第一課勤務同八月任大使館三等書記官命滿洲國在勤同年八月從六位康德二年九月滿洲國外交部理事官に任じ現職に就き同二年十二月兼官に就く同四年國都建設紀念式典準備委員會接待部幹事を命ぜらる【家族】妻照子【住所】新京實務胡同代官會一三四電二一三七七二



桑原英治

營繕品局技正、營繕處工務科長、【公的関係】滿洲國體育聯盟常務理事同陸上競技協會理事、同ラヂオ協會理事【本籍】關東【生年月日】明治二十二年一月三日【職柄】榮次郎四男【學歴】大正十二年東京帝國大學工學部建築學科卒業【經歷】同年四月東京市技手に任じ建築課に勤務十翌年五月同技師に進み昭和二年五月神奈川縣建築技師に轉じ縣廳會館建築事務所長に就任同縣會館新築を完了同四年六月名古屋市技師に轉じ市會館建築係長に就任同市會館新築を完了同八年十月依願免職となり大同二年十月滿洲中央銀行技師に拜命康德元年十二月建築事務所長を拜命同三年六月營繕品局技正營繕處監督科長に任じ同四年四月現職に就く先是同年三月國都建設紀念式典準備委員會工務部幹事を命ぜらる處任二等たり【特記】第一身體第二精神第三學問を處世訓とす【趣味】スポーツ特にラヂオビートル【信仰】眞宗【家族】妻サチ子【明三五生三重縣常保義雄四女東京女子美術卒】長男英一【大一一、一二生】長女蝶【昭二、一、生】二男俊【昭五、二、生】

【住所】新京東朝陽胡同四〇八電二一〇五二

廣瀬源治

大連汽船(株)營業部貨物課長【本籍】山口縣豐浦郡宇賀村【生年月日】明治廿一年七月十六日【職柄】高木市太郎二男長吉養嗣子【學歴】明治四十二年市立下野商業學校卒業【經歷】凡に滿鐵に入社し埠頭事務所船舶貨物受渡係員を経て大正三年二月上海支店店員となり在勤七年同七年内田商事株式會社大連出張所に入り翌年十一月更に大連汽船株式會社に轉じ昭和五年三月營業課副長同七年六月營業課長を経て同十年十二月制度職制改革により現職に就く此間大正十年港灣及輸出入貨物の移動研究の爲爪哇を視察せり【家族】妻ヒサ子【明二、生】山口縣渡邊平女東京女子文藝學校三年修了着松實業補習學校卒【嗣子】公一【大二、生】大連二中卒【長女】美代子【明四、生】大連神明高女卒【二女】代子【大七、生】三女香代子【大九、生】四女花世子【大一一、生】五女由美子【昭三、生】【住所】大連市鳴鶴臺一二二電二一四五七四



木本惠喜藏

滿鐵朝陽川營務段 延吉分所巡監【公的関係】延吉愛路少年隊副隊長、延吉地區營務統制委員會委員、延吉龍湖坪模範愛護村農家組合顧問【本籍】德島縣那賀郡持村【生年月日】明治廿八年九月一日【職柄】與吉長男【學歴】德島縣富岡中學校修業【經歷】大正六年十二月朝鮮駐紮陸軍憲兵上等兵同八年八月朝鮮總督府巡查



大熊道一

大和新館總督主、旅館業【公的関係】新京旅館組合副組長【出生地】廣島縣安佐郡川村【本籍】同上【生年月日】明治十九年十二月一日【職柄】正五郎三男【學歴】郡立高等小學二年中途退學【經歷】凡に海外發展の雄圖を抱きて支那に渡り精進する事多年濟南に於て材木商を營み同地の成功者として知られしが滿洲國建設後同國の將來に矚目し同地を引揚げて新京に移り大和通六〇に大和館と稱して旅館業を開始し昭和九年五月頃同館を治郎丸令介に賣却新たに現所に堂々たる大和新館を建築し營業積向上の一路を辿りつゝ今日に及び他面公共事に致すの念篤く濟南時代には居留民團民會議員行政委員信用組合理事廣島縣人會長等に擧げられ貢獻せし處夥からず現に新京旅館組合副組合長の重任にありて業界の發展向上に意を盡しつゝあり尙ほ現在濟南に土地及貸家を有し又新京にも貸家を有し一ヶ月収入千圓以上を計上しつゝありと云ふ【事業】大和新館は個人經營にして開業昭和九年五月最近三階増築する事に決

柳原英

醫學博士、大連醫院皮膚科部長【本籍】廣島縣吳市阿賀町【職柄】代々醫を營む【生年月日】明治廿年一月【學歴】大正元年京都帝國大學醫學科大學卒業【經歷】大正九年八月渡滿し滿鐵大連醫院皮膚科部長に就任す後ち學位論文「陰莖結核」に就て【京大】に提出して同十一年十二月醫學博士の學位を受く同十三年皮膚科學研究の爲め二箇年間歐米各國へ出張同十五年歸朝す此間大連同壽醫院院長を兼ねしが其後辭して現職専任となる【趣味】園藝音楽旅行讀書【家族】妻壽恵子【明二、五、生】長男正元【大三生大連二中卒】二男正典【大四生同校卒】三男正志【昭四生】【住所】大連市月見ヶ岡三一六ノ一〇電四一九六一六



木虎松之助

大松商行主、新舊鐵機變機木機、石鹼原料、家畜飼料商及ドラマ織製作業【本籍】兵庫縣赤穂郡有年村【生年月日】明治十五年三月四日【經歷】學業を終るや夙に三井物産株式會社大連支店に入社し木材部に勤務後ち獨力木材商を營みたるも當時財界の反動甚だしく木材市價低落の爲め大正十年三月大松商行と稱し油



増原三一

滿鐵職員、新京檢車區檢車助役【公的関係】社員會評議員【本籍】廣島縣高田郡吉田町【生年月日】明治三十五年一月二十三日【職柄】雙ノ弟【學歴】大正九年電機學校本科卒業【經歷】大正九年十一月鐵道省に奉職東京鐵道局電氣課勤務同十年九月品川電力區同十一年十一月新橋電力事務所各勤務を経て同十二年一月廣島電信第二聯隊に入營翌年工兵上等兵として除隊す同十四年三月滿鐵に入社し昭和三年三月命職員同八年十一月助役試験合格現職に就く【特記】此間從軍記章賜賞を授賞する電燈電力車電方面の造詣深し【趣味】園藝釣魚【信仰】眞宗【家族】妻富士江【明四三生廣島縣米澤忠四郎長女】



清野源之助

共榮木材商會主、木材業【公的関係】牡丹江防護團團長、牡丹江木材商工組合理事【本籍】北海道後志國大樽郡大樽村大字大樽【生年月日】明治三十三年二月四日【職柄】訂長男【經歷】小學校卒業後家業農事を扶け十六歳頃より木材業に従事二十歳の頃木材商に失敗二十二歳の二月樽太に渡り三ヶ年辛酸をなむ札幌高谷木材店に入り數年出資所に勤積九年昭和八年九月渡滿延吉に入り翌年六月牡丹江大東林業公司に入り馬橋河勤務同九年十一月獨立現所に開業す【事業】現在事業は靜岡縣出身渡邊文藏氏との共同經營にて氏探木及販賣方面を渡邊氏製材を擔當せり東滿洲主として磨刀石に自家採材製材所を有し大半は國軍軍庫に納入一部を市販す磨刀石に出張所あり三十五馬力二臺を設備し年商内高十萬圓に上る【信仰】日蓮宗【店舗】濱江省牡丹江平安街電六〇六

滋野多賀次

從七位、滿鐵奉天高等小學校長【本籍】關山縣上道郡平島村浦間一四三六【生年月日】明治廿九年九月十四日【職柄】壽太二男【學歴】明治四十二年關山縣師範學校卒業【經歷】明治廿五年七月小學校准教員免許狀同廿六年三月本村正教員免許狀を下附せられ同四月上道郡御休寺高岡郡平島尋

高各代用教員上道郡西大寺高等師範等を経て大正五年五月滿鐵に入り撫順高等實業補習學校講師兼託哈爾濱高等師範奉天第一尋常小學校校長兼順永安同校長等に歴任昭和七年十一月高等官八等特選同十二月被正八位同九年三月奉天春日高等校長高等官七等特選同十年二月被從七位同四月初等教育施設に之れが連繫を有する社會教育施設に關する調査研究のため滿六ヶ月歐米各國へ出張同十二月現職に就く【趣味】寫眞、歴史地理の研究【住所】奉天蕪町二八電三二七四六七



渡會一三

從七位勳七等、在奉天軍部兵少尉、蒙政部事務官、民政部事務科勤務【本籍】山形縣東田川郡余目町千河原字前野四五【生年月日】明治三十八年三月十三日【資格】故八兵衛四男戸主今朝治弟【學歷】本縣地高等小學校卒業【經歷】明治四十五年五月本縣地小學校尋常科准指導心得大正四年十二月歩兵第三十二聯隊入替同六年十二月憲兵に轉科同十二年六月憲兵練習所卒業昭和五年七月屏風憲兵分遣隊長同九年二月東京憲兵隊附同三月本部警務課内勤係長同九月少尉に任じ同時に待命被仰付康徳元年十二月滿洲國吉林省公署警務處同三年五月現職に就く【功賞】昭和三年賜大禮記念章七年三月勳八等賜瑞寶章同九年八月被從七位又日獨戰争西伯利亞出兵臺灣勳章事件に参加各賜金の外警務上の功に依る賞與八回【特記】「忠禮式」賞を感世訓とす【趣味】刺繍旅行乗馬【住所】奉天蕪町二八電三二七四六七

仰【眞宗】(家族)妻しげを(明三七生山形縣佐藤清右衛門三女)長女一子(大一四生)二女京子(昭二生)四女恵子(昭五生)長男東野(昭七生)五女吉子(昭一〇生)【住所】新京清和街七一八

泉 潮 築

正八位、在奉天軍工兵少尉、滿洲電機商會主【公的關係】奉天電氣工事組合長【本籍】鹿兒島市吉野町【生年月日】明治廿二年十月【學歷】大正二年被服工科學堂電氣科卒業【經歷】大正二年本溪湖煤礦公司機械課に入り同四年一年志願兵として入替除隊後大連市滿洲電氣會社奉天出張所主任となり同十三年七月其業務を繼承獨立滿洲電氣商會を創設今日に及ぶ【事業】滿鐵軍部滿洲國政府鐵道總局電氣公司其他の指定請負人にして支配人布氏以下従業員日滿人合計千五百名を擁し年請負高平均百萬圓現店舖三層樓の俵倉は昭和九年末被服園を投げる新築なり新京鞍山牡丹江に各出張所を有す【功賞】義に敦國鐵工事に於て金賞並賞狀又國東北黑龍線施工に各賞狀を受く【店舖】奉天加茂町一三電四二一三三六四



松井義夫

勳八等、滿鐵職員總裁室弘報課庶務係主任【公的關係】社員會本社聯合會通報部長、消費組合總代【本籍】廣島市新川場町八四【生年月日】明治三十七年四月二日【資格】故仙吉長男【學歷】縣立廣島一中を経て大正十五年東京同文書院卒業【經歷】大正十五年三月滿鐵入社地



松澤明義

勳八等、滿鐵職員奉天檢車區檢車助役【公的關係】元社員會評議員【本籍】長野縣小縣郡神村大字古里二一〇【生年月日】明治廿五年十月十六日【資格】故利作三男【學歷】明治四十三年私立大原簿記學校三年修了同四十五年私立中村塾二年修了【經歷】大正八年四月滿鐵に入り撫順車庫係同十月檢車方同十一年十一月奉天檢車區撫順分區同十三年七月同區千金分區昭和四年九月大官屯檢車區檢車方等を經て同八年五月檢車助役となり同十年十一月現職に就く【功賞】滿洲事變の功に依り勳八等賜瑞寶章軍記章滿洲國功勞章を受く【特記】客貨車檢査方面に造詣深し【趣味】讀書旅行運動【信仰】眞宗【家族】母とら(明元生)妻いち乃(明二、八生)長野縣北澤清吉四女【住所】奉天青島町五一、二



大塚傳治

滿鐵職員、撫順炭礦大山探炭所坑内係主任【公的關係】興亞技術同志會社員會評議員、在奉天會社監事【本籍】佐賀市神野町二〇六【生年月日】明治卅年十一月四日【資格】林業探炭科卒業【經歷】大正十三年一月九州炭礦汽船株式會社船戶礦業所に入所昭和八年三月技術となり運輸係檢炭選炭本給積込全般を擔當同九年一月滿鐵に入社技術員を拜命撫順炭礦に勤務同二月東郷探炭所勤務同十年十月同所坑内係主任を経て同十一年十一月現職に就任す【特記】坑内深部探採に於ける研究と古城子露天掘との關係方面に特に造詣深し【趣味】庭球圍碁【信仰】眞宗【家族】妻千代乃(明三八生佐賀縣人井手龜吉四女佐賀成和高女卒)二女篤子(昭六生)三女壽子(昭一〇生)【住所】撫順撫順炭礦大山二ノ二電三二〇六



大池喜市

大喜洋行主、染織毛糸人絹糸靴下商【出生地】愛知縣丹羽郡古知野町朝日町【本籍】同上【生年月日】明治廿三年六月廿四日【資格】校卒業後獨學【經歷】大正四年十六歳一宮市の株式會社森林商店に入り爾來其業務たる絹糸布商に従事し勤積約八ヶ年人物材幹を認められて逐次重用さる同十二年同商店奉天出張所森林洋行店となりて渡滿約二年にして同十四年安東支店開設に當り支店長に拔擢せらる昭和六年森林商店が滿洲の事業を中止して引揚ぐるや氏は其の業務一切を繼承し爾後獨立經營に従ひ昭和十一年一月大喜洋行と改稱して今日に及び奉天新義州の兩地に靴下手袋ジャケツ等の製造工場を安東に染色工場を各設置し更に最近金融業をも兼營せるが之亦經營方針機宜を得て相當の業績を収む【事業】大喜洋行は開業昭和六年十二月安東市場通八丁目支店を有し個人經營にして課月は染織糸毛絲人絹絲靴下

三浦庄之助

三浦洋行(名)代表社員、貿易商【出生地】大坂市西區本町通二ノ四五【本籍】同上【生年月日】明治廿一年九月【經歷】夙に事業に身を投じ明治廿九年渡滿し日露戰役後大阪西村商店の出資を得て三浦一族の匿名組合として創始せる三浦洋行の經營に當り此の間昭和元年獨立次で合名會社とせり先に甘草及筆毛を取扱へる事あり【事業】皮革麻其他工業藥品貿易並貸家業を課目とし支店を新京東三道街遠隔北大街に出張所を哈



松野文治

正八位勳八等、滿鐵職員、哈爾濱鐵路局工務處建築科勤務【公的關係】社員會評議員【出生地】吳市【本籍】廣島縣賀茂郡神村

伊藤剛介 日清製油(株)哈爾濱出張所主任【本籍】山口縣萩市大字江向六七【生年月日】明治三十二年二月二十一日【學歷】東京同文書院卒業【經歷】東京同文書院卒業後大正十年日清製油株式會社に入社し大連支社勤務となる次で昭和六年八月同社哈爾濱出張所主任に擧げられ今日に及ぶ【事業】現在同出張所は滿洲特產物買付輸出を專らとし日人五名滿人十二名を使用し業績旺なり【信仰】基督教【家族】妻アキヨ(明三九生)長男豪(昭七生)長女純子(昭六生)二女哲子(昭九生)【住所】哈爾濱道裡田地街三〇電二〇八〇

伊藤剛介 日清製油(株)哈爾濱出張所主任【本籍】山口縣萩市大字江向六七【生年月日】明治三十二年二月二十一日【學歷】東京同文書院卒業【經歷】東京同文書院卒業後大正十年日清製油株式會社に入社し大連支社勤務となる次で昭和六年八月同社哈爾濱出張所主任に擧げられ今日に及ぶ【事業】現在同出張所は滿洲特產物買付輸出を專らとし日人五名滿人十二名を使用し業績旺なり【信仰】基督教【家族】妻アキヨ(明三九生)長男豪(昭七生)長女純子(昭六生)二女哲子(昭九生)【住所】哈爾濱道裡田地街三〇電二〇八〇

【經歷】大正十四年大連小野木橋井共同建築事務所勤務同十五年關東軍經理部に奉職昭和九年滿鐵に入社新京地方事務所勤務を経て同十年哈爾濱鐵路局に轉じ同十一年九月現職に就く【特記】滿洲事變後直に奉天に出動し當時の兵工廠に於ける軍隊駐屯に對する各種工事實施熱河戰に際し錦州に入城翌日入城し北大營兵舎設備に従ふ次で齊々哈爾濱軍衛戍病院新築工事設計哈爾濱陸軍衛戍病院新築工事現場主任北鐵接収派遣員等を歴任せり【趣味】運動尺八寫眞釣魚【信仰】眞宗【家族】妻ミヅエ(明治三十七、二生鹿兒島縣牧之志二女鹿兒島縣高女卒)【住所】哈爾濱河溝山三二



大島敏敬

志岐土木(株)理事齊々哈爾濱支店代表者【公的関係】齊々哈爾濱商會議事會頭、同居留民會評議員、社團法人滿洲土木建築業協會支部長、長野縣人會々長【本籍】長野縣諏訪郡上諏訪町【生年月日】明治廿年四月二十五日【資格】舊諏訪藩士故清榮二男【學歷】私立諏訪中學校卒業【經歷】學を卒ふるや東京に出て土建界に投ず明治四十五年渡鮮京城松本租に勤積三年後同地高島租に勤務す大正十二年獨立京城に大島工務所を經營釜山海州等に出張所を設置し活躍す昭和三年京城志岐工業株式會社に聘せられ同七年六月新京志岐土木株式會社に轉じ新京吉林方面の都市建設工事を擔當し同九年六月現職に就く【事業】日下濱州線滿洲里海拉爾博克圖各出張所

を統轄齊鐵關係工事及政府工事を主とし年請負高百萬圓内外を計上す【趣味】盆栽【信仰】日蓮宗【家族】妻つな(明治二生)長男隆平(明治七生)【住所】齊々哈爾濱新馬路九號電二七九三



小淵潤齋

【經歷】家は代々秋田佐竹藩士にして横手町に仕し五味姓を稱したるも五代前より小淵姓を稱へ父泰は永年教育界にて令名あり氏は其長男大正十五年家督を相續す【學歷】私立横手中學校二高を経て大正十二年京都帝國大學工學部土木工學科卒業【經歷】大正十二年滿鐵に入社本社土木課勤務となり同十五年一月奉天地方事務所に轉じ昭和二年十一月安東地方事務所土木係長となる同五年四月奉天地方事務所土木係長同六月職制變更により安東工務事務所所長を命ぜらる同六年八月職制改革に際し地方工務課奉天駐在員となり更に十一月地方工務課道路係主任に轉じ七年二月經濟調查會第三部道路班主任及都市計畫班主任を兼務し滿洲道路網計畫及新京奉天の都市計畫に參事す同八年二月社命により上下水道及都市計畫研究のため一年二ヶ月間歐米各國留學を命ぜらる同九年七月歸任地方工務課一般土木係主任となり同十年七月技師に進む同十年十月土木工務主任兼一般土木係主任に轉じ同十一年九月參事に列し翌十月現職に就き交

通譯土木係主任自働車係主任兼務を命ぜられし同十二年兼務を免ぜらる【功賞】滿洲事變の功に依り勳六等に叙し瑞寶章を賜る【趣味】ゴルフ球ペンギン劍道登山寫眞等特にゴルフは昭和十年及十一年の二度星ヶ浦ゴルフ俱樂部の選手權を獲得し持數六にして星ヶ浦のナンバーワンなり【家族】妻稻子(明治一生成鹿兒島市內宮義夫妹東京女子醫專卒)長女銀江(大正三生)二女信子(大正五生)三女澄子(大正六生)【住所】大連市伏見町一ノ二ノ一電三三三九七四

橋本順一

正七位、旅順工科大学助教授【本籍】大分縣中津市一六一六【生年月日】明治四十二年三月廿二日【資格】齊々長男【學歷】昭和七年旅順工科大学機械科卒業【經歷】卒業後母校講師職に就き同九年八月同大學理學科教授大學講師職に就き同九年七月大學助教授に任じ今日に及ぶ高等官六等たり【趣味】讀書【信仰】佛敎【家族】妻榮美子(明治四、一〇生)長女南都子(明治一、一生)【住所】旅順市日進町六ノ二



北澤通廣

勳七等、滿鐵副參事、牡丹江建設事務所電氣長【出生地】長野市新田町乙四六【本籍】同上【生年月日】明治廿八年三月十日本名響司【學歷】大正四年南滿洲工業學校電氣科卒業次で同九年三月迄東京高等工業學校に電氣設計を専攻す【經歷】大正九年三月滿鐵に入り技術部

【經歷】大正十四年六月南滿洲工業學校講師兼務同十四年十一月南滿洲工業專門學校講師兼務昭和二年四月鐵道部電氣課勤務同五年五月滿洲工業標準規格委員會調查員同六年九月工業標準規格委員會幹事同九年二月哈爾濱建設事務所電氣長同十年十一月四平街建設事務所勤務同十一年四月現職に就任同十月副參事となる【功賞】滿洲事變の功に依り勳七等に叙し瑞寶章を賜ふ【趣味】音樂スボーツ讀書【信仰】基督教【家族】妻壽美乃(明治三六生)長男準一(大正一三生)長女希三子(大正一一生)二女節子(明治二生)【住所】牡丹江昌德街牡丹電三六・哈爾濱住宅ハ爾濱市南崗奉天街五

山田奎次

旅順映畫館(株)取締役、旅順無盡(株)監査役、山田活版所主【本籍】熊本縣天草郡本戸村【生年月日】明治十年十月【資格】慶應義塾大學文學部卒業【學歷】明治三十年福岡の中島共文社に入社印刷業を實習する事六ヶ年其後郷里に於て獨立印刷業を開業同廿八年十月渡滿大連に開業翌年七月旅順に移轉十五年合資會社に改組せるが後再び個人經營とす【店舗】旅順市乃木町三ノ一七電五四



小林金作

勳八等、滿鐵職員吉林鐵路局經理處課長【本籍】神奈川縣中郡旭村河内三三七【生年月日】明治廿五年四月廿日【資格】故

【經歷】大正三年五月滿鐵に入社し大連車輛保勤務次で大石橋安東各車輛係に歷職同七年一月大連管理局運輸課に轉じ同九年七月運輸部運輸課勤務となり同十三年三月長春檢車區檢車助役に進み昭和二年三月同區勤務助役同十二年四月吉林鐵路局總務處資料科同五月現職に就く【功賞】滿洲事變にて佐勳八等瑞寶章並從軍記章建國功勞章昭和五年滿鐵十五年勤積表【趣味】園藝盆栽讀曲(觀世流)【信仰】淨土宗【家族】妻豐子(明治三、二生東京府櫻井米太郎四女)二男正(昭三生)三男力(昭五生)三女妙子(昭八生)【住所】吉林鐵路局經理處課度科



淺野謙治

正七位勳六等、關東州小學校長、大連早苗高等小學校長【公的関係】大連市學務委員、大連市學務會長、關東州教職員共濟會理事【出生地】秋田縣北秋田郡大館町【本籍】神太留多加部留多加町【生年月日】明治十七年三月十日【資格】故師之進二男重藏養子【學歷】明治廿八年秋田縣師範學校卒業【經歷】卒業後同校調尋たる事三年八月明治四十一年十二月關東州小學校調尋に任じ大連尋常高等大連大二尋常高等大連第四尋常各小學校調尋を経て大連第二尋常小學校々長となり次で關東廳視學に轉じ大連民政署に勤務せしが其後現職に就く高等官七等待遇たり【家族】妻イタ子(明治三秋田縣人聲田政丸女)養子英二(明治二生島根縣人松浦守衛二男大連日本橋尋常小學校調尋)同妻功(大正三秋田縣



峯筑良充

民國勳五等、日滿合辦滿洲洋灰(股)董事、滿洲商業(股)顧問【出生地】京都府觀音寺町【本籍】同上【生年月日】明治十四年四月十八日【經歷】夙に漢支明治二十九年當時北京に遊び蒙古西藏の言語及其事情を研究し更に故郷島津軍のラマ教主ダライを中心とする蒙古略に參與同四十二年故伊集院彦吉公使の懇請により滿洲吉林省教育顧問となり師範教育及普通教育行政事務に參與する事十數年其在職中故後藤新平伯中村是公滿鐵總裁等の知遇を受け吉林省經濟調査に従事し次で其の關係より滿鐵理事大塚信太郎吉長鐵道會計課長内田實衛氏等の後援により吉嶺吉五長春扶餘各線の鐵道計畫に従事次で滿鐵礦託となり山本鐵道松岡副總裁大藏理事等の知遇により東三省に於ける鐵道交渉事務及び經濟調査會に於ける農地開拓調査等をなし滿洲事變後はリットン報告書に對する滿洲國民代表林鶴泉等の辯駁運動を助け其日本訪問に際しては指導案内の任を蒙り其後現職に就く【特記】教育功勞により民國より勳五等吉林省より金質褒章を各受く在支に滿三十有餘年有力要人に知己多し養育せる門下生一平を賦え「滿洲民族史」吉林省の産業「吉省沿線の水田候補地」等の著あり【趣味】讀書讀曲及滿洲民族史の

研究【信仰】淨土宗【家族】妻伴明一九生兵庫縣
龜田鐵平二女北京に於て服部博士夫人經營女學
校に吉林に於て女子師範に教鞭を執る事五ヶ年
語學に通曉す長男光彦(明四生)同志社大學
經濟部卒滿洲拓殖會社在勤(二男正彦(大二生)日
本大學工學部在學)三男利彦(大五生)商業見習
中(二女美智子(大一一生)東京昭和高等女在學)【住
所】奉天商埠地三經路十二號路滿洲商業股份有
限公司奉天支店內



正 川 古

滿鐵職員、哈爾濱
檢車段技術助役
【公的關係】社員會
評議員【本籍】山形
縣西村山郡茶臼村
【生年月日】明治四
十二年一月四日
【職柄】友治郎五男【學歷】昭和二年岩倉鐵道學校
機械科卒業【經歷】昭和二年十月滿鐵に入社し鐵
道部運轉課大連檢車區奉天檢車區大連鐵道事務
所等に歷勤昭和九年十一月技術員に任じ同十年
六月現職に就く【功賞】滿洲事變にて從軍記章及
賜品【趣味】野球登山【信仰】神道【住所】哈爾濱松
花江街ウエルサリ・ホテル四七

三 浦 直 彦

正五位勳四等、關東局事務官、司政部行
政課長兼官房秘書課長【出生地】和歌山縣
【本籍】同【生年月日】明治卅一年三月卅一
日【職柄】須藤丑彦三男駒之助養子【學歷】
大正十一年東京帝國大學法學部法科卒
業【經歷】大正十年在學中高等試驗行政科
に合格翌十一年四月滋賀縣屬に任じ内務



夫 靜 木 鈴

滿鐵副參事、撫順
炭礦探炭課露天堀
係技術擔當員【本
籍】靜岡縣野田郡
田原村三ヶ野一番
地【生年月日】明治
廿九年二月十四日
【職柄】桂次郎三男【學歷】靜岡中學卒大正九年秋
田原山專門學校探炭科卒業【經歷】大正九年四月
滿鐵に入社し撫順炭礦々務課勤務を振出しに昭
和二年十一月庶務課勤務同三年三月古城子探炭
所同七年九月監査係擔當員同九年四月監査
係技術擔當員等を經て同年七月現職に就く【功

賞】滿洲事變にて從軍記章及大槓を賜ふ又昭和
十年四月十五年勤績表章を受く【趣味】園藝旅行
【家族】妻小枝子(明三七生)【住所】撫順南臺町三
ノ一〇ノ八電三六七九



八 嘉 村 川

勳八等、滿鐵職員
新京機關區運轉助
役【公的關係】社員
會新京聯合會評議
員【本籍】長崎縣南
高津郡東有家町
【生年月日】明治卅
五年三月二十一日【職柄】故其之四男【學歷】大正
十二年滿鐵々道講習所卒業【經歷】大正九年四月
滿鐵に入り奉天車輪係勤務同十四年六月遼陽機
關區勤務昭和十一年七月現職に就任し今日に至
る【功賞】昭和十年四月十五年勤績表章滿洲事變
の功に依り勳八等賜與賞章並從軍記章及建國
功勞章【趣味】歌曲【梅若池】益我園井【信仰】眞宗
【家族】妻ミヅル(明二四、一)生鹿兒島縣人山村
新左衛門長女(長女嘉子(大一一、二)生)二女瑞
子(昭四、八生)長男八洲彦(昭七、六生)【住所】
新京芙蓉町二ノ一

一 健 室 楯

日支公司主、紫標細工及土產品製造販賣
並土產品卸商【公的關係】大連土產品組合
副組合長【本籍】長崎縣西濱町【生年月日】
明治卅一年九月四日【職柄】常吉長男【學
歷】大正五年長崎市東山學院卒業【經歷】
大正五年以來父を扶けて家業に従事し居
たるが同十四年渡滿し叔父の經營せし紫
標細工店の營業を引受けて之が經營に専念す此

【職柄】井上鐵雲ノ石橋キ養子【學
歷】大正十一年南滿洲工學學校機械科卒業【經
歷】大正十一年三月滿鐵に入社運轉部運轉科に
勤務す次て同十二年十二月安東檢車區昭和二年
十月庶務部附吉長鐵路派遣同四年四月長春檢車
區同七年十二月長春鐵道事務所同十一月新京
鐵道事務所同八年三月吉林建設事務所同五月
關東建設事務所同九年十二月奉天建設事務所同
十年七月牡丹江檢車段長等に歷任同十二年四月
現職に就く【特記】滿洲事變の功に依り勳八等に
敘せらる支那事情通にして滿鐵華語試驗に年長
者中唯一人の合格者たり又滿鮮人の教育に最も
意を注ぎ毎朝點呼の際自ら作製せるテストにて
教育を施し十五ヶ年無過失の精勵振りを示しつ
つあり昭和十二年十五年勤績表章を受く【趣味】
支那語研究園藝將棋【信仰】神宗【家族】養母
マキ(明一六生)妻ツヤ子(明三四生)長男義裕(大



祐 義 橋 石

勳八等、滿鐵職員
奉天鐵道事務所車
務課勤務【出生地】
福岡縣糟屋郡立花
村【本籍】佐賀市岩
川町三六【生年月
日】明治卅四年四

一 彦 田 山

正五位勳六等、林學博士、滿洲林業(股)
理事、滿鐵囑託【本籍】東京市品川區北品
川四丁目七一八【生年月日】明治十六年四
月十三日【職柄】熊次郎長男【學歷】明治四
十年東京帝國大學農科大學林學科卒業大
正九年四月林學博士の學位を受く【經歷】
明治十四年六月任鐵道院技師大正十二
年十一月任帝都復興院技師物資供給局用品課長
同十三年十二月三井三菱鈴木共同事業物販賣
組合囑託大日本木材防腐枕木株式會社大日本枕
木組合會各顧問昭和八年六月滿鐵經濟調查會調
査事務囑託計部事務鐵道總局事務各各職を経て
同十一年三月現職に就く【趣味】俳句スポーツ
【信仰】神道【家族】妻喜代(明二四生)東京府田原
精夫婦東京府立第三高女卒(長男甫(大九生)長
女滋子(大四生)東京府立第三高女卒)二女能子
(大六生)同上(二男美(大一一生)四男侃(昭二
生)五男邦夫(昭四生)【住所】新京中央通り四一
電三、四五五三



三 夏 田 成

吉林省農安縣參事
官【本籍】東京市赤
坂區福吉町一【生
年月日】明治四十
一年四月十三日
【職柄】現戶主【學
歷】東京市赤坂中
學を経て昭和六年拓殖大學商學部本科同元年
十月滿洲國大同學院各卒業【經歷】拓大卒業後滿
洲國に聘せられて漢滿大同學院卒業と共に大同



郎 太 澄 折 北

正七位勳七等、交
通部事務官、總務
司會計科勤務【公
的關係】廣島縣人
會評議員【本籍】廣
島市白島中町四五
ノ一〇【生年月日】
明治十九年七月十七日【職柄】故松左衛門長男
【學歷】明治四十年裁判所書記任用試驗合格【經
歷】明治廿九年八月稅務署を拜命し名古屋稅
務監督局小折稅務署に勤務四十二年一月稅務署
稅務局に任じ中津川宮上野各稅務署に歷勤四十
五年三月稅務監督局屬に任じ廣島稅務監督局に
勤務大正五年十二月稅務署屬稅務監督局屬に
任じ廣島稅務署に勤務同七年三月稅務監督局屬
稅務署屬に任じ廣島稅務監督局に勤務同九年九
月免兼官九年六月稅務署屬に任じ濱田稅務署勤
務十年三月尾道稅務署同稅務課長十三年十二月廣
島稅務署同稅務課長廣島稅務署長心得十四年八月
稅務監督局屬に任じ廣島稅務監督局同稅務課三
係主任兼同稅監督員十五年一月同稅第二係主任

昭和二年四月間稅務部第二係長候補稅務部勤務稅同第二係長同第一係長を経て七年十一月稅務監督局事務官に任ぜられ廣島稅務監督局に勤務す大同年十二月滿洲國財政部會計科監事となる二年七月專賣公署事務官に任ぜられ濱江省專賣支署勤務同三年二月哈爾濱專賣署副署長となり康徳元年五月交通事務官に轉任す隨任官四等たり【補記】内國租稅制度に造詣深し義に鼓動七等又大正四年乃至九年事務の功に依り賜金尙大禮記念章建國功勞章大典記念章皇帝訪日記念章拜受【趣味】觀世流曲麻雀カマヲ【信仰】臨濟宗【家族】妻オマサ(明三二)四生廣島縣宗正ツル長女(長男昭一(昭三、三三)長女須磨子(大六、一)生廣島縣立高女卒)二女濱子(八一〇、一)生新京高女在學)三女道子(八一二、六)生同上校在學)四女廣子(八一四、七)生【住所】新京北安路市住宅一五電二一四〇六〇



堀正巳

勳八等、滿鐵職員
總理部庶務課庶務主任【本籍】大分縣速見郡大神村大目一八〇五【生年】一月一日【讀柄】大分縣立立井中學校第四年卒業後明治四十一年陸軍戸山學校大正八年私立愛知簿記學校各卒業【經歷】明治四十一年十二月陸軍軍樂手補拜命爾來同四十二年三月英國に差遣大正七年十一月陸軍一等樂手第三師團軍樂隊附を経て同九年一月滿鐵に入社總理部會計課に勤務次て同主計課庶務部考査課總理部各勤務庶務課

庶務主任心得同係主任を歴職昭和十一年現職に就く【功賞】大正八年二月被勳八等授瑞寶章昭和十年四月勳章十五年表章を受け滿洲事變の功に依り補及從軍記章を授賞す【特記】庶務方面に通曉す義に社員會評議員本社聯合會第九分會代表たり【趣味】音樂寫眞讀書【信仰】曹洞宗【家族】妻きく(明二九、三)生岐阜縣安田留次郎長女)長男貞雄(大元、八)生九大醫科在【住所】大連市白金町二五電四一〇二二九



大石重義

滿鐵職員、撫順炭礦吉城子探炭所庶務主任兼勞務係主任【公的關係】社員會庶務聯合會幹事、撫順體育協會理事【本籍】京都府南桑田郡藤田野村字佐伯八四【生年月日】明治卅五年七月十一日【讀柄】繁吉二男【學歷】昭和三年同志社大學經濟學科卒業【經歷】昭和三年四月滿鐵に入社社長室人事課に勤務同七月撫順炭礦大山探炭所同五年五月同礦東ヶ岡探炭所各勤務同六年六月炭礦部部試探礦山用二級合格同同八月揚柏探炭所同十二月龍鳳探炭所各勤務同七年三月炭礦部山用部一級合格同八年六月吉城子探炭所勤務同十二月龍鳳探炭所庶務主任吉城子探炭所勞務係主任を経て同十一年二月現職に就任す【功賞】滿洲事變の功に依り從軍記章及び木杯を賜ふ【趣味】ゴルフスキーテニス【信仰】曹洞宗【家族】父繁吉(明二生)母捨子(明九生)妻春子(明四生)佐賀縣人福島一(三)女安東高女卒)長女佳津子(昭七生)長男信正(昭一〇

生【住所】撫順北臺町一ノ二ノ二電三二九一



茶谷榮治郎

從六位勳六等、水田會【公的關係】四平街實業協會會長【出生地】山口縣美禰郡大嶺村一〇一三【本籍】同上【生年月日】明治五年八月七日【讀柄】多治郎長男大正十四年家督相續【學歷】明治廿二年山口縣城野卒業【經歷】學校卒業後山口縣屬同縣美禰郡書記下關市役所書記等に歷任其間明治三十三年文官普通試驗に合格同卅六年北海道廳となり次て朝鮮統監府理事廳屬同總督府屬を経て大正四年同島司兼警視に任じ同郡守に轉じ同十年二月滿鐵に入社し五房男事務所長に就職次て公主嶺地方事務所長に轉じ昭和二年三月四平街信託會社事務取轉役に轉任昭和六年九月同社を退き水田經營に没頭し今日に及ぶ【事業】滿洲事變の結果四平街地方に避難せる朝鮮人約百五十戸人員約一千人の救済のため吉林省伊通縣蘇爾蘇及奉天省梨樹縣三江口の二ヶ所に之を移住せしむべく努めつゝありし四平街警察署及び朝鮮民會が總督府よりの補助金不足其他等によりて實行不可能となりしを氏は進んで蘇爾蘇三江口の全水田經營を引受其目的を達せしめ爾來發展現在の盛大を致せり【特記】慈悲仁俠に富み同地方病弱者貧窮者の救済せるもの數ふべからず殊に昭和九年頃迄猛威を揮ひし野猫と稱する馬賊の頭目すら心より氏を敬慕し又同地古來の風習に則り同家の養子たらんとする滿人多く就中由緒ある富家にして八十餘家

敬を稱すは其心甲斐一編子村薩吉氏の如きは遂に氏と親子の交りを結ぶに至れり官民共敬の的にして昭和十一年五月四平街實業協會會長に選ばる【功賞】昭和十一年十一月朝鮮慶尙北道知事より林業功勞者として表章を受け又同九年十一月日本産業協會總裁より表章せらる【趣味】圍碁【家族】妻スミ子(明二二)生山口縣尾上太市妹)女田鶴子(明四一生)外二男二女あり【住所】四平街昭平橋通五二電二〇四



大津峻

安東取引所(株)理事長、安東造紙(股)專務理事、安東市場、安東製氷、朝鮮平安木村各(株)取締役【公的關係】安東地方委員會委員、安東商工會議所特別議員、安東金融組合長【出生地】福岡縣山門郡大和村【本籍】同【生年月日】明治五年七月十二日【讀柄】武一長男明治廿年家督相續【學歷】明治廿四年縣立中學傳習館卒業【經歷】卒業後福岡大林區署に奉職次て山林屬山林事務官を経て同四十二年九月農商務省林務官として日支兩國政府合辦鴨綠江探木公司に派遣さる退官後同公司參事に就任し爾來廿有數ヶ年同公司發展のため努力し昭和七年勇退す現に安東取引所理事長たるの外頭書誥會社重役を兼ね傍ら居留民團行政委員行政委員會副議長に擧げられ其職權附屬地行政に移管さるゝや安東地方委員會議長たる事前後五回に及びしが昭和十年末議長を後進に譲る【特記】鴨綠江探木公司在職中昭和二年四月對岸朝鮮側に着く鴨綠江村に

國稅を賦課せんとするに抗し所謂木材賦稅問題として闘争實に五ヶ年遂に中央の問題たりしめ勝利を得たるは今猶世人の讚歎する所たり昭和十一年十月一月關東局施政卅年記念に民間功勞者として表章され同十二年四月觀禮會に夫妻同伴御召の榮に浴せり【家族】妻ヨノ子(明一〇)生北島久平長女)長男敏男(明治二六)生東大法卒滿洲國民政府總務司長)及其妻あり尙ほ亡長女遺兒を旅順工大機科に通學せしむ【住所】安東江月臺電九二五

中山英男
滿洲電信電話(株)書記、木溪湖電報電話局長【本籍】京都府【生年月日】明治卅八年二月九日【學歷】通信省通信生養成所同省通信講習所高等科各卒業【經歷】義に大阪天滿郵便局に奉職四ヶ年次て大阪中央郵便局に七ヶ年半昭和七年九月關東廳に出向を被命大連中央電信局に勤務同八年九月電々創立と共に入社し同年十一月哈爾濱中央電報局通信課長同十一年八月佳木斯電報電話局長等を経て同十二年三月現職に就く【趣味】寫眞【住所】奉天省木溪湖電報電話局長住宅



村田太平次

田村工業所主、鐵工業【本籍】鹿兒島縣掛指郡山川町【生年月日】明治二十九年八月十一日【讀柄】太郎八長男【學歷】高等工業卒業【經歷】夙に波鮮京城龍山工作株式會社創業時代に入社工場長に就任す昭和四年獨立同地に田



渡邊喜八郎

實業家【公的關係】安東加越能郡友會會長【出生地】石川縣【本籍】東京府【生年月日】慶應元年一月【讀柄】士族久次郎長男【經歷】明治卅七年八月東京市川町滿鮮支那人として渡滿次て安東を本據に炸彈林胡椒物貿易商を營み東京國本製金庫販賣及慶國火災保險會社安東代理店業を營む同四十年三月株式會社安東實業會社を設立一級金庫に便じ同四十四年五月一日資本金十五萬圓の株式會社安東銀行に改組し專務取締役就任大正八年長春銀行と合併す其の間安東實業銀行重役たる事十二年間昭和二年六月辭任し尙大正七年より鞍山銀行重役たる事四年日支合辦協成銀行監査役たる事五年又安東電氣株式會社を設立後滿鐵に譲渡せり其他數個の

事業及會計重役に關與し一方早くより朝鮮平北に百萬坪の土地を經營安東財界に重きをなせり

【特記】安東居留民團課稅調查委員同會計檢査委員同行政委員同會計主任同民間議員中日合辦公設居留場會計主任安東商工會議所常務委員同會計主任日本赤十字社安東支店支店員在郷軍人分會副委員長公會堂大正天皇御大典紀念商品陳列館神社寺院小學校安東病院各建設委員として功勞あり各諸團體よりの受賞無し【趣味】繪畫觀賞【家族】妻はヤ子(明治六年東京府高波覺子)三女(養嗣子)長女秀子夫東京帝大東京市役所社會局勤務)女秀子(明三四年)あり二女喜美子は山田文介に三女タカ子は横山小佐に各嫁せり【住所】安東二番通二ノ三電一〇五九



川宗
滿鐵職員、香坊站
哈爾濱在勤助役
【公的關係】社員會
評議員【本籍】山形
縣南置賜郡山上村
【生年月日】明治四
十一年二月廿三日

【履歷】政務之「男」【學歷】米澤中學校和八年法政大學商學部畢業【經歷】昭和八年四月滿鐵に入社埠頭事務所貨物方大連列車區車掌心得同九年六月同車掌昭和九年十二月入船務內助役同十年六月哈爾濱站貨物副站長となり同十一年十二月現職に就く【趣味】柔道野球音樂【信仰】佛教【家族】養母みち子(安政五年)妻とし子(大正一、一一生山形縣北浦吉造二女宮内高女卒)長女和子(昭一〇、二生)二女陽子(昭一、八生)【住所】哈爾濱松花江街六七ウエルサリ・ホテル



岡崎得郎
正八位勳八等、滿
鐵職員、奉天鐵道
事務所事務課勤務
【本籍】埼玉縣北葛
飾郡堤郷村【生年
月日】明治四十
一年四月一日【履
歷】

故三藏二男【學歷】東京商業を結成昭和二年滿鐵鐵道教育所卒業【經歷】昭和二年三月滿鐵に入社し大石橋勤務三年一月大連列車區大石橋分區勤務同十一月入替五年九月四平街驛勤務六年七月長春列車區四平街分區同十二月四平街驛勤務十年三月構内助役十一年一月新京驛構内助役を經て十二年五月現職に就く【職務】新京體育聯盟委員【特記】此間陸軍歩兵少尉に任じ昭和六年乃至九年事變の功に依り從軍記章及建國功勞章を賜ひ勳八等瑞寶章を有す貨物輸送及構内作業統制上の研究漢からず【趣味】梅若漢曲都山流尺八樂馬【信仰】家宗日蓮宗【家族】母和か妻久美子(大五、二生四平街伊藤起一郎長女)長男亮(昭九、一〇生)【住所】奉天鐵道事務所事務課

三正山陸

朝鮮總督府廳託、武久商事(株)取締役、朝鮮物産販賣所代表者【公的關係】社團法人朝鮮貿易協會奉天支店理事【出生地】兵庫縣淡路郡屋敷町【本籍】同上【生年月日】明治廿五年四月【學歷】中學校を結成陸軍士官學校に學ぶ【經歷】大正二年淡路釜山土城町郵便局長を勤むる傍ら海陸物産商賣盛商會を經營昭和二年之を武久商事株式會社と變更取締役となり同七年四月職督府より對滿貿易に關する調査を囑託せられ釜山商工會議所議員



菊紫一
勳七等、在郷陸軍
上等看護長、勳
醫院主、醫部【公的
關係】帝國在郷軍
人會社丹江分會長
社團法人滿洲軍用
大協會社丹江支
部長【本籍】山口縣吉備郡秋津村【生年月日】
明治廿二年四月十二日【履歷】爲之助三男義に分
家せる六二家を構つる普通稱泰直【經歷】大正八
年十二月現職をなし同四年十二月第五師團附三等
看護長同十一年十一月第十九師團附二等看護長
同十四年十二月同師團附一等看護長等に歷職昭和
七年十一月大阪聖成病院院長久我閣下より醫師
技師證書を受け同月上等看護長に任じ野砲兵
第二十五聯隊附となる同八年九月羅南に於て連
備役仰付られ同時に團員に於て勳章醫院を賜
同年十月田中團員副領事より醫業免許指合第二
一九號同九年二月開業醫合格證書第三號を永井
間島總領事より各授與する同三月牡丹江に移り

團に參加漢滿才辦來奉天に留まり調査報告の傍ら同八年一月以來朝鮮物産販賣所を經營前記武久商事及朝鮮水産物輸出組合等の販路開拓に従事す【事業】日下大連に支店哈爾濱新京に出張所を置き従業員十五名年商高二百萬圓内外尙近く同族出資五十萬圓の合資會社に改組の計畫【趣味】讀書テニス【信仰】基督教【家族】妻道子(明三二生)長男雷三(大一一生奉天中藥在)長女美和(大六生)二女澤子(大一一生奉天高女在)【店舖】奉天浪速通三三電二三二四三五

大正四年關東移り推計料理屋組合檢査醫安田生
命第一生命員倉生生命員清生命各保險會社職員醫
を兼ね今日に及び此間同十年八月現所に本據を
移せり尙傍ら牡丹江在郷軍人分會長牡丹江居留
民會評議員大新京日報支局長牡丹江日衛隊長牡
丹江醫團會理事牡丹江神社建設委員滿洲軍大協
會社丹江支部長民衆時論社理事牡丹江支社長
長等に選任せられて各方面に活躍盡し殊に在
郷軍人分會は氏が率先組織せるもの又南牡丹江
前忠魂碑建設のために奔走最近は稻荷神社の
建設發起人として盡力す【特記】昭和七年一月粉
炭使用可燃燒無煙式湯沸器同裝置を考案特許第
九四二二二號を受く大正九年事變の功に依り從
軍記章及勳金昭和三年大禮紀念章拜受同五年從
勳八等同九年滿洲事變の功に依り勳七等青色
桐葉章從軍記章建國功勞章を各賜り又同十年二
月帝國在郷軍人會長より謝狀及金壹五五同上年
狀十一年一月牡丹江支部長より感謝狀及銀壹一
租を各授與する【趣味】尺八曲曲庭球軍大剣育調
練【家族】母ウメ(慶應三生)妻松子(明三八生)長
女一枝(昭二生)長男泰成(昭三生)二女龍枝(昭
一〇生)【住所】牡丹江平安街二ノ六電七三五



部正晃
滿鐵職員、皇姑屯
機務段技術主任
【本籍】福島縣石城
郡鹿島村大字下矢
田【生年月日】明治
三十六年十月九日
【履歷】政治ノ五男
三十八年十月九日

【學歷】昭和二年早稻田大學理工學部機械科卒業
【經歷】昭和五年十二月鐵道省に奉職し同六年三



田増剛
勳八等、滿鐵職員
皇姑屯電氣段庶務
助役【本籍】長野市
大字鶴賀間御所町
一三四四【生年月
日】明治三十七年
一月二十三日【履
歷】

【故作治郎長男】【學歷】大正十一年長野縣立商
業卒業【經歷】大正十二年五月鐵道省長野電力區
昭和七年二月上海事變召集同五月召集解除次で
名古屋鐵道局電氣課電氣修繕場勤務同八年十二
月任鐵道省書記依願免本官次で滿鐵入社鐵道局
奉天鐵道局派遣員同九年四月奉天鐵道局總務處
文書科辦事員同八月皇姑屯電氣段庶務助役長同
十一年三月同防助副組長兼務を經て同十月現
職に就く【特記】鐵道八等瑞寶章滿洲事變の功
に依り從軍記章及勳金拜受「建者て暮せ」を處世



岡田克巳
從五位勳五等、勳
五位、滿鐵鐵道警
務局長【公的關
係】消費組合奉天
區總代【本籍】岡山
縣邑久郡太田村二
一七一【生年月日】
一七一【生年月日】

明治十九年十月廿三日【履歷】故義孝二男【學歷】
大阪陸軍地方幼年校を結成明治四十一年五月陸
士卒業【經歷】明治四十一年十二月少兵少尉に任
じ大正二年四月北滿駐屯軍附屬三年七月原隊に
復歸爾來臺灣第二聯隊附步兵第五四聯隊大隊副
官同聯隊中隊長同十五年三月任步兵少佐兵務委
員首座乘馬委員長昭和二年一月陸軍工務學校に
將校學生として入學同三月同退學同年八月豫備
役編入按仰付同年九月大阪鐵道製造會社製作部
長東京市社會局陸軍省囑託在滿鐵滿洲總務部主事
を經て大同二年二月滿洲興安省警察局長に轉じ爾
來同警察科長北滿鐵道接收處理委員興安省警察
等法院檢察事務處理費正に歷任機構改正後依願
免官となり昭和十年十一月鐵道局總務處總務課
となり同時に同局監造鐵道警務局附となり今日
に及ぶ【特記】滿洲事變にて勳五等旭日章及從軍
記章滿洲國建國功勞章奉天帝功日紀念章を賜ふ兵
務局長に滿鐵十【趣味】劍道【信仰】神道【家族】妻
松枝(明三〇生岡山縣八田久次長女岡山高女卒)

地方部庶務課勤務奉命同十四年四月地方部地方課勤務同十五年六月開原地方事務所勤務昭和三年十一月長春地方事務所勤務同五年六月地方部地方課勤務同九年四月四平街地方事務所地方係長同十一年八月新京地方事務所地方係長に歴勤同十年十月現職に就く【籍記】昭和十二年三月國都建設紀念式典準備委員市民部幹事を委嘱せらる【趣味】園藝釣魚ゴルフ【信仰】眞宗【家族】父義次(明一)生母ゆき(明一)七生 妻喜和(明一)七生島根縣人田野儀次(八女)【住所】新京羽衣町二ノ七電三二七五



北岡 啓

正八位、海軍豫備少尉、交通部技佐、路政司水運科勤務【公的關係】滿洲軍用大協會幹事【本籍】高知市小高坂四〇二ノ二【生年月日】明治三十四年三月十日【籍貫】傳ノ長男【學歷】京都中學を経て大正十五年神戶高等商船學校航海科卒業【經歷】大正十五年十二月甲種二等運轉士免狀を受く同年海軍豫備少尉に任官し正八位に叙せらる昭和二年一月日本タンカー株式會社に入り關東海上勤務員として各船に歴乗し遠洋航路又は三菱造船所及横濱船渠に於て新造船の積裝に従事す同五年七月甲種一等運轉士免狀を受け大同二年二月滿洲國外交部總務司に奉職同年六月依願退職す同七月滿洲國交通部哈爾濱航政局に奉職康德二年八月交通部事務官に任じ路政司勤務となり次て技佐に任じ現職に就く【功賞】建國功勞章大勳章紀念章皇帝



岡本 雄一

動六等、大阪市主事、大阪貿易調査所長【公的關係】哈爾濱高女評議員【本籍】熊本縣鹿本郡稻田村字下高橋【生年月日】明治廿六年十一月一日【學歷】東京外國語學校卒業【經歷】昭和九年分家一家を創立す東京外語卒業直に東京築地地場商會に入り外國貿易に従事在神戸英支東洋貿易株式會社(英國籍)に轉勤次て陸軍省委任通譯官を拜命勲六等に敘せられ内務省警保局外事課に轉勤浦羅德在勤を命ぜらる大正十三年大阪市役所に奉職本廳上海天津哈爾濱を歴任し現在に至る【趣味】乗馬釣魚【家族】妻リツ(明三〇)八生長女淑子(大八)一、生福岡女專在(二)女美智子(大一〇)六生哈爾濱高女在(長男浩哉(大一二)一、生熊本縣立鹿本中學在)【住所】哈爾濱道裡石頭道街六五電三九八〇

山田 岩太郎 謙和鐵工廠技師長【出生地】福井縣遠敷郡雲濱村竹原第十四號學東廣演一【本籍】大阪府北區鶴野町三七【生年月日】明治廿年五月十五日【學歷】東京立教學校京都染色學校各卒業【經歷】明治四十一年大阪府建築工事監督吏員を奉職自四十二年至四十五年米國建築技師ガブナー建築事務所勤務自大正元年同五年大阪預買商會本店技師

訪日記念章授與【趣味】乘馬旅行狩獵【信仰】佛敎【家族】父母(明七生)母岩尾(明一)一、生弟先(明三)八生東京電機學校卒業黑河恒電業公司支配人兼技師長【住所】新京建和胡同建和ビル

明坂 秀子

訪日記念章授與【趣味】乘馬旅行狩獵【信仰】佛敎【家族】父母(明七生)母岩尾(明一)一、生弟先(明三)八生東京電機學校卒業黑河恒電業公司支配人兼技師長【住所】新京建和胡同建和ビル



實松 儀市

戰後渡滿苦悶數年後奉天に於て向野野一氏經營の茂林洋行に入り同洋行一部の事業たる硝子器製造方面を擔當し後同洋行經營權一切を譲り受

部擔任昭和五年三菱商事大支店土木建築部技師自大正五年至昭和八年大阪府北區本條町二五同市同區北區町第三區第七號及同市同區鶴野町三七に於て給水衛生煙房汚水淨化裝置濾水器設計製圖監督及工事請負業自營等を経て昭和八年奉天機械工作所總務主任として渡滿合資會社滿洲工作所技師長に就任次て同十年まで同社哈爾濱出張所長兼哈爾濱工場工場長同十一年奉天本社總務部長に歴職同十二年現職に就く義に大阪市教化委員同市北區國防協會幹事大阪地方裁判所陪審員等たり【住所】新京錦町三丁目第一錦ビル二階三〇號・留守生大阪府豐能郡池田町石橋中之島



岡林 好茂

【學歷】縣立第一神戶中學三高等を経て昭和六年東京帝國大學法學部法律學科卒業【經歷】昭和五年十月高等試驗行政科に同六年十一月同司法科に各合格同七年七月京都帝國大學院に入り沙見三郎教授指導の下に金融の研究に従ふ同八年九月滿洲國監察院審計部職員となり康德元年十月國務院總務廳屬官主計處勤務を経て同二年十一月同廳事務官に進み企畫所勤務を命ぜられ今日に及ぶ【職務】貨幣金融論に關する造詣深し【趣味】哲學文學【信仰】眞宗【家族】妻八壽重(明四四)生山口縣人磯邊八重妻女京都市立第

國務院總務廳事務官、企畫處勤務【本籍】大阪市西區江ノ子島東ノ町二六【生年月日】明治四十一年四月一日【籍貫】源十郎長男【職務】源十郎長男【職務】源十郎長男

けて經營せしが其後陶磁器硝子器商に轉じ今日に及ぶ【實業】茂林商會と稱し小西關に營業所を置き玻璃器・玻璃器・玻璃器・輕便器・洋燈其他卸を主とし仕入先大阪・名古屋・有田方面奉天中心に滿鐵沿線に牢固たる販路あり【店舗】奉天小西關電四二六六【住所】同新高町三電五四五六



松井 盛隆

動八等、勳六位、專賣總務事務官【本籍】山形縣最上郡白川村【生年月日】明治二十五年十一月二十一日【籍貫】濱盛隆妻(明一)【學歷】明治十四年縣立村山農學校卒業【經歷】大正三年來關東都府廳關東廳各民政署勤務皮子黨出張所を経て内勤となり司法衛生會計事務取扱同九年長春警察署同領事館四平街警察支署司法保安係主任警務高等衛生係主任大連水上署司法衛生係警務保安係高等警察係各主任同十五年十二月任警部副奉天警察署同總領事館に歷任昭和七年三月免官大同元年三月滿洲國東省特別區警察官管理處顧問同十月首都警察廳警正大廳路警署署長康德元年六月專賣公署事務官吉林專賣署署長を経て同三年二月同局專賣署副署長次て專賣科長私私科長を歴て同四年一月現職に就き應任五等特選たり【特記】滿洲事變の功に依り勳八等勳光榮章を第一義とす【趣味】園藝盆栽讀書【信仰】眞宗【家族】妻リツ子(明二七)三、生妻父長女、長男奉孝(大二)生新京工學院卒海拉爾國道局在(二)男喜隆(大六)生折大在(三)男和夫(大八)生新京工學院卒有休市公署在(西

松本 孝輔

滿洲製鐵(株)西安炭礦工作係長【本籍】栃木縣芳賀郡久下田町大字谷田員七四六【生年月日】明治二十六年二月二日【籍貫】福岡縣人常三郎二男戶主【學歷】福岡縣立中學修業會社を経て大正三年被服工科學堂電氣工學科卒業【經歷】大正三年十二月日韓瓦斯電氣會社入社同四年八月京城電氣會社入社同五年一月辭職同十一月臺灣總督府作樂所奉職同八年三月依願免官支那江蘇省嘉興平湖電燈公司技師次て江西省景德鎮電燈公司技師各依託同十年五月北海炭礦汽船夕張礦同十一年十二月同夕張礦施設自家用電氣工作物主任技師昭和二年七月新夕張礦機主任心得同四年十月同礦選炭主任心得同六年七月同社電氣燈所工務主任心得同月同所電氣事業主任技師同八年一月室蘭電燈會社北海炭礦出張所技師主任等を歴任同十年一月滿蒙に入り技術部技師職務後現職に就く【住所】奉天省西安縣滿洲炭礦株式會社西安炭礦工作係長社宅



佐木 保次郎

正六位、勳四位、在滿鐵軍歩兵少佐安東地方警察學校教官【出生地】山形縣【本籍】東京市小石川區大塚坂下町五五【生年月日】明治十五年十一月一日【經歷】宗元五男【學歷】明治三十九年陸軍士官學校卒昭和二年東京帝國大學

經濟學部卒業【經歷】陸軍士官學校卒業後陸軍歩兵少尉任官留學滿洲國同歩兵少佐に任ぜらる此間秋田縣隊附臺灣守備隊附朝鮮會隊守備副官秋田旅團副官以前師團副官等に歴補し後支那北京に留學す又西北利亞出兵に交通部員として出征す大正十三年陸軍委託學生として東京帝國大學經濟學部に入り昭和二年卒業次で負傷の爲依願退職し日本新聞社に入社す滿洲事變後渡滿北滿鐵路護路軍總司令顧問副軍總司令顧問滿洲國哈爾濱警察廳督察官警察廳隊長龍江省公署督察官を経て昭和十一年四月吉林省公署督察官となり同十二年二月現職に就く【特記】文章に長じ「精神講話」「戰術問題決心理由書」「下士教育方案」「文學戰術論」「銃術學案」等の著あり【家族】妻舞子(明二八生)長男太郎(大七生)三男和夫(八一七生)長女初枝(八一四生)【住所】安東八道溝安東地方警察學校



吉野 幸

勤八等、滿鐵職員
團列車隊長【公的關係】團員居留民會議員【本籍】富山縣射水郡二口村
中村四五三【生年月日】明治廿四年十二月十七日【讀柄】故力藏三男【經歷】鄉里高等小學校卒業後中田町吉田醬油店に入り三年勤履明治四十年十一月渡滿兄の經營する店務に従事すること四ヶ月同四十二年二月滿鐵に入る同四十二年四月滿鐵養成所に入所四十二年十月卒業留來車掌及助役として石橋子草河口火石橋橋下戸屯遼陽樹膠南攻鳳城吉林等處昭和九年

八月現職に就く【功賞】滿洲事變にて勤八等に敘され從軍記章並滿洲國建國功勞賞を賜ふ【趣味】盆釣魚大弓野球【信仰】眞宗【家族】母せん(明二生)妻マサ子(明二四、一一生)京都府田原房次郎妹)長男通(大六、九生)【住所】同島省國體鐵路局宅一八ノ二電二四八



大 山 壽

正八位、滿鐵副參事、經理部會計課現金係主任【公的關係】在將軍人會滿鐵中央分會監事【本籍】鹿兒島市新屋敷町七九【生年月日】明治卅一年十月廿七日【讀柄】故茂十郎三男【學歷】大正十年大阪商學堂【經歷】大正十年四月滿鐵に入社地方部衛生課勤務同七月計理部會計課勤務昭和四年兼滿洲工業專門學校講師同六年三月計理部會計課主任を經て同八年八月特殊會計課主任に就く調査研究並に會計事務に於ける技術的改善研究の爲め滿二ヶ年間歐米各國に留學を命ぜらる同十年更に渡米カルフォルニア大學に於てマスターング教授に就き會計學を專攻同十一年二月命經理部會計課收納係主任同八月同課現金係主任同九月副參事に就任現職に就き同十二月會計課長伊ヶ崎卓三不在中代理を命ぜらる【特記】在將軍軍歩兵少尉にして昭和十一年四月十五年勤履を表彰さる【趣味】柔道(四段)前柔道有段會計幹事尺八【著作】『信仰』『實業』『家族』妻美子(明三八生)東京本定八郎女神戸市立高女幸味琴「大授厚免許」長男生花)長男綱美(昭二生)長女シヅ子



北 房 義

勤七等、北里洋行主、警務用具品各種軍需品防海團製團旗類諸官振技製規格物印刷物アルミ製品消火器販賣【出生地】熊本縣阿蘇郡南小國村大字赤馬場四七四九【本籍】同上【生年月日】明治卅一年二月八日【讀柄】万次ノ

【學歷】高等小學校卒業警務部補給部考試合格【經歷】同に補給部卒へたる後龍東廳警務官として渡滿し爾來各地に歴勤累進して關東廳警務部補給に任ぜらる次いで滿洲國に轉出し警務部警務指導官として建國の鴻業に携はり康徳元年依願退官と同時に實業界に志し北里洋行を興して豫而通曉せる滿洲事情と滿洲建國時に於ける官界事情を利用して諸官商御用達として諸材料提供を目的とする現業を開始爾來指摺經營今日に及ぶ【事業】資本金三萬圓從業員十數名を使用し其仕入先は東京大阪名古屋大連新奉天等取路は濱江龍江黑河の各省公署濱江龍江三江黑河吉林開島の各省內縣公署在哈爾濱日滿各軍部及諸官公署等その年商高十五萬圓内外【趣味】數理に關する研究【信仰】佛教【家族】妻ジユマ(明三八生)長男典昭(昭三生)【店舗】北里洋行ハ爾濱濱科街五〇電六八三五



藤 康 治

勤八等、滿鐵職員
團員鐵路監理所監理員【本籍】秋田縣南秋田郡北浦町字北浦【生年月日】明治廿四年四月廿三日【讀柄】故久助三男【學歷】大正六年通信講習所卒業【經歷】大正八年滿鐵入社四平街驛に勤務同十五年新京驛昭和十年三月北鐵接收に際し同接収員として派遣され同七月團員鐵路辦事處勤務となる同年十月職制改正に依り現職に就く【特記】通信關係業務に造詣深し滿洲事變の功により勤八等現業及從軍記章並滿洲國建國功勞章を賜ふ【趣味】圍碁尺八歌留多運動弓道釣魚【信仰】禪宗【家族】母シミ(明六生)妻トキエ(明三八生)秋田縣佐藤哲司長女)長男潤(八一四生)三男公(昭七生)長女恭子(昭五生)【住所】同島省國體山ノ手局宅一九ノ一



岡 本 清 志

勤八等、滿鐵職員
揚柏保探採所工作係主任【公的關係】機械學會、滿洲技術協會會員【本籍】鳥取市行徳二八五【生年月日】明治卅九年一月一日【讀柄】藤藏長男【學歷】鳥取一中を経て昭和四年旅順工科大學機械科卒業【經歷】昭和四年五月滿鐵に入社し揚柏保探採所に勤務同年七月東郷同八年五月古城子探採所各勤務同十年四月同探採所勤務同六月機械係技術指導員を歴勤し同八月現職に就任す【特記】炭礦機械に關し殊に造詣深く從軍記章建國功勞章を賜ふ



三 崎 市 郎

東發公司(名)代表社員、周水土地建物(株)代表取締役、成三洋行、東裕公司各(株)監査役【公的關係】財團法人大連語學校、同羽衣女學校各理事【出生地】香川縣丸龜市【本籍】同上【生年月日】明治十三年十一月廿八日【讀柄】士族熊之助長男【學歷】明治三十四年第一高等學校中途退學【經歷】明治三十四年橫濱正金銀行に入り上海天津長春營口等各支店歴勤の後大正十年大連支店副支配人



鬼 頭 常 郎

鬼頭鐵工所經營主
一級鐵工業【本籍】名古屋市中區錦田町六ノ六【生年月日】明治卅一年八月九日【讀柄】常治郎長男【經歷】鄉里高等小學校を卒業後直ちに實業界に投じ日本車輛會社に勤務し次で川崎造船所に轉じ勤履七年餘後大阪鐵工所を経て浦賀船渠會社に在る事一年餘大正十二年關東大震災に遭ひ郷里に還り同十三年名古屋市中に於て獨立鬼頭鐵工所を開業從來一貫して鐵工方面に従事練磨せる手腕を發

解して漸次運送を降順せるが満洲事變後北滿の將來に着目昭和七年齊々哈爾濱に移り現所に開業満鐵軍部官公署方面の工事を請負ひ目下邦人十七名滿人二十餘名の従業員を使用年請負高六萬圓内外を算す【功賞】關東大震災當時人命救助にて神奈川縣知事より表彰される【信仰】眞言宗【家族】妻しむ(明三三三)男貴志男(大一一五)弟豐次郎(明四一)生)同久晴(大五五)【住所】東頭鐵工所齊々哈爾濱中央馬路二ノ一電二三五四



策頁部渡

【職柄】十族誠一郎二男(學歴)大正二年縣立山形工業學校機械科卒業【經歷】大正二年四月東京海軍造兵廠工部局に奉職同三年十月退職同五年九月沙河工部局に入ると同七年九月機械課同九年十一月創立工場同十四年六月沙河工部局工課同十五年一月大連工場同六月鐵道工場同九月創立工職場助役等を經て同八年五月奉天鐵道局に派遣され同九年四月皇姑屯工廠勤務となり同六月同監理科計畫股主任兼調査股主任を拜命同十一年九月皇姑屯鐵道工場と改稱後も引續き勤務今日に及ぶ【特記】入社以來一貫して機關車の新造並に修理工作に従事し實際家として上下の信望を蒙る【功賞】昭和七年十五年勳章表章を受けまた滿洲事變にて被勳八等及從軍記章並滿洲國建國功勞章を賜ふ【趣味】野球圖書【信仰】淨土宗

【家族】妻し(明四〇、一三)生山形縣長百川秀隆二女大連彌生高女卒(長男修一(大一一五)生)【住所】奉天紅葉町二〇

林田龍喜

從六位、關東局事務官、普蘭店民政署長【公的關係】普蘭店農會長、同森林組合長同獎學會長、同購買組合長、滿洲水産會滿洲棉花協會、滿洲果樹組合、日本赤十字社各普蘭店支部長、國防婦人會、愛國婦人會各普蘭店支部顧問、在奉軍人會普蘭店分會顧問【本籍】熊本縣鹿野郡川尻町六四八(生年月日)明治廿七年一月三日【職柄】小七郎長男(學歴)昭和三年東京帝國大學法學部政治學科卒業【經歷】昭和二年高等文官試驗行政科に合格し同四年關東廳書記兼關東廳參事兼命關東廳參事官房內務局庶務課長兼關東廳大學講師兼關東廳海務局理事官庶務課長を経て昭和八年二月關東局事務官に任じ現職に就く高等官五等たり【趣味】戶外運動關東軍支那滿洲の研究【信仰】眞宗【家族】妻久子(大一一六)生熊本縣立八代高女卒(妹紀子(大一一四)生熊本縣立第一高女卒)【住所】關東州普蘭店南山街電二二五



裕丸師法

滿鐵職員、吉林電氣保安助役【本籍】福岡縣門司市【生年月日】明治廿六年二月一日【職柄】師法長男(學歴)大正十二年電氣學校卒業【經歷】大正七年九州鐵道管理局に奉職工務課電氣修繕工場勤務同十年



柳庄助

關門製作所(資)代表社員【本籍】山形縣南村山郡上山町鶴野町【生年月日】明治廿八年八月四日【職柄】庄吉三男(學歴)大正八年米澤高工機械科卒業【經歷】大正八年三月北海道室蘭市輪西北海道製鐵會社技手に就職同一年十一月合併に依り日本製鋼所技手となる同十一年東京市芝罘田中德五郎工業所に聘せられ朝鮮製鐵會社永安新設工場の擴張工事に於ける大阪鐵工所納品の粗立工事に従事す同十二年より翌十三年十一月まで福島市曾根田福島製作所に勤務同十五年富山縣庄川水力電氣會社技師に聘せらる滿洲事變後渡滿圓們に於て一柳鐵工所を經營昭和八年合資會社圓們製作所と改組改稱し代表社員となり新興社丹江に出張所を開設目下主力を牡丹江に注ぎつゝあり【事業】滿鐵指定工事請負人にして鐵工業並に一般土木請負業を營み一般機械設計製作各種鐵工並製鐵工事煙房水道並衛生工事鐵橋鐵塔並各種鐵構物製作電氣瓦斯配管及切斷自動車修繕並部分品販賣各種鐵工材料販賣を主要營業科目とす【趣味】讀書【信仰】時宗【家族】妻のぶ子(明三三三)長男正(大九九)二男健二郎(大一一)生)長女良子(大一一五)生)【住所】牡丹江金鈴街電五四

井高政

滿洲製鐵(株)總理兼監査金係主任兼商事部主任(出生地)下關市東町三四【本籍】同上(生年月日)明治廿八年二月廿八日【職柄】故龜次郎長男(學歴)大正十二年豐浦中學福岡高等學校を経て昭和四年東京帝國大學經濟學部經濟學科卒業【經歷】昭和四年六月大東京鐵道株式會社入社庶務課を経て經理課勤務となり同九年二月滿洲製鐵株式會社に轉じ會計課勤務となり後現職に就く【家族】妻芳枝(明四〇、五)生新潟縣人桃井山太郎長女)長女雅子(昭六)生二女瑛子(昭九)生)姉きみ(明三六)生)弟清孝(大九九)生)妹博子(大一一)生)【住所】新京興亞胡同一〇二蘭花莊電二四九八八



黒木新平

【經歷】夙に癡癡を卒るや實業界の人となり精勵實務に通達大正七年渡滿し同八年奉天に於て株式仲買業を經營同十年開原取引所株式仲買人となり活躍す昭和七年二月齊々哈爾濱に移り財神廟街に木炭薪海産物米穀商を開設事業の好況に善處する所あり同十一年九月龍華路の新商店街に支店を開設和洋雜貨化粧品文具藥品衛生材料醫藥機械等の販賣をなす等進くまで時流に投じて誤らざ益々將來を嚮望せらる目下店員八名を使用す【家族】妻ツノ(明三〇)生)妻女ツヤ子

東京鐵道局新橋保線事務所新橋通信區勤務昭和九年十二月退職と同時に渡滿吉林鐵道局に奉職吉林電氣段に勤務し善に信誠副段長たり後職制改正にて現職に就く【特記】鐵道電氣信號並保安裝置工事關係に經驗深し【趣味】釣魚水泳【家族】父琴井松(明五、一)生)妻みゆき(明三九、九)生)大分縣南嶺十二女)長男裕美(昭六、二)生)長女克子(昭一一、五)生)【住所】吉林數島街一六ノ一八電局内六二五



澤三

【職柄】五男(學歴)大正三年渡滿し大連市滿鮮實業社に勤務せしも故ありて同社を辭し大連長春間七〇一軒八〇〇米を數十日を費し徒歩旅行にて長春に到着次で前滿鐵理事當時長春驛長たりし小日山氏に見出され同五年五月滿鐵入社同七年奉天驛車掌見習同年十月爲冠山驛助役同十一月四月奉天列車區に再轉爾來五龍背驛助役同驛助役等に歷任し昭和六年八月得驛長に就く【特記】滿洲事變に際し得驛長として克く軍警の行動を援助し或は社外線派遺員として職責を完了し功勞に依り被勳八等賜賜實草從軍記章滿洲國建國功勞章拜受稱頌時代は滿鐵地方委員副議長たり【趣味】實生徒滿洲曲調釣魚銃獵【家族】妻悦子(明三〇)生長男龍馬(大一一)生)



藤左門

【經歷】大正十二年渡滿滿鐵に入り撫順炭礦庶務課倉庫土木器具係たる傍ら社内工事監督等をなし大正六年楊柏係の給水業の外農業肥料石角石の搬出販賣煤炭タダシの製造黒煉瓦製造に従事し更に細川組出張所主任として土木建築請負業を營み今日に及ぶ【特記】獨立事業開始以來二十餘年逐年榮容を擴大し現在の仕入先販路は撫順奉天大連等にして日鮮滿人三百餘名を使用年商内高八萬圓餘を算す【趣味】乘馬【信仰】日蓮宗【家族】妻イッヅ(明二七、二)生)長男其(昭二、三)生)二男(昭四、一)生)二女當代(大一一〇、六)生)三女登美子(大一一〇、一〇)生)同(上)四女春美(大一一三、三)生)同(上)五女照子(昭六、二)生)【住所】撫順東二條通九電二二一八二〇二二

山口世基

旅順製氷(株)取締役、山口商會(資)代表社員【公的關係】旅順市會議員【本籍】佐賀縣杵築郡武雄町【生年月日】明治元年七月【學歴】農科大學中退學【經歷】農務試驗に合格明治廿年農務組合長となる同廿九年八月大連に渡り現所に山口商會を起し牛肉販賣業を營む昭和七年奉滿蒙牛肉の

内地輸出に好成绩を収め兼業たる雜貨商及機印
石綿製造業亦進らず同八年資本金三萬圓の合資
組織に改め又新京通遼南等に出張所を設け昭和
九年五月夫夫創業の旅順製水合資會社を同十
年十月株式會社に改む此間旅順市會議員二回當
選曾て參事會員たり【家族】孫光基(東京遊學中)
五男水津文男(明三八、五生旅順製水當務)【店
舖】旅順市青葉町六七電二四九



古井兼松

勳八等、滿鐵皇姑
屯檢車段長【公的
關係】社員會奉天
第一聯合會評議員
同第十九分會代表
消費組合總代、縣
人會顧問【本籍】秋
田縣南秋田郡寺内町一九一【生年月日】明治十六
年一月十四日【學歷】明治廿七年工手學校夜學部
普通科修了【經歷】同廿八年五月野戰鐵道附同四
十年七月沙河工場勤務を経て大正三年三月沙河
河口實業補習學校優等卒業同四年三月奉天車輪
係同八年八月大連車輪係同九年七月大連機關區
同十一年六月兼運轉車員養成所講師同十一月
大連運轉事務所同十二年四月大連鐵道事務所
和二年十一月奉天鐵道事務所同五年六月大連車
輪事務所同六年一月安東檢車區長同八月待命大
同元年十二月瀋海鐵路局瀋陽機關區長(參事)等
を経て康徳元年四月現職に就く【功賞】滿洲事變
にて勳八等及從軍記章並滿洲國建國功勞章を賜
ふ【特記】客貨車檢修方面に造詣深し一視同仁不
干渉主義を處世訓とし【趣味】園藝釣魚園藝基金魚
【信仰】曹洞宗【家族】妻千代(明一八生秋田縣人

富樫八十郎(女)長男清(明四五生滿洲國大實習
中)二男司(大八生奉天中學卒)三男豐(大一〇生
同上在)四男新(大一二生同上)五男顯(大一一
生)長女律子(大五生奉天高女卒)二女義子(昭三
生)【住所】奉天平安通二五電三二九七九、局内
二八六〇



東 敏 雄

滿鐵職員、皇姑屯機務段運轉助役兼機關
士【本籍】鹿兒島縣薩摩郡隈元城村東手八
一五【生年月日】明治廿五年一月廿日【禮
柄】早稲長男【學歷】大正八年滿鐵從事
員養成所卒業【經歷】大正七年十月滿鐵に
入社し大連車輪係同九年三月撫順車輪係
同十二月奉天機關區同十一年六月撫順
機關區同十一年十一月遼陽機關區同十五年十
一月大石機關區等に歴勤昭和十一年四月皇姑
屯機務段運轉助役長となり同十月現職に就き
同十二月機士檢修を命ぜらる【功賞】昭和九年
四月十五年勳章表章を受く【家族】長男瑞雄(大
七、二生)二男芳積(大一〇、六生)【住所】奉天皇
姑屯滿鐵機務段



鈴木忠治

族】妻一枝(明二、生)長男野田俊女(秋田
高女卒)男(大七生)長女信子(大一〇生)二男
清(大一二生)三男浩(大一四生)【住所】奉天奉平
町七電三三三二九一、滿洲特許法律事務所
同八電三三三二九一、五四九五、同新京車
務所、新京日本總領事館前電二一四〇五八、三
三〇三七



福井倉吉

滿鐵職員、海拉爾
電氣段電氣助役
【公的關係】前工學
院同窓會上海支部
長、前日支國民同
協會幹事、社員會
消費委員【本籍】秋
田縣仙北郡大町大町三七【生年月日】明治廿四
年一月二日【禮柄】故喜久治長男【學歷】大正三年
東京工手學校電工科卒業【經歷】大正三年七月埼
玉縣秩父鐵道に奉職同六年七月東京電氣化學工
學株式會社電氣課に轉じ十年十一月上海日華紡
織株式會社動力係を経て昭和七年八月滿鐵に入
社鐵路局勤務となり大同二年十月滿鐵鐵路局に
派遣され康徳一年四月滿鐵鐵路局工務處齊々哈
爾濱在勤工務員拜命同八月齊々哈爾濱電氣段電力副
段長同二年一月命滿鐵鐵路局工務處電氣科齊々
哈爾濱在勤工務員同十一月命四平街電氣段電力
副段長昭和十一年十月四平街電氣段電力助役を
經て同十二年二月現職に就く【特記】電力工事設
計監督に精通す【趣味】音楽讀書運動【信仰】基督
教【家族】母キタ(明元、六生)妻ミサ(明二五、一
一生秋田縣阿部留五郎長女東京和洋裁縫女學校
卒)長男一郎(大一一、二生東京智山中學在)二男



山田 平 耕

遼東モーターズ、中央ビルホテル各(株)
取締役、滿洲不動貯金、大連土地建物各
(株)監査役、日本鐵道公司(資)社長、中
日實業興信社々長【公的關係】滿蒙經濟調
査會々長【本籍】和歌山縣那智郡池田村
【生年月日】明治廿五年一月十九日【禮柄】
房太郎二男【學歷】東京帝國大學法學部修
業【經歷】大正十四年三月滿洲合資會社中日實業
興信社入社昭和四年五月同社々長に就任同六年
三月合資會社日本鐵道公司社長就任同年九月滿
洲不動貯金監査役同十年十一月大連土地建物監
査役同十一年六月遼東モーターズ取締役に同十年十
月中央ビルホテル取締役に各就任十尙ほ大連ガ
ゼット理事滿海興業理事たり【趣味】ゴルフ園藝
【家族】妻よし子(明三九生東京赤坂高女卒)【住
所】大連市大黒町一二四電三一〇〇一



中島 信 太 郎

大東洋行(名)代表
社員、木材商【公的
關係】關門商工會
議所會頭、關門内
地人民會々長、關
門防衛團副團長、
關門材木商組合長
【本籍】高知縣下田町六九【生年月日】明治廿七年
三月廿五日【禮柄】故金之助長男【經歷】尋里にて
學を卒へ大正六年鈴木商店に入社し安東縣にて
服務せしが昭和二年退社同三年より朝鮮漢口に

入社公主嶺車輪係製鐵工たり同九年十一月兵役
の爲め依願退職同十一年十一月公主嶺機關區檢
房方同十三年二月同修繕方同十五年十月四平街
機關區昭和五年一月安東機關區修繕方同六年十
一月修繕工長同九年十一月技術員等に歴勤同十
六年現職に就く【功賞】滿洲事變にて勳八等及從
軍記章並滿洲國建國功勞章を賜ふ【趣味】釣魚野
球薩摩琵琶【信仰】眞宗【家族】妻照(明三四、六生
宮城縣大久保政治妹)長男利忠(大一一五生)二男
利勝(昭六生)二女重子(昭九生)【住所】蘇家屯德
高町一四五ノ三



有 川 藤 吉

滿洲特許法律事務
所主、辯護士、辦理
士【公的關係】奉天
奉平町會長、三州
會副會長、官廳縣
人會長【出生地】官
廳縣北諸縣郡山之
口村【本籍】同上【生年月日】明治十八年九月廿六
日【禮柄】虎吉二男【學歷】官廳縣官廳郡教員養成
所卒業大正二年日本大學專門部政治科卒業【歷
歷】養成所卒業後官廳小學校訓導を拜命せるが
次で普通文官試験に合格し縣内兒湯郡書記を拜
命す後上京稅務署區役所小學校外務省等に奉職
の傍ら正則英語學校日本大學等に學び大正五年
辯護士試験に合格翌六年十月渡滿して滿鐵に入
りしが同七年八月退社し大連に於て辯護士を開
業し同八年六月長春を経て同十二年十一月奉天
に移り今日に及ぶ傍ら現在奉天市内に貨家數百
戸を有し之を貸貸す【特記】正金滿洲興銀の顧問
辯護士を委嘱せられ事務員二十名を使用す【家



汾 陽 雄 藏

滿鐵職員、孫吳站
長【公的關係】孫吳
日本居留民會々長
【出生地】鹿兒島縣
出水郡出水町【本
籍】鹿兒島市常盤
町八四七【生年月
日】明治廿二年十月六日【禮柄】十八ノ二男【學
歷】明治四十一年三月仁川商業夜學校卒業【歷
歷】明治四十一年八月滿鐵に入り埠頭事務所船
舶保務を振り出しに大正三年管口埠頭事務所同
七年長春埠頭事務所九年安東埠頭事務所同十一年奉
天埠頭に歴勤し同十三年助役試験に合格して石
橋子埠頭事務所各助役を勤め同十五年官廳縣長
となる次で昭和三年十月安東線哈爾濱驛長に轉
じ後哈爾濱鐵路局管内の孫吳站長に轉任今日
に及ぶ【趣味】運動野球(大連管口野球界草分時
代の選手たり)【家族】妻フネ子(明二八生京都府
大谷伊右衛門女)長男滿(東北帝大法學部在學)
二男典(哈爾濱鐵路局八區站勤務)長女婦美枝
(大連雙葉學院在學)二女紀美枝(大連神明女
在學)【住所】北風縣孫吳站驛局局長宅第二號

平井孝雄

正七位、關東法院判官、地方裁判官兼高等法院覆審部判官【本籍】埼玉縣北足立郡加納村大字小針領家一九〇【生年月日】明治七年四月二十一日【學歷】縣立浦和中學浦和高校を経て昭和三年京都帝國大學法學部卒業同大學入學【經歷】昭和四年四月司法官試補同七年十月判事に任じ東京地方裁判所判事兼東京區裁判所判事代理を命ぜらる同八年十月關東廳法院判官に任じ現職に就く此間昭和十年二月被正七位【住所】大連市清水町一



河合光榮

正八位、在野陸軍砲兵少尉、滿鐵職員、大連鐵道事務所築港區長【公的關係】社員會連鐵聯合會評議員事業部長、消費組合大連區總代【本籍】新潟縣刈羽郡西通村橋場九二九【生年月日】明治廿八年二月十六日【學歷】故辰治四男【學歷】柏崎中學を経て大正十四年三月南滿工業專門學校土木分科卒業【經歷】大正十四年四月滿鐵に入り鐵道部計畫課勤務となる同年十一月第一號非役同十五年十二月非役を免じ埠頭事務所勤務同十六年十一月大連築港事務所勤務同十八年八月臨時井井子建設事務所勤務同十五年七月工事部築港課勤務同十六年八月鐵道部港灣課勤務同十七年三月現職に就く【功賞】滿洲事變の功に依り賜品從軍記章【趣味】乘馬將棋散步【信仰】日蓮宗【家族】妻敏子（明治四、一、二生新潟縣人友野助治四女柏崎町高女卒）二男徹（昭和八、三、生）三

松山三理

勲三等、神學教士【出生地】新潟縣高田市中殿町通町【本籍】同上【生年月日】明治十一年十二月【學歷】舊稱原藤原南條能隆投信行三男明治十九年六月分家【學歷】專門學校中途退學【經歷】幼少より基督教に歸依する事約十年此の間神學士宗義宗の各宗教を學び後千家の門に入り大社教士師として東京に於て布教に従事す明治廿七年七月野戰鐵道提理部工場班附として渡滿明治廿八年大社教關東州布教使同大社教滿洲分院理事同十四年同院長同十四年大連神社宮司大正四年大社教々同滿洲分院院長同七月大連神社教立同六年大連神社宮司同七年社團法人大連神社創立大社教旅順教會所創設産靈教の創始者の外關東州及び南滿洲線に於ける神社十ヶ所の神靈勸請並に鎮祭式を擔任せり又滿鐵中間驛從事員就學子弟廿二名のため明治四十年より同四十二年迄三年間學園なる寄宿舎を設く【功賞】昭和十一年十月一日關東局施設廿年記念に際し社會事業功勞者として表彰せらる【住所】大連市光明臺一五電四一五四六



原田藤太郎

勲八等、滿鐵職員新官驛橋内助役【本籍】愛知縣海老町大字海老【生年月日】明治廿三年二月廿八日【學歷】利根叔父【學歷】利根叔父【學歷】利根叔父

男健（昭一〇、六生）【住所】大連市桃湖臺一七七電二一九一〇

平尾兼藏

高松屋商店主、和洋品雜貨、化粧品玩具卸小賣商【公的關係】撫順第六區町内會幹事【本籍】香川縣被野郡田村一八二三【生年月日】明治十年十一月廿六日【經歷】日露戰役中陸軍御用達商として渡滿大連に於て現業を開始せしが間もなく奉天に移り翌四十二年支店を撫順に設け更に翌年奉天本店を撫順に移す當地同業中の老舗たり昭和十年三月撫順第六區町内會幹事に就任す【事業】東京大阪名古屋方面より仕入れをなし従業員十二名商内高四萬五千圓を計上す【信仰】眞言宗【家族】長男正雄（大一生撫順中學卒）同妻千代子（大川生香川縣川崎谷次長女坂出實踐高女卒）【店舗】撫順中央大街三〇電二〇七三



谷本誠

正六位、中央觀衆臺技正、臺長心得【出生地】東京市本郷區根津宮水町【本籍】香川縣高松市濱ノ丁一五三【生年月日】明治廿一年九月六日【學歷】富ノ三男【學歷】京都府立一中一高を経て大正十四年三月東京帝國大學理學部天文學科卒業【經歷】昭和二年四月氣象調査事務を委託せらる同五年九月氣象臺技師に任じ中央氣象臺に勤務同六年八月中央氣象臺沖繩測候所長に補せられ七年四月中央氣象臺沖繩支臺長

功を以て同九年八月現職に就く【功賞】滿洲事變の功に依り勳八等旭日章從軍記章建國功勞章賜金各拜受【趣味】園藝（蘭花俱樂部幹事）盆栽讀書【信仰】曹洞宗【家族】妻ツナ（明三七、一、生大分縣橋本谷五郎長女）長女花子（昭二、三、生）二女節子（昭三、二、生）三女和子（昭五、四、生）四女榮子（昭八、一、二、生）五女京子（昭一〇、八、生）【住所】新京蓬萊町一ノ六



永井人雄

正五位勳三等、醫學博士、在野陸軍軍醫大佐、吉林國立醫院院長兼附屬醫學校長【出生地】福井市清川上町【本籍】東京市豊島區駒込二丁目二五三【生年月日】明治十九年七月二日【學歷】福井縣士族故熊太郎長男【學歷】明治四十年金澤醫學專門學校卒業後陸軍々醫學校に於て慶應義塾大學藥理學教室に各研究を重ね【經歷】大正三年陸軍一等軍醫に任じ東京砲兵工廠に勤務同九年三等軍醫正として朝鮮平壤砲兵醫院長を命ぜらる昭和元年陸軍造兵廠醫務科長同三年近衛師團軍醫部々員同六年任陸軍一等軍醫正東京第一衛戍病院附同八年岐阜衛戍病院院長同九年依願待命引換き陸軍火工廠職託たり康徳三年八月滿洲國々立醫院醫官に任じ現職に就き今日に至る此間昭和八年八月大提出の學位論文「ヂウレチン」による血液滲透壓の變化により醫學博士の學位を受く【特記】臺灣討匪西伯利亞出征歐洲戰濟南事變滿洲事變に参加授賞す處世調は報國丹心公平無私慈惠【趣味】讀書旅行【信

に轉補し康徳三年滿洲國に轉出同九月十四日中央觀衆臺技正に任じ現職に補せらる【特記】颯風の研究及實地に關して造詣頗る深し【趣味】煙なものをなし【家族】妻初枝（明三、四、生黒田友之助長女大坂大才前高女卒）長男健（大一生新京中學在）次男伸（大一生）長女美和子（昭七、生）四男康成（昭九、生）【住所】新京特別市南嶺中央觀衆臺電二一四二八八



宮本信七

正六位、中央觀衆臺技正、臺長心得【出生地】東京市本郷區根津宮水町【本籍】香川縣高松市濱ノ丁一五三【生年月日】明治廿一年九月六日【學歷】富ノ三男【學歷】京都府立一中一高を経て大正十四年三月東京帝國大學理學部天文學科卒業【經歷】昭和二年四月氣象調査事務を委託せらる同五年九月氣象臺技師に任じ中央氣象臺に勤務同六年八月中央氣象臺沖繩測候所長に補せられ七年四月中央氣象臺沖繩支臺長

有馬純三

醫學博士、大陸科學院研究官【本籍】鹿児島縣日置郡加治木町反土二八四【生年月日】明治廿九年二月廿日【學歷】縣立加治木中學校七高を経て大正九年東京帝國大學理學部化學科卒業【經歷】大正九年七月慶大醫學部講師同十一年九月財團法人北里研究所講師昭和四年四月合資會社有馬紀念化學研究所々長財團法人化學研究所講師同七年三月同上業務解職等を経て康徳二年八月現職に就く處任一等たり此間昭和四年四月論文「ノドケ根の新配糖體」ヲケンジ及び其化學的構造」に依り東北帝大より理學博士の學位を受く【家族】妻三笠（明二、七、生文學博士紀平正美長女府立第一高女卒）長男純作（昭五、生）長女博（昭三、生）【住所】新京大岡大街大陸科學院氣付



安原敬治

安原工務所所長兼建築師【公的關係】認可會委員【出生地】島根縣安原郡波根西村【本籍】同上【生年月日】明治廿五年十一月二日【學歷】東京第二男【經歷】學事修了後建築業に志し後滿洲奉天大會館に入り昭和四年十月獨立奉天に於て建築師安原工務所を開設

【事業】當初は財界不況時に面し基礎確立の勞苦多人の裡に堅實の經營方針を以て邁進し建國後の業界好轉に乘じ今日の盛榮を致せり取引銀行滿洲興業にして資力信用共に所界一方の代表者たり【趣味】園藝【信仰】眞宗【家族】妻つた(明三二生島根縣吉原善六三女)長男謙介(六一二生奉中在)長女朝子(六一〇生奉天高女在)【店舗】奉天霞町四六電三三三三〇



下川 吳市

從七位、安東省公署技佐、民政廳勤務【本籍】福岡縣飯塚市【生年月日】明治廿八年一月廿九日【職柄】故興四郎二男【學歷】大正四年政工學校卒業【經歷】大正四年十一月平壤府土木科に勤務し同六年四月福岡縣支鐵道所測量係主任となる同七年四月技佐管監督を命ぜられ同八年五月辭す同月船木鐵道株式會社に入社同六月朝鮮總督府技手奉命都市計畫課勤務たり同十三年四月平安北道に出向昭和二年慶尙南道に出向昭和九年土木技師に任官從七位に敘せらる同十一月退官し同十二月滿洲國に轉出間爲省民政廳技佐を拜命し土木科長代理を経て十二年五月現職に就く【特記】多年土木事業計畫土木行政を執掌し練達の手腕を稱せらる【趣味】音樂【信仰】眞宗【家族】母康(萬延元生)妻靜江(明治三十七生山口縣岡村精二長女)長男陽正(六一五、一〇生)二男智也(昭四、二生)二女貴希子(昭八、一一生)三女保子(昭一、一四生)【住所】安東安東省公署民政廳



安坂 若雄

安坂商店主、金物材料商【公的關係】新京材料商組合幹事、德島縣人會幹事、白菊小學校父兄會評議員【出生地】德島縣美馬郡貞光町【本籍】同上【生年月日】明治廿九年三月廿二日【職柄】全藏長男【學歷】那校卒業【經歷】明治四十二年三月朝鮮清津港に上陸建築金物商井原支店に入店其後京城支店を経て奉天支店支配人となり大正十二年退店して安坂商店を開設現業に從ひ昭和四年頃より一時米粟精米業を兼ねしが建國以來之を廢し同九年四月新京に支店を設け同支店に主力を注ぎて今日の盛榮を致せり【事業】安坂商店は個人經營にして本店は開原大和街二一仕入先は大坂東京從業員は十四人年商内高二十萬圓取引銀行は滿洲興業及新京銀行決算は年末一圓にして新京所界有名商店たり最近納税額百八十五圓餘【趣味】讀書【信仰】眞宗【家族】妻千賀子長男達雄二男孝次長女千恵子二女松代【店舗】安坂商店 新京興安大路四〇二電 二一三八四八・一六四五・一三四五

從六位、醫學博士、滿洲醫學大學教授兼同醫院院長兼醫長、同專門部教授、同看護婦養成所長、同大學評議員【本籍】兵庫縣出石郡出石町下谷一【生年月日】明治十八年五月二十一日【學歷】明治四十四年京都帝國大學醫學科大學卒業【經歷】明治四十四年十一月見習醫官步兵第八聯隊附となり爾來任陸軍二等軍醫轉重兵第四大隊附日本赤十字社



河野 通男

從六位、醫學博士、滿洲醫學大學醫院院長兼醫長、同專門部教授、同看護婦養成所長、同大學評議員【本籍】千歲縣長生郡東村【生年月日】明治卅一年九月四日【職柄】故住作ノ三男【學歷】昭和二年慶應義塾大學醫學部卒業【經歷】昭和二年四月慶大病理解剖學教室に勤務同年九月滿洲國に入り衛生研究所勤務を命ぜられ同十一年六月現職に就任【特記】滿洲事業の功に依り勲六等に敘せらる【趣味】園藝旅行讀書【信仰】天台宗【家族】妻郁子(昭四〇生長野縣人蔭藤千壽長



渡邊 柳一

從七位、安東省公署技佐、民政廳勤務【本籍】福岡縣飯塚市【生年月日】明治廿八年一月廿九日【職柄】故興四郎二男【學歷】大正四年政工學校卒業【經歷】大正四年十一月平壤府土木科に勤務し同六年四月福岡縣支鐵道所測量係主任となる同七年四月技佐管監督を命ぜられ同八年五月辭す同月船木鐵道株式會社に入社同六月朝鮮總督府技手奉命都市計畫課勤務たり同十三年四月平安北道に出向昭和二年慶尙南道に出向昭和九年土木技師に任官從七位に敘せらる同十一月退官し同十二月滿洲國に轉出間爲省民政廳技佐を拜命し土木科長代理を経て十二年五月現職に就く【特記】多年土木事業計畫土木行政を執掌し練達の手腕を稱せらる【趣味】音樂【信仰】眞宗【家族】母康(萬延元生)妻靜江(明治三十七生山口縣岡村精二長女)長男陽正(六一五、一〇生)二男智也(昭四、二生)二女貴希子(昭八、一一生)三女保子(昭一、一四生)【住所】安東安東省公署民政廳

前滿鐵參事、(元齊々哈爾濱鐵路局文書科長)【公的關係】前齊々哈爾濱日本人居留民會、齊々哈爾濱日滿青年會各副會長、協和會龍江會會長、滿鐵教育會各評議員

【本籍】福島縣富岡町毛萱濱畑三三【生年月日】明治二十四年三月十日【職柄】八十郎ノ三男【學歷】明治四十二年仙臺通信管理局通信生養成所卒業【經歷】明治四十一年福島師範博物理科助手四十二年富岡郵便局通信事務員四十四年入替除隊後大正二年九月滿鐵入社運輸課勤務爾來郭家店驛鳳凰城驛務方瓦房店車掌等として現業に従ひ後運輸部庶務課に轉じ安東鐵道事務所人事係主任を経て大正十四年鐵道部計畫課庶務係主任昭和二年四月工務課と改稱後も引續き同主任に任じ八年十一月鐵路總局に轉じ翌九年四月沅南鐵路局文書科長となり同十年七月鐵路局齊々哈爾濱に轉じ共に同局文書科長に就任十一年九月副參事に列す十二年四月命參事同時に待命總局勤務を命ぜられ同五月退職【特記】昭和四年四月十五年勳績の表彰を受く創立以來の滿鐵社員會評議員にして昭和七八兩年度の如き常任幹事兼宣傳部長として其善處を稱さる後齊々哈爾濱聯合會長たり【家族】妻メシ子(昭二七生福島縣橫山梅吉女)男剛(大四生)【住所】前奉天鐵道總局

山本 國平

山本商會主、縣內商(公的關係)大連水上商會合會監役、大連信濃町小賣市場組合評議員【本籍】靜岡縣小笠原郡比木村【生年月日】明治八年十月一日【經歷】日清戰役後臺灣に渡りしが明治三十七年日露戰役勃發に際し軍隊用運商平岡組に屬し第二軍附として從軍同三十九年四月柳樹屯を經て大連に到り獨立陸軍用運商を營む後ち信濃町市場開設と同時に移轉す繼に大連市役所の前身衛生組合委員又明治四十一年市場組合長同評議員信濃町區委員市場商興株式會社重役たりしことあり【信仰】曹洞宗【店舗】大連市信濃町市場内六〇電二一四五八七



淺岡 時哉

從六位、鐵道監督署理事官、承德鐵道監督署鐵道科長【本籍】山形市地蔵町九三ノ一八【生年月日】明治二十三年一月一日【職柄】故昭茂三男【學歷】明治四十年富山縣立農學校畢業本科卒業【經歷】大正六年三月臨時產業調查局に奉職爾來同八年九月農商務大臣官房統計課同十一月內閣統計局統計職員養成所講師同十四年十一月內閣統計局統計職員養成所講師同十二年五月臨時產業調查局事務官調査部勤務となり次で同三年五月農務部事務科勤務を経て同十二年現職に就き應任五等たり【特記】子供教育第一主義たり【趣味】庭球スキー【信仰】日蓮宗【家族】妻かの(昭三〇生富山縣喜多受次郎姉)長女文子

山元 喜二

山元洋行主(本籍)鹿兒島縣始良郡蒲生村【生年月日】明治十一年六月【學歷】明治四十二年東京帝國大學工科大学造船學科卒業【經歷】初め神奈川縣に在りて造船學科用造船所設立を計畫せしも中止安東鐵道興油房に聘せられて淺岡次で大阪小野造船所廣島縣吉浦造船所に歷勤大正八年七月川崎造船所大連出張所勤務後滿洲國船務技術局長兼大連工場長となりしが大汽に合併に際し辭任獨力現業を開始【事業】目下大連市榮町二ノ一八に店舗を有し鐵道エナメルペイント機油機器機械工具船舶用品及理化學機械教育參考品並自轉車販賣等を營む【趣味】狩獵弓術撞球【信仰】神道【家族】妻メヨ(昭二〇生鹿兒島縣山元藤之進女)長男道也(昭四三生七高卒)四男壽(六一〇生大連一中在)長女政子(大五生神明高女卒)二女繪子(大八生同上卒)三女みよ子(六一五生)【住所】大連市聖徳街三ノ一五七電四一九四二〇



武内 弘行

九一洋行主、北鮮醬油(株)社長江代理店、食料雜貨卸小賣業及農産物【本籍】廣島縣廣島【住所】大正元年十二月二日【職柄】妻次ノ男【學歷】山口縣高水

三女(長女英子(明四生) 二女みち子(大四生) 三女正子(大一一生) 【住所】安東省安東七番通四丁目電一五



柏木安次

【公的關係】社員會役員【本籍】長野縣北佐久郡南大井村御影(生年月日)明治十四年四月十四日
【學歴】庄九郎三男【學歴】大正十四年三月縣立小諸商業學校卒業大正十五年三月滿鐵鐵道講習所滿鐵科卒業【經歷】大正十五年三月滿鐵に入り本滿鐵勤務昭和二年一月奉天列車區勤務を経て同八年十一月四臺子驛助役となり同九年九月滿鐵助役同十年八月新奉天驛內助役を命ぜられ今日に及ぶ【功賞】滿洲事變の功に依り勳勲八等瑞寶章從軍記章建國功勞章【趣味】音楽(洋樂)讀書寫眞【信仰】眞宗【家族】妻加津子(明四二、二生)長女英子(大四生)長男英通(昭六、六生)二男浩(昭八、一〇生)【住所】新京白菊町三ノ一四ノ二

松山亭

今井商會自轉車部主任、自轉車販賣並修理業【出生地】鹿兒島縣鹿兒島郡谷山町【本籍】同上【生年月日】明治二十五年六月二十二日【學歴】新右衛門長男【經歷】夙に波瀾奉天今井主總管の授房工事請負業今井商會に入り後自轉車部主任に擧げられしが本業の發展に伴ひ大正八年十一月之を分業經營を任するに至り同九年五月現所

神谷儀逸

【本籍】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區
【學歴】大正九年滿鐵從事員養成所卒業【經歷】大正七年十二月滿鐵に入社備來橋頭車輛係機關方同準備方同機關士蘇家屯機關區橋頭分區奉天機關區運輸助役兼機關士に歴勤昭和十年四月現職に就く此間輕油機關講習を修了す【功賞】木杯一組(滿洲事變)昭和九年十五年勳績表【趣味】洋書俳句(號一松)【住所】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區



宮本喜造

【本籍】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區
【學歴】大正九年滿鐵從事員養成所卒業【經歷】大正七年十二月滿鐵に入社備來橋頭車輛係機關方同準備方同機關士蘇家屯機關區橋頭分區奉天機關區運輸助役兼機關士に歴勤昭和十年四月現職に就く此間輕油機關講習を修了す【功賞】木杯一組(滿洲事變)昭和九年十五年勳績表【趣味】洋書俳句(號一松)【住所】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區

【本籍】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區
【學歴】大正九年滿鐵從事員養成所卒業【經歷】大正七年十二月滿鐵に入社備來橋頭車輛係機關方同準備方同機關士蘇家屯機關區橋頭分區奉天機關區運輸助役兼機關士に歴勤昭和十年四月現職に就く此間輕油機關講習を修了す【功賞】木杯一組(滿洲事變)昭和九年十五年勳績表【趣味】洋書俳句(號一松)【住所】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區

橋本伊左衛門

【本籍】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區
【學歴】大正九年滿鐵從事員養成所卒業【經歷】大正七年十二月滿鐵に入社備來橋頭車輛係機關方同準備方同機關士蘇家屯機關區橋頭分區奉天機關區運輸助役兼機關士に歴勤昭和十年四月現職に就く此間輕油機關講習を修了す【功賞】木杯一組(滿洲事變)昭和九年十五年勳績表【趣味】洋書俳句(號一松)【住所】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區



山下伊太郎

【本籍】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區
【學歴】大正九年滿鐵從事員養成所卒業【經歷】大正七年十二月滿鐵に入社備來橋頭車輛係機關方同準備方同機關士蘇家屯機關區橋頭分區奉天機關區運輸助役兼機關士に歴勤昭和十年四月現職に就く此間輕油機關講習を修了す【功賞】木杯一組(滿洲事變)昭和九年十五年勳績表【趣味】洋書俳句(號一松)【住所】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區

有賀種作

【本籍】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區
【學歴】大正九年滿鐵從事員養成所卒業【經歷】大正七年十二月滿鐵に入社備來橋頭車輛係機關方同準備方同機關士蘇家屯機關區橋頭分區奉天機關區運輸助役兼機關士に歴勤昭和十年四月現職に就く此間輕油機關講習を修了す【功賞】木杯一組(滿洲事變)昭和九年十五年勳績表【趣味】洋書俳句(號一松)【住所】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區



藤本榮

【本籍】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區
【學歴】大正九年滿鐵從事員養成所卒業【經歷】大正七年十二月滿鐵に入社備來橋頭車輛係機關方同準備方同機關士蘇家屯機關區橋頭分區奉天機關區運輸助役兼機關士に歴勤昭和十年四月現職に就く此間輕油機關講習を修了す【功賞】木杯一組(滿洲事變)昭和九年十五年勳績表【趣味】洋書俳句(號一松)【住所】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區

【本籍】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區
【學歴】大正九年滿鐵從事員養成所卒業【經歷】大正七年十二月滿鐵に入社備來橋頭車輛係機關方同準備方同機關士蘇家屯機關區橋頭分區奉天機關區運輸助役兼機關士に歴勤昭和十年四月現職に就く此間輕油機關講習を修了す【功賞】木杯一組(滿洲事變)昭和九年十五年勳績表【趣味】洋書俳句(號一松)【住所】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區



山内彦三郎

【本籍】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區
【學歴】大正九年滿鐵從事員養成所卒業【經歷】大正七年十二月滿鐵に入社備來橋頭車輛係機關方同準備方同機關士蘇家屯機關區橋頭分區奉天機關區運輸助役兼機關士に歴勤昭和十年四月現職に就く此間輕油機關講習を修了す【功賞】木杯一組(滿洲事變)昭和九年十五年勳績表【趣味】洋書俳句(號一松)【住所】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區



高橋敬藏

【本籍】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區
【學歴】大正九年滿鐵從事員養成所卒業【經歷】大正七年十二月滿鐵に入社備來橋頭車輛係機關方同準備方同機關士蘇家屯機關區橋頭分區奉天機關區運輸助役兼機關士に歴勤昭和十年四月現職に就く此間輕油機關講習を修了す【功賞】木杯一組(滿洲事變)昭和九年十五年勳績表【趣味】洋書俳句(號一松)【住所】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區

河邊正直

【本籍】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區
【學歴】大正九年滿鐵從事員養成所卒業【經歷】大正七年十二月滿鐵に入社備來橋頭車輛係機關方同準備方同機關士蘇家屯機關區橋頭分區奉天機關區運輸助役兼機關士に歴勤昭和十年四月現職に就く此間輕油機關講習を修了す【功賞】木杯一組(滿洲事變)昭和九年十五年勳績表【趣味】洋書俳句(號一松)【住所】奉天省撫順滿鐵蘇家屯機關區分區

て哈爾濱有數たり【信仰】日蓮宗【店舗】哈爾濱一
面街七二電二五八七



青山 晃

正八位、在陸軍
歩兵少尉、滿鐵職
員、奉天驛構内助
役【本籍】吳市大字
和庄町八二五【生
年月日】明治四十
一年一月二十二日

【續柄】八島淺太郎二男青山ツタヲ養子【學歷】長
春商業學校を経て昭和五年滿鐵道教育所運輸
科卒業【經歷】昭和二年十一月一年志願兵として
入營同五年二月滿鐵入社奉天列車車掌心得同
五月同車掌同九年四月孟家屯驛々務方策助役心
得同十月助役資格試験に合格して同十二月滿井
驛助役となり同十年八月渾河驛助役を経て同十
一年四月現職に就き今日に至る【功賞】昭和九年
四月滿洲事變の功により従軍記章を賜ふ【趣味】
寫眞狩獵讀書【信仰】眞宗【家族】養母ツタヲ(明
一)生(妻トヲ(明四三、二)生)二男幹弘(昭九、六
生)長女愛子(昭一一、二〇生)【住所】奉天藤浪町
二ノ五ノ三

平林初次郎

大連製材(株)取締役、愛知洋行主、味噌滑
豆腐海味原料販賣業【本籍】愛知縣中島郡
稻澤町【生年月日】明治五年一月五日【續
柄】豐助長男【經歷】十四歳の時名古屋に
出て、醬油醸造業美濃屋利兵衛商店に入
り勤積十有八年明治廿七年獨立して村木
商を開業せしが失敗せしが爲多年の經驗を
有する醬油醸造業に轉り同十八年十二月其登

業を廢すると共に大連に渡り岩代町に店舗を設
けて食料雜貨商を開始し現業に轉ず全滿に販賣
網を布けり【家族】妻トヲ子(明一九生)【店舗】
大連市岩代町三二電二二五八六

不田町二雄

昭和製鋼所(株)職員、總務部經理課長【本
籍】高知縣安藝郡田野町二一〇七【生年月
日】明治三十二年十二月二日【續柄】徳次
郎長男【學歷】旅順中學校を経て大正十三
年神戶高等商業學校卒業【經歷】大正十三
年三月滿鐵入社鞍山製鐵所庶務課昭和二
年十月同事務課同五年六月製鐵部庶務課
七年八月鞍山製鐵所庶務課同九月會計係主任同
八年六月昭和製鋼所經理係主任兼會計係主任同
九年八月總務部經理課長代理を経て同十年十月
現職に就き同十二年春より約八ヶ月間重工業に
於ける經理事務に關する研究のため歐米に赴く
【功賞】昭和十一年四月滿洲事變の功に依り賜品
及従軍記章各拜授【住所】鞍山下臺町一ノ二電
二六二〇



新井 三郎

巴屋洋服店主、陸
軍御用達【公的關
係】牡丹江防護團
庶務【本籍】群馬縣
碓氷郡岩野谷村字
野殿二六二四【生
年月日】明治廿三
年一月十一日【續柄】徳次郎三男【經歷】修養を卒
ふるや直ちに前橋市に出て、刻苦洋服の仕立並
に販賣に關する技術を修め昭和八年八月渡滿旅
順市大津町一に獨立洋服商を開業同十年三月



永野 義治

農事試驗場技術、
克山農事試驗場勤
務【公的關係】在鄉
軍人會克山分會副
長、農和會克山縣
本部委員【出生地】
克山農事試驗場
六二【本籍】同上【生年月日】明治四十一年八月廿
日【續柄】喜助二男【學歷】縣立第二克山農中學校
高等を経て昭和六年東京帝國大學農學部農學科卒
業【經歷】昭和六年四月農林助手を拜命滿洲試驗
地詰となり同七年八月農事試驗場技術員試験
地詰となる同十月地方農林技術員に選み官制農
林技術員となる康徳元年五月滿洲國農事試驗場技
正克山農事試驗場勤務となり同七月官制改正と
共に同技佐となり引續き同試驗場に勤務し今日
に及ぶ【特記】康徳二年九月皇帝勅諭記念章を受
く敬天愛人を處世訓とす【趣味】文學讀書【家族】
妻貞里(大西生)長女まゆ子(昭一一生)【住所】龍
江省克山縣克山農事試驗場電二一七

佐藤高瀬

大連製材(株)専務取締役【出生地】長野縣
東筑摩郡坂井村【本籍】同上【生年月日】明
治廿七年十月十一日【續柄】茂三郎長男
【學歷】高田中學校卒業【經歷】一時初等教
育に従事し大正五年渡鮮總督府鐵道局運
輸課に勤務同九年四月奉天省實業株式
會社に轉じ同十二年舊實業實業株式會社に滿洲
精毛公司を起し同十四年三月まで經營同四年四月
東省實業大連駐在員となり翌五月より大陸實業
株式會社職託を兼ねしが同十五年四月現職に就
く【趣味】狩獵【信仰】眞宗【家族】妻とめ(明三〇
生)佐賀縣杉町卯平三女)長男文夫(大一一生)長
女淑子(大一一生)二男二郎(昭三三)【住所】大連
市兒玉町四ノ三電二二七四五

柳澤勇夫

大連製材(株)専務取締役【出生地】長野縣
東筑摩郡坂井村【本籍】同上【生年月日】明
治廿七年十月十一日【續柄】茂三郎長男
【學歷】高田中學校卒業【經歷】一時初等教
育に従事し大正五年渡鮮總督府鐵道局運
輸課に勤務同九年四月奉天省實業株式會社に滿洲
精毛公司を起し同十四年三月まで經營同四年四月
東省實業大連駐在員となり翌五月より大陸實業
株式會社職託を兼ねしが同十五年四月現職に就
く【趣味】狩獵【信仰】眞宗【家族】妻とめ(明三〇
生)佐賀縣杉町卯平三女)長男文夫(大一一生)長
女淑子(大一一生)二男二郎(昭三三)【住所】大連
市兒玉町四ノ三電二二七四五



三橋 勝彦

正八位、在陸軍
歩兵少尉、奉天省
復縣參事官【本籍】
滋賀縣坂田郡大原
村大字天満八〇一
【生年月日】明治三
十五年二月二十七日



岡 綾二

辰巳屋製菓所主、
シネマ、藤ロープ、
各種カレンダー、
扇扇子、ボスター、
ゴムバンド、シー
リング類卸小賣商
【本籍】愛媛縣温泉
郡道後湯之町【生年月日】明治十七年四月【學歷】
中學校中途退學【經歷】舊名を榮次郎と稱す明治
三十九年野戰鐵道付として渡滿次で滿鐵に入り
現業勤務大正十三年十一月退職先は大正八年現
業を開始今日に及ぶ【事業】當店は初め大阪辰巳
屋製菓株式會社出張所として開設され後同所
の主任作野某が其權利を譲受け個人經營たりし
を商號共氏の買収せるものにして扱商品前掲の
多種に亘り同業の唯一たり【趣味】園藝劍道【信
仰】淨土宗【家族】妻梅(明二四生)長女布佐子(大



竹内 信

佛國法學博士、
護士【出生地】三
直縣一志郡豐地村
【本籍】阿蘇郡會
北濱村字村松【生
年月日】明治廿四
年四月廿日【續柄】
近藤憲夫二男秀藏養子【學歷】大正十三年慶應大
學二年在學中高等試驗司法科合格昭和四年巴里
法科大學博士科入學同六年末同大學論文審査に
合格法學博士號を受く【經歷】大正十三年東京地
方裁判所に奉職昭和二年從七位に叙せられ同三
年末判事を辭し司法省及商工省の職務を兼ねて
佛國に留學同七年秋歸朝歸朝護士開業東京第一刑
護士會に入會事務所を交詢社ビルに置く後機を
得て滿洲事變の翌年哈爾濱に事務所を開設日露
滿人間の國際的重大事件を取扱ふ英佛獨語の諸
外國語に堪能なる處より好んで國際的事件を引
受け此方面に於ける權威を以て目ざる昭和十年
更に北支に遷出天津佛國租界中街九七に國際法
律事務所を開き支那滿洲に文字通り南滿北滿の
活躍を續く【特記】學究的人物にして法律學史を
専攻す單行論文に「受益權の本質」「陸軍の沿革
を採ねて其本質を論ず」「伊太利新刑法批判」「伊
太利勞働法」等種々あり又筆名を國信一郎と
號して藝術的に文藝ものを好み「白き處女地」
【續の世活】等フランス文學に關する譯著數種あ
り【住所】哈爾濱中國十四道街五三電五七九四、
國際法律事務所天津佛國租界九七

一二九六號生齒女名【店舗】大連市兒玉町二電
三一〇四三



和田 和

動七等、實踐經驗
 管主、買商貸家業
 【公的關係】奉天千
 葉縣人會長【出生
 地】千葉縣印旛郡
 根郷村太田一四三
 六【本籍】同上【生
 年月日】明治八年十月廿日【經歷】明治廿七年郷
 校補習科二年を卒へ助教員たること一年後ち兵
 役に服し廿九年五月山東省威海衛占領軍に屬し
 て支那に出征同廿年凱旋後も引換き軍務に在り
 卅四年臺灣守備隊に編入基隆に駐在卅五年十一
 月北滿駐屯軍司令部附に轉じ四十年迄天津に勤
 務同年退官其十一月奉天に到り翌年より陸軍用
 達商を開始同十五年之を變じ其十二月實踐院
 を開設す【事業】開業以來個人經營を以て一貫初
 め買商として立ち次て其家業を兼管昭和九年以
 降更に酒造業を兼管益々大を成し奉天老舗の
 一たり本店奉天柳町支店同商埠地内【特記】義に
 奉天買屋同業組合長商業會議所議員地方委員た
 り【住所】奉天柳町一電二一四二二

増田 虎正郎

綿州省泰安縣參事官【本籍】兵庫縣加西郡
 西在田村下道山【生年月日】明治廿五年二
 月一日【學歷】兵庫縣立柏原中學校弘前高
 等學校を経て昭和六年三月京都帝國大學
 法學部卒業同七年六月滿洲國資政局自治
 訓練所に入所大同元年十月大同學院卒業
 【經歷】大同元年十月滿洲國同二年四月輝
 南縣同三年一月雙山縣各屬官を経て康徳二年九
 月島雲縣參事官となり同四年六月現職に就く處
 住居あり【住所】綿州省泰安縣參事官公館

清水 三郎

管口水道交通科(株)取締役【本籍】石川縣河
 北郡小坂村字田中八九【生年月日】明治廿
 四年三月一日【續柄】長太郎四男【學歷】金
 澤第一中學を経て大正六年早稻田大學法
 學部英法科卒業【經歷】大正八年滿鐵に入
 り埠頭事務所勤務同九年四月庶務課同
 十二年七月庶務部庶務課昭和五年六月總
 務部文書課課長主任同八年七月監理課總務係
 主任同九年九月第一係主任同十年六月調査係主任
 等を擧げて同十一年九月參事となり同十月總務室
 監理課調査係主任同十一月昇任となり現職に就
 く【住所】大連市下道町五電四一五五八五



田津 矢方

正八位、滿洲炭礦
 (株)技師、阜新礦
 業所孫家灣炭礦長
 【本籍】熊本縣阿蘇
 郡草部村大字中二
 九九【生年月日】明
 治廿二年五月廿九
 日【續柄】隆三男【學歷】大正十年旅順工科學堂
 卒業【經歷】大正十一年三月支那直隸省宛平縣孫
 家灣炭礦公司に乘職し同年十一月退職同十二月
 旅順重砲兵大隊に入隊翌年滿期除隊す同年十二
 月滿鐵に入社撫順炭礦大山採炭所に勤務し爾來
 班長東ヶ岡採炭所所長班長勤務計畫課主任東ヶ
 岡坑探採係主任監査係監査擔當員同係測量班長
 兼務場採採係主任を経て康徳二年八月滿洲
 炭礦株式會社技師を拜命孫家灣炭礦長に就任同
 三年十一月同社阜新礦業所新設後も引續き其任
 にあり【特記】明朗第一主義を堅持す【信仰】佛教
 【家族】妻トト(明三)四生(長男)長男(昭元)二

茂木 定二

大連汽船(株)船長【本籍】兵庫縣路市浦
 町八【生年月日】明治二十二年八月十八日
 【學歷】東京高等商船學校卒業【經歷】同校
 卒業後運轉士となり昭和二年二月大連汽
 船株式會社に入社して船長に就任し爾來
 同社各船に歴乗して今日に及ぶ【住所】留
 守宅(東京市世田谷區若林町二五一)

正野 友重

動八位、興安北省西新巴旗公署參事官【生
 年月日】明治廿三年十二月廿日【學歷】大
 正十五年日露協會學校卒業【經歷】大同元
 年十一月滿洲國蒙政部に奉職康徳二年十
 一月東新巴旗參事官を経て同三年六月現
 職に就く【特記】康徳元年
 四月より同二年十月末迄興安北省人文地
 誌調査に當り數次僻地に出張【西新巴旗事情】外
 數冊を編纂す同三年二月外蒙國地勢糾紛事件來民
 心憤懣に努む【住所】興安北省西新巴旗公署



山田 好一

農學博士、滿鐵參
 事、中央試驗所食
 品醱酵研究室主任
 【本籍】靜岡縣富士
 郡今泉村今泉一四
 二八【生年月日】明
 治廿七年十二月十
 六日【續柄】國四郎三男【學歷】八高卒大正九年東
 京帝國大學農學部農藝化學科卒業【經歷】大正九
 年八月海軍省より火藥原料研究に關する事項を

山東 直

滿鐵職員、鐵道總局工務課勤務【本籍】熊
 本縣鹿本郡山鹿町【生年月日】明治廿九年
 一月十八日【經歷】大正三年滿鐵其後一時
 内地に引揚げ同七年三月再び渡滿大連に
 居を定め同市役所に奉職す同八年三月滿
 鐵に入社し本社保線課勤務鐵道部工務課
 勤務を経て昭和十一年十月現職に就任す
 【特記】熊本縣山鹿町七神講社の神官免狀を有す
 【趣味】書道篆刻(號瑞屋)【家族】妻久代(明三一
 生)との同三子あり【住所】奉天鐵道總局工務局



邊渡 重徳

遼報毎日新聞社長
 遼海公報社長、遼
 報印刷(株)取締役
 大阪朝日新聞通信
 員【公的關係】遼陽
 地方委員會議長、
 遼陽附屬地衛生委



深町 親重

深町工務所主、土
 木建築請負並貸家
 業【公的關係】奉天
 深町町々内會役員
 【本籍】鹿兒島縣川
 邊郡日村【生年
 月日】明治十八年
 十二月九日【續柄】故納吉長男【經歷】大正三年朝
 鮮總督府鐵務課に職を奉じ同八年義州出張所に
 轉じ同年奉天に移り當初細川組に入りて土木建
 築請負業に従事せしが翌九年奉天稻葉町七に獨
 立當工務所を興し次で南滿製糖會社指定請負人
 となり更に後管口川畑組奉天出張所主任たりし
 が昭和三年頃關係を絶ち以來自家營業に専ら同
 九年七月住宅並に貸家を新築現營業所に移轉す
 【事業】同所は土木建築請負並設計ペンキ水性塗
 貸家業を管み關東廳を主要得意先とす【特記】實



山田 好一

滿鐵職員、牡丹江
 建設事務所勤務
 【本籍】東京市荒川
 區日暮里町六ノ五
 〇三【生年月日】明
 治廿三年十月廿八
 日【續柄】庄太郎長
 男【學歷】大正七年攻玉會工學校本科更に同校研
 究科卒業日本大學高等工學校中途退學【經歷】
 大正七年二月東部鐵道管理局工務課に奉職同年
 十月秋田保線事務所勤務同八年六月以降陸軍西
 線の鐵道工事に従事し同九年六月酒田保線係保
 線手となる同年十二月赤羽近衛工兵大隊第二中
 隊に入隊同十一年十二月除隊直に續進省第一改
 良事務所勤務を拜命し大正十二年十二月鐵道技
 術官上野營各日暮里各線及び附近橋梁工事等
 の測量設計計畫に従ひ大正十三年四月宜永寺線
 橋梁工事係主任として工事を進行する等其間八
 ケ年及び昭和四年神戶改良事務所に奉任神戶
 線改築工事の測量設計工事進行等に從ひ昭和七
 年高榮線開通後竣工事を整理し大阪淡川橋梁工
 事の計畫設計を執掌す昭和八年三月滿鐵に歸出
 鐵道建設局工務課勤務を命ぜられ爾來同四年
 全滿各地並に北支の鐵道建設事務に従事し同十
 一年十月現職に就く【特記】滿洲の鐵道建設請願
 務特に工事進行に關して研究深く昭和十年六月
 「建設要覽」を編纂建設局より發行す【趣味】遊球
 寫眞小型映畫【家族】妻藤子長男弘一二男輝明及

方本位一男努力主義を旨とす【信仰】實業【家族】
 妻みよ(明二)七生(店舖)奉天彌生町二七電二三
 一三四五〇

女明子、女當子【住所】大連市街金町八八ノ四



吉嘉永末

動八等、滿鐵職員
牡丹江建設事務所
事務係次席【本籍】
鹿兒島縣始良郡帖
佐村【生年月日】明
治廿四年十二月七
日【學歷】鐵道教育
所運輸科卒業【經歷】大正十年三月滿鐵に入社し
昭和八年錦州建設事務所勤務となる同九年同所
建設事務所に移り同十年牡丹江建設事務所と改
稱後も引き続き勤務し今日に及ぶ【特記】滿洲事變
に際しては勃發當初より軍輸送に従事し事變の
進展に従ひ齊々哈爾濱熱河の軍輸送に派遣され軍
及建設材料輸送並新線建設に従事し功を以て勳
八等に叙し從軍記章並滿洲國建國功勞章を賜ふ
【趣味】音樂【信仰】神宗【家族】妻百合子【明四一
生】長女和子【昭一子】【住所】牡丹江昌德街五

西原組(資)滿洲營業所主任、土木建築請
負業【本籍】福井縣敦賀郡東郷村葉原【生
年月日】明治廿三年二月四日【學歷】中學
卒業【經歷】風に上建界に投じ後西松組
に入り格納二十餘年現に滿洲營業所主任
たり【事業】同營業所は大正八年一月の開
設現時日人二十數名の從業員を擁し取引
銀行は興銀にして其他各方面の信用厚し尙本
は東京市麹町區丸ノ内二ノ六に所在する資本金
百五十萬圓の合資會社にして大阪府本宮城に各
支店を置き風に本邦土建業界の一方に確固たる
勢力を張り遂に其營業方針の堅實を以て定評あ



吉陸内河安

親和貿易(株)牡丹
江支店支配人、國
營市場(株)取締役
【公的關係】牡丹江
商工會副會頭
同居留民會議員、
同特産組合長【本
籍】福岡縣糟屋郡白村【生年月日】明治二十
年十二月【籍柄】仙吉二男【學歷】明治四十年福
商業學校卒業【經歷】同上卒業後郷里に於て肥料
商及精米業を営みしが明治四十四年釜山に渡航
次て大池本店に入り數年後支店となり爾來大
池回清店朝鮮アヒサ各會社取締役元山水産南
朝鮮自動車松島遊園各會社監査役に就任す後一
時歸郷して父業を繼ぎ安河内酒造業に従ひしが
昭和八年渡滿同島省國營に於て國營市場を創立
取締役任に就任次て同九年十一月開設の親和貿易
會社牡丹江出張所所長となり同十一年支店昇格と

【功賞】滿洲事變の功に依り記念品を受く【家
族】妻及一男【昭三子】【營業所】合資會社西松組
滿洲營業所 奉天宮十町六電三三四五五
滿鐵職員、農事試驗場熊岳分場勤務
【本籍】島根縣那賀郡濱田町大字淺井九七
八ノ一【生年月日】明治廿五年四月十七日
【籍柄】土族眞野弟【學歷】濱田中學盛岡高
等農林農藝化學科を経て昭和三年京都帝
國大學農學部農林化學科卒業【經歷】昭
和三年四月より同十年一月迄京都帝國大
學助手農學部勤務同月滿鐵入社現職に就く【住
所】熊岳城滿鐵農事試驗場分場社宅



岸山 一 亮 立足

北滿貿易商社代表
者【本籍】岐阜縣土
岐郡多治見町二四
三二【生年月日】明
治廿一年十一月二
日【籍柄】仲太郎四
男【學歷】大正六年
大連商業學校卒業【經歷】學を卒業するや直ちに大
連汽船株式會社に入社し勤続一年半の後青島に

春江ビニ(株)代表取締役、大同土地(株)
取締役、宇治商店主、宇治茶葉菓子問屋
【公的關係】春江町會々長【本籍】長野市樓
堂町【生年月日】明治十七年四月【經歷】高
川長野市に於て倉庫金庫業を經營せしが
後北海道に赴き次て大正七年渡滿各地視
察を経て現所に開業後青島町四に支店
を設く奉天名物宇治茶豆は自家考案のものなり
昭和九年稻葉町一四に約三萬圓を投じて三階建
貸店舗及住宅アパートを新築せり【店舗】奉天市
場正門通電三三三三四

共に現職に就き同十二年二月牡丹江特産組合の
創立と共に組合長に推される又轉に商工會副會長
たり【事業】親和貿易會社牡丹江支店は三麥商事
澤野物産各會社代理店にして滿鮮特産物糖粉建
材雜貨を取扱ひ從業員十四名年商内高二百萬圓
を計上せり【信仰】淨土宗【家族】母ウヰ(文久三
年)妻ユキ(明三一生)長男莊一(大七生西南學院
高商部在)二男史郎(八一〇福國商業在)長女和
子(八一〇生)二女昌子(昭二生)三男登山(昭五
生)【店舗】牡丹江太平路電三二七・六三七



吉憲口 滿

滿鐵職員、滿鐵
發電所モシロチ
工場主任【本籍】
佐賀市唐八町三八
ノ二【生年月日】明
治四十年二月十一
日【籍柄】故友一二
男【學歷】佐賀中學佐賀高校理科を経て昭和六年
九州帝國大學工學部機械工學科卒業【經歷】昭和
六年四月滿鐵に入り岩崎部大連在勤同五月
發電所同七年十月後順炭礦發電所勤務を経て
同十一年は同現職に就く【特記】石炭乾餾に就き
研究を重ねつゝあり燃料協會機械學會各會員化
學機械協會正會員たり【趣味】讀書旅行音樂詩棋
【信仰】神宗【家族】妻周子(明四四、二生佐賀縣吉
賀一長女小倉高女福岡女專各卒)【住所】瀋陽
北臺町二ノ一ノ三三電四〇六三

大連取引所信託(株)會計主任【本籍】岐
阜縣義老郡牧田村大字牧田四四〇【生年
月日】明治廿二年六月十五日【學歷】大連
商業學校卒業【經歷】明治四十二年四月岐
阜市十六銀行に入行同四十四年三月退行
同四月貿易商大連原田洋行に入店大正十
二年大連取引所信託株式會社に入社現在
に至る【趣味】讀書【家族】妻カヅ長男瑛【住所】大
連市瀋陽町二二

七喜水 清



七喜水 清

正五位勳三等、勳
三位、陸軍主計大
佐、前滿洲國中央
陸軍訓練處經理兼
成部長【出生地】福
島縣會津【本籍】東
京市小石川區【生
年月日】明治十九年十月廿八日【學歷】東京外



藏國吉末

勳七等、滿鐵職員、
國營市場内助役
【本籍】千葉縣夷隅
郡總野村【生年月
日】明治廿七年十
二月六日【籍柄】己
之吉三男【經歷】學
校卒業後大正四年千葉鐵道隊に入營し同八年六
月滿期除隊となる大正九年一月滿鐵に入社長春
隊に勤務昭和十年七月助役試験に合格し同八月
新京構内助役となり同十二年三月現職に就任す
【功賞】西比利亞出兵にて勳八等旭日章滿洲事變
にて勳七等及從軍記章並滿洲國建國功勞章を賜
ふ【趣味】園藝銃獵犬養我釣魚養鶏【信仰】日蓮宗
【家族】妻アサ(明三〇生長崎縣近藤武八長女)長
男久治(六一五生)【住所】同島省國門詰

茂川 東

正七位、安東省公署理事官、警務廳特務
科長【出生地】石川縣石川郡留村字四ノ
屋【本籍】同上【籍柄】三右衛門長男【生年
月日】明治廿二年五月【學歷】明治四十二
年十月朝鮮總督府道廳長を拜命不安北道
北嶺警察署長を拜命大正三年十一月
北嶺警察署長を拜命同八年十二月奉天警
察署警部補同九年二月警部警務署長同十二
年三月奉天警察署長同十五年六月道警署長同二十
二年三月奉天警察署長同二十五年五月仁
川警察署長を歴任し滿洲國現職に就く【趣
味】園藝【信仰】神宗【家族】妻アサ(長男久
二)六一〇生)長女光子(大八生)【住所】安東縣
通三三公館電一一〇九



那賀郡平

正七位勳六等、東
裕公司(株)常務取
締役(出生地)大分
縣北海部郡白竹町
字戸室(本籍)同上
【生年月日】明治十
三年十一月十三日

【職務】友治長男大正元年家督相續(學歴)白竹高
等小學校卒業(經歷)明治三十三年下關軍艦隊兵
隊に入隊同廿七年七月旅順攻圍軍に参加軍曹に
進み翌年十一月凱旋除隊七等に叙す同廿九年
十一月同郷先賢當時の大連警察署長吉田嘉一郎
氏の幹旋にて關東都府府警署長を拜命同廿五年
警部補廣順民政署勤務大正五年十二月警部同所
警察官練習所教官となり同十一年關東州内に於
て備一名中の一人として内務省警察官講習所に
入所一箇年の課程を卒へ同十二年十二月迄同所
に於て警察官の訓練に従事す同月警務局勤務翌
十二年八月任警視總監子高民政支署長に赴む昭和
三年六月依願免本官同年九月專賣局屬託となる
其間大正十二年八月北支を巡遊せり昭和十一年
九月株式會社東洋公司を設立と同時に其常務取
締役に就任せり【特記】在官中既勤誠實管内主要
道路大改修金福鐵道開通自動車運輸事業官警電
檢會社買收官管化及電氣事業官管化畜産市場開市其
他勳及改良居敷場新設魚市場會社創立及魚價統
制漁業民の保護發展金融組合創設會社民金銀の
圓滑化學校病院新築邦人墓地新設上水道布設及
農事改良並農事移民事業經營の大連農事會社設
立等に功績著しく又在佐邦人の歸國統一及祭政
一統觀念の實を體して大正十四年鏡子高神社を
建立し同月廿日開式式祭典を舉行せり【趣味】書



高木與藏

清水光雄

吉林國立醫院附屬醫學校助教員(本籍)長
野縣更級郡共和村大字岡田二〇三【生年
月日】明治四十四年五月五日【學歴】昭和
九年早稻田大學高等師範部國語漢文科卒
業【經歷】學修後直に渡滿昭和九年八月吉
林國立醫院附屬醫學校日語講師を拜命二
年後康徳三年一月國立醫院屬託となり現
職に就く【住所】吉林國立醫院附屬醫學校

高木洋行主、食料
品卸小賣商、富久
銀代理店(本籍)福
島縣伊達郡小島村
【生年月日】明治十
四年二月一日【經
歴】鄉養卒業後實
業界に投じ明治廿一年北海道に赴き翌年尼港に
渡りハバロフスタに於て商業に従事す事二ヶ
年同廿四年四月哈爾濱に移り獨立雜貨食料品の
貿易に従事す日露戰爭當時は哈爾濱を引揚げ第
一軍臨時助産となり活躍庵谷氏と交りあり戰
後滿洲里に在る事約七年居留民會總代等として
邦人發展に盡す所ありしが大正九年皇軍の撤退
と共に引揚げ沿海州ニコロシタに於て營業同十
一年同地皇軍の撤退に依り再び哈爾濱に移り今
日に及ぶ【事業】公稱資本金一萬圓にして食料品
は内地大産物相半、海産物は北海道産を主とし



榑澤彌吉

森屋物店主、各種買物卸小賣商(本籍)熊
本縣天草郡上津浦村谷合九一二【生年月
日】明治二十九年十二月一日【經歷】大正
六年渡滿長春に到り赤木洋行百貨店に勤
務し同十二年退店して現業に従事同十三
年三月獨立森屋物店を開設し今日に及ぶ
【事業】輸出組合買物部及井上百貨店買物
部の各支店を有し東京大阪より仕入れ店員七名
を使用して市内及滿鐵沿線に商圏を張る尙近
埋立地にも支店を開設の豫定なり【家族】妻廣子
(明三四年生)長男直(大一生)長女幸子(大四五
生)二女知子(昭三生)二男恒雄(昭五生)三男利
夫(昭七生)【店舖】森屋物店(新京三笠町二ノ一
九電三一三二八九)

正八位、在郷陸軍
歩兵少尉、滿鐵參
事、鐵道總局混保
檢査所長心得【公
的關係】滿洲特産
中央會參與、滿洲
製油工場振興委員
會委員、此員會評議員、消費組合總代(出生地)

【功賞】滿洲事變にて勳三等(勳章)【經歷】大正
七年四月十五日【職務】石蔵三男(經歷)明治廿七
年十二月陸兵として丸龜歩兵第十二聯隊補充大
隊に入營し翌年十月任陸軍憲兵上等兵同年十二
月東京戸山學校憲兵養成所を卒業し臺灣憲兵隊
に編入渡臺し在勤九ヶ年此間日露戰役に従軍し
憲兵軍曹に進む同廿九年五月凱旋後渡滿し安東
鎮軍政署勤務となり同九年九月軍政署撤廢の爲め
同年十月新設の安東居留民政務委員會役所庶務
課長となる次で民團法の安東居留民團役所と改
稱後書記長に就任大正十年六月辭任同時に株式
會社協成銀行に入り同七月同行専務取締役任に
任さる此間安東地方委員會委員たる事二期又同
會副議長たり【功賞】臺灣當時の戰功により勳八
等白色桐葉章を賜ひ明治卅一年十二月兒玉源
健督より擢陞の功に依り感賞状を下付され日露
戰役の功により勳七等青色桐葉章を賜ふ【趣味】

【功賞】滿洲事變にて勳三等(勳章)【經歷】大正
七年四月十五日【職務】石蔵三男(經歷)明治廿七
年十二月陸兵として丸龜歩兵第十二聯隊補充大
隊に入營し翌年十月任陸軍憲兵上等兵同年十二
月東京戸山學校憲兵養成所を卒業し臺灣憲兵隊
に編入渡臺し在勤九ヶ年此間日露戰役に従軍し
憲兵軍曹に進む同廿九年五月凱旋後渡滿し安東
鎮軍政署勤務となり同九年九月軍政署撤廢の爲め
同年十月新設の安東居留民政務委員會役所庶務
課長となる次で民團法の安東居留民團役所と改
稱後書記長に就任大正十年六月辭任同時に株式
會社協成銀行に入り同七月同行専務取締役任に
任さる此間安東地方委員會委員たる事二期又同
會副議長たり【功賞】臺灣當時の戰功により勳八
等白色桐葉章を賜ひ明治卅一年十二月兒玉源
健督より擢陞の功に依り感賞状を下付され日露
戰役の功により勳七等青色桐葉章を賜ふ【趣味】



中川源義

勳七等、協成銀行
(株)専務取締役、
安東取引所、安東
取引代行、安東市
場、安東製氷各(株)
監査役(公的關係)
安東商工會議所副
會頭、安東地方委員、日滿合辦農林場評議員、安
東神社氏子總代長、安東憲友會顧問、帝國在郷
軍人會安東聯合分會名譽會員(出生地)德島縣三
好郡山城谷村字佐連(本籍)同上【生年月日】明治
七年四月十五日【職務】石蔵三男(經歷)明治廿七
年十二月陸兵として丸龜歩兵第十二聯隊補充大
隊に入營し翌年十月任陸軍憲兵上等兵同年十二
月東京戸山學校憲兵養成所を卒業し臺灣憲兵隊
に編入渡臺し在勤九ヶ年此間日露戰役に従軍し
憲兵軍曹に進む同廿九年五月凱旋後渡滿し安東
鎮軍政署勤務となり同九年九月軍政署撤廢の爲め
同年十月新設の安東居留民政務委員會役所庶務
課長となる次で民團法の安東居留民團役所と改
稱後書記長に就任大正十年六月辭任同時に株式
會社協成銀行に入り同七月同行専務取締役任に
任さる此間安東地方委員會委員たる事二期又同
會副議長たり【功賞】臺灣當時の戰功により勳八
等白色桐葉章を賜ひ明治卅一年十二月兒玉源
健督より擢陞の功に依り感賞状を下付され日露
戰役の功により勳七等青色桐葉章を賜ふ【趣味】

清水卯治

從七位勳六等、大連汽船(株)機關長(本
籍)新潟縣中頸城郡新井町大字高柳九【生
年月日】明治十二年一月十日【學歴】明治
卅五年商船學校卒業(經歷)昭和四年四月
大連汽船株式會社に入社同月機關長を命
ぜられ爾來勤続今日に及ぶ【家族】調査中
【住所】橫濱市神奈川區鳥越一六ノ一



鈴木峯一

滿鐵職員、哈爾濱
站構内助役(本籍)
山形市五日町五五
二【生年月日】明治
卅一年十一月十六
日【職務】故萩四郎
長男(學歴)大正五



福原昌龍

滿鐵副參事、新京
用度事務所吉林支
所長(本籍)東京市
向島區寺島町一ノ
二〇七【生年月日】
明治二十五年三月
十一日【職務】舊
鳥取藩士にして池田侯の出京と共に轉藩分家し
米子高等女學校校長たりし故福原長男大正十一
年十二月家督相續(學歴)大正九年小樽高等商業
學校卒業(經歷)大正九年四月滿鐵に入社商事部
購買課勤務を振出し同十三年十月上海事務所
物品購買係昭和二年三月本社總經理部用度課同年
九月用度課安東支所を經て同年十一月大連用度
事務所購買係主任倉庫係主任となる次で同七年
三月吉長吉敷鐵路局用度課長となり鐵道總局の
創設と共に新京鐵道局會計課長同九年四月鐵道
總局總經理用度課勤務同十一年十月奉天用度事
務所安東支所長兼事務係主任を經て同十二年六
月現職に就く北同社員會安東聯合會事務部長た

書畫并進【家族】妻菊子(明二一)一長男憲保(明四四)生日大卒。同妻たつ子(大五)生高女卒。【住所】安東驛前通電六五三



山本武男

北滿土木相論役
【本籍】岐阜縣可兒郡春里村【生年月日】明治廿五年一月十四日【職柄】故長三郎長男【學歷】大正十三年日本大學商科卒業【經歷】學校卒業後那里に於て實業に従事す昭和十年二月渡滿哈爾濱に於て第榮壽經營の北滿土木に相談役として之れを後見し今日に及ぶ【特記】夙に支那經濟の研究に從ひ遊説漢から満蒙人に知己多し【趣味】圍碁、棋、球、信、仰、宗、家、族、母、おつら(明一四)生、妻照子(明四〇)生、大阪府藤堂次郎二女、長女節子(昭五)生、二女昌子(昭八)生【住所】哈爾濱外國二道街三〇號電五二七五

山内 記 夫

從六位、奉天神社主任神職【公的關係】全國神職會評議員、滿洲神職會副會長【出生地】岐阜縣可兒郡上之郷村【本籍】同上【生年月日】明治八年一月廿日【職柄】儀七長男家は藤原秀郷十世の孫首藤刑部丞役秀の子山内孫兵行方の裔山内道賢より十三代なり【學歷】明治卅年皇典講究所司業同四十二年學正を受く【經歷】夙に那社小泉神社々々となり傍ら數十社を發務し明治四十五年五月官幣大社多賀神社主典大正六年國幣中社淺間神社宮司を歴任中山製糖々々武田神社を創建す同



河口登

勤八位、郵政管理局事務官兼郵政局事務官、奉天郵政管理局局長を兼ねて今日に至る現時總任官六等たり【功賞】勳八位賜景雲章尙康徳元年建國功勞章及大典紀念章を賜はる【趣味】スポーツ(特に陸上競技野球)【家族】妻英子(山口縣立德山高女卒)長女節子(昭一〇)生【住所】熱河省承德街承德郵政局電一〇九

東 長 治

從七位勳八等、滿鐵副參事、密門工務段長【本籍】宮城縣仙臺市立町一ノ六四【生年月日】明治廿四年六月十六日【職柄】勇副長男【學歷】大正十二年仙臺高等工業學校土木科卒業【經歷】大正十二年三月鐵道省に奉職工務局改良課に勤務次で同年十二月任鐵道技手同十五年四月東京第二改良事務所昭和四年一月同上鶴見在勤同六年五月中央線工事係水道橋在勤同七年六月滿鐵に入社し鐵道部に勤務次で同八年三月鐵道建設局計畫課同六月同局同務同年九月鐵道建設事務所同

十一年三月從六位に陞り翌四月休職となり同年八月現職に就く同十二年并股社務所社室を新築同十三年正門周圍塙を設け昭和四年御本殿を改築す尙此の間岐阜縣山梨縣に於て皇典講究分所試驗委員同分所長神職養成部講師等を歴任し奉天岐阜縣人會々長たり【功賞】昭和五年六月滿洲神職會より特別功勞者として銀章一相同八年臨時計一個昭和十一年全國神職會長より功勞者として銀章一個を受く【趣味】和歌漢詩竹菫南畫著書【新聞】讀報、新報、讀報、國幣中社、滿洲神誌【神道】講義、御大禮、講義【家族】妻おせ(明一〇)生、岐阜縣津島郡青長女、男茂義(明三)生、生京郡皇典講究所教育部卒明治神宮出仕大石橋神社々々司を歴任し現時奉天神社次席神職【住所】奉天奉天町一七電三二二六五二



渡會貞輔

正七位勳八等、關東局警務官練習所東洋協會旅順語學校各講師、旅順工科大学、旅順博物館各囑託、關東局支那語獎勵、巡査補通譯各試驗委員【出生地】栃木縣宇都宮市【本籍】山形縣鶴岡市【生年月日】明治十九年十一月【職柄】士族幹貞二男大正五年家督相續【學歷】明治四十五年東京外國語學校卒業【經歷】莊内中學校卒業後一年志願兵として歩兵第三十二聯隊に入營翌年十一月除隊明治四十五年東京外語卒業後渡滿關東都府府陸軍經理部民政部土地調查部外事部翻譯生東京協會旅順語學校講師土地審査委員會書記支那語獎勵試驗書記等奉天所屬

五年十二月鐵道建設局計畫課同十年一月哈爾濱臨時改良事務所課務主任同十一年二月哈爾濱鐵道局工務處各勤務を経て同年四月現職に就き同十二年四月命副參事【功賞】義に在官中の功に依り從七位に陞り又滿洲事變の功に依り勳八等に敘さる【趣味】彈子道(四段)【信仰】佛敎【家族】妻柳子(明四二)生、宮城縣齊藤惣助長女、長女まり子(大六)生、二女光子(昭一〇)生、三女博子(昭一一)生【住所】吉林省德惠縣密門二義街局宅一一ノ一電局二九



秋山治郎

從五位勳四等、哈爾濱特別市公署技正、行政所勤務、哈爾濱特別市家畜交易市場長【公的關係】馬政局囑託關係、馬政局會理、滿洲軍用大協會理事、哈爾濱支那事務局長【出生地】兵庫縣豐岡町【本籍】京都府熊野郡田村【生年月日】明治二十年八月三十日【學歷】明治四十二年東京帝國大學農科大學獸醫學科卒業【經歷】右卒業後直に陸軍に奉職獸醫官を拜命果通陸軍二等獸醫正に任ぜらる昭和八年(大同二年)滿洲國政府の招聘を受け豫備役被仰付直に同國に轉出赴任して哈爾濱特別市公署技正に任じ行政處勤務に補せられ今日に至る現任二等たり【特記】就任以來畜産保護獎勵發展のため防疫制度の確立實施に努め昭和十年二月滿洲國最初の家畜交易市場を設立し其の市場長を兼任す理想の市場として全滿に範を垂れしものにして又世界屈指と稱せらるる至誠實業の人として知らる

託國東支那語普及會講義員等任職東局通譯官に選みしが大正十年三月退官同時に旅順工科大学囑託となり現に前掲講義を兼ぶ【特記】「支那語叢談」土地調査用支那語會話集「滿洲警察官用支那語會話集」關東廳滿鐵支那語試驗問題註解書「支那語漫談」支那語正音表等の著書あり【趣味】支那骨董古錢切手石器等の蒐集植木養魚釣魚盆戲【家族】妻きみ子(明二九)生、三女藤田所屬吉二女【住所】旅順市日通町六ノ四

島崎 展 美

朝日洋行(支)海拉爾支店代表者、貿易商【公的關係】日本居留民會副會長、海拉爾日本商工會議所創立發起人【本籍】長崎縣南高來郡板谷村五五【生年月日】明治廿九年三月廿四日【經歷】夙に渡滿して實業界に活躍繼に滿洲里五道街に本社を置く合資會社朝日洋行本店に在りしが其の後海拉爾支店代表者として奉海し今日に及ぶ【家族】妻サツ(明四〇)生、長女榮子(昭二)生、二女節子(昭四)生、三女喜久子(昭六)生、二女節子(昭四)生、三女喜久子(昭六)生、二女節子(昭四)生【住所】安北省海拉爾中央大街電一二二

松浦 棟 夫

勤六位、專賣總管技佐、專賣工務長事務專員【出生地】熊本縣【本籍】熊本市井川町一七【生年月日】明治二十九年八月十日【職柄】小野元莊二男同縣人松浦新吉郎の死跡を相續【學歷】九州農專專門學校卒業【經歷】學卒後へ渡滿總管府府陸軍醫院並臺北州港東醫院調劑員勤務次で專賣局技手たる事十餘年大同二年滿洲國財政部專賣公署技佐として奉天工廠に勤務專賣工廠と改稱後も引續き在勤後も現職に就く【功賞】勳六位勳章

增 谷 憲 信

關東軍軍裝品酒保指定工場、不二公司(株)事務取締役【本籍】德島市北山路町【生年月日】明治卅一年八月【學歷】關西大學商科學卒【經歷】大阪に於て材木商に勤務後ち獨立材木輸入商を營みしが昭和七年渡滿翌八年合資會社不二洋行設立に當り支那人となり同十一年六月現職に就く【事業】初め關東軍酒保軍裝部と稱せるを昭和八年合資に同十一年六月資本金廿五萬圓の現組織に改む軍服の外一般背負及各種制服の調製を行ひ従業員四百名年商高約七十五萬圓を算す本店奉天富士町支店新京出張所哈爾濱齊齊哈爾海拉爾駐在員派出所牡丹江公主嶺承德縣【趣味】音樂【信仰】佛敎【家族】妻及三男【住所】奉天蘇州一七



相井清一

勤八等、海拉爾支店代表者、海拉爾支店代表者【本籍】香川縣木田郡庵治村五一九【生年月日】明治卅一年五月六日【職柄】三代次男【學歷】大正十二年渡滿大連滿鐵殖産株式會社入社同十三年天津出張所に勤務昭和七年大連本社詰同七年十二月退社昭和八年一月海拉爾に來りて日本橋本丸日本湯各經營同十年ハチチ新築海拉爾支店

ルと改名今日に至る【職業】洋室日本共五十六
家牧野力八十名女中二十名事務員二名ボータイ
二名板場ボーイ十名海拉爾第一流の旅館たり
【信仰】眞宗【家族】妻花代(明治二生)長女美和子
(昭二生)二女久美子(昭四生)【住所】海拉爾ホテ
ル海拉爾東二道街

男 貞田 樹

樹田貞男商店主、陸軍用進商【本籍】大阪
市北區東野田町三ノ三【生年月日】明治十
六年六月【經歷】風に軍籍に入り一等看護
兵となり大正五年三月退役後滿鐵入社在
職四年同九年十二月滿鐵係大連工業株
式會社青島出張所主任となる大正十二年
退社連山滿鐵消費組合分配所販賣を請
負ふ昭和二年四月連山滿鐵獨立守備隊用進を指名
滿洲事變には同守備隊御用商人として各地に從
軍同九年九月同守備隊御用進者となる【事業】連
山縣に本店橋頭に支店下九台磐石に出張所を有
し吉林を營業所とし【家族】長男智明(大四、一二
生)【住所】吉林大馬路一五九電二三六



村市太郎

正八位勳八等、滿
鐵職員、奉天檢車
區長【公的關係】社
員會奉天第一聯合
會幹事、消費組合
總代【本籍】福井縣
敦賀郡東浦村大比
田【生年月日】明治廿七年一月十三日【讀柄】故喜
市郎長男【學歷】大正十五年南滿洲工業專門學校
機械科卒業【經歷】大正十一年三月滿鐵に入り大
連鐵道部技師となり奉天鐵道部技師となり奉

山 内 勝 雄

勳八等、マスター・オブ・サイエンス、大連
火災保險(株)取締役支配人【公的關係】關
東州火保協會幹事會議長【出生地】福岡縣
糟屋郡志免村【本籍】同上【生年月日】明治
十九年八月四日【學歷】明治四十二年山口
高等商業學校卒業後米國紐約コロンビア
大學卒業【經歷】明治四十二年滿鐵に入社
大連埠頭事務所勤務後滿鐵營業研究の爲歐
米に二ヶ年間留學を命ぜられ大正十年歸朝爾來
運輸部營業課長次席貨物課長代理哈爾濱事務所
調査課長を経て滿鐵關係會社監査役に就任し滿
鐵直系係及參加會社二十三會社の監査役とな
り昭和九年現職に就く【趣味】ゴルフ庭球ハイキ
ング狩猟曲寫眞讀書【信仰】淨土宗【家族】妻須
賀子(明治二四生福岡縣人青木安親妹福岡高女卒)
【住所】大連市龍登町二四電二二七二八二



杉原 環

勳八等、滿鐵職員
新京保線區保線助
役、公主嶺在勤
【本籍】山梨縣東八
代郡石和田町【生
年月日】明治十五
年十一月七日【履
歷】法實孫【經歷】師範卒業後明治三十五年五月
徴兵に合格同三十七年鐵道管理局に就職甲府保
線事務所勤務大正二年八月滿鐵に入り公主
嶺保線係に在勤せしが後同係の解消により新京
保線係の管轄となるに及んで新京在勤たり大正

天鐵道事務所鐵道部運轉課同車務課新京鐵道事
務所等に歷勤昭和九年十一月大連檢車區檢車主
任となり次で大連鐵道事務所車務課客貨車係主
任を経て同十年十二月現職に就く【特記】鐵道車
輛關係に一貫し來り造詣深からず滿洲技術協會
機械學會各會員たり【功賞】滿洲事變にて勳八等
及從軍記章建國功勞章皇帝勳章【趣味】狩
獵讀書運動【信仰】日蓮宗【家族】母と上(明一六
生)妻節子(明四二生廣島縣森岡郡野太郡三女吳女
學校卒)長女美津子(昭七生)長男繁(昭九生)【住
所】奉天稻葉町三六ノ二電社内一四九



秋場 博

正八位、在郷陸軍
歩兵少尉、滿鐵職
員、三棟樹鐵道工
場創立職務主任兼
哈爾濱鐵道工場機
關車廠主任【公的
關係】社員會評議
員、在郷軍人副會長【本籍】千葉縣長生郡東浪倉
村【生年月日】明治廿四年九月五日【讀柄】久太郎
二男【學歷】昭和二年南滿工專機械科卒業【經歷】
昭和二年四月滿鐵入社鐵道部勤務爾來同七月沙
河口工場創立職務同四年七月製鐵部鐵道工場同九
年四月同職補助役同十年三月鐵道工場同十年六
月哈爾濱工場機關車廠主任同十一年十二月松浦
鐵道工場勤務同十二年四月現職に就き今日に至
る【特記】機械特に電氣接學に造詣深し【趣味】
寫眞野球【信仰】天台宗【家族】父久太郎(明五生)
母さか(明九生)妻千代(明二四、一〇生子榮藤田
中二女)長女英子(昭八、六生)二女玲子(昭一
〇、二生)【住所】哈爾濱道七街四ノ二

十三年鐵道局長に任じ昭和十一年二月現職に就く
【特記】滿洲事變に際しては第一回皇軍哈爾濱出
動輸送列車修理班員或は中東部線出動皇軍輸送
列車軌道修理班長として從軍し功あり勳八等旭
日章及從軍記章並滿洲國建國功勞章同皇帝勳日
記念日を賜ふ【處世】無私無邪【趣味】骨董書畫等
【信仰】眞宗【家族】妻モト(明二一、一生山梨縣小
幡郡孝長女)長男甚平(明四三生滿鐵社員)二男
喜兵衛(大二生同)三男正雄(大四生)三女、乃枝
(大一〇生新京高女在)四女政枝(大一二生)五女
美枝(大一四生)五男五郎(昭四生)あり長女玉枝
は奉天吉江昌美に二女靜は滿鐵社員滿鐵誠に各
線才【住所】公主嶺場町二丁目



河瀬 美雄

勳六位、管轄物品
局技佐兼國務院總
務廳事務官、管轄
處勤務、秘書處勤
務【公的關係】日本
工學界衛生技術協
會評議員、滿洲技
術協會新京支部幹事、同煤礦防止委員會幹事
【出生地】廣州市神奈川區藤原町【本籍】同上【生
年月日】明治廿九年十二月十八日【讀柄】早治長
男【學歷】大正五年早大理工科肄業中途退學大正
九年東京高等工業學校機械科卒業【經歷】學校卒
業後渡滿大連の勝本機械事務所勤務其後轉じ
て滿鐵に入り専ら機械技術方面を擔當す大同元
年十一月滿洲國に轉出し國都建設局技正に任ぜ
らる次で國務院總務廳需要處技佐に轉任し其後
官制改正に依り管轄物品局技佐に任じ國務院總
務廳秘書處事務官を兼務今日に至る並任五等た



加藤 鐵矢

從六位勳六等、國
務院地籍整理局總
務處長兼事業處長
土地制度調査會幹
事長、高等土地審
定委員會委員兼幹
事長、商租權整理
委員會委員兼幹事長、中央都邑計畫委員、移民會
議幹事、地籍員養成所長、關東軍團託【公的關係】
協和會分會々長、新京櫻木小學校父兄會評議員
【本籍】鶴岡市八日町【生年月日】明治廿八年五月
廿三日【讀柄】士族又三郎長男【學歷】縣立庄内中
學校を経て大正八年陸軍經理學校昭和三年同校
甲種學生同八年東京帝國大學法學部各卒業【履
歷】大正八年陸軍三等主計に任じ歩兵第四聯隊
附第二團團經理部々員次で軍需に伴ふ陸軍用地
整理主任團團廢止に伴ひ不動產整理主任近衛團
團經理部々員國有財產係主任近衛歩兵第四聯隊
高級主計關東軍司令部附調查科長兼特務部委員
に歷任し昭和九年八月陸軍三等主計正に任じ同
年九月依願備役轉任直に土地局顧問となる
康德二年七月土地局總務處長に任じ同三年三月
退職に就く前任二等たり此間國都建設紀念式典
準備委員會委員を兼任す【特記】陸軍經理學校首
席卒業恩賜銀時計を賜ふ氏は國有財產法並に土
地制度一般に造詣深し【趣味】寫眞將棋球技
【信仰】日蓮宗【家族】妻マサ(明二四、五生神奈川
縣人内野幸左衛門長女小田原高女卒)長男矢一
(大一一、七生)二男文(昭一一、一生)長女多美
子(大一二、三生新京錦丘高女在)二女乃乃子
(昭五、一生)三女邦子(昭七、一生)四女戸久子
(昭九、一生)弟友彌(片岡會社支那人)弟朝

り三國國都建設紀念式典準備委員會主任幹事
を兼ふ【特記】此處「舞臺」舞臺「さし」の演目
如くさむやかにたまはしきは心なり【同
「朝」舞臺「舞臺」たる大觀の廣さを己が心とも
【趣味】運動競技(野球)寫眞旅行【信仰】眞宗
【家族】父早治(慶應二生廣州市在任)妻靖子(明
三六生)長女廣子(昭二生)二女達子(昭四生)三
女聡枝(昭七生)長男廣男(昭一一生)【住所】新京
場習胡同六一四公館電二一四一八一



渡邊 柳藏

滿鐵農事試驗場備
邊分場長事務職
託【公的關係】備邊
城地方委員會議長
關東州外果樹組合
聯合會顧問、瓦房
店果樹組合顧問
【本籍】愛知縣東飯沼郡津村大字廣石九六【生年
月日】明治十五年十二月三十日【讀柄】辰次郎二
男【學歷】明治四十一年廣島高等師範學校博物學
部卒業大正二年東北帝國大學札幌農科大學農學
科卒業【經歷】大正二年八月滿鐵に入り備邊城農
事試驗場分場に勤務同十三年果樹園藝園藝調査
の爲め英米獨備各國に留學同十五年四月歸任と
同時に分場長となる備邊城農事試驗場長職務科長
病理昆蟲科長兼城園藝試驗場長職務等を命ぜら
れ此間昭和五年六月技師に任じ十一年九月社員
制改正にて參事となる同十二年四月依願免職引
續き分場長事務を囑託さる【特記】備邊城在住二
十餘年同地在留邦人を代表する人物として官民
各方面に信望を負ふ其の大正時代は特許生たり
【趣味】曲道水泳美術【家族】妻房子(明二一

生愛知縣岩田虎三女同縣高女卒。二男秀次、大正東大經濟學部在。三男俊雄、大正五高在。四男春雄、大正一〇生旅順中學在。二女芳子、大正七生日本女大在。【住所】熊房城大正街二三電四四



竹内元平

正七位勳五等、勳五位、在陸軍軍主計大尉、專署署長、熱河專署署長、【出生地】岡山縣吉田郡神庭村【本籍】同上【生年月日】明治

正七位、實業部事務官、總務司統制科勤務、兼任臨時產業調查局事務官、調査部第一科第一班主任【出生地】大阪市北區堀之上町【本籍】同市浪速區霞町一ノ一【生年月日】明治四十年十一月廿四日【職稱】教員、二男【學歷】大阪府立今宮中學大阪高校を経て昭和五年東京帝國大學法學部政治學科卒業【經歷】昭和四年十月高等試驗行政科に合格同五年四月農林省耕地部副課に補する事務取

二 勝野平

正七位、實業部事務官、總務司統制科勤務、兼任臨時產業調查局事務官、調査部第一科第一班主任【出生地】大阪市北區堀之上町【本籍】同市浪速區霞町一ノ一【生年月日】明治四十年十一月廿四日【職稱】教員、二男【學歷】大阪府立今宮中學大阪高校を経て昭和五年東京帝國大學法學部政治學科卒業【經歷】昭和四年十月高等試驗行政科に合格同五年四月農林省耕地部副課に補する事務取

授職同六年一月同治水事業に關する事務取扱及大臣官房文書課事務取扱職同十二月同副署に歸する事務取扱職同七年八月任農林廳命書局課長職務同十二月任督林局事務官兼農林事務官命東京管林局兼山林局勤務を経て康徳二年九月滿洲國實業部事務官兼臨時產業調查局事務官總務司統制科兼臨時產業調查局資料部勤務となり同三年五月現職に就く【經歷】同【職務】讀書【信仰】神教【家族】父教吉【明三生】母マツ【明一三生】妻美代子【大三生】美城縣出身【住所】新東京朝陽胡同三〇七



中谷忠三郎

中谷時計店(名)代表社員、貴金屬並時計直輸出入卸商【公的關係】社會事業マコト會長【出生地】奈良縣宇陀郡山崎町【本籍】同上【生年月日】明治十七年六月三日【經歷】夙に渡滿明治四十年奉天城內小西門南小什字街に中谷和松號と稱し現業を開始し小賣專門店を浪速通に新設次で大正十四年三十數萬圓を投じ中谷ビルディングを設立昭和四年現店舖を改新築中谷時計店奉天支店と改め同十一年五月合名會社中谷時計店と改組外に貸家業をも營み今日に及ぶ尙ほ氏は現時主として大阪に居住す【事業】同店は本店を大阪市浪速區河原町一丁目に支店を新設日本橋通一七に各設置金貨印掛置時計製造發賣元時計貴金屬ダイヤモントヒスイ寶石金銀鍍器記念品和洋茶器食器酒器喫煙具花瓶眼鏡レンズ及眼鏡修理計萬年筆ペンシル賞牌徽章製作寫

授職同六年一月同治水事業に關する事務取扱及大臣官房文書課事務取扱職同十二月同副署に歸する事務取扱職同七年八月任農林廳命書局課長職務同十二月任督林局事務官兼農林事務官命東京管林局兼山林局勤務を経て康徳二年九月滿洲國實業部事務官兼臨時產業調查局事務官總務司統制科兼臨時產業調查局資料部勤務となり同三年五月現職に就く【經歷】同【職務】讀書【信仰】神教【家族】父教吉【明三生】母マツ【明一三生】妻美代子【大三生】美城縣出身【住所】新東京朝陽胡同三〇七

置機材料優勝旗製作ゴールドコイン電氣時計金貨印タイムレコーダー滿洲土産各種を取扱ひ名古屋に直屬工場を有す從業員百二十名取引銀行を正金滿洲興業各銀行香港上海パンクとし現時一族出資公稱資本金二十萬圓を擁す【特記】月刊まこと新聞を發刊就誠信の普及に努力し生活改善同業會より賞状を受く中谷ビル屋上に一萬五千餘圓の自動電氣時計を設置す【信仰】誠【家族】母(安政元生)及八名【住所】奉天春日町三電三二六五五・二九一七・三七三七・三二四九

森英男

勳七等、滿鐵顧問、鐵道總局電氣科勤務【本籍】福岡縣山門郡柳河町常盤町八【生年月日】明治卅三年二月三日【學歷】大正十年旅順工科大学專門部卒業【經歷】學校卒業後滿鐵に入り鐵道部電氣課に勤務昭和七年鐵道總局電氣科に轉じ同九年滿南鐵道局工務處電氣科長となり同十二年三月現職に就く【功賞】昭和十二年四月十五年勳表【職務】讀書音樂【家族】四人【住所】奉天鐵道總局工務局電氣科



石田武夫

奉天信託、奉信無盡各(株)代表取締役、滿日通商銀行(股)監察人、共信無盡(株)監査役、奉天保險公司總督主、保險代理業【公的關係】奉天商工會議所會頭、滿洲特產中央會評議員、奉天觀光協會副會長、滋賀縣人會會長、全滿

小賣部管理委員會委員【本籍】滋賀縣大上郡高宮町【生年月日】明治八年四月【職稱】滋賀縣製造業石田武平男明治卅四年家督相續【學歷】明治二十九年東京專門學校卒業【經歷】明治三十七年十月小樽新聞記者として第七師團に從軍翌三十八年一月旅順陷落後奉天軍に参加康平縣に進入約半年を經過和成立と共に同新聞社を辭し約一ヶ年同長春吉林方面を遊歴同四十二年奉天に日支合辦の輸入雜貨貿易業を經營大正二年以降奉天倉庫金融株式會社々長奉天銀行頭取奉天新聞社長等に就任す此間商工會議所議員たる事多年四度會頭に推される又地方委員會議長居留民會長たりしことあり昭和六年十一月日本産業協會より邦人産業助成功勞者として表彰する現に在奉三十年記念會發起人たり【趣味】園芸乘馬造園(近江園と稱し二萬坪の名園あり)【家族】妻秀子(明二一生涯滋賀縣中村耕治女東京音樂學校卒業味津樂長三味線)長女三惠(大七生)【住所】奉天木曾町九電二二三〇六・二二二二



竹澤吉信

勳八位、齊々哈爾濱市技佐、工務科長【本籍】長野縣更級郡更級村四五六【生年月日】明治廿四年五月三日【職稱】竹澤佐助ノ三

男【學歷】大正四年東京工科學校本科卒業【經歷】明治四十四年十二月徵兵に合格歩兵第五十聯隊に入營大正四年六月青島守備軍司令部圖工を拜命勳績二年同六年六月滿鐵に入り土木課職員たり同十三年八月東京市役所技手昭和六年一月川



石田榮造

大信洋行(株)取締役社長、滿洲亞細亞(株)取締役、鐵鋼材並建築材料商【公的關係】大連商工會議所常議員、大連市區長、財團

法人大連基督教青年會副理事長、女子專門學校又業學院理事、大連土木建築材料商組合幹事【出生地】富山縣西礪波郡石動町【本籍】大阪府港區北境川町一ノ二三【生年月日】明治十六年五月廿日【職稱】榮市長男【經歷】父夙に郷里に農服商を營み後ち大阪に轉ず氏は幼少父と共に大阪に出で給場所金物問屋常七商店に入り勤続九年後店主後援の下に明治三十八年大阪府南區濱水町に金物店を開業同三十九年十月戰後の滿洲を視察哈爾濱モストロヤ街に金物貿易商を營み同四十一年大連に支店を設け旅順港内の鐵船引揚事業を計畫し政府當局の諒解を得て拂下を受けたる鐵船は數隻に達し又三山島沖に沈没せる海門鐵の如き同社の所有となれり一方同年吉林省及び錦州方面に鐵線輸出の先驅者となり次で同四十二年遼陽及奉天に大正元年大阪に同四年青島並濟南芝罘に又浦鹽に各支店出張所を開設し山東鐵道沿線に於ては専ら金物機械の販賣を以て活躍せり此の間氏の明治四十四年頃開設

せる上海支店は瀾川商人として上海製糖局へ機械類の賣込をなせるが奉天兵工廠の設置計畫あるや之を消滅奉天に移し氏自身奉天に常駐して活躍又東亞電氣工業遼東信託各取締役大連工材監査役たりしことあり【事業】大信洋行は大正七年十二月株式會社に改組大連市區部通四九に本店を置き大阪新東京奉天哈爾濱錦州天津各支店鞍山朝陽赤峰吉林承德扶餘各出張所を統制現在資本金一百萬圓全額納込にして鐵鋼材各種金屬地金及建築材料糖糸砂糖糖小麥粉人絹毛織物雜貨及び海軍油房業土木建築請負業(現滿鐵工事指請負人)等を營み昭和十年度商內高二千萬圓を算し日滿人二百二十名を使用し製糖工場・シャリーシ工場・油房工場・鐵製工場等の施設あり【趣味】ゴルフ【信仰】基督教【家族】妻千代子(明二一生涯富山縣若林半兵衛長女)長男榮太郎(明四二生同志社中學卒大信洋行勤務)長女永代(大六生神戸女學院家政科在學)三女美代子(大一一生大連彌生高女在)四女幸代(大一一生)五女榮子(昭三生)二男榮助(昭六生)【住所】大連市星ヶ浦小松臺七電四一九九六八



千本隆一

正八位、在總領事兵少尉、滿鐵參事、新京事務局地方課建築係長【公的關係】滿洲建築協會評議員【本籍】東京市小石川區大塚坂下町【職稱】故福隆長男【學歷】大正四年早稲田大學理工學部建築科卒業【經歷】學修後工學博士現日本銀行技師長長野平治氏の建築事務所勤務

務十昭和二年八月滿鐵に入社地方部建築課勤務
たり同十二月大連工務事務所業務同五年六月工
事部建築課同六年四月大連工務事務所建築係長
等を経て同十年四月技師に任じ同十一年三月現
職に就き同九月社員制改正にて参事となる翌十
二年國都建設紀念式典準備委員市民部幹事に
擧げらる【趣味】園藝旅行讀書【信仰】禪宗【家族】
妻清子(明三八、二生東京府青川愛長女)長女誠
子(天一五、三生)二女福子(昭三、一生)【住所】
新京錦町三ノ二五電三一四六三六



高田精作

滿鐵参事、總裁室
管理課長【公的關
係】滿洲特産中央
會參與【本籍】金澤
市長町河岸九【生
年月日】明治二十
四年二月八日【職
柄】士族精一長男【學歷】金澤一中四高英法科を
經て大正十三年東京帝國大學法學部法律學科卒
業【經歷】大正十三年五月滿鐵入社興業部商工課
昭和六年一月世界不況時に於ける津業統制及助
成組織研究のため滿一ヶ年六ヶ月間歐米各國へ
留學同七年十二月地方部商工課課長主任同八
年三月同商工課長代理同八月兼工業係主任同月
經濟調査會委員第一部主任同九年十月關東軍司
令部事務課同十一年三月經濟調査會新京在勤
委員關東軍參謀部第三課勤務同八月同新京在勤
勤務事務取扱同九月命參事同十月新京事務局
業務課長に就任同課經濟調査係主任及經濟調査
委員會幹事を兼任し同新京市場株式會社社長新京
取引所信託取補設新京交通股份有限會社理事た

り同十二年四月現職に就く【特記】農業移民に關
する造詣深し【趣味】園藝種球曲等【信仰】眞宗
【家族】父精一(明二生)妻與志子(明三五生石川
縣正田與八郎長女金澤第一高女卒)長男暢夫(大
一、二生大連中在)二男外志雄(大一、五生)三男毅
夫(昭二生)長女美智子(昭四生)【住所】新京ヤマ
トホテル・留守宅 大連市聖徳街五ノ一六

有 福 和

正五位勳四等、東亞烟草(株)管口工場長
【公的關係】管口商工會議所議員【出生地】
山口市上野小路【本籍】同上【生年月日】明
治十四年二月十八日【學歷】明治義會中學
を経て明治廿六年東京高等工業學校機械
科卒業【經歷】明治廿六年煙草製造所官制改正
職同四十二年東京第一煙草製造所官制改正
後設備專賣支局大正十年一月東京地方專賣局芝
工場に應勤同十三年十二月現職に就く【趣味】實
生流馬曲大師流書風研究【家族】妻及長男(在東
京)【住所】管口青柳街東亞烟草社生電一三八



水内昇一

滿鐵職員、撫順炭
礦機械工場管理係
主任【公的關係】同
山縣人會副會長、
社員會評議員【本
籍】岡山縣御津郡
牧石村大字玉柏一
七〇二【生年月日】明治廿九年二月廿九日【職柄】
嘉代造長男【學歷】大正九年順天科學堂探礦治
金科卒業後治金分科專修【經歷】大正四年八月滿
鐵に入り撫順炭礦事務課に勤務し同六年二月辭
職同十年一月青島守備軍民政部に奉職十一年十



深川彌作

住吉(生年月日)明治廿八年十二月廿四日【職柄】
故三藏ノ男【學歷】明治四十二年高等小學校卒業
後中學講義及夜學校にて中等學を修む【經歷】
大正四年少兵第四十八聯隊に入隊同六年十二月
憲兵隊に轉じ感測憲兵隊に勤務同八年九月豫備
役となり朝鮮總督府巡查を拜命し北青威南各警
務署に應勤同十一年十月執達吏の職務擔當となる
同十年五月巡查部長に任ぜられしが同十三年四
月依願退官北青學校組合出納役兼書記を拜命同
十五年四月北青在勤軍人分會會計理事を罷託さ
れ昭和五年九月北青小學校後援會會計主任理事
を罷託する同年四月渡滿して現所に同島務局を

【特記】大正十一年乃於九年事務
功に依り愛宕軍大正八年乃於九年事務
行證書を昭和二年帝國在勤軍人會長より授與
員賞狀を同六年同會長より功勞役員賞狀を授與
され同年北青郡教育會長より教育功勞者として
表彰さる尙昭和九年八月團體學會常任幹事囑
託【趣味】劍道柔道園藝盆栽寫眞等【信仰】眞言宗
【家族】妻マサエ(明三六生廣島縣人松尾金吉四
女)長男弘孝(昭九生)長女ノブエ(大一、一生)二
女フサエ(大一、一生)三女カシエ(大一、五生)四女
マサエ(昭四生)【店舖】同島務局 同島省團體銀
河街三〇ノ九

森 田 繁 男

森田醫院主、醫師【本籍】鹿兒島縣川邊郡
枕崎町枕崎一六三【生年月日】明治廿七
年五月廿二日【職柄】本次郎長男【經歷】學
事を卒へて醫師となるや朝鮮に赴き太田
府春日町に森田醫院を開設昭和十年四月
渡滿牡丹江に到り七星街にて開業同十一
年二月現所へ移轉す【家族】妻もと(明四
一、一生)長男憲太郎(昭三、六生)二男碩哉(昭
五、一生)【住所】牡丹江景福街二ノ五電五三八



中島忠毅

伊勢忠商店主、公
債株式問屋【本籍】
兵庫縣朝來郡竹田
町筒江【生年月日】
大正二年三月十日
【職柄】吉十郎の男
【學歷】竹田尋常高
等小學校卒業【經歷】學校卒業後昭和二年五月大
阪前田株式店に入り斯業の實地修業を積み同十



栗屋萬衛

成美園經營主、農
業【公的關係】大連
農會、大連產馬協
會各副會長、滿洲
農業團體中央會理
事【出生地】廣島縣
安佐郡長束村【本
籍】同上【生年月日】明治十八年三月【職柄】義
祖は毛利元就家老職栗屋彦右衛門にして毛利輝
元圓ヶ原役後山口に隱退するや彦右衛門の一子
廣島在に殘りて歸農し藩主淺野侯より名譽三千
石の格式を以て遇せられ累世舊豪として閑ゆ氏
の祖父初藏明治維新に際し憲黨の爲め産を傾く
父萬右衛門は夙に小學校校長等に就任又在米
十四ヶ年に及ぶが昭和三年十月政才氏は其長
男なり【經歷】昭和三年十月家督相續す先是普通
學を了るや明治廿三年六月在米中の父を頼りて
渡米加州フレズノ郡イーストン村にて果樹園勞
働に従事同三十四年同郡アメリカ村に九十英町
果樹園を借地す米同地中借地の嚆矢たり同年
十月より同村の大農人某の農園に働く事約三
ヶ年廿七年其歸國に際し留守主任を委ねよる後
近村タロビニに於て世英町を購入同村にタロ
ビニインブルメントカムパニーをも買受け改

良農事に好成績を収め次て奉天二回修三轉農
の渡米と共に漢文業務を擔當す大正二年四月持
日土地法の善後策として公認栗屋兄弟會社を組
織し同八年更らにヘイワウエー土地會社を新設
し兩社の社長兼支那人として同九年十一月まで
該會に當る此間アレクサンダー日本人會常議員同會計
監査役同副會長本願寺出張所アレクサンダー佛教會常
議員同名譽幹事同理事同建築委員同附屬小學校
學務委員廣島縣植民協會タロビニ支部長在米
勸業協會理事大日本海軍協會中央加州副委員長
日本赤十字社特別社員同香港特別委員同協贊委
員米國赤十字社地方委員米國自由公債募集委員
(市長選任)等に擧げらる大正九年加州の舊日に
債權歸朝滿鮮各地を視察調査し同年十一月一旦
歸米翌十年十月在米權益を弟等に托し農機農具
各種廿三噸を携へて大連移住を決定し現所に約
六萬坪の土地を買致して農園經營を開始し逐年
發展今日に至る現に滿洲棉花栽培協會同東州果
樹組合大連植樹共同果樹園を各發起立案して其
常任理事又は理事に就任し其の他前掲公職の外
關東州畜産聯合會評議員大連農會評議員同東州
輸出農産物検査標準品査定委員會等に擧げらる
【事業】成美園は山縣伊三郎公の命名にして現時
六十町歩を擁す又昭和九年七月末弟義雄長男繼
等を共同せしめ旅順管内に栗屋第二農園を開始
し外に他より依頼の耕地約十五町歩あり更に米
國種地地檢栽培果樹栽培の問作として各種蔬菜
栽培に先驅をなす農耕法は米支日の長所を採用
畝界への影響甚大貴顯種々の訪問無慮数千に上
し滿洲農れり滿洲移住當初より旅大區上を翻長
とし邦人を移住せしめ滿洲三千萬町の中一千萬
町を耕作すべしと主張し着々實現す現時夏秋二

百名多約五十名の従業員を以て果實蔬菜約二十萬貫を生産し南支南洋滿洲國臺灣内地に廣汎の販路網を布く【特記】在米時代は日本赤十字社帝國海軍協會米國々務卿西本頼寺日本人會郷里長東村等より篤行により褒狀感謝状等を受け又關東州滿洲國滿洲棉花栽培協會日本赤十字社大日本農會其他各種團體より表彰並に謝状を受くる事數千回昭和十一年十月關東州施政卅年に際し表彰の榮を受け同十一月十日新宮御苑の觀菊會に召され同十一月日本産業協會總裁伏見宮殿下より表彰せらる【家族】母タマ(明治生在郷里)妻ナナ子(明治一八生廣島縣茅原卯八女)長男廣(大三生廣島縣第二農場主)二男山水(大五生金州農業學堂卒業農事)長女道子(大八生大連神明高女)幸神明(在)二女惠子(大九生同上)三女鳩子(大一一生同上)四女知子(昭二生)【住所】大連市外西山會西山屯五二三電四一〇一六七



敏 川 市

正八位、勳五位、交通部理事官、總務司文書科長、郵政權調整準備委員【本籍】山口縣熊毛郡東海村一五九四【生年月日】明治廿七年一月廿五日【履歷】觀吉五男【學歷】大分縣立竹田中學校八高を経て昭和二年東京帝國大學經濟學部卒業【經歷】昭和二年九月滿鐵入社留來同七年五月迄安東奉天四平街此間一年志願兵として歩兵第四十五聯隊入營陸軍歩兵少尉に任じ正八位に叙さる大同元年六月滿洲國交通部鐵道司第一科長に任じ同第一科長を経て康徳元年七月

任交通部理事官鐵道司第一科長同三年十一月就職に就き同年十二月郵政權調整準備委員を命ぜらる現に擔任三等たり【功賞】康徳元年建國功勞章大典記念章勳五位景雲章を賜ひ同二年皇帝訪日記念章を賜ふ【趣味】ゴルフ園藝等學生時代は短距離棒高跳にて活躍せり【信仰】眞宗【住所】新京中央通一五電三一四〇四九



進 斐 甲

滿鐵職員、公主嶺地方事務所農務主任者【公的關係】滿洲農協組合聯合會理事、公主嶺農協組合參事、公主嶺農協組合常任幹事【本籍】大分縣大野郡小宮土村大字草深野一三二【生年月日】明治三十三年八月十八日【履歷】席次郎三男【學歷】大正七年三月大分縣立三重農學校農科卒業【經歷】大正七年四月大分縣大野郡今市村役場に奉職同八年九月辭職し同月大分縣巡查を拜命同十一年辭職同大分縣農務課耕地整理係を拜命昭和三年一月辭職同四年十一月滿鐵に入社爾來撫順炭礦大石橋瓦房店管口の各地方事務所に歴勤同十年二月公主嶺地方事務所に轉じ以て今日に至る【特記】滿洲に於ける雜商栽培並に加工製造に關して」と題する著書あり【功賞】滿洲事變の功に依り勳品及從軍記章を賜ふ【趣味】麻雀狩獵乘馬讀書園藝動物飼養【信仰】眞宗【家族】妻ツル子(明三六、二生大分縣甲斐松三郎長女竹田高女)長女裕子(大一一、三女)二女仁子(大一一、三女)三女智子(昭五、四女)三男智三(昭七、四生)三男智三(昭九、一〇生)

【住所】吉林省公主嶺縣高町一ノ一一 滿鮮拓植(株)參事、經理課長兼金融課長【出生地】神戸市【本籍】神戸市兵庫區門口町八〇【生年月日】明治廿五年十二月六日【履歷】米問屋萬吉二男【學歷】大正四年神戸高等商業學校同六年東京高等商業學校專攻部銀行科各卒業【經歷】大正六年橫濱正金銀行に入り本店詰大阪支店詰を経て神戸支店詰となり同八年三井物産へ轉職本店業務課に勤務同十一年退社奉天滿蒙毛織會社販賣課長に轉職同十三年退社歸國後四國生絲會社へ入社字和島工場長となり同十四年同社高知工場長を兼務昭和四年退社字和島に於て製絲業自營同八年廣華同九年奉天東亞製絲會社に入り同十一年同社滿鮮拓植股份有限公司に合併と同時に現職に就く【趣味】讀書映畫乘馬等【信仰】佛教【家族】妻美代(明三六生)長男一雄(大九生新京中學在)二男安二(大一一生同上)【住所】新京城後路一〇ノ三二九電二二八二七



雄 茂 武 阿

勳八等、國際運輸(株)承德出張所長【公的關係】承德日本商工會副會長、承德觀光協會相談役、協和會國際運輸分會長、承德山口縣人會々長【本籍】山口縣萩市大字椿東一五一【生年月日】明治二十六年十二月五日【履歷】故俊次郎ノ長男【學歷】大正二年三月燕中學校卒業【經歷】大正二年四月九州鐵道小倉驛貨物係同四

十二月前日事其第四十二號種入同六年十一月辭職同七年五月山日運輸公司大連支店詰同九年九月退社同十月大連日華特產株式會社入社同十三年十月四平街にて特產物商石水商店を弟と協同經營同十五年二月閉店大連市但馬町にて食料品雜貨商山口屋を開業同四月國際運輸株式會社入社四平街支店勤務昭和七年六月運輸係主任同十二月四平街支店長代理同八年三月錦縣出張所長同九年四月錦縣支店長代理等を經て同十年六月現職に就く【功賞】滿洲事變の功に依り勳八等【趣味】尺八【信仰】日蓮宗【家族】妻ミト(明三二、五生)長女嘉子(大九、一〇生大連女子專修在)二女節子(同上)三女光子(大一一、九生)長男清(大一一、七生)四女康子(昭三、一〇生)【住所】熱河省承德南營子四條胡同電四三一



郎 次 林 宅 三

滿鐵職員、新京機關區工作助役【本籍】神奈川縣鎌倉郡川上村【生年月日】明治十九年六月廿三日【履歷】學政二男【經歷】學校卒業後明治四十年七月橫濱海軍工廠に入り大正二年六月石川島造船所同六年九月淺野造船所同七年十月富士製鋼株式會社等に歴勤同八年六月滿鐵に入り遼陽車輛係に勤務昭和十年九月現職に就く【特記】滿洲事變にて從軍記章及勳品昭和十年十五年勳章を受くボーイと關係にて一貫し實際家として練達の手腕を顯はる努力家たり社員會新京支部委員に選ばれる【趣味】讀書盆裁俳句【信仰】眞宗【家族】妻シケ(明一九、六生)



郎 二 小 木 高

滿鐵參事、鐵道研究所調査役、大連在勤【本籍】福岡縣筑紫郡日佐村字井尻三五九【生年月日】明治廿七年六月六日【履歷】學政二男【學歷】大正五年熊本高等工業學校土木工學科卒業(在學中第二第三學年の兩年度特待生を命ぜらる)【經歷】大正六年六月博多瀧澤港株式會社入社同十月同瀧澤港立保主任同七年七月滿鐵入社工務局立山出張所同八年十二月技術部線路課同十年四月南滿工專講師同十一年一月運輸部線路課同四月南滿工專講師同八月技術研究所同十二月四月鐵道部線路課同十三年三月同部保線課設計課同十四年四月講師兼務を免す(工業工專)同五月軌條及附屬品検査並に軌條製作工場調査の爲八ヶ月間歐米へ出張を命ず同十五年四月歸任昭和二年一月兼務鐵道講習所講師同四月鐵道部工務課同七月技術研究所兼鐵道部工務課同三年一月兼務鐵道講習所講師(同八年十二月免)同五年六月理學試驗所同九月命技師同十月工業標準規格調査會委員兼幹事同六年十二月中央試驗所土木研究科長同七年四月兼務線路研究所主任(同八年一月免)同八年六月兼務南滿工專講師(同九年六月免)同十年四月南滿工專講師同十一年一月運輸部線路課同九年六月兼務役次で

計書部兼中央試驗所土木研究科長同五月表題並懲戒委員會委員(同十一年十月免)同十一年九月命書事同十月中央試驗所土木研究科長兼產業部勤務同十二月工業標準規格委員會小委員會委員を経て同十二年三月現職に就く【特記】滿洲事變の功に依り從軍記章及銀杯一個各拜受昭和八年十二月曲線外軌の檢油法改善に關し可搬式檢油器を考案從來に比し有効且つ經濟的ならしめ社員表彰規程に依り勳章及金一封を同九年四月滿鐵勤績十五年表彰を各受く土木學會幹事協會工攻會滿洲技術協會各會員【趣味】釣魚【信仰】眞宗【家族】父豐吉(慶應二生)妻ケイ(明三〇、六生)福岡縣柴田重次郎長女福岡縣柴田高女(長女)長女久枝(大九、二生)彌生高女(在)長男兼雄(大一一、一〇生)大連二中在(二男)榮雄(同上)二女小枝子(昭一〇、五生)【住所】大連市葛蒲町四六電三一〇四五



次 利 島 中

勳七等、滿鐵機關區工作助役【公的關係】關西在郷軍人分會評議員【本籍】福島縣相馬郡飯曾村大字比曾字中島四八【生年月日】明治廿三年四月十八日【履歷】庄左衛門長男【學歷】福島縣立相馬農學校四年修了【經歷】學校修業後仙吉通信講習所を卒業し平野便局に勤務す次で仙臺歩兵第二十九聯隊に入營後遊兵に轉科果敢して曹長となる昭和十一年二月鐵道總局に入り現職に就く【特記】大正十二年關東大震災當時の功により勳章を賜ふ其の擔當業務中愛路村の指導に心血を注ぎつゝあり【趣

【味】創道全道馬術【信仰】神道【家族】父庄左衛門
（明七生）母ハル（明一〇生）妻竹子（明三九生）福島
縣高倉字七四女【住所】間島省國門白鳳街一三

森 實 益 造
滿洲電業（株）調査局計畫主任【本籍】愛
媛縣今治市風早町六四（生年月日）明治四
十一年十一月一日【續柄】伊三郎長男【學
歴】奉天中學校を経て昭和六年神戶高等
商業學校卒業【經歷】昭和六年四月南滿洲
電氣株式會社に入社同九年十一月退社同
月滿洲電業股份有限公司に入社し後現
職に就く【住所】新京大同大街 滿洲電業株式會
社調査局



稻垣甚兵衛

勳八等、滿鐵哈爾
濱鐵路局經理處審
査科長【出生地】京
都府相樂郡中和東
村【本籍】同郡加茂
町【生年月日】明治
廿五年八月二十日
【續柄】源次郎四男【學歷】實業補習學校中學校卒
【經歷】明治四十五年滿鐵入社長春驛勤務大正
八年野戰交通部派遣され日英佛露共同西比利亞
鐵道調査委員として参加同十四年滿鐵對ウスリ
鐵道貨物配分協定成立と同時に滿鐵代表として
ポグラーニチナヤ在勤被命昭和三年鐵道部總
理課勤務同七年關東軍線區司令部事務を囑託さ
れ同齊々哈爾濱支部に服務同八年十二月鐵道總局
勤務呼海鐵路派遣哈爾濱在勤を被命同局検査課
長を補佐同九年四月哈爾濱鐵路局組織成り同局
經理處會計科審査股長拜命同十一年三月北鐵接



千田貞康

實業部事務官、工
商司工務科勤務
【本籍】東京市中野
區塔ノ山町六【生
年月日】明治四十
二年二月十四日
【續柄】嘉平ノ四男
【學歷】學習院中等科同高等科を経て昭和八年京
都帝國大學經濟學部卒業同年十月滿洲國大同學
院卒業【經歷】大同二年十月滿洲國に奉職商標局
屬官同三年六月特許發明局屬官總務科勤務等に
歷任し同九月現職に就く實業部法令審査委員會
委員たり【功賞】康徳元年三月滿洲國功勞章同
二年九月皇帝勳章を受く【特記】特許發明
法に造詣深し【趣味】スポーツ寫眞音樂【信仰】神
教【家族】父嘉平（明四生）兄貞清（明三三生）早大
卒【住所】新京梅ヶ枝町四ノ一六梅ヶ枝館内電
三二六五〇一

東 本 美 三 郎
美富號總督主、石灰セメント販賣業【本
籍】和歌山縣日高郡由良村【生年月日】明
治廿五年十月十六日【續柄】昭和十一年分
家【經歷】夙に學校を卒業大正四年九鬼洋
行天津支店員として渡支才後青島に赴き
獨立して順鏡買入其他を替む同八年本溪
湖に來り本溪湖石炭商事株式會社の前身
榮成公司に入り同会社が奉天販賣店として開設

秋委員として參與引續き整理事務に當る同年十
一月再び哈爾濱鐵路局經理處會計科審査股長を
被命同十一年九月十五日鐵道總局組織改正あ
れ審査股長審査科に昇格同時に現職に就く【特
記】昭和十二年四月二十五年勳章表章を受く尙
居常榮根源を坐右銘とし白づと「達人觀物外之
物」の風格あり【趣味】一般蒐集特に古畫（就中花
押に對する文獻）言語學文字學の研究【信仰】眞
宗【家族】妻濱子（明三五生）樹木藤成田十郎長女
長男一彦（大一〇生）長女裕子（大一二生）
旅順高女在二女深雪（大一五生）二男泰彦（昭四
生）三女早苗（昭八生）【住所】哈爾濱長官公署街
一七號八電六二二六

美 坂 祥 平
滿鐵吉林鐵路局警務處巡監【本籍】廣島縣
吳市和庄通四ノ九九【生年月日】明治廿三
年二月十日【經歷】昭和卒業滿鐵後鐵道總
局に奉職職員として吉林鐵路局警務處警
務員に就任昭和十一年九月滿鐵巡監を命
ぜられ現職に就く【家族】母キタ（明一七
生）妻芳子（明三九生）妹澄枝同世茂枝（大
一一生）同成代（大一一生）【住所】吉林新開門二
路路二七九



深川成家

滿鐵職員、新京驛
構内助役【公的關
係】三州會幹事、新
京鐵道部幹事、在
鄉軍人會理事【本
籍】廣島縣沼田
郡沼田村【生年月
日】明治四十一年一月五日【續柄】嘉平四男【學

せら盛泰號主任として奉天同十年一月獨立運送
業を開始同七月本業に轉ず【實業】本溪湖に直營
石灰山を有しセメントは淺野セメント會社奉天
販賣所を營み滿洲セメント本溪湖セメントを主
とし販路は市内建築業者年商内高四十萬圓に達
す【趣味】旅行讀書【信仰】佛教【家族】妻のよ（明
三六生）長女みゆき（昭五生）【店舖】美富號【奉
天宮島町一電二一三七七

水 野 仙 助
滿鐵職員、教化站助役【本籍】名古屋市中
區押切町六ノ四【生年月日】明治廿一年十
一月廿一日【經歷】夙に渡滿して滿鐵に入
社し京國線教化站勤務を命ぜられ次で同
站副站长心得となり昭和十一年九月職員
同十二年二月同站助役に就任す【住所】吉
林省教化鐵道附屬地



神崎富三郎

神崎相繼督主、土
木建築請負業【出
生地】岡山縣上房
郡上竹庄村【本籍】
北海道旭川市五條
通七丁目【生年月
日】明治十六年一
月一日【經歷】明治三十八年日露戰役に陸軍技手
として従軍し平和克復後聘せられて滿鐵に入り
爾後撫順大連奉天等の各地に歷勤大正九年滿鐵
を辭して奉天に神崎組を興し土木建築請負業を
開始す爾後幾多の大小工事を請負ひ堅實方針の
下に逐次業を築き今や業界の一勢力たり尙餘
力を以て貸家業をも兼營す【趣味】畫道俳句等に
して俳誌「石の味」を主宰す【家族】妻登久（明一

【經歷】昭和三年滿鐵々道教育所運輸科卒業【經歷】
昭和二年三月滿鐵に入社し關原驛勤務となる次
て同五年六月四平街驛同七年一月長春列車區同
八年八月中國驛助役心得同年十一月滿井驛助役
を経て同九年十二月現職に就く【功賞】滿洲事變
の功に依り從軍記章及賜杯【趣味】狩獵短歌【信
仰】淨土眞宗【家族】妻正榮（大二生）宮城縣人成澤
茂左衛門長女【長男】雅史（昭一〇生）長女眞帆美
（昭六生）【住所】新京白菊町三ノ一三ノ四



今村知光

富吉號主、東洋印
刷（資）理事、木材
業【公的關係】吉林
商工會議所議員、
同居留民會議員、
同輸入組合監事、
同木材製材組合長
東滿林業協會理事長、明月滿官行研代組合長、五
常代探組組合長、吉林木材同業組合評議員【本籍】
山梨縣北巨摩郡登美村一〇八【生年月日】明治廿
九年八月十九日【續柄】安太郎男【經歷】郷里にて
學業を卒へ實業界に投じ大正八年一月王子製紙
會社より吉林富家造紙公司に派遣せらる同十二
年六月共榮起業會社に合併と共に同社に轉じ昭
和四年八月同社の事業縮小に際し辭して富吉號
を創立同十年五月鐵道東に製材所を設け經營今
日に及ぶ【實業】現在營業課目は一般原木鐵道用
枕木製材品炭炭貿易等にして資本金二萬圓電機
力を使用し機械臺數六臺従業員四十名京國線教
化新站五常等に製材所を設け販路は全滿は勿論
朝鮮北支内地等に亘り最近の年生産高は十五萬
圓に達す【特記】木材業者としてのみならず同地

九生一長男秋晴（日六生）長女芳子（日七生）
二女マリー（朝日高女在）【店舖】奉天青島町四一
電二一四四一

柳 瀨 渡
柳瀨醫院長【出生地】大分縣家は廣代大庄
屋【本籍】東京市杉並區阿佐ヶ谷一丁目
【生年月日】明治十四年八月【續柄】孫兵衛
三男父郷土防水工事施設に功あり【學歷】
明治廿八年東京醫學校卒業【經歷】學校卒
業後實地研鑽一年有半明治四十年二月醫
師開業試験に合格翌四十二年内務省傳染
病研究所に入り細菌學の研究に従ふ處あり同年
九月瀨瀨々鐵大連醫院職員なる爾來撫順醫院新
邱醫院等に歷勤十七ヶ年現職の臨床家と
して聲望を博し大正十四年八月退職現所に院舎
を新築瀨瀨病院を開業す目下従業員十數名病棟
を有し入院の需に應ず【趣味】園藝科學【信仰】神
道【家族】妻千代子（明二七生）奈良縣郡山名望家
樋口義雄長女日本女大政科卒業趣味音樂文學
女俊子（大八生）日本女子大在 男明彦（大一〇生）
男維興（大一一生）男恒純（大一一生）【住所】撫順
東一番町二〇電二二三四



山本澄江

正八位勳八等、在
鄉陸軍歩兵少尉、
滿鐵職員、農林課
長【本籍】福井市江
戸下町二九【生年
月日】明治廿七年
一月七日【續柄】滋
賀次郎長男【學歷】大正十年慶應義塾大學理財
科卒業【經歷】大正十年三月滿鐵に入り同十二月

在職の儘一年志願兵として近衛歩兵第一聯隊に入隊大正十四年少尉に任官爾來鐵道部現業に従事し公主嶺長春開原各地に歷勤滿洲事變の當時は鐵道部營業課に在り奉天東北交通委員會參事として滿洲國建國に貢獻し公主嶺驛貨物主任及鐵道總局勤務を経て昭和九年吉林局長に就任同十二年四月現職に轉じ吉林在勤中推されて居留民會議員在都軍人分會評議員たり【功賞】滿洲事變にて勳八等及從軍記章並滿洲國建國功勞章を賜ふ【趣味】仕事【信仰】神宗【家族】妻千恵子(明三八生兵庫縣出身東京田園調布郵便局長多田房太郎長女)長女道子(六一四生)二女悦生(昭一一生)【住所】旅順驛長社宅

島内滿男

滿鐵職員、公主嶺農事試驗場農藝科勤務【本籍】札幌市南九條西九丁目【生年月日】明治廿八年十月三日【讀柄】二太郎長男【學歷】昭和三年北海道帝國大學農學部農學經濟科卒業【經歷】卒業後昭和三年四月明治製糖株式會社に入社同四年二月臺北帝國大學助手同年三月同大學附屬農林專門部講師等に歷任同十年五月滿鐵に入社公主嶺農事試驗場農藝科勤務し今日に及ぶ【住所】吉林省公主嶺霞町二ノ六ノ一



淺香勇吉

國際運輸(株)春日支店庶務係主任【本籍】石川縣石川郡額村字四十萬ヲ二一【生年月日】明治廿八年四月廿四日【讀柄】勇吉弟

【學歷】金澤第一中學校を経て昭和四年三月日露協會學校卒業【經歷】昭和四年四月國際運輸株式會社入社哈爾濱支店同六年十一月長春支店同八年二月公主嶺營業所主任を経て同十二年一月現職に就く【住所】營口南本街國際運輸支店



一條養太郎

勳七等、滿鐵副參事、鐵道總局機械課勤務、工業標準規格委員會委員、鐵道總局度量衡器検査員【本籍】福島縣郡部鹽川町字關ノ前二一五【生年月日】明治廿二年一月廿三日【讀柄】故養七長男【學歷】南滿工業學校機械科を経て大正十一年旅順工科學堂機械工學科卒業【經歷】大正七年三月滿鐵に入社し沙河口水場設計課に勤務同八年三月旅順工科學堂へ貸費入學同十一年十二月卒業運輸部機械課に勤務次で鐵道部機械課同工作課工事部築港課勤務となり此間育成學校講師を兼務し昭和六年二月鞍山工務事務所機械主任に就任同年八月奉天事務所鐵道課同八年一月鐵道部工作課各勤務となり同十年七月同上機械係主任に就任同十一年九月副參事を命ぜられ同年十月現職に就任才藝に社員會評議員に選ばれる滿洲技術協會員たり【特記】滿洲事變の功に依り勳七等及從軍記章並建國功勞章を賜る鐵道並に港灣機械施設設計畫設計に造詣深し昭和十二年十五年勳章表章を受く【趣味】園芸實生流蕩曲寫眞【信仰】神宗【家族】妻マデ(明三八生香川縣近嶺政治長女大連神明高女卒)長男晃(六一四生)二男尚(昭四生)二女允子(昭八生)【住所】奉天彌生町四〇ノ五電三三六七五

山崎誠

熱河省公署理事官兼地籍整理局事務官、熱河省地籍整理局長、地籍整理局熱河分局勤務【本籍】高知市中島町二七七【生年月日】明治四十年三月五日【讀柄】誠一郎長男【學歷】高知縣立第一中學校高知高校を経て昭和五年東京帝國大學法學部政治學科卒業【經歷】大同元年五月國務院資政局訓練所に入所同年十月大同學院卒業爾後吉林省濱江縣官同二年五月雙城縣官同三年四月雙城縣代理參事官同十二月濱江省公署事務官民政廳行政科勤務を経て同三年十月本職に就き同四年三月兼職に就く【住所】熱河省公署地籍整理局



石黒仙治郎

金泰洋行、萬泰洋行各總務主任、資生堂新京販賣(株)專務取締役、森永製菓滿洲販賣(株)監査役【公的關係】新京輸入組合幹事【本籍】愛知縣中島郡稻澤町字東本二八三【生年月日】明治十二年五月廿日【學歷】稻澤高等小學校卒業【經歷】明治廿七年渡滿天津方面に商業觀察をなせる後營口に於て軍用商會を開業次で大連に於て純磁火藥商を營む明治廿九年公主嶺に移り雜貨商金泰洋行を經營同四十二年長春に轉じ從來の支店を本據とし逐次運送を興隆今日の大をなすと共に昭和十一年四月新京中央通一六に萬泰洋行を開設金泰洋行の販賣品目たる鹽貨

在職中奉天市警察局長等之知寶を專業とし【事業】金泰洋行は新京著名の百貨店にして從業員百餘名を擁し石黒製治支配人たり萬泰洋行は店員卅名を使用石黒義博支配人にして市内吉林白城子等沿線各都市を地盤とし【趣味】釣魚園藝【家族】妻まき江(明二九生)【店舖】新京日本橋通三五電三三二一五九・三三八・三一三

水上健治

錦州省興城縣參事官【本籍】福井縣敦賀郡東浦村横濱區第十一號二十四【生年月日】明治廿五年七月十三日【讀柄】喜久治長男【學歷】大正十四年專檢合格四高を経て昭和七年三月東京帝國大學法學部政治學科卒業大同元年十月滿洲國大同學院第一期卒業【經歷】大同元年十月滿洲國通遼縣屬官に任じ同二年二月命熱河省政治工作員遼源縣連務員同三月命平泉縣連務員同八月任平泉縣屬官同十二月任朝陽縣屬官同縣代理參事官を経て康徳二年三月任朝陽縣參事官となり同三年四月現職に就く【住所】錦州省興城縣參事官公館



三島靜遠

滿鐵職員、博克圖檢車段滿洲里分段檢車主任【本籍】島根縣松江市雜賀町二三四【生年月日】明治廿三年九月六日【讀柄】故傳太郎長男【學歷】島根縣立工業學校卒業【經歷】明治四十三年入營し陸軍工兵伍長となる大正五年四月鐵道省に奉職昭和二年六月鐵道局技手となり同

八年十二月退官同任滿鐵に入り滿洲鐵路局機務處同九年十二月四平街鐵路辦事處勤務を経て同十年十一月南滿洲四平街鐵路監理所監理員となり同十二年二月現職に就く【特記】鐵道客貨車檢修方面に造詣深く實際家として信望を負ふ滿洲事變にて鐵道省より賜金早起きを蒙る【趣味】野球雜誌【信仰】佛教【家族】妻マカ(明二七、四生島根縣桑原ジシ妹)長女静枝(大八、二生)撫順高女卒)長男宏夫(昭二、二生)二女民子(昭六、二生)三女満子(昭九、二生)【住所】興安北省滿洲里滿鐵博克圖檢車段滿洲里分段



藤森圓郷

國務院國都建設局理事官、總務處庶務科長【出生地】山梨縣北巨摩郡大泉村【本籍】同上【生年月日】明治廿三年十二月十日【學歷】大正十年橫濱商業學校卒業【經歷】大正十年滿鐵に入社埠頭事務所勤務を拜命同事務所陸運課庶務課調査係等に歷勤次で本社監察役室勤務に轉任昭和六年九月滿洲事變勃發と共に召集され現職の儘自治指導部に入り連絡課主任事務官長等に任じて活躍滿洲建國後同國政府に奉職監察院秘書官同秘書科長國務院國都建設局事務官總務處勤務を経て理事官に進み現職に就く【職務】四等たり【特記】此間義に滿洲國體育聯盟駐日主席代表たりし事あり現に滿洲國政府の機關紙たる新民社常務幹事にして國都建設紀念式典準備委員會幹事たり【趣味】文藝【住所】新京地町四ノ九公館電三三三六七三



内藤延行

勳八等、滿鐵五等事務段巡査【本籍】山梨縣東山梨郡松里村【生年月日】明治三十四年四月一日【讀柄】故喜和太郎三男【經歷】學校卒業後獨立守備隊歩兵第一大隊に入隊し除隊後關東局に奉職高等刑事として勤務十事變後昭和八年十月鐵道局警務處情報係として入社十一年四月吉林警務段巡査となり同十二年三月現職に就く【特記】滿洲事變にて勳八等及從軍記章並滿洲國建國功勞章を賜ふ氏心理哲學を研究し佐藤八郎等の社會觀に共鳴す處世論「無文教育」義に吉林時代社員會青年部分隊長たり【趣味】尺八庭球【信仰】臨濟宗【家族】妻島惠(明四五生山梨縣田邊仁作四女)長女浅子(昭二生)長男行美(昭三生)二男美夫(昭四生)三男洋(昭八生)【住所】濱江省五常縣滿鐵五常警務段

宮崎文市

滿鐵副參事、鐵道總局人事課勤務【本籍】佐賀縣杵島郡南有明村字牛屋三三三【生年月日】明治廿二年十月十五日【讀柄】浦市郎長男【學歷】大正四年長崎師範學校畢業生業成所卒業【經歷】大正四年四月武雄郵便局に奉職次で滿鐵に入り大連驛々夫奉天驛改札方大連管理局庶務課奉天運輸事務所奉天鐵道事務所鐵道部庶務課奉天運輸事務所奉天鐵道部各勤務を経て昭和八年三月鐵道總局總務處人事科幹事となり同十一年九月副參事を命ぜられ同十月現職に就く【住所】奉天雪見町四三ノ三ノ一電局内二八三五



高田友吉

通和商會、大連機
械製作所各(株)社
長、大連工業(株)取
締役、滿洲久保田
鐵管、大和染料
各(株)監査役(公
的関係)大連市會
議員、大連市産業委員、日滿實業協會東支
部顧問、大連商工會議所議員、同金庫顧問研究特別
委員、大連輸入組合評議員、同土産材料商
組合幹事、財團法人大連高等商業學校理事(出生
地)福井縣小濱町【本籍】同上【生年月日】明治十
三年二月【職柄】任助三男【學歷】明治廿二年縣立
水産學校卒業【經歷】夙に越前にて製糖製造業
を經營同縣大倉陸軍大將の紹介に依り製品を米
國に輸出する個人として該品海外輸出の嚆矢た
り明治廿四年八月渡臺臺北支食料品雜貨商古川
商店に入り廿八年小倉第十四師團團長及鐵
林部長の懇請に依り先輩矢田部善輔と其の附屬
商人として大連に到りしが上陳前酒保以外の商
人を附屬せしめざる事となり同年七月矢田部氏
と共に鐵管金物商合資社通和商會を起し大連
駐在陸軍軍需部及鐵道提理部出入商人となる同
年九月二月旅順に支店を開設次で大坂初め龍山
に出張所を設置するに至り爾來逐年大を成し今
日に至る其間大正七年五月故相生由太郎と共に
株式會社大連機械製作所を創立し共に社長た
るの外通和商會社重役の任にあり又推されて大
連商工會長同金物組合長大連材料商組合長大連
工業會幹事滿洲經濟調查會委員滿洲輸入組合常
任委員金融組合評議員滿洲輸入組合の創立等に
任じ大連市會議員に當選する更に大連商工會議



石崎キヨシ

六合商會代表者、
運送仲介努力調員
【出生地】福岡縣
久留米市東町【本
籍】茨城縣下館町
宇本城町【生年月
日】明治廿三年一
月十六日【職柄】才吉長女【學歷】久留米高等女學
校卒業【經歷】亡夫石崎海次郎(寫眞同氏)は茨城
縣立下妻中學卒業後滿鐵に入り傍ら譯語を修む
大正八年本社運輸課より哈爾濱に轉勤同十一年
國際運輸に轉じ同社に引繼がれたる從來の運輸
事務に精掌運輸課主任となり次で哈爾濱出張所
長たりしが昭和九年獨立六合商會を創立現業を
開始逐次業務を陸興一時合資會社組織となせる
が同十年十月再び個人經營となし持株經營に當
れるが同十一年二月廿五日五十三歳にして逝く
氏その後を受けて業務を主宰克く夙勞を維持し
て今日に及ぶ【葬記】日下邦人十二名滿人三名の



本藤 憲

勳八等、三江省依
蘭縣參事官【本籍】
宮崎縣東臼杵郡西
郷村【生年月日】明
治廿九年一月【職
柄】藤五郎三男【學
歴】大正四年宮崎
縣立區岡中學校卒業【經歷】夙に滿洲警察界に入

り滿洲警察界に從事せられた後駐屯大連子爵
顯賢内務務部補として各地に歴任次で關東廳
警部となり昭和八年十月滿洲國に入り警務部警
佐に就任後依蘭縣警佐に轉じ更に同縣警正に
進み昭和十一年十月現職に就く【特記】渡滿以來
地方治安維持の確立に貢献尠からず此間動八等
に敘され滿洲國建國功勞章同大典記念章皇帝訪
日記念章を受く【趣味】柔道書畫【信仰】佛教【家
族】妻ヨシエ(明三出生宮崎縣原一)女二男
一(大一生)三男秀(大一生)四男淳(大一生)四
生(五男昭(昭二生)【住所】三江省依蘭縣公署

東 敬 恒

滿洲鐵道(株)復州支店支店長【本籍】愛
媛縣酒田郡興居島村【生年月日】明治廿七
年四月廿三日【職柄】山本金十郎二男昭和
八年十一月故彦三郎養子【學歷】大正十二
年香川縣立栗島商船學校機科中退同十
四年十一月逕信省機關士免狀受領【經歷】
大正十四年十二月大連汽船に入社昭和六
年一月機關長として江安丸に乗船同七年四月本
社用度課勤務機械工具取扱に従事八年五月辭職
翌九年九月滿洲鐵道に入社販賣課勤務を経て現
職に就く【家族】妻カネコ(明四〇生)長男雅義
(昭七生)【住所】奉天省復縣五湖嘴復州棧



谷 虔

勳六等、北滿電
氣、奉天石炭セ
メント、滿洲市
場、滿洲造酒、滿
蒙冷蔵、奉天取
引所信託、滿洲
皮革製業各(株)
取締役、滿洲取所(株)理事、滿洲製糖(股)董
事、奉天製糖、滿洲特産工業、奉天製糖、滿洲製
麻、瀋陽建物各(株)監査役、三有公司(名)代表社
員、石炭木炭製糖材料商(公的関係)奉天商
工會議所議員、滿洲帝國協和會顧問【本籍】岡山
縣兒島郡内村【生年月日】明治八年十二月一日
【職柄】彌太郎二男【經歷】夙に實業界に投じ明治
廿三年北滿事變の當時は廈門にあり翌年北京天
津遊歴後廿五年滿洲經濟事務及露西強の對滿洲
行動監視調査等に關する特別任務を受け外務省
及軍機託として渡滿旅順の王化成氏と共に南北
滿洲鐵道沿線を巡えテ邊境露國の諸施設を探り

之を外務省及參謀本部に通報せり後ハコホ
チ主として奉天支店等と交りあり同廿七年一月上
旬吉林に入り長順將軍府將軍等と目録開戦後
の驛報連絡を打合せ開戦の日督口領事館を訪ひ
直ちに旅順に向ひ同月廿二日より單身芝罘に
渡り更に命を受けて青島に露船の寄港するを偵
察す又濟南の山東省巡撫周復氏と會見人夫食料
品の泉軍納入を交渉此間青島濟南間を往復す五
月上旬第一軍の招電に依り單身芝罘より戎克に
乗じたが風波のため十八日間長山列島に停泊
を餘儀なくせらる當時謀議三笠の參謀長島村將
軍と會見下旬安東に上陸急ぎ鳳凰城に在る皇軍
司令部に入り遺台張錫鑾の顧問として日支間の
交渉事務の任に就き第一軍司令部軍政署兵站
監部付高等通譯官を兼務し一面官軍局總辦とな
り第一軍の物資輸送の任に當る同廿八年二月病
のため職を辭し一時歸郷病癒ゆるや同年八月再
渡滿安東に於て日本建築班木材廠を起し鴨綠江
上流探險隊を組織約四ヶ月間敵前調査を敢行し
翌廿九年以降安東に材木商及貿易商を營む一方
曩に鶴岡横川省三兩氏と五龍背を通過して温泉
經營を約し戰後其約を果すため五龍背温泉を開
き次で牛心台炭礦を經營大正四年奉天に移り三
有公司と號して牛心台炭の販賣に従ひ後滿鐵滿
蒙指定石炭販賣人として今日に及び最近合名會
社に改組し赤峰承德に支店を有す奉天實業界の
元老として商工會議所議員たる事多年後同會頭
に就任次で會頭たる事三度尙義に奉天金融組合
長全滿米穀同業組合長たり又奉天日日新聞社々
長として地盤界にも顯足を展べ滿洲事變には關
東軍司令部の囑託により奉天市政公署總務部長
に就任秩序の恢復に盡せり【功賞】關東廳始政

森 川 富 治

森川金物店主、建築建具金物製造販賣業
【本籍】滋賀縣甲賀郡多羅村【生年月日】明
治廿五年九月【經歷】明治廿六年學を卒へ
るや京都市五條高倉通建築金物問屋加藤
商店に入り翌年大阪支店店となりしが支
配人加藤氏投機に火失敗を招き氏亦責任
上大正十一年勤続二十年にして同店を去
り青島所在早川洋行主早川兵次郎氏の後援にて
同年秋大連市西通に金物商大隆洋行を開設同十
二年之を資本金二萬圓の合資會社に改組し其無
限責任代表社員となる翌十三年一時閉店歸郷同
十四年大連市浪速町に大陸洋行の舊商號を復活
金物店を開業市内俱馬町に部分品其他簡單なる
工作品製作工場を設け製作販賣に努め昭和三年
春親友市内三河町石井金物店主石井三郎氏と
提携店舖を合併氏主として製造工場に専念せし
が同七年二月滿洲金物株式會社設立せられ石井
金物店の合併を見るや同店を分離新に森川金物
店を開業今日に及ぶ【店舗】大連市榮町二鐵井ビ
ル内電三ノ線三九〇六・三二一九

店員を使用國際運輸の勞務機關たるの外發電所
市公署第一工業會社大連工業會社等に隨時勞力
供給をなすつゝあり【趣味】生花茶道【店舗】哈爾
濱道裡工廠街四四ノ一四電五六二八

山本 彦 枝

正五位勳三等、在郷海軍大佐、牛莊港水
先人、水先團(公的関係)在郷軍人會督口
分會長【出生地】佐賀市松原町【本籍】同市
興賀町【生年月日】明治十五年十一月【職
柄】海佐賀海軍在郷山本俊見長男【學
歴】明治廿六年海軍兵學校大正四年海軍
大學卒業【經歷】父の志を奉じて海軍に志
し前揚學校を経て軍職を奉じ果して大正十二
年海軍大佐に任ぜられ軍艦矢吹球磨多摩各艦長
に歴任し次で攝津特務艦長に轉じ昭和二年三月
被正五位勳三等豫備役仰付らる同四月渡滿牛莊
港水先人として引續き今日に及ぶ【特記】謹嚴誠
實各方面の信望篤く推されて前揚の公職に在り
【家族】妻シズ子(明二生)佐賀縣故兵動門女
長女喜美(大七生)二女喜代(大一生)長男昭夫
(昭五生)姉菊鶴は植原治郎に嫁し弟茂雄義衛武
夫は夫々他家へ入籍し外に乙枝八郎の二弟あり
【住所】督口擬定門街電二一九

廿年關東局始政世年各記念日に表彰日露戦後勲六等に表せらる昭和三年御大典に際し表彰同六年秋觀劇御宴に滿洲在留民最初の御召の光榮に際し同九年三月康德皇帝御即位式に在留邦人總代として召され同年十二月日本産業協會伏見總裁宮殿下より表彰【家族】妻つねよ、明二三生長野縣黒河内芳造女、嗣子賢(大六生成城學園高等科在)二女輝枝(大九生東京三輪田高女在)あり長女澄子は滿鐵社員村上國平に嫁す【住所】奉天翠平町一〇電三二二六二七

一周本々佐

正八位、大連汽船(株)機關長【本籍】廣島縣加茂郡廣村一三八五【生年月日】明治二十二年十二月十二日【學歷】東京商船學校卒業【經歷】學校卒業後直ちに海運界の實務に携はり昭和四年五月大連汽船株式會社に入社留學機關長として各船に歷業今日に及ぶ【住所】神戶市灘區深田町三ノ九



川口 盛夫

正八位勳八等、在輝縣軍主計少尉、滿鐵職員、推願炭礦團探採所經理主任【公的關係】帝國在輝軍人會第一分會監事、長崎縣人會幹事【本籍】長崎縣東彼杵郡彼杵村口木田郷三【生年月日】明治廿四年一月四日【學歷】後善の第【學歷】佐世保中學校を経て大正十四年三月早稲田大學專門部政經科卒業【經歷】大正四年四月一年志願兵として入營同十五年十二月滿鐵に入り機關炭礦團探採所機關長和五年六月炭礦部庶務課



有松 傳

同五年九月同都總理運動務同六年八月推願炭礦總理運動務同九年四月臨時關東炭礦建設事務所勤務同十年十月關東探採所經理主任となり今日に及ぶ【功賞】滿洲事變の功に依り勳八等賜瑞寶章從軍記章建國功勞章【趣味】園藝將棋麻雀【信仰】日蓮宗【家族】妻桂子(明三八、一〇)生東京府人田口政吉長女、長女尚子(六一五生)二女瑛子(昭五生)【住所】撫順龍鳳三ノ五ノ一電四一一九

從五位勳五等、關東中學校教諭、大連第一中學校校長代理【出生地】岡山縣上房郡高梁町大字松山三九七〇【本籍】同上【生年月日】明治廿一年一月廿六日【學歷】故武一郎長男【學歷】岡山縣立高梁中學校を経て明治四十三年東京物理學校を卒業次て高等數學積分分學文部省檢定試驗に合格す【經歷】物理學校卒業後直ちに岡山縣天城中學校奉職次て長崎市嶺西學院大分縣立宇佐中學校佐賀縣立佐賀中學校岡山縣天城中學校各教諭を歴任す大正十三年五月關東中學校教諭に任ぜられて渡滿大連第一中學校勤務となり今日に及ぶ昭和六年六月高等官四等となる【功賞】大正三年及び昭和三年大禮記念章を賜り昭和十一年八月從五位に同年九月勳五等に各敘さる【趣味】俳句講曲【家族】妻喜美(明三〇)生岡山縣山陽高女卒、長女津世美(大六生大連瀾生高女卒)長男武(大九生一高在)二男(大一二生大連一中在)二女美津留(大一四生伏見小在)【住所】大連市博愛町二八通第一中學校内

從五位勳五等、關東中學校教諭、大連第一中學校校長代理【出生地】岡山縣上房郡高梁町大字松山三九七〇【本籍】同上【生年月日】明治廿一年一月廿六日【學歷】故武一郎長男【學歷】岡山縣立高梁中學校を経て明治四十三年東京物理學校を卒業次て高等數學積分分學文部省檢定試驗に合格す【經歷】物理學校卒業後直ちに岡山縣天城中學校奉職次て長崎市嶺西學院大分縣立宇佐中學校佐賀縣立佐賀中學校岡山縣天城中學校各教諭を歴任す大正十三年五月關東中學校教諭に任ぜられて渡滿大連第一中學校勤務となり今日に及ぶ昭和六年六月高等官四等となる【功賞】大正三年及び昭和三年大禮記念章を賜り昭和十一年八月從五位に同年九月勳五等に各敘さる【趣味】俳句講曲【家族】妻喜美(明三〇)生岡山縣山陽高女卒、長女津世美(大六生大連瀾生高女卒)長男武(大九生一高在)二男(大一二生大連一中在)二女美津留(大一四生伏見小在)【住所】大連市博愛町二八通第一中學校内



淺野 政晟

國際運輸(株)事務課勤務【本社駐在主任待遇】【本籍】名古屋市東區千種町元吉井八五【生年月日】明治廿四年六月廿七日【學歷】士族戶主長房弟【學歷】明治四十二年市立名古屋商業學校卒業【經歷】明治四十二年六月大連

福昌社社長兼會計課長務同十四年十二月一年志願兵として歩兵第六聯隊入營除隊後福昌社に復歸大連埠頭人夫配給所作業主任同十二年九月日本内地南支及び爪哇島に於ける港灣施設並に労働狀態の觀察出張をなす同十二月歸店同十五年十月福昌社株式會社轉任昭和六年五月作樂課長同八年十二月國際運輸會社入社計畫課勞務係事務課同九年二月福津支店長代理同四月福津支店長代理同十年十月本社勤務計畫課勤務同十一年四月陸運課主任待遇を蒙り現職に就く【趣味】讀書【住所】大連市以龍臺四四ノ一電二一八四二四

邊政之助

正八位、在輝陸軍歩兵少尉、吉林省舒蘭縣參事官【本籍】秋田縣雄勝郡新成村足田字土館一〇三【生年月日】明治廿九年一月廿九日【學歷】昭和七年東京帝國大學經濟學部經濟科卒業【經歷】昭和七年三月滿洲國資政局自治訓練所に入り大同元年十月改稱後の大同學院を卒業吉林省懷德縣屬官に任ぜられ同三年一月三江省鳳山縣屬官に轉じ康德三年三月參事官に進み現職に就く【住所】吉林省舒蘭縣參事官公館

加藤 邦五郎

大連洋行總務主、洋品雜貨毛皮寶石貴金屬商【出生地】栃木縣下都賀郡壬生町【本籍】同上【生年月日】明治廿年【經歷】明治四十五年哈爾濱に到り大正五年より同十一年迄中央大街に於て玩具商三賀登商會を經營す後之を廢業昭和六年再び來哈し松浦洋行小賣部主任たり同十年一月現所に資本金一萬五千圓個人經營の大連洋行を設

立現業を開始す店員六名を使用す【家族】妻及一子【店舖】哈爾濱南崗大直街六七電六〇六〇

森 一郎

吉林省磐石縣公署參事官兼警正【本籍】佐賀縣佐賀郡東川村德富一九五〇【生年月日】明治四十二年十二月十一日【學歷】昭和八年京都帝國大學文學部東洋史學科卒業大同元年滿洲國大同學院卒業【經歷】大同元年十月奉天省公署屬官に任じ警務課警務科に勤務次て錦州省公署屬官同公署警務課司法科勤務民政部屬官警務司司法科勤務磐石縣警正を経て康德四年二月現官職に就く【家族】母キキ妹美代子弟孝彦弟忠司妹文子妹武子妹道子弟正彦【住所】吉林省磐石縣參事官公館



須本 長次郎

元北滿特別區行政長官公署顧問、元東支鐵路護路軍總司令部顧問、元東支鐵路警務公署時務員、元吉林製糖軍總司令部高等顧問【出生地】宮崎縣宮崎郡赤江村字恒久【本籍】同上【生年月日】明治廿八年十月十日【學歷】長作四男義親は日向國伊藤藩の一族として勢力を有し代々同國中野に領有し廢藩置縣後父領本姓を名乗り宮崎市城ヶ崎町に卜居材木商及金物商を營めり【學歷】宮崎縣立農學校卒業【經歷】大正三年四月渡滿奉天信託株式會社に奉職傍ら支那語を研修し後獨力奉天に於て貿易商富盛洋行を開設す爾來南北滿洲樞要の地に支店を設け滿洲特

三城 晃雄

勳五位、外交部理事官、通商司商政科長【出生地】朝鮮仁川府【本籍】熊本縣鹿本郡山本村【生年月日】明治三十五年八月九日【學歷】縣立中學校濟々養五高を経て大正十四年東京帝國大學法學部政治學科卒業【經歷】大正十三年高等試驗外交科合格翌年四月任商工部工務局工課課務同十五年十月退官同月中華民國海關九江海官員となり昭和二年二月上海海關に轉じ次て三等一級幫辦となる大同元年滿洲國財政部事務官に任じ同二年五月任理春稅關稅務科長康德元年三月任稅關事務官同二年八月命大連稅關稅務科長同十一月任財政部理事官總務司會計科長を経て同三年六月外交部理事官に轉任加藤日古氏後任として現職に就く應任二等たり此間國都建設紀念式典準備委員會接伴部幹事を命ぜらる【功賞】康德元年三月滿洲國建國功勞章及大典記念章を同二年九月皇帝勳日記念章を各賜ふ【趣味】ゴルフ乗馬【家族】母綾女妻榮子(明四五生)長男滿晴(昭九生)二男雄二(昭一一生)【住所】新京惠民路四〇四電二一四六五三

從武官長陸軍上將張海軍軍を擁立して、尾龍江省の獨立を扶け、事大いに努むる事約一ヶ月有餘に及び、然るに事志と違ひ、張將軍は終に黒龍江に入城せざるも、日本軍を誘導して北滿の中心地たる齊齊哈爾に軍らしむるの好果を得たり。次で多年親交ある元吉林師長第十六師團長現滿洲國第一軍管區司令官陸軍上將于澤澂將軍を説きて張學良將軍の未だ哈爾濱を中心として各地に散在せるを討伐すべく、同年十一月新吉林省長官現滿洲國宮内府大臣熙洽と相謀り、同長官援助の下に北伐軍を起し、翌七年一月九日吉林省城を出發、張將軍討伐に邁軍。氏も亦于將軍に誘はるゝ儘に支那陸軍少將吉林師長高冠同の待遇を受けて同行。三十有餘日の日数を費して目的を貫徹し、同年二月五日哈爾濱に入城の上、于將軍は東支鐵道護路軍總司令官兼吉林師長陸軍少將に就任し、氏亦其顧問及高等顧問に就任す。尙外、北滿特別區行政長官公署顧問東支鐵道督辦公署時務員として貢獻せし處、紳から「現時は哈爾濱に居るを定めて、悠々自適の生活を送りつゝあり」とあり。**【家族】**妻梅子(長崎縣人、福本與五郎長女)及び長男長正、長女康子あり。**【住所】**哈爾濱南崗大直街二六ノ四、電話五五。



中園 數人

勳八等、滿鐵職員
新京機關區工作助
役**【公的關係】**社員
會評議員、消費組
合總代**【出生地】**福
岡縣八女郡矢部村
【本籍】福岡縣八女
郡忠見村**【生年月日】**明治廿二年五月廿日**【職柄】**故

春次二男**【經歷】**學校卒業後明治四十五年三月三
妻造船所に奉職、大正三年五月長崎紡織會社電氣
課に轉勤、五年五月東京紡績八軒工場同七年四月
八幡製鐵所等に歴勤、後同十年三月滿鐵に入り、
安東鐵道區に勤務す。昭和三年三月大連鐵道區に
轉じ、同十年五月現職に就く**【功賞】**滿洲事變にて
鼓動八等從軍記章並滿洲國建國功勞章、同皇帝訪
日記念章を受く。又昭和十一年四月十五年勤績表
勲を受く**【趣味】**寫眞、尺八**【信仰】**金光教**【家族】**妻
美智子(天二、五生)三女彌生(大一、三、八生)四
女美佐子(昭二、四生)五女和代(昭五、一、二生)
【住所】新京露月町一ノ二六ノ一



矢野 儀

正八位、在野陸軍
工兵少尉、滿鐵職
員、推原炭礦東條
探炭所坑内係主任
推原工業學校講師
【公的關係】推原在
野軍人第一分會東
郷班々長**【本籍】**京都市京區西田牛ノ宮町五
【生年月日】明治廿九年一月十日**【職柄】**士族故儀
平長男**【學歷】**昭和五年京都帝國大學工學部探炭
冶金科卒業**【經歷】**昭和五年四月三菱炭業會社高
島鐵業所に入り、同六年二月入替、同八年三月工兵
少尉に任官、正八位に敘せらる。同九年三月滿鐵に
入社、推原炭礦探炭所に勤務す。同四月龍鳳探炭所
同十一年三月老虎探炭所監査係技術指導員同
年七月推原係主任等を經て、同十一月現職に就く
【趣味】スポーツ、柔道、四段、卓球、野球**【信仰】**眞宗
【家族】妻園子(大二生)長女車藤、次女美代、三女大連

彌生高女卒、長女連代(昭九生)二女靜江(昭一二
生)**【住所】**推原東郷二ノ二六ノ一、電話三六二八



稻葉 賢一

勳六等、滿鐵副參
事、新京事務局地
方課庶務係長**【公
的關係】**帝國在野
軍人會新京聯合分
會第四分會長、滿
洲防空協會本部支
部各幹事、滿鐵消費組合新京區總代**【出生地】**栃
木縣下都賀郡豐田村字小宅**【本籍】**栃木市栃木城
内**【生年月日】**明治三十一年五月十七日**【職柄】**道
四郎長男**【學歷】**大正九年明治大學法科卒業**【經
歷】**大正九年五月滿鐵に入社、爾來社長室人事課
同社會課地方部庶務課同地方課等を經て、同十四
年九月大石橋地方事務所社會主事、同昭和二年
十一月命、兼務口地方事務所社會主事、同三年八
月併口地方事務所庶務係長、同六年一月所長代理
所長心得、同八月長春地方事務所庶務係長を経て、
新京事務局庶務係長兼秘書主任となり、昭和十一
年九月副參事任命現職に就く。此間國都建設紀念
式典準備委員會市民部幹事に選ばれる**【功賞】**滿洲
事變にて鼓動六等從軍記章並滿洲國建國功勞章、同皇
帝訪日記念章、同皇帝御訪日記念章、同大勳章、同
勲を受く**【趣味】**園芸、水泳、散步**【信仰】**佛教**【家族】**父道
四郎(從八位)明三生(母ミコ)明七生(妻春子)明
三二生(樹木藤、新井藤、長女樹木高女卒)長男博
代(大一〇生)新京中學在、二男盛彦(大一一生)同
七三男榮(大一一三)同男清(大一一四)同男五男豐
昭二生(大一一五)同男五生**【住所】**新京露月町一ノ

滿鐵職員、新京
貨物助役**【公的關
係】**日本學生陸上
競技聯合會幹事、
社員會新京支部運
動部長、新京體
育協會陸上部幹事
【本籍】大阪府八雲町三ノ三九**【生年月日】**明
治四十年五月十五日**【職柄】**士族宗美長男**【學歷】**
昭和九年神戶商業大學卒業**【經歷】**昭和九年四月
滿鐵に入り、總務部人事課に勤務す。同十月四平街
驛同十年二月大連列車區等を經て、同十一年一月
新京驛構内助役となり、同十二年一月現職に就く
【趣味】寫眞、テニス**【信仰】**淨土宗**【家族】**妻昌子
(明四二、七生)大阪府人政山龍雄二女大阪櫻蔭高
女專門部在、長女和子(昭一一、九生)**【住所】**新京
黒水寮



三雲 宗敏

東亞商會經營主、自動車部分品商**【公的關
係】**在野軍人會奉天分會海軍部理事、東千
代田町内委員、奉天自動車用品商組合長
【出生地】香川縣丸龜市地方町一八九**【本
籍】**同上**【生年月日】**明治廿三年十一月三
日**【職柄】**菅二郎長男**【經歷】**夙に海軍々籍
に入り、下士官を以て退役、後間もなく渡連



若狹 末雄

勳八等、滿鐵職員
哈爾濱鐵路局機務
處運轉科長**【本籍】**
神戸市淡東區中町
通四ノ四**【生年月
日】**明治廿二年十
二月十一日**【職柄】**

士族多幡末雄弟、善造造子**【學歷】**大正十五年南
滿洲工業專門學校鐵道機械分科卒業**【經歷】**大正
十五年三月滿鐵に入り、技術部機械課に勤務す。同十
五年三月鐵道部運轉課、昭和五年四月兼鐵道教習
所講師、同六年八月鐵道部車務課、同七年十二月鐵
道部輸送課、同同月同工作課、同八年三月鐵道總局機
務處運轉科、同九年十一月兼輸送課、同十一年一月
監察院附同月鐵道總局監察院附監察補等に歴勤、同
十二年四月現職に就く**【特記】**機關車輛補修運
用方面に經驗深し**【功賞】**鼓動八等從軍記章、滿洲
國建國功勞章を受く(滿洲事變)**【趣味】**旅行、遊馬

【信仰】眞言宗**【家族】**妻ヨキ子(明五生)長女光
子(昭三)長女康子(昭五)長女高女卒、長女
三女弘子(昭一一)生**【住所】**哈爾濱鐵路局機務處
運轉科

小島 和郎
滿洲宮田製作所(株)取締役、昌和洋行經
營主、金物雜貨商**【出生地】**滋賀縣愛知郡
西押立村**【本籍】**同上**【生年月日】**明治十九
年四月**【職柄】**利平四男**【學歷】**滋賀縣立八
幡商業學校卒業**【經歷】**卒業と共に東京神
田所在堀井野寫字に入店、後其人物を察
まれて店主夫人の妹を娶り、又支配人に累
進、大正の初め南支方面に出張、販路の開拓に努め、
上海漢口に支店を設け、其主任となる。大正七年春
奉天に支店を設け、昌和洋行と號し、堀井野寫
字の支店格として滿人への如小費に力を注ぎ、同
九年大連支店を開設、東京宮田製作所と特約、自轉
車の滿洲總代理權を得、又獨逸英國等の自轉車を
も輸入し、一時自轉車の總元緒の如き譽を蒙せり
同十二年更らに天津青島濟南府に支店出張所を
設け、事變後は新京哈爾濱にも支店を設け、又大阪
市に仕入専門の支店を設ける。外副代理店を各所
に置き、氏は之等各店を總て直轄、今日及び又奉
天鐵西工業區には株式會社宮田製作所社長宮田
榮太郎氏と合同にて株式會社滿洲宮田製作所を
設立し、目下自轉車製作組立の事業を開始、一方奉
天本店の附屬機關として昌和製作所の名の下に
鋼製家具及書庫製作の事業をなし、尙青島には大
阪角一ゴム株式會社と共同し、昌和とゴム株式會社
を設立し、己に工場建築を完了せり**【事業】**昌和洋
行は高等事務用品、金庫雜貨、自轉車ゴム製品、オー

トバイ・オートリヤカー・タイプライター計算機
 文房具書寫金銀器製文書函並同家具類
 印刷機材料附屬品電氣器具輸材料等輸
 入貿易東京堀井豐堂グッドリッチタイヤ製品
 竹内金庫丸善文房具各取扱店東京滿洲各官田製
 作所滿洲總代理店等主理營業課目とす【趣味】旅
 行【信仰】淨土宗【家族】妻雪子(明治二六生)長
 女和子(大五生)次女高女卒東京女高師附屬高女
 家政科卒(二女)三女道子(大八生)西宮高女在(三女)昌
 子(大一一生)【店舖】昌和洋行本店(奉天)富士町
 一電二五八〇・二七五六・七五八



美安上三

〇【生年月日】明治三十一年三月十二日【籍貫】比
 良雄孫【學歷】廣陵中學を経て大正十二年拓殖大
 學本科学業【經歷】大正十二年四月滿鐵に入り社
 長室社會課に勤務十月同課部社會課同十五年
 四月社長室人事課昭和二年一月庶務部調査課同
 五年六月總務部調査課同六年九月庶務部調査課
 探検所同七年一月同庶務主任同八年九月庶務
 探検所庶務主任同十一年九月副参事となり
 同十月庶務探検所主任同十二年四月庶務
 探検所主任同十二年四月同現業員訓練所主任兼
 務同六月現職に就く【功賞】滿洲事變にて勳八等
 勳章【家族】妻雪子(明治二六生)長女和子(大五生)次女高女卒東京女高師附屬高女家政科卒(二女)三女道子(大八生)西宮高女在(三女)昌子(大一一生)【店舖】昌和洋行本店(奉天)富士町一電二五八〇・二七五六・七五八



三屬部磯

正七位勳六等、醫
 學博士、在郷海軍
 少尉大尉、首都醫
 療技術佐中央醫
 療學校教授【公的
 關係】協和會幹事、
 煤礦防止委員會幹
 事【出生地】愛知縣東加茂郡大沼村【本籍】同縣豐
 橋市海部町一〇六【生年月日】明治廿六年五月八
 日【資格】道大郎四男【學歷】昭和五年慶應義塾大
 學醫學部卒業【經歷】昭和五年四月一日慶大醫學
 部助手に任じ生理學教室に勤務し加藤元一博士
 指導下に研究に従事十一年九月任海軍少尉中尉
 (二年現役)續領賞領守府附佐付海軍砲術學校
 に入校同年九月海軍少尉學校普通科學生被仰付
 同年十二月補賞々浦海軍航空隊附同六年三月補
 第一遣外艦隊司令部附上海陸戰隊附被任命同年十
 二月補加賀軍組同七年一月第一航空隊隊附被命
 隊隊長被任命同年七月二十日續領賞領守府附佐付
 付同年八月任海軍少尉大尉同年九月豫備役被仰
 付受知縣御津町礦部療病院長に就任同年十二月
 慶大醫學部生理學教室に復歸同八年五月海
 軍特別大演習特別召集に應じ第四艦隊司令部附
 被仰付同年八月復歸同九年六月復歸衛生技術師
 に任ず同十一年三月依願免官となり内務省の推
 薦に依り滿洲國濱江省公署技正兼首都警察廳技
 佐に任じ次で現職に就き同十二年三月國都建設
 紀念式典準備委員會警備部幹事に選ばれる尙滿洲
 國轉出並中央大學法科に學ぶ【功賞】昭和七年八
 月該正七位滿洲事變の功に依り勳六等軍光旭日
 章建國功勞章を賜る【趣味】庭球乗馬演書【信仰】
 神宗【家族】妻園枝(明治二生)貴族院議員光永星

一年坑内用帽の研究考案により表彰さる【趣
 味】ゴルフ麻雀【信仰】神道【家族】妻君子(明三九
 生)長男晃(昭四生)長女敬子(大一一生)二女愛
 子(昭八生)【住所】撫順古城子探検所

柴田五郎

哈爾濱警察廳警正【本籍】栃木縣宇都宮市
 二條町一二七七【生年月日】明治廿一年三
 月廿八日【學歷】陸軍中央幼年學校卒業明
 治十四年東京外國語學校第三學年修了
 【經歷】明治四十年六月士官候補生として
 山口歩兵第四十二聯隊入替同九月病のため
 め兵役免除大正二年滿鐵に入り電氣作業
 所長春電燈營業所勤務同七年三月滿鐵より
 哈爾濱北滿電氣株式會社營業主任に派遣同八
 月ポクワニチナヤ電灯公司支配人等を經て同八
 年二月哈爾濱東露公司に入り露語通譯事務に従
 事同九年三月關東廳廳託に任じ大連警察署に勤
 務同十五年七月關東廳廳託生拜命昭和八年二月
 依願免官大同二年二月任濱陽警察廳警正康徳
 二年六月現職に就く前任五等たり【家族】妻カシ
 長男忠藏二男茂三男滿【住所】哈爾濱馬家溝永安
 街代用官舎



野野光世

滿鐵職員、撫順炭
 礦老茂探検所庶
 務主任【公的關
 係】社員會評議員
 消費組合總代【本
 籍】大阪市此花區
 上福島中二ノ五四
 八【生年月日】明治廿七年三月三日【籍貫】故河津
 郡【師長男】【學歷】大連中學を経て大正十五年日
 本女子大學二輪田高女【住所】青森縣岩手郡
 一〇六電二二八七五

有馬虎雄

正六位勳五等、在郷陸軍少佐、滿鐵青々哈
 爾濱鐵路局警務科長兼青々哈爾濱警備大訓練
 所巡監【公的關係】青々哈爾濱在郷軍人聯合
 分會監事、同會鐵路分會會長【本籍】鹿兒島
 市下荒田町三〇【生年月日】明治廿三年三
 月十三日【學歷】明治四十四年陸軍士官學
 校卒業【經歷】昭和九年八月鐵路局に入
 り山海關警務段長となり同十年八月現職に就く
 【趣味】園芸【信仰】神道【家族】妻及び一男一女あ
 り【住所】青々哈爾濱智廣街八電二二九



猪俣榮登

勳八等、滿鐵職員
 奉天保線區工事助
 役【本籍】高田市北
 本町七九【生年月
 日】明治廿四年六
 月十三日【籍貫】利
 八長男【學歷】大正
 十年南滿工業學校機械科選科卒業【經歷】大正十
 一年二月滿鐵に入社運轉部機械課に勤務す同年
 十二月入替のため非役となり同十四年一月除隊
 鐵道部機械課に勤務次で同十五年八月長春鐵道
 事務所昭和二年十一月奉天鐵道事務所同五年六
 月長春工事區事務所同十月奉天工事事務所同
 六年八月奉天事務所鐵道課同七年一月奉天鐵道
 事務所等に應勤同十年四月現職に就く【功賞】滿
 洲事變の功に依り勳八等に叙し旭日章を賜り尙
 從軍記章建國功勞章金一封を賜る滿鐵十五年勳
 章により表彰さる【家族】父利八(明治九生)母ツナ

滿鐵職員、大連工
 事事務所設備係長
 兼地方部工事課助
 務、關東廳廳託【公
 的關係】社員會評
 議員、大連煙房相
 談所委員、滿鐵俱
 樂部委員【本籍】福山縣山門郡高野町大字文廣八
 九【生年月日】明治廿一年七月十六日【籍貫】故直
 人二男【學歷】縣立中學傳習館を経て大正十一年
 旅順工科大学專門部卒業【經歷】大正十二年滿鐵
 に入社し運轉部機械課に勤務次で奉天工務事
 務所奉天地方事務所奉天實業部講師兼務同十三年
 九月奉天地方事務所同十四年四月奉天地方事務所
 和三年十二月地方部建築課五年六月工務部建築
 課同六年八月地方部工務課同七年七月安東地方
 事務所同八年十月地方部工務課等に應勤し同十
 一年九月現職に就く【特記】建部附帶設備に關し
 造詣深く目下石油機關を研究中【趣味】野球麻雀
 園藝【家族】妻哲子(明治〇生)鹿兒島縣林伊十郎
 女國分高女卒(長女)天里子(昭二生)三女陽子(昭
 四生)【住所】大連市馬場道七二



板橋電生

大連圖書印刷(株)代表取締役、大連證券
 (株)取締役、大信洋行(株)及永順洋行各
 顧問、辯護士【本籍】長崎縣長崎市濱口町
 【生年月日】明治廿三年四月九日【籍貫】赤
 市二男【學歷】大正四年明治大學法科卒業
 【經歷】大正五年辯護士試験に合格東京に
 於て開業同七年渡連立川雲平法律事務所
 に入る同十年關東州辯護士會副會長に就任同十
 二年三月歐米諸國視察の途に上り英獨奧伊佛の
 諸國を遊歴歐洲大戦に於ける法政問題を研究し
 次で米國に渡り同十三年七月歸朝す昭和三年關
 東州辯護士會長に當選同年最高點を以て大連市
 會議員となる同七年市會議員再選同九年辯護士
 會長に再選さるに中日實業興信社長たりし事
 あり【趣味】ゴルフ園芸【家族】妻和子(明三〇生
 長野縣人立川雲平女實踐高女卒)長男淡(大八
 生)二男浩(大一一生)長女英子(六一四生)二女
 恭子(昭二生)【住所】大連市橋邊町五一電二二
 五〇三七

相川米太郎

勳六等、勳六位、
 滿鐵參事、大連鐵
 道事務所工務課長
 【公的關係】滿鐵地
 方委員、社員會常
 任幹事、連鐵聯合
 會々長、消費組合
 總代【本籍】東京市本郷區丸山福山町一五【生年



竹村勝清

明治九年 妻雪子(明治二六生)長女和子(大五生)次女高女卒東京女高師附屬高女家政科卒(二女)三女道子(大八生)西宮高女在(三女)昌子(大一一生)【店舖】昌和洋行本店(奉天)富士町一電二五八〇・二七五六・七五八

【月日】明治廿八年八月廿八日【籍柄】尾崎秀次郎
 二男虎太郎【學歴】大正八年熊本高等工業學校土木科卒業【經歷】大正八年四月滿鐵に入り保線課に勤務す同八年十一月大連工務事務所同九年八月技術部課同十二年二月安東工務事務所同四月安東鐵道事務所同十三年三月金州保線區長同十五年一月四平街保線區長等を経て昭和五年六月滿鐵路局に派遣され同六年八月技術部同七年二月鐵道部同八年三月鐵道總局工務處工務科保線主任等に歴任同九年六月技師に任じ同十一月總局機務處輸送課第三係主任となる同十二年十二月總局機務處輸送課主任となる同十三年十月鐵道保線作業法並に其の組織に關する研究のため往復共滿八月間歐米各國に出張し同九月參事となり同十月現職に就く【特記】滿洲事變に際しては戰闘に参加すること廿四時に馬占山と折衝に當り福機に參畫して功勞極めて顯著なるものあり事變後勲六等旭日章並滿洲國より勲六位景雲章を賜ふ多年保線工事等の業務に携はり實際家として部内の第一人者を以つて稱せらる

【趣味】テニス、讀書【信仰】眞宗【家族】妻春枝(明治二、一、生秋田縣本間賢太郎、長男一清(昭五、二生)【住所】大連市神町六二電二一八五九一

【學歴】大正十一年一月關東農務講習生被命關東國東廳民政署稅務吏關東廳屬同課課生等歴任昭和五年二月旅順民政署財務部財務課勤務を経て同七年十二月依願免官先是大同元年六月滿洲國政府に聘せられて財政部屬託となり稅務司國稅科に勤務同二年三月任財政部屬官同三年一月確藏總局總務科長代理康德元年十一月稅捐局司稅に任じ懷德稅捐局勤務を経て同三年一月稅捐局理稅官となり下九廳稅捐局勤務たりしが同四年二月現職に轉じ專任六等たり【功賞】康德元年五月勲七位に授せらる【家族】妻ミツ(明三二生)長男敏夫(大一一、二生)二女百合子(大一一、四生)

【月日】明治廿八年八月廿八日【籍柄】尾崎秀次郎
 二男虎太郎【學歴】大正八年熊本高等工業學校土木科卒業【經歷】大正八年四月滿鐵に入り保線課に勤務す同八年十一月大連工務事務所同九年八月技術部課同十二年二月安東工務事務所同四月安東鐵道事務所同十三年三月金州保線區長同十五年一月四平街保線區長等を経て昭和五年六月滿鐵路局に派遣され同六年八月技術部同七年二月鐵道部同八年三月鐵道總局工務處工務科保線主任等に歴任同九年六月技師に任じ同十一月總局機務處輸送課第三係主任となる同十二年十二月總局機務處輸送課主任となる同十三年十月鐵道保線作業法並に其の組織に關する研究のため往復共滿八月間歐米各國に出張し同九月參事となり同十月現職に就く【特記】滿洲事變に際しては戰闘に参加すること廿四時に馬占山と折衝に當り福機に參畫して功勞極めて顯著なるものあり事變後勲六等旭日章並滿洲國より勲六位景雲章を賜ふ多年保線工事等の業務に携はり實際家として部内の第一人者を以つて稱せらる

【趣味】テニス、讀書【信仰】眞宗【家族】妻春枝(明治二、一、生秋田縣本間賢太郎、長男一清(昭五、二生)【住所】大連市神町六二電二一八五九一

【學歴】大正十一年一月關東農務講習生被命關東國東廳民政署稅務吏關東廳屬同課課生等歴任昭和五年二月旅順民政署財務部財務課勤務を経て同七年十二月依願免官先是大同元年六月滿洲國政府に聘せられて財政部屬託となり稅務司國稅科に勤務同二年三月任財政部屬官同三年一月確藏總局總務科長代理康德元年十一月稅捐局司稅に任じ懷德稅捐局勤務を経て同三年一月稅捐局理稅官となり下九廳稅捐局勤務たりしが同四年二月現職に轉じ專任六等たり【功賞】康德元年五月勲七位に授せらる【家族】妻ミツ(明三二生)長男敏夫(大一一、二生)二女百合子(大一一、四生)



中江 義雄

正八位、在野陸軍主計少尉、滿鐵職員、三林樹鐵道工場庶務長【本籍】鹿兒島縣大島郡鹿野村【生年月日】明治廿八年十二月十九日【籍柄】故實父二男【學歴】大正九年高千穂高等

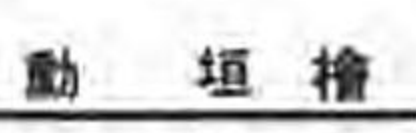
【學歴】大正十一年一月關東農務講習生被命關東國東廳民政署稅務吏關東廳屬同課課生等歴任昭和五年二月旅順民政署財務部財務課勤務を経て同七年十二月依願免官先是大同元年六月滿洲國政府に聘せられて財政部屬託となり稅務司國稅科に勤務同二年三月任財政部屬官同三年一月確藏總局總務科長代理康德元年十一月稅捐局司稅に任じ懷德稅捐局勤務を経て同三年一月稅捐局理稅官となり下九廳稅捐局勤務たりしが同四年二月現職に轉じ專任六等たり【功賞】康德元年五月勲七位に授せらる【家族】妻ミツ(明三二生)長男敏夫(大一一、二生)二女百合子(大一一、四生)

【學歴】大正十一年一月關東農務講習生被命關東國東廳民政署稅務吏關東廳屬同課課生等歴任昭和五年二月旅順民政署財務部財務課勤務を経て同七年十二月依願免官先是大同元年六月滿洲國政府に聘せられて財政部屬託となり稅務司國稅科に勤務同二年三月任財政部屬官同三年一月確藏總局總務科長代理康德元年十一月稅捐局司稅に任じ懷德稅捐局勤務を経て同三年一月稅捐局理稅官となり下九廳稅捐局勤務たりしが同四年二月現職に轉じ專任六等たり【功賞】康德元年五月勲七位に授せらる【家族】妻ミツ(明三二生)長男敏夫(大一一、二生)二女百合子(大一一、四生)



古川 團三

勲七等、滿鐵職員牡丹江機務段運轉助役兼機關士【本籍】佐賀縣杵島郡武雄町字永島【生年月日】明治二十四年二月二日【籍柄】故即之助の男【經歷】學校卒業後明治四十五年四月滿鐵に入り遼陽に勤務する事多年後移轉により蘇家屯に轉じ隨行を経て昭和十年七月現職に就く【功賞】事變當時は最前線に活躍し功績極めて顯著なるものあり破格の勲七等瑞寶章を賜ふ勲二十五年新滿鐵昭和十二年四月表章され金杯を授けらる【趣味】園芸【信仰】眞宗【家族】妻フエ(明二六生)長男滿夫(大一一、三生)【住所】濱江省牡丹江局宅八ノ九



榎垣 健

共同印刷所主、印刷及和洋紙販賣【公的關係】前牡丹江日本商工會評議員【本籍】大分縣南海部郡上座田村久部【生年月日】明治廿九年一月一日【籍柄】故吉四男【學歴】昭和二年川崎西工學校電氣科卒業【經歷】昭和二年川崎鐵鋼工場京城分工場に奉職し同三年七月辭職後印刷業を創め其後現所に移轉して共同印刷所と稱し以て今日に至れり【事業】印刷機六臺萬能器一臺手廻器一

【學歴】大正九年高千穂高等【籍柄】故實父二男【學歴】大正九年高千穂高等

【學歴】大正十一年一月關東農務講習生被命關東國東廳民政署稅務吏關東廳屬同課課生等歴任昭和五年二月旅順民政署財務部財務課勤務を経て同七年十二月依願免官先是大同元年六月滿洲國政府に聘せられて財政部屬託となり稅務司國稅科に勤務同二年三月任財政部屬官同三年一月確藏總局總務科長代理康德元年十一月稅捐局司稅に任じ懷德稅捐局勤務を経て同三年一月稅捐局理稅官となり下九廳稅捐局勤務たりしが同四年二月現職に轉じ專任六等たり【功賞】康德元年五月勲七位に授せらる【家族】妻ミツ(明三二生)長男敏夫(大一一、二生)二女百合子(大一一、四生)

【學歴】大正十一年一月關東農務講習生被命關東國東廳民政署稅務吏關東廳屬同課課生等歴任昭和五年二月旅順民政署財務部財務課勤務を経て同七年十二月依願免官先是大同元年六月滿洲國政府に聘せられて財政部屬託となり稅務司國稅科に勤務同二年三月任財政部屬官同三年一月確藏總局總務科長代理康德元年十一月稅捐局司稅に任じ懷德稅捐局勤務を経て同三年一月稅捐局理稅官となり下九廳稅捐局勤務たりしが同四年二月現職に轉じ專任六等たり【功賞】康德元年五月勲七位に授せらる【家族】妻ミツ(明三二生)長男敏夫(大一一、二生)二女百合子(大一一、四生)

原 顯吉

正七位勲六等、關東州公學堂長、大連沙河公學堂長【公的關係】關東州教職員共濟會理事【本籍】岡山縣倉敷市安江二九三【生年月日】明治十六年十二月九日【學歴】明治廿八年岡山縣師範學校卒業【經歷】學校卒業後縣下倉敷精思中島早島各小學校調導を歴勤後明治四十四年關東州小學校調導に轉じ旅順第一尋常高等小學校調導を拜命十次で旅順公學堂教諭に任じ在職中北京に留學一年餘支那語及支那事情を研究し歸朝關東廳視學菅野支署金州公學堂南金書院教諭魏子高公學堂長同小學校教務魏子高支署支署大連各民政署勤務關東廳屬兼任等に歴任後關東州公學堂長に任じ現職に就く高等官七等特選たり【住所】大連市長春臺一四電二一七二九九

【學歴】大正十一年一月關東農務講習生被命關東國東廳民政署稅務吏關東廳屬同課課生等歴任昭和五年二月旅順民政署財務部財務課勤務を経て同七年十二月依願免官先是大同元年六月滿洲國政府に聘せられて財政部屬託となり稅務司國稅科に勤務同二年三月任財政部屬官同三年一月確藏總局總務科長代理康德元年十一月稅捐局司稅に任じ懷德稅捐局勤務を経て同三年一月稅捐局理稅官となり下九廳稅捐局勤務たりしが同四年二月現職に轉じ專任六等たり【功賞】康德元年五月勲七位に授せらる【家族】妻ミツ(明三二生)長男敏夫(大一一、二生)二女百合子(大一一、四生)

【學歴】大正十一年一月關東農務講習生被命關東國東廳民政署稅務吏關東廳屬同課課生等歴任昭和五年二月旅順民政署財務部財務課勤務を経て同七年十二月依願免官先是大同元年六月滿洲國政府に聘せられて財政部屬託となり稅務司國稅科に勤務同二年三月任財政部屬官同三年一月確藏總局總務科長代理康德元年十一月稅捐局司稅に任じ懷德稅捐局勤務を経て同三年一月稅捐局理稅官となり下九廳稅捐局勤務たりしが同四年二月現職に轉じ專任六等たり【功賞】康德元年五月勲七位に授せらる【家族】妻ミツ(明三二生)長男敏夫(大一一、二生)二女百合子(大一一、四生)



川 戶 愛 雄

專賣署事務官、錦縣專賣署庶務科長【本籍】鳥取縣八頭郡河原町大字袋河原三二【生年月日】明治廿六年五月五日【籍柄】啓四郎三男【學歴】鳥取中學を経て昭和二年東亞同文書院商務科卒業【經歷】昭和三年國際運輸株式會社に

【學歴】大正十一年一月關東農務講習生被命關東國東廳民政署稅務吏關東廳屬同課課生等歴任昭和五年二月旅順民政署財務部財務課勤務を経て同七年十二月依願免官先是大同元年六月滿洲國政府に聘せられて財政部屬託となり稅務司國稅科に勤務同二年三月任財政部屬官同三年一月確藏總局總務科長代理康德元年十一月稅捐局司稅に任じ懷德稅捐局勤務を経て同三年一月稅捐局理稅官となり下九廳稅捐局勤務たりしが同四年二月現職に轉じ專任六等たり【功賞】康德元年五月勲七位に授せらる【家族】妻ミツ(明三二生)長男敏夫(大一一、二生)二女百合子(大一一、四生)

【學歴】大正十一年一月關東農務講習生被命關東國東廳民政署稅務吏關東廳屬同課課生等歴任昭和五年二月旅順民政署財務部財務課勤務を経て同七年十二月依願免官先是大同元年六月滿洲國政府に聘せられて財政部屬託となり稅務司國稅科に勤務同二年三月任財政部屬官同三年一月確藏總局總務科長代理康德元年十一月稅捐局司稅に任じ懷德稅捐局勤務を経て同三年一月稅捐局理稅官となり下九廳稅捐局勤務たりしが同四年二月現職に轉じ專任六等たり【功賞】康德元年五月勲七位に授せらる【家族】妻ミツ(明三二生)長男敏夫(大一一、二生)二女百合子(大一一、四生)



天 笠 寬 三

國際運輸(株)庶務課長【本籍】群馬縣新田郡鳥之居村大字鶴生田村二二五【生年月日】明治廿三年十一月十五日【籍柄】澤次郎三男



中尾 佐市

滿鐵職員、大虎山
鐵路監理所監理員
【公的關係】社員會
新東京聯合會青年部
委員【本籍】長崎市
片南町三ノ九三四
【生年月日】明治卅
二年四月廿二日【籍貫】故光次郎長男【學歷】大正五
年滿鐵職員養成所電信科卒業【經歷】大正五
年十月滿鐵に入社し公主嶺驛勤務十同十五年十
月長春列車區昭和三年十月同區四平街分區同八
年四月郭家店驛助役同九年九月同防副監督兼
務等を歴勤同十年五月新京驛事務助役となり同
十二年四月現職に就く【功賞】滿洲事變にて從軍
記章並勳杯【趣味】野球、スケート、尺八【信仰】日蓮
宗【家族】妻あり(明治六、一〇)生東京府酒井七助
長女一長男惣(天、一四、二生)三男浩三(昭二、一
平)長女輝子(昭七、一一生)三男友大(昭一、一、四
生)【住所】錦州省大虎山鐵路監理所

特許發明局技佐、審査官兼實業部技佐、
工商司勤務【本籍】宮崎縣宮崎郡生目村浮
田一五〇三【生年月日】明治卅四年四月十
八日【籍貫】長馬長男【學歷】縣立宮崎中學
校長江高等學校を修了昭和三年三月九州
帝國大學工學部應用化學科卒業【經歷】昭
和三年四月九州帝國大學工學部應用化學
科副手同四年七月商工省東京工業試驗所副所長
同四年四月滿洲國實業部技士工商司工務科三年
七月特許發明局技佐評定科同月特許發明局審査
官を歴勤同年四月現職に就く【功賞】特任官六等たり
【家族】妻あり(明治〇生)長女英子(昭七生)二女
【住所】錦州省大虎山鐵路監理所



中田 莊太郎

從五位勳四等、總
領事、齊々哈爾濱在
勤【公的關係】日本
赤十字社齊々哈爾濱
支部長【出生地】山
梨縣東山梨郡春日
居村【本籍】東京市
世田谷區玉川瀨田町七八二【生年月日】明治十七
年七月廿五日【籍貫】故武平太二男逸太郎弟【學
歷】明治卅九年東亞同文書院卒業【經歷】卒業後
明治四十年六月外務省に入り任外務通譯生大正
二年八月任外務書記生大正九年一月副領事に任
じ桑港及上海各在勤を歴任し同十二年一月領事
に昇任長沙鐵嶺青島漢江鄭州天津及九江を歴て
昭和十一年七月齊々哈爾濱在勤を命ぜられ同十一
月一日在齊々哈爾濱領事館の總領事館昇格と共に
總領事に任ぜらる高等官四等たり【特記】國勢調
査記念章大禮記念章滿洲國建國功勞章皇帝訪

年東亞同文書院卒業【經歷】昭和五年一月上海領
事館系株式會社に入社し同七年十月退社滿洲に
轉出大同二年一月遼寧省王府縣安警察局長に
任用せられ康德元年十二月興安南省公署屬官同
二年三月阿魯科爾沁旗代理參事官に轉任同三年
五月巴林左翼旗代理參事官を歴て同年八月參事
官に昇進し今日に及ぶ現職任六等たり【家族】
母君子(明治一七生)兄和太郎(明治三七生)嫂タケ
(明治一一生)姪(昭三生)妻文子(大元生)【住所】
興安西省巴林左翼旗公署

壽子(昭八生)【住所】新京長通路特許發明局内
原洋行主、貿易商並種瓦製造業【本籍】長
崎市十人町一【生年月日】明治十四年十月
三日【經歷】夙に支那に渡り山東省に在り
昭和六年滿洲事變直後錦州に逃出現軍用
通商を營みしが後種瓦製造業に轉じ今日
に及ぶ【事業】本店は山東省益都に在りて
貿易商を營み錦縣の店舗は大馬路二丁目
にして種瓦工場を設け専ら種瓦製造に従ひ月
製造能力一百三十萬個に達す【趣味】古物骨董
【店舗】原洋行本店、山東省益都、錦縣營業所、
錦縣大馬路二丁目電話三三五、工場、錦縣種瓦工

荒谷 千次
三江省公署理事官兼地籍整理局事務官、
江省公署民政廳行政科長【本籍】廣島縣
賀茂郡三津町三七〇八【生年月日】明治四
十年二月四日【籍貫】超松二男【學歷】廣島
縣立第一中學校六高を修了昭和六年東京
帝國大學經濟學部商學科卒業【經歷】昭
和六年四月日清生命保險會社東京本社に
入社同七年四月退社國務院民政部造設特別調査
隊チ、ハ、班に入り同年六月省政局訓練所に入
所十月大同學院卒業任黑龍江省海倫縣屬官康德
元年五月依蘭縣參事官同年七月民政部事務官總
務司調査科勤務同年十一月吉林省警務廳參事官
等を歴て同四年二月現職同三月兼官に任じ三江
省局勤務となる【特記】大同元年十二
月以降安達康林等の官撫に従事同年十二
月景星縣救濟同二年三月大黑河官撫等に従事す
【住所】三江省佳木斯三江省公署民政廳



鈴木 嘉男

滿洲電業(株)承德
出張所支店營業所
長【公的關係】遼源
商工會顧問、滿洲
帝國協和會遼源分
會第二分會長【本
籍】東京府南多摩
郡淺川村上長房一五二一【生年月日】明治廿一年

七月、十月日【籍貫】新八長男【學歷】明治四十
年滿洲工務學校電工科卒業引續き高等科に學ぶ
【經歷】學校卒業後明治四十一年東京電燈株式會
社に入社技手補に任ぜられ外線係勤務たり同四
十二年技手に進む大正六年二月滿鐵に轉じ長春
鐵道營業所電路係を命ぜらる同七年四月哈爾濱
北滿電氣株式會社創立に當り滿鐵在職の儘同社
に招聘され創立事務に携る同社創立後電路係主
任として勤務中央發電所竣工に伴ひ從來の直
流電氣を交流に改變日露戰爭直後より愛用され
たる哈市に於ける舊式照明に大革新を加へ同社
動員七年餘に及ぶ同十四年十一月滿鐵に復歸奉
天電氣營業所電路主任を命ぜらる昭和二年一
月南滿洲電氣會社電燈課勤務同五年九月集金係
長同七年八月同社奉天支店營業係長を歴て同八
年八月滿洲里電燈廠在勤を命ぜられ同時に同所
市政公署より電燈廠長を委嘱され同廠内部の改
組及滿洲里電業公司の設立を完成す同十年三月
滿洲電業奉天支店通達出張所に轉じ同十一年六
月現職に就く義に滿洲里電業股份有限公司董事
たり【趣味】撞球【信仰】神宗【家族】中女學校通學
子女の外弟茂(明治五生)東京商大在【住所】
熱河省凌源滿洲電業株式會社凌源營業所



中村 忠雄

中村病院長【出生
地】仙臺市【本籍】
神奈川縣平塚市新
宿一三〇一【生年
月日】明治廿一年
九月十五日【學歷】
明治卅九年仙臺二
中卒業同四十二年第二高等學校一部獨法科に入
學せしも家業醫なるため翌四十二年東北帝國大
學醫學專門部に轉向大正三十一年十一月卒業す【運
歷】卒業後直ちに東京駿河臺なる醫學博士故濱
田玄達氏に師事して研鑽を重ね大正四年より癩
里仙臺に於て父と共に産婦人科中村病院及び産
婆校を經營門下生八百名を出す昭和三年十月會
津若松市に轉住市醫師會代表議員候補議員に選ば
る同八年十月滿洲國に轉出し哈爾濱の現所に中
村病院を開設今日に及ぶ【特記】目下工費卅萬
圓を投じて哈爾濱工廠街角に中村ビル(一部病
院一部貸店舖一部住宅)を建設中昭和十二年
中竣工の豫定なり【趣味】スポーツ文學【家族】母
たね(文久三生)妻昌子(明治八生)養子榮隆(大

福岡 英明
興安西省巴林左翼
旗參事官【本籍】佐
賀縣佐賀郡西川副
村字廣江村六八一
【生年月日】明治四
十年七月一日【學
歷】大正十五年佐賀縣立佐賀中學校卒業昭和五



岡 英明

興安西省巴林左翼
旗參事官【本籍】佐
賀縣佐賀郡西川副
村字廣江村六八一
【生年月日】明治四
十年七月一日【學
歷】大正十五年佐賀縣立佐賀中學校卒業昭和五



多賀 思廣

勳八等、福昌公司
(株)、大連電業公
司(資)、齊藤公司
各哈爾濱出張所所長
哈爾濱煤油批發
會(股)常任監察人【本
籍】鳥取市【生年月
日】明治廿五年四月廿八日【學歷】市立名古屋商
業學校卒業【經歷】明治廿九年名古屋市輸出入貿
易商會社東洋商行入社通關事務に従事大正
元年九月福昌株式會社信友商會入社同年壯丁
合格陸軍輸重特務兵に編入同四年十月退社同六
年三月毛織物研究所の爲愛知縣津島町片岡毛織株
式會社機械部に研究生として入社同八月退社同
十二月岐阜縣養老郡高田町に於て工場建設毛織
製造を自營す同十五年同業此間同七年八月西伯
利亞出征に際し非常應召第十陸上輸卒隊に編入
ハプロフスタアレキセイフスタ等に轉戦す昭和
二年七月滿鐵入社消費組合會計庶務擔當同九年
株式會社福昌公司に轉じ熱河奉天建設工事に
従事同十年三月現職に就く【事業】福昌公司哈爾
濱出張所は昭和八年十一月の開設従業員五十七
名石材は原産地他は大連内地等より仕入れ鐵路
局市公署其他諸官廳を得意先とし年商高商事務
負各二百萬圓を算す【特記】大正八年西伯利亞出
征の功に依り勳八等賜白綬章【國心方行】
を處世訓とす【趣味】園藝佛法研究【信仰】真宗
【家族】妻ひで(明治四生)長女結美(大、一〇生)
【住所】哈爾濱埠頭區北安街二九號電六三九九

學中退學【經歷】大正十二年滿鐵に入社四平街
購貨物方拜命昭和六年安東縣官原助役同八年
奉天鐵道事務所運轉司合同十年三月哈爾濱鐵路
局機務課設備係等に歷勤し同十二年現職に
就く【功賞】滿洲事變當時奉天鐵道事務所運轉司
合として功あり勳八等及從軍記章並滿洲國建國
功勞章を賜ふ【趣味】讀書登山野球【信仰】曹洞宗
【家族】妻トワ、明、六生福島縣渡部庄平(一女)
長男鈴郎(大、一五生)長女孝子(昭三、生)二男直郎
(昭五、生)三男雅郎(昭八、生)四男博郎(昭一〇、生)
【住所】哈爾濱南崗福泰胡同電局内二八七六

邊 渡 泰 臣

吉林省公署技佐、警務廳衛生科勤務【本
籍】大分縣西國東郡田原村字相原八二〇
【生年月日】明治四十年四月廿七日【職柄】
學長男【學歷】縣立宇佐中學校を経て昭和
九年滿洲醫科大學卒業【經歷】昭和九年大
同學院に入學康徳元年十月卒業と同時に
民政部技士に任じ衛生司防疫科に勤務す
同二年十一月擬奉河檢疫所長心得に任じ同三年
七月吉林省公署技佐に轉じ現職に就く薦任六等
たり【住所】吉林省公署衛生科内



川田一助

勳八等、奉天省豫
江縣參事官【本籍】
埼玉縣北足立郡原
市町大字原市四三
一五【生年月日】明
治廿七年五月廿六
日【職柄】熊次郎二
男【學歷】大正九年東京醫學院卒業【經歷】大正
九年支那山東省公署衛生科勤務に就



中川甚助

勳八等、滿鐵職員
新京檢車區檢車助
役【公的關係】社員
會評議員【本籍】山
口縣吉敷郡大藏村
【生年月日】明治三
十四年十一月六日
【職柄】常吉長男【學歷】大正十三年鐵道講習所檢
車科卒業【經歷】大正七年五月滿鐵に入社安東機
關區勤務同十一年十一月奉天檢車區安東分區同
十二年四月安東檢車區昭和九年十一月新京檢車
區鐵道駐在所勤務等を經て同十年四月現職に就
く【功賞】滿洲事變にて勳八等及從軍記章並に滿
洲建國功勞章を賜ふ又昭和九年十五年勳績表第
一を受く【趣味】園藝釣魚音樂【信仰】天理教【家族】
ハツメ、明、九、五生山口縣瀬谷覺之助長女、長
男正信(大、一四、六生)三男孜(昭四、一、生)四男
和英(昭六、一、生)五男安(昭八、三、生)長女京子
(昭一、一、七生)【住所】新京露月町三ノ、六七ノ、四

若 林 持 一

正八位、在野陳軍歩兵少尉、熱河省喀喇沁
右旗參事官【本籍】兵庫縣御影町石屋磯ノ
邊【生年月日】明治卅三年四月九日【學歷】
昭和三年京都帝國大學經濟學部卒業【經
歷】昭和三年陸軍部候補生として歩兵第卅
七聯隊に入營同四年二月大阪府市井上酒造
株式會社入社同十二月大阪府市丸太商會幹
勤康徳元年四月任民政部關官總務司人事科勤務
同十二月熱河省公署事務官總務司人事科勤務
十月擬參事官を経て同四年一月現職に就く
薦任五等たり此間陸軍歩兵少尉に任官正八位に
就さる【住所】熱河省喀喇沁右旗參事官公館

職同十年三月其校長兼務となる歸來同十一年八
月青島商業學校教師同十五年十一月在張家口小
見山駐在武官助手昭和三年三月支那駐屯軍司令
部編入同四年八月天津中日中學校教師を歴任し
同七年九月大迫貞通中佐の命を受け吉林騎兵第
一遊撃支隊連絡指導同八年一月吉林陸軍機關及
吉林警備司令部顧問部情報主任となり同三月關
東軍事務廳を命ぜられ次で滿洲國に轉出し大
同二年十月吉林縣屬官代理參事官に任じ康徳元
年十月遼江縣參事官となり今日に及ぶ【趣味】政
治哲學【家族】妻トワ(明四、一、七生)【住所】奉天
省遼江縣參事官公館



福田祐一

首都警察廳理事官
司法科長、【本籍】
東京市四谷區霞ヶ
丘三三【生年月日】
明治卅五年六月廿
日【職柄】故七郎長
男【學歷】弘前高等
學校を経て東京帝國大學法學部政治學科卒業文
官高等試驗行政科合格【經歷】昭和三年七月長野
縣警部補を振出しに官途に就き同五年三月警察
練習所教官となり同八年四月長野縣屬警長野縣
警部に任ぜられ工場監督官補を経て滿洲國に轉
出し康徳元年十二月任熱河省公署警正警務廳司
法科勤務同二年十一月中央警察學校教授に轉任
三年十月現職に就き同四年三月國都建設紀念式
典準備委員會警備部幹事を命ぜらる薦任五等た
り【特記】熱河警務廳司法科開設擴充に努力し又
中央警察學校庶務科主任として學校條件に盡瘁
し併せて多數日滿警察官を養成に努むる等折國

松 本 安 藏

漢野物産(株)哈爾濱出張所主任【本籍】福
島縣若松市榮町三一一【生年月日】明治卅
二年九月十四日【職柄】安太郎長男【學歷】
大正七年若松商業學校卒業【經歷】夙に神
戶鈴木商店に入り函館名古屋各支店を歴
勤昭和二年同商店破産後漢野物産大阪支
店に轉じ同九年現職に就く【事業】同出張
所は昭和九年の開設にして機械木材一般雜貨特
産を取扱ひ従業員五名主として官廳方面を得意
先とす【家族】妻トワ(明三八、生)長男昭夫(昭三
生)二男和夫(昭五、生)三男昌夫(昭七、生)【住所】
哈爾濱外國四道街二五漢野物産株式會社哈爾濱
出張所電四七八五



田中貢

醫學博士、滿鐵新
京醫院小兒科醫長
衛生委員【本籍】兵
庫縣川邊郡田能村
【生年月日】明治二
十九年五月十九日
【職柄】鴨吉養子野姓石川【學歷】大正十一年九州
帝國大學醫學部卒業【經歷】大正十二年十月滿鐵
入社昭和三年十一月小兒科學研究のため九大に
留學同五年六月命醫長同六年四月哈爾濱醫院醫
長を経て同八年三月現職に就き同十二年三月新
京順天尋常小學校々醫を兼ね今日に至る同月九
日より「ヒスタミン」に關する實驗研究の論文に
より醫學博士の學位を受く【特記】滿洲事變の功
により立偉拜受「自然を尊べ、無理をすな」を處世
訓とす【趣味】滿洲國足球賽【信仰】眞宗【家
族】養父鶴吉(明二、生)母トワ(明六、生)妻トワ

家の治安確保に貢獻大なり【趣味】讀書劍道文學
財政學社會法制的研究【信仰】神道【家族】母雪子
(明一六、生)妻宮志江(大六、一、一、生)長男野縣人塚田
照重(妹)長女榮子(昭一〇、一、一、生)【住所】新京海
和胡同六一二電二一三九三〇



三浦留吉

滿鐵職員、哈爾濱
站事務助役【本籍】
青森縣五戸町【生
年月日】明治四十
三年三月十日【職
柄】德太郎養子【學
歷】奉天中學校大
連鐵道講習所昭和八年日獨協會學校卒業【經
歷】昭和三年四月滿鐵に入り奉天驛に勤務す次で奉
天列車區遼陽列車區等を經て昭和八年四月鐵道
部勤務たりしが後再び奉天驛に轉じ驛務方貨物
方を經て備内助役となり昭和十年六月現職に就
く【功賞】昭和十一年五月勳績折換發見の康を以
て表彰さる【趣味】散步園藝棋【信仰】眞宗【住
所】哈爾濱巴陵街四八號ノ、一四

原 田 謙 治

日本ベイント(株)滿洲工場營業課擔當員
【出生地】東京市品川區南品川四ノ五三六
【本籍】同上【生年月日】明治廿九年三月十
日【學歷】昭和二年中央大學商學部卒業
【經歷】昭和二年日本ベイント株式會社東
京支店入店同七年本社詰同八年二月同社
の子會社日本ベイント滿洲販賣株式會社
奉天支店長に就任同十年十月同社解散の爲現職
に就く【住所】奉天鐵道西日本ベイント株式會社滿
洲工場内電三三五〇

松 村 保 三

滿洲電業(株)鐵嶺出張所長兼法庫營業所
長事務取扱【公的關係】鐵嶺商業會議所評
議員【出生地】八戸市大字田向字櫻ノ平三
四ノ一【本籍】同上【生年月日】明治卅一年
六月廿日【職柄】又三郎四男【學歷】大正十
年旅順工科學堂電氣工學科卒業【經歷】大
正十一年一月八戸水力電氣株式會社入社
同十三年三月青森縣青森師範學校奉職昭和二年
二月新義州電氣株式會社入社同三年十一月滿鮮
殖産電氣株式會社主任技術者兼務翌年十二月新
義州電氣株式會社主任技術者に就任六年七月依
願退職同六年十一月奉天電燈廠入廠工程司兼計
畫係長大同二年五月洮南電燈廠監理に奉職康徳
元年十二月滿洲電業株式會社創立と共に其統制
課に轉じ同二年三月營業部營業課勤務となり
電業北線派遺員代表として北線接收に従事し同
三年八月鐵嶺電燈局は電業に統制せらるるに當
り初代營業所長として現職に就任す【住所】奉天
省鐵嶺松島町滿洲電業出張所長社宅



赤井林太郎

正七位、龍江省龍
鎮縣參事官【公的
關係】北安日本居
留民會理事長【本
籍】熊本縣上益城
郡津森村【生年月
日】明治廿四年二
月八日【學歷】東京大學卒業【經歷】同上卒業後各

地中事に教授を執り滿洲建國後轉出文教部理事官となり次で龍江省龍鎮參事官に轉じ今日に及ぶ前任官六等を以て選せらる【功賞】大正紀念章滿洲國大正紀念章建國功勞章を各拜受す【趣味】園藝狩獵【信仰】伊勢神道【住所】龍江省北安鎮龍鎮參事官公館

郎太正邊渡

滿鐵參事、牡丹江鐵路局經理處長【本籍】長崎市上西山町一四一【生年月日】明治廿七年三月二日【學歷】大正五年長崎高等商業學校卒業【經歷】大正五年九月滿鐵入社埠頭事務所勤務を提出しに同八年九月也務課同九年十一月寺見滿鐵補習學校講師【同十五年十月免】昭和二年十一月大連鐵道事務所同三年十二月大連埠頭事務所主任同六年八月埠頭事務所所長兼庶務主任兼埠頭實業補習學校校長【同七年三月非役】吉長吉鐵道局長同八年三月鐵道總局同四月免非役吉長吉鐵道局長同九年四月新京鐵道局長同十年九月改稱による吉林鐵路局經理處長等を歴勤此間滿鐵參事に列し同十一年十月現職に就く【住所】牡丹江鐵路局經理處



三敬奈比朝

滿鐵參事、撫順炭礦東地探炭所所長兼監査係主任【公的關係】協和小學校名譽校長【出生地】遼寧縣大上郡青波村【本籍】同上【生年月日】明治廿九年九月二日【學歷】故辰郎三男【學歷】大正十一年京都帝國大學工學部探炭冶金學

科卒業【經歷】大正十二年滿鐵入社直ちに撫順炭礦大山探炭所に勤務し後ち龍鎮探炭所坑内係主任兼遼東各探炭所坑内係主任龍鎮探炭所副所長を歴職昭和十一年秋の職制大改正に伴ひ參事東地探炭所所長に授けられ監査係主任兼務として今日に及ぶ【功賞】滿洲事變の功に依り從軍記章及賜杯を受く【趣味】狩獵ゴルフ園藝麻雀等【信仰】神宗【家族】母ツル(文久三子)妻理子(明四〇生)滋賀縣人北村一長女滋賀縣立彦根高女卒)長男祥光(昭三生)長女靖子(昭五生)二女佑子(昭七生)二男憲一(昭一一生)【住所】撫順東地二ノ一社宅電三〇八一



吉三與原川

大坂川原出製所主ウエス估衣類輸入運送問屋業【公的關係】日滿信衣同業組合長【本籍】福井縣大野郡山町長濱區【生年月日】明治十三年二月十四日【學歷】久兵衛孫【經歷】明治廿七年大阪に出で晒木綿ウエス商に従事し忽ち各方面の信用を得て大坂曬木工廠其他官邊に納入を許可する大正元年より支那南洋方面及び米國に晒木綿ウエス新聞紙等を輸出するに至り其發展日進しきものあり同十四年八月大連に出張所を開設と同時に其經營主として渡連し今日に及ぶ義に大阪府物産組合長同評議員に推される【事業】各估衣成布布頭ウエス各種製紙原料販賣並輸入及運送を業とし東京大阪名古屋四州滿洲國一國等其商關係にして本店は大坂市天王寺區下寺町三丁目川原ウエス工場は同橋島

脚前に大連市西崗街五にあり興銀を取引銀行とす【信仰】淨土眞宗【店舗】大坂川原出張所大連市西崗街三電三二六五八



三俊柳青

青柳商會主、陸軍御用達及特産物商並農園經營【公的關係】昌圖地方委員會議長、協和會昌圖縣本部副長、軍人後援會支部幹事【出生地】山梨縣西八代郡高田村【本籍】同上【生年月日】明治十一年一月【學歷】故青柳行忠三男【經歷】大正三年七月家督相續才學を了るや郷里にて家業に従事せしが先代行忠は米相場に手を染め家運傾きしたため氏は早くより家運の再興を念願し例々明治廿七年六月日露戰役中第四軍兵站司令部清保員として大坂山に上陸同三十九年戰役後も殘留し奉天東清公司運輸部に勤務同年四月昌圖に轉じ現職を創始し野戰鐵道提理部用達を勤め精勵を重ねてよく今日の大をなす公共事業に深き關心を有し滿鐵附屬地行政諮問委員より引續き地方委員會議後毎々其委員に當選在職實に二十有五年現に同議長たり昭和十二年二月協和會昌圖縣本部副長に任ぜらる義に相互證券滿鐵通各株式會社重役たりし事あり【特記】氏の家は遠く甲斐源氏新羅三郎義光に祖を發し甲斐國屈指の豪族として知らる滿洲事變直後其筋より昌圖縣行政諮問に推され治安行政の刷新樹立に貢獻す昭和九年陸軍省より大盾一枚を賞賜され會て地方委員としての功勞により滿鐵上級勲章を授けらる【家族】妻サト(明一七生)

大分縣新宮町年女一長男長身 大正生大連鐵道(幸)あり第壹及は前東京時事新報社々會部長にして妹マは加賀美康三に同マは元日本電氣大連支店長高橋孝千代に各嫁し又親戚に貴族院議員小久保喜七元駐米特命大使植原正直親戚に前通信大臣望月圭介あり【店舗】奉天省昌圖縣順大街一四電一九

郎太庄田和

齊々哈爾濱駐(任)監査役、大連屋舖督主鮮魚野菜果實販賣【本籍】島根縣中尾郡濱田町松原五七【生年月日】明治六年五月一日【經歷】夙に實業に従事日露戰役に際し第十二師團御用商人として從軍戰後四年街津街に於て雜貨商を開業滿洲建國後奧地に着眼昭和八年二月齊々哈爾濱に轉じセメント瓦製造販賣に従ひ同九年四月現業を替み今日に至る【事業】大連屋と稱し鮮魚を主に海産物野菜果實等各種食料品を扱ひ從業員八名を兼し同地業界の一流たり【家族】妻キタヨ(明一二七生)【店舗】大連屋齊々哈爾濱新馬路一電三二二二・三二二三



藏秀村吉

從七位勳八等、勳四位、哈爾濱警察廳副廳長【本籍】岡山縣和氣郡片上町字西片上一〇〇二【生年月日】明治廿五年五月【學歷】慶應義塾大學卒業後明治四十三年兵庫縣巡查を拜命大正六年警部となる此の間三木三田登岡各警察署外事課等に歷任同十一年臺灣總督府

警務部副警務課課長となる留學保案課司長係長兼戶口係長朝鮮總督府造幣部々羅北道南原警察署長警務部高等警察課長特務課事務取扱兼務同道警視成鏡南道警察部警務科長慶尚北道同京畿道保安課長警務課長等に歷任大同二年四月滿洲に轉出吉林省公署駐延務事處事務官同公署理事官同島省公署警務處長等を經て庚辰三年四月現職に就く前任二等たり【趣味】武遊(劍道四段)【家族】妻要子(明三五生)岡山縣大栗倉吉長女長女絳美(明四四生)二男豐(大五生)男大兼科在(三男)義朗(大一一生)四男隆夫(大一一生)【住所】哈爾濱齊哈爾濱警察廳



三番松赤

滿鐵參事、鐵道總局機械課長兼工場課長事務取扱【出生地】廣島市播磨屋町【本籍】同上【生年月日】明治卅一年二月七日【學歷】又四郎三男【學歷】大正十年東京帝國大學工學部卒業【經歷】同年五月滿鐵入社本社機械課勤務となり同十四年八月大連埠頭事務所機械係主任任昭和二年十一月大連鐵道事務所工務係機械主任任同三年七月臨時甘井子建設事務所機械係主任となり同六年一ヶ年半歐米に留學を命ぜられ次で鐵道工場第三作業場長たり此の間界並技師たりしが同十一年九月參事となり現職に就任同十月工務委員會委員を兼ね同十二年四月兼職に就く【特記】昭和十二年勳章表裏【趣味】讀書釣魚【家族】妻辰(明三七生)廣島縣小野新女立福山高女卒【住所】奉天平安道三七一ノ三



作震山内米

中學校卒業大正四年東京協會專門學校京城分校卒業【經歷】直に朝鮮總督府に奉職大正九年九月國務院勤務同十一年十月農商務省に轉じ其十一月高等文官試驗に合格同十二年五月再び渡鮮忠清北道道廳同十三年一月關東廳屬拜命地方課課主任關東廳理事官同十五年二月旅順民政署庶務課長兼財務課長昭和三年七月大連民政署財務課長同四年八月關東廳事務官財務課課長兼旅順民政署長同七年末關東廳調查課長を經て昭和八年末歐米各國に出張同九年十月歸朝地方課長爾來關東廳內務部長學務課長旅順博物館長旅順圖書館長關東廳育研究所長大連民政署長事務取扱同署長等に歷勤後現職に就く【趣味】薩摩琵琶【家族】妻サト子男京一(大九生)二男高(大一一生)三男忠雄(大一一生)四男拓也(昭一一生)【住所】大連市松山町二ノ一電三二二五〇〇

平信田原

原田農店主【本籍】廣島縣高田郡根野村上根【生年月日】明治廿四年八月【經歷】夙に學を卒へ大正六年四月大連に渡り大元某の經營せる共同會に勤務せしが其の翌年大元氏内地引揚げに際し之を繼承す【事業】地場一圓を販路とし最近泊連町より現在の春日町に移る【信仰】眞宗【家族】三

二・五生【住所】大連港開町二三電二二三三七

宮崎重助

大裕礦業公司經營主、礦石業【公的關係】
撫順實業協會評議員、鞍馬俱樂部理事【出
生地】唐津市【本籍】同上【生年月日】明治
十五年十一月【學歷】明治四十一年早稻田
大學商科卒業【經歷】明治四十一年八幡製
鐵所に入り大正二年滿鐵撫順炭礦庶務課
に勤務次で同礦工業課に轉じ更に東郷坑
事務主任たり大正十年春辭して獨立大東公司を
起し苦力の供給水田の經營石炭販賣業を創む後
煉炭商を管み又撫順炭礦東郷坑の賣店を經營せ
るが炭礦作業の都合に依り中止現業に轉ず【事
業】昭和八年頃より滿洲人同業者裕興恒と大東
公司を合併大裕礦業公司を設立し石炭は元より
長石耐火粘土陶石陶土石綿雲母等の採掘發掘に
努め目下撫順縣馬前沖村の陶土山同縣黃旗營子
村の陶石山同縣大房身村の長石山及遼陽縣高家
灣子村の磁石山等を經營せり【家族】妻松代(明
二六生)長男重俊(大七生)二男重直(六一〇生)
長女清子(大三生)二女静子(大五生)三女恭子
(昭二生)四女和子(昭六生)四男重紀(昭九生)
【店舗】撫順東五條通二一



楊基

滿鐵職員、新京驛
貨物助役【本籍】遼
中州大甲郡清水街
【生年月日】明治四
十四年三月二十五
日【續柄】楊緒勤弟
【學歷】昭和九年早
稲川大學政治經濟科卒業【經歷】昭和九年四月滿

鐵に入社し奉天驛に勤務十同十一月大連列車區
同十年八月大石橋驛助役等を経て同十一年九月
現職に就く【特記】富家は奉天中州屈指の名門とし
て知らる「簡義を以て世を渡る」是氏の處世訓な
り支那社會經濟人生哲學の研究等を好み造詣淺
からざるものあり大石橋時代社員會調查部長
たり【趣味】旅行テニス寫眞スケート等【信仰】儒
教【家族】母楊梁氏及及び兄楊緒勤(神戸ホウラ
イ貿易商會支配人)【住所】新京和泉町白山寮電
三二〇四四



米澤文人

米澤木工廠經營主
【出生地】長崎市新
地町一八【本籍】熊
本縣下益城郡松橋
町【生年月日】明治
三十年七月十四日
【續柄】故早太郎二
男【經歷】夙に實業に志し高等小學校卒業後直に
木工業に従ひ専念研鑽に努むる事多年克く業務
の妙術を得し事變後滿洲國建國成るや昭和八年
渡滿其十二月齊々哈爾濱に居を定めて米澤木工廠
を開業以て今日に及ぶ【事業】和洋家具陳列建具
裝飾工事木製運動具官廳用木具一式を營業課目
とし従業員十數名を使役鐵道總局はじめ諸官省
公署用途の外一般各方面の注文に應じて堅實な
る發展を遂げ開業三年にして早くも今日の業
礎を確立せり技術の優秀懇切を以て信認篤く業
勢益々旺んたるものあり【信仰】武言宗【家族】母
キエ(明六生)妻シオ(明三一生)長男貞雄(大七
生)二男峯丸(大九生)長女喜代子(大一一生)三男
直行(大一一生)四男基次(昭四生)二女房江(昭

七生)【店舗】齊々哈爾濱永安大街五七電三一七二

天野節次郎

文具の天野(資)代
表社員、龍骨店
【出生地】愛媛縣温
泉郡三津濱町心齋
【本籍】同上【生年
月日】明治元年十
二月【續柄】宗平二男明治十九年家督相續【經歷】
夙に旭里三津濱町にて文房具商に勤務後信州上
野地方に赴き明治廿三年より同卅年迄愛媛縣縣
下に從ひ次で福井石川富山各縣下に於て伊豫精
の製造に従ふ同卅七年渡津交文房具書藝店舖を大
山浪速南町商場内に設け後業務の隆昌に伴ひ現
所に店舖を移轉此間印刷部を設け更に同四十三
年より住家業をも兼營す大正十三年組織を合
資會社に變更し營業名義人を氏の甥高木馬吉氏
となしたるが昭和七年十月順徳の厄に罹り翌八
年改革を機として合資組織を解き高木氏を卸部
に自ら小賣部を主宰せるも昭和十一年十二月
合資會社文具の天野を設立し其代表社員に就任
す傍ら昭和八年現店舖新築と共に階上に支那書
畫骨董並上産物部を創設「龍骨林」と稱す尙大正
五年頃より土地家屋の賃貸買賣を管む【事業】文
具の天野店の營業課日は文房具事務用品製圖機
械和洋紙張帳簿アムバム繪業書藝雜貨類其の古き
歴史と共に大連一流たり繪墨林は毎月一回書畫
骨董品の特殊展覽會を催し好評を博しまた土地
家屋方面も家屋の如きは其の所有數百戸に上る
【特記】大正八年教育事業資金として大連市に私
財十萬圓九十年十萬圓合計二十萬圓を寄附し大



連南工學校を設立せしむ【趣味】喜多波流曲和泉
流狂言俳句南書【信仰】觀世音菩薩【住所】大連市
桃源臺一五電二一七五二七



朝庄作

從五位勳六等、關
東局技師兼關東農
事試驗場技師兼關
東種馬所長、關東
州廳内務部殖産課
勤務同警察部衛生
課、關東局同政部
殖産課各業務、關東局衛生調查委員會委員【公的
關係】滿洲農業團體中央會、同軍用大協會、同乘
馬協會各理事、滿洲獸醫畜產學會評議員【本籍】
德島縣板野郡里浦村大字里浦字坂田二三八【生
年月日】明治十七年十月四日【學歷】大正二年東
京帝國大學農學部獸醫學科卒業【經歷】學事修了
後德島縣牛馬畜産組合聯合會技師兼同縣板野郡
牛馬畜産組合技師兼同縣農學校講師を提出しに
大正九年八月山口縣立農學校技師同縣農務員
養成所講師同教諭十三年一月島根縣立松江農林
學校技師同縣殖産課技師同縣種畜場技師十四年
六月青森縣農林技師種牡馬檢査委員同縣種畜場
長同縣立種畜場長等に歷任昭和七年七月任關東
廳技師内務局農林課勤務兼警務局衛生課兼關東
種馬所長兼關東廳農事試驗場技師拜命其後職制
改正に依り關東局技師に任じ現職に就く此間從
五位勳六等に叙さる【特記】内地在勤中は赴任各
地の畜産教育及行政殊に新産馬地の草創に力を
致し就中大正十四年以降滿洲畜産を青森縣
馬匹傳染病研究所の創設等本邦馬政及畜産上其

貢獻甚大なるものあり又渡滿後は滿洲國馬政畜
産行政施設の各部門と協同建設幾多の實績を舉
ぐ事變の勤勞に依り賜金の恩典に浴せり【趣味】
國語釣文學【信仰】眞言宗【家族】父友次郎妻トモ
(明二五生)長男正男(大元生九州帝大法文學部
在學)四女タマエ(大八生旅順高女卒)【住所】旅
順市赤羽町六ノ一一電四九一

渡邊三朗

奉天市理事官、財務處稅務科長【本籍】敏
卓縣安八郡三城村字三塚五【生年月日】明
治廿六年十一月八日【學歷】關立大垣中學
を経て大正十五年東亞同文書院商務科卒
業【經歷】大正十五年三月東亞同文書院株式會
社奉天支店入社昭和七年四月任奉天市政
公署秘書同十一月奉天市都市計畫技術委
員會委員となり秘書を免じ財務科副科長に任ず
同九年三月免奉天市都市計畫技術委員會委員大
奉天市計畫委員會囑託十年一月命兼任財務科
主計課長同六月免財務科副科長兼主計課長任財
務科稅務課長を経て康徳三年四月奉天市理事官
に任じ現職に就く應任五等たり【家族】妻榮長男
元【住所】奉天蘆浪町二八電三一五二五二



吉田角次郎

吉田工務店、今市
履物店各經營主、
一般建築工事請負
並履物業【本籍】鳥
取縣高部郡野谷村
今市【生年月日】明
治十一年十一月廿
三日【經歷】土木建築界に投じ内地に於て精勵實
務の研鑽を遂げ大正四年渡鮮京城某土木建築業



天方宗昭

勳七等、滿鐵副參
事、總裁室勤務【本
籍】廣島市平野町
七三〇ノ二〇【生
年月日】明治三十
四年十二月一日
【續柄】中村三郎五
男士族百吉養子【學歷】福岡縣小倉工業電氣科を
經て大正十三年東京高等工業學校附設工業教員
養成所電氣科卒業【經歷】大正十三年四月滿鐵入
社南滿洲工業專門學校助教となり昭和四年四
月奉天鐵道事務所同五年六月鐵道部奉天保線事
務所同六年八月奉天鐵道事務所鐵道課關東軍司
令部事務委囑託同七年三月鐵道部電氣課同八年
六月大連保安區長同十二年四月大連鐵道事務所

工務課保安主任同十一年十月命副參事同十二年一月兼地方部工務課を歴勤同四月第二號非役總裁室勤務を命ぜらる【功賞】滿洲事變の功により勳七等旭日章從軍記章滿洲國功勞章滿洲國皇帝勳章各拜受【特記】鐵道通信關係に造詣深し【趣味】讀書寫真將棋【信仰】曹洞宗【家族】父百吉(明治九年)母(明治八年)妻(明治八年)二女(百吉長女松本高女)長女(百吉)次女(百吉)三女(百吉)【住所】大連市聖德街五ノ七八



山田直之介

從七位、滿鐵參事總裁室監査役兼監理課勤務、滿洲航空(株)監察人、大連市交通、費口水道交通、哈爾濱土地建物各(株)監査役【本籍】福島縣若松市榮町【生年月日】明治卅一年二月十一日【籍柄】十族三郎長男【學歷】大正十年神戶高等商業學校卒業【經歷】大正十年三月滿鐵に入社し地方部勤務に勤務し同十一年一月興業部同十二年四月同商工課昭和三年十月商工課及產業保護課に關する事項研究調査のため滿一年半歐米に留學同五年六月殖産部商工課同六年八月地方部商工課輸入係主任同七年十二月總務部監理課商工係主任同八年九月同第二係主任を経て同九年六月參事に列す同十一年九月監査役兼總務部監理課勤務となり同十月現職に就く【功賞】昭和十一年十五年勳章表章を受く【趣味】音樂英文學陸上競技【信仰】淨土宗【家族】妻俊文子(明治三八年)二女(愛媛縣水光平十郎長女)長女(俊文子)【住所】大連市霞町三ノ北五

都同志社女學校卒業長女(多見子)次女(一三)三女(一五)長男(瑞穂)次男(一五)三女(一七)【住所】大連市伏見町一四ノ一〇ノ一電三二二八二四

有馬邊

大連市會議員、同產業委員【本籍】熊本縣八代郡千丁村二二六七【生年月日】明治九年二月十二日【籍柄】等長男明治四十年家督相續【學歷】熊本清々堂を経て明治廿七年鹿兒島私立三州義塾同廿五年私立臺灣植民行政學校各卒業次で臺灣總督府文官普通試驗合格【經歷】明治廿九年關東州民政署用度係長拜命同年九月關東都府官制實施に際し大連民政署組織事務次で婦人病院療病院小學校開設等の事務に當る大正四年四月退官阿片總局理事に就任同八年五月退職滿洲不動產取締役に就任次で社長となる一週公共の事に盡力し大正十三年以降大連市會議員に當選四回現任なす外更に市產業委員をも兼ねて依然たる努力を捧ぐ【家族】妻母(文久三)妻芳(明治二七)生(神奈川縣磯部吉之助)長女(明治二九)生(東大經濟科卒)【住所】大連市大和町一



吉村三郎

吉村洋品百貨店總經理、登喜和百貨店共同經營【公的關係】哈爾濱商工會議所議員【本籍】石川縣金澤市【生年月日】明治廿七年九月七日【學歷】明治四十五年石川縣立金澤商業學校卒業【經歷】明治四十五年滿鐵哈爾濱に到

り松浦洋行に入店大正二年以降同四年迄同店出張員として滿都モスコに滞在同六年一年志願兵として滿都兵第九大隊に入隊し除隊後士官勤務委任を受けしも在外不慮の爲め任官に至らず大正十二年より同十三年迄松浦洋行出張員として紐育に滞在歸滿後昭和三年四月獨立吉村洋行を開店以て今日に及ぶ此間昭和九年登喜和百貨店の創業に參畫し現に之が共同經營に當る【事業】吉村洋品百貨店は個人經營にして洋品雜貨小賣を主業とし哈爾濱モスコワヤ街に店舗を置き邦人八名滿人三名の従業員を擁し年商内高十萬圓を算す【特記】選ばれて哈爾濱日本商工會議所議員たること多年同地華界の中堅たり【趣味】野外スノーシュー【信仰】佛教【家族】妻喜久長男(中學校在學)弟金吾(登喜和百貨店勤務)【店舖】哈爾濱モスコワヤ街六七電二四一六六五五八



江正夫

滿鐵職員、大連鐵道工場工作工養成所主事兼講師、同工場青年學校教諭【本籍】滋賀縣愛知郡西小椋村大字曾根九八〇【生年月日】明治廿二年八月十三日【籍柄】故利右衛門二男【學歷】明治四十二年滋賀縣師範學校卒業【經歷】明治四十二年以降愛知郡津川豐嶺各尋常高等小學校訓導大連第三尋常小學校訓導を奉職大正六年十一月滿鐵に入り八年五月沙河河口工場庶務課勤務同十二月職員拜命爾來沙河河口實業補習學校訓導兼職工員習養成所講師沙河河口大連各工場勤務兼工作方養成所講師同五年六月事務員拜

【經歷】學科卒業後實習して京城の傳真金物店に入店大正八年滿鐵吉林に在任二月其後一時内地に在りしが大正十五年再度滿鐵現所に於て吉村商店を設立し經營今日に及ぶ【事業】和洋小間物雜貨化粧品衣服反物履物等を取扱ひ仕入先は大坂京都東京名古屋大連奉天等にして吉林大馬路吉林百貨店內に化粧品部を設け従業員十五名小夜専門としては吉林屈指にして最近年商内高十萬圓内外を計上す現業銀行に取引を有す【趣味】長唄【信仰】眞宗【家族】妻春枝(明治九年)二女(福爾滿鐵政務課)長女(東洋子)【住所】吉林新開門外三〇電二六六二



村田次郎

勳八等、滿鐵特命副參事、鐵道總局勤務【本籍】福岡縣八女郡羽犬塚町【生年月日】明治二十八年一月廿一日【籍柄】故益三二男通稱公人【學歷】大正六年南滿洲工業專門學校卒業【經歷】大正六年滿鐵に入社し技術局勤務同年十一月入會除隊後同九年二月大連保線區同十年三月大連工務事務所同十一年九月吉林鐵路局派遺昭和四年三月遼陽保線區保線助役同六年十一月鐵道部工程課同八年三月吉林建設事務所次で其改稱圖們東北各建設事務所同九年十二月鐵道建設局工務課各勤務同十年四月新京工務段長同十二年三月吉林鐵路局工務處保線科勤務を経て同四月命副參事特命總局勤務となる此間社員會評議員に當選す【功賞】滿洲事變の功に依り勳八等旭日章及建國功勞章從軍記章勳章金拜受昭和七年四月滿鐵十五年勳章表章京國國教國國學軍佳林密各線の建設に功あり【趣味】寫真旅行園藝野

球【信仰】眞宗【西本願寺】【家族】妻(明治二七)八女(佐賀縣古川利次長女)長男(一)生(大正一四)二女(二)男(智弘)【五、一】生(三)男(孝代)【七、四】生(四)男(康幸)【九、三】生【住所】奉天鐵道總局

【經歷】學科卒業後實習して京城の傳真金物店に入店大正八年滿鐵吉林に在任二月其後一時内地に在りしが大正十五年再度滿鐵現所に於て吉村商店を設立し經營今日に及ぶ【事業】和洋小間物雜貨化粧品衣服反物履物等を取扱ひ仕入先は大坂京都東京名古屋大連奉天等にして吉林大馬路吉林百貨店內に化粧品部を設け従業員十五名小夜専門としては吉林屈指にして最近年商内高十萬圓内外を計上す現業銀行に取引を有す【趣味】長唄【信仰】眞宗【家族】妻春枝(明治九年)二女(福爾滿鐵政務課)長女(東洋子)【住所】吉林新開門外三〇電二六六二

勳八等、鐵道局長【本籍】三重縣三重郡川越村大字高松【生年月日】明治廿九年二月一日【籍柄】早川石松二男渡邊昌太郎養子【學歷】三重縣立二中を経て大正九年折原大學卒業【經歷】大正九年四月滿鐵入社奉天驛勤務同十一年六月奉天列車區十三三年七月新臺子驛助役十四年四月遼陽驛助役後昭和三年十月同構内助役を経て六年八月草河口驛長となり八年十一月蘇家屯驛構内主任十二年四月現職に就く鐵道附屬地衛生委員會委員たり兼に蘇家屯地方委員議長たり【功賞】滿洲事變の功に依り勳八等從軍記章滿洲國功勞章皇帝勳章各拜受【特記】滿洲國建設功勞章皇帝勳章各拜受【趣味】讀書書畫骨董【信仰】眞宗【家族】妻(明治二七)生(美父昌太郎長女)長男(一)生(大正一三)生(奉天二中)中(長女)次女(一)生(二)女(康子)【二、二】生(三)男(正司)【四、六】生(三)男(義明)【八、八】生(四)男(道明)【一〇、〇】生【住所】奉天省鐵道局長住宅



田邊健

吉村商店主、和洋小間物雜貨商【公的關係】山口縣人會幹事【本籍】山口縣萩市川添一〇八四【生年月日】明治三十四年三月四日【籍柄】故市太郎長男【學歷】萩商業補習學校卒業

正八位勳八等、在野軍歩兵少尉、滿鐵職員、哈爾濱鐵道局庶務處事故科長【本籍】山口縣玖珂郡玖珂町八一五【生年月日】明治卅四年七月廿日【籍柄】故憲一長男【學歷】大正十二年哈爾濱日鐵協會學校卒業【經歷】大正十二年三月滿鐵に入社長春驛勤務を経て昭和四年七月哈爾濱事務所運轉課に轉じ同六年八月新京驛同八年十二月本社鐵道部庶務課に歴勤同十年十月鐵道部庶務課主任となり同十一年九月現職に就く【特記】鐵道關係の露語に造詣深く事變當時は關東軍特務部に派遣されて接收事務に従事せり功により勳八等に敘せらる尙ほ此間一年志願兵として服務正八位隨軍歩兵少尉に任ぜらる【趣味】庭球【信仰】佛教【家族】母(三)生(明)二女(妻)シヤコ【明三三、一〇】生(山口縣岩根植長女)高

女卒)長男晴明(大五、七生)長女玲子(昭四、二生)二男賢二(昭九、五生)【住所】哈爾濱鐵路局總務所事故科



米谷清堂主、藥種商【本籍】秋田縣平鹿郡横手町【生年月日】明治十六年六月【學歴】野郎長男【學歴】上野農學校中途退學

【經歷】明治四十年滿洲通商に從事同四十四年七月より日本實業振興會の員を以て滿洲沿線各地及奥地支那人部落を調査し次いで同地域に行動大正四年滿洲南滿洲支那人部落を調査し同八年復地に移り米谷宗清堂と號し益々發展今日に及ぶ【特記】義に地方委員たり【家族】妻と一子(明二五生東京府出身)長女(順高女在)【店舖】奉天省錦州中華街一電七

秋元金之助

警察廳警正、延首警察廳警務科長【本籍】青森縣北津輕郡武田村大字田茂木字鳴見四九【生年月日】明治廿六年五月廿日【學歴】明治四十二年縣立五所川原農學校二年學年修了【經歷】大正二年青森縣巡查を拜命次で同七年巡查部長同八年警部補に進み大間小海大野各警察分署長に歴補同十五年任青森縣警部野邊地警察分署長巡查教育所教官兼務次で昭和二年警察部保安課巡查官同八年八月田名部警察署長同三年八月警察部高等課長同四年六月八戸警察署長同七年一月滋賀縣警部長兼警察署長同七年十月津警察署長等に



滿洲職員、新京市務局鐵道課總務係主任【公的關係】滿鐵地球部顧問【本籍】長野縣東筑摩郡筑摩地村【生年月日】明治廿五年

七月廿八日【履歷】登吉二男【學歴】一高卒昭和六年東北帝國大學法文學部卒業【經歷】昭和六年五月滿鐵に入り總務部に勤務す同八月同文書課同七年十二月地方部地方課經濟調查會調査員兼務同八年二月育成學校講師兼務同十年七月新京鐵道出張所同十一年八月總務部新京在勤等を經て同十月新京事務局鐵道課勤務となり現職に就く【特記】滿洲交通政策に就て研究を重ねつゝあり滿洲事變にては從軍記章及木杯を賜ふ【頭張り】を處世訓とす【趣味】園藝運動旅行【信仰】日蓮宗【家族】妻初子(大四、三生)山口縣吉村貞吉長女長春高女卒)長女桂子(昭一〇生)【住所】新京常盤町二ノ九ノ一電三三四五五四

伊東三吉

伊東洋行總督主、貿易商【公的關係】大連金融組合評議員【出生地】鹿兒島市高麗町【本籍】東京市牛込區矢來町【生年月日】明治十二年十一月二十八日【履歷】士族數三男【學歴】鹿兒島一中を経て第四高等學校に學ぶ【經歷】修學後一時鹿兒島縣川内中學校教師たりしが明治廿八年十月渡滿鐵道作業局に勤務し野鐵道提理部員を経て同四十年滿鐵入社用度課勤務爾來倉庫係員同課購買係主任大阪出張所長等を歴任し大正七年十一月勤續十餘年にして辭し翌八年株式會社旗幟鐵工

歷職し大同三年二月哈爾濱警察廳警佐に轉じ康徳元年十二月間島省公署警正民政廳司法科勤務となり同二年十月現職に就く【任六等】に【住所】同島省延吉警察廳

島崎久座

正八位、滿鐵四平街普通學校校長【本籍】北海道旭川市【生年月日】明治二十四年十月【履歷】元治長男【學歴】大正二年北海道札幌師範學校卒業【經歷】卒業後北海道山越郡八雲尋常小學校旭川市第四尋常小學校等に歷職次で同七年朝鮮高等普通學校臨時教員兼成所を卒業仁親公立普通學校に奉職せしも同年一年志願兵として兵役に服す除隊後開城製油各公立普通學校校長京城師範學校附屬普通學校等に歷職し同十二年十一月渡滿鐵嶺日語學堂長春開原公立學堂教諭を経て現職に就く高等官八等待遇たり【家族】妻と一子(明三三三)生北海道土岐各廣女南館濱愛高女卒)男滿雄(昭三生)長女澄子(大五生)【住所】四平街北七條通普通學校校長社宅電六八二



福昌職工(株)取組役支那人【出生地】長野縣下伊那郡下久堅村【本籍】同上【生年月日】明治十九年十月七日【履歷】治三郎五男【學歴】明治三十八年渡滿營口に於て兄と共々貿易事業を興し明治四十年所業を兄に委ね滿鐵埠頭事務所に入り果して埠頭副長となり後福昌株式會社

所專務取締役に就任し翌九年辭して同十年大連市登喜和商會總支那人となりしが同十二年四月大連市橋邊町に伊東洋行を興し貿易商を開始し今日に及べり【事業】履紗地機物電氣機械類鐵道用品類の貿易業を營み日本毛織小泉製麻大阪製鐵所磯村合名川西機械東京渡邊製作所東洋無線電信電話小糸製作所廣演日本カーボン大阪田中源太郎商店其他數十社の代理店をなし新京奉天に各出張所を置き從業員十名滿鐵をはじめ全滿各方面に廣汎なる商圖を布き年商高一百萬圓を計上す【特記】昭和十年四月大連金融組合評議員に就任尙先は大連鹿兒島縣人會副會長たりしことあり【家族】三男信男(大一〇生)二女美代子(大六生)大連神明高女卒)三女惠美子(大一四生)【店舖】大連市龍田町八三電園二七八五三・六九〇八



勳八位、税關検査官、關稅稅關勤務【本籍】東京市麻布區霞町九【生年月日】明治卅一年十一月四日【履歷】好實弟【學歴】明治學

院中學部卒大正九年早稻田大學專門部政治經濟科卒業【經歷】大正九年五月滿鐵に入社地方部勤務同十年十二月家事の都合にて退社青島膠州海關試用検査員となる昭和三年三月一等検査員に累進す爾來同三年十月上海海關同七年四月安東海關一等副驗貨員を経て同六月滿洲國稅關官吏となる康徳元年四月二等驗貨員同五月稅關總検査官安東稅關勤務に補され次で大連稅關に轉じ同二

に就き支那人に就任昭和十一年十一月取組役に進む【功賞】滿洲事變の功に依り銀盃一箇を受く【趣味】勞働問題研究【家族】妻八重子(明二九生)長男(昭二男)次男(昭一男)三男(昭一男)長女(昭一七生)長女守江(大四、五生)二女澄江(大七、一生)【住所】大連市補町七八電園二一七四六四



滿鐵職員、產業部(調査役附)電業係主任【本籍】鳥取市桶屋町一四【生年月日】明治三十五年二月十二日【履歷】建築師負職故

當職六男【學歴】鳥取一中を経て大正十二年旅順工大附屬工專電氣工學科卒業【經歷】大正十二年十二月滿鐵入社鐵道部機械課勤務爾來同十二年四月育成學校講師昭和二年四月鐵道部電氣課同五年五月免職同六月鐵道部保安課同七月兼鐵道講習所講師同六年八月鐵道部電氣課同八年二月鐵道建設事務所同九年五月同機械長同十年十二月計畫部(審査役附)を歴勤し同十一年十月現職に就き同十二月技術委員會工業標準規格委員會委員を兼ね【特記】滿洲事變の功により賜杯從軍記章を受く前社員會評議員滿洲技術協會電氣協會電氣學會各會員鐵道電化問題に専心す【趣味】尺八薩菴柔道(初段)【信仰】日蓮宗【家族】母と一子(明二生)妻かお(明四〇生)鳥取縣平賀傳一三女鳥取高女卒)長男孟彦(昭四生)二男博孝(昭七生)三男憲敏(昭一一生)あり弟義春(明四〇生)九次幸隆博は大坂にて開業す【住所】大連市光風堂二一三



正六位、奉天南滿中學堂長【公的關係】奉天縣本縣人會長【出生地】熊本市新屋敷町【本籍】熊本縣【生年月日】明治十六年四月十三日【履歷】士族基平長男【學歴】東京高等師範學校卒業【經歷】明治三十八年東京高等師範學校文科を卒業後鹿兒島縣立川邊中學校熊本市神奈川兩縣師範學校教諭京都市立高等女學校首席教諭等に歴任大正六年八月渡滿南滿中學堂教諭となる同九年三月奉天高等女學校校長を経て昭和五年四月現職に就く【趣味】園藝運動旅行【家族】妻千鶴子(明二四生)兵庫縣松岡總長女熊本尚高女學校卒)長女才五(大三生)奉天高女卒)二女ひろ(大一〇生)三女照子(大一一生)奉天朝日高女在【住所】奉天平安通三八電三一二四六八

年六月滿鐵稅關勤務となり次で同十二年稅關課長官に選み引續き關稅稅關勤務たり【功賞】康徳元年三月建國功勞章大典紀念章同五月勳八位景雲章同二年九月皇帝勳日紀念章各拜受【家族】妻七一【住所】北鮮清津府滿洲國稅關辦公處官舎

山縣富次郎

勳八等、滿洲圖書文具(株)監査役、文英堂主、書籍文具商【公的關係】滿洲圖書雜誌社商組合長、旅順輸入組合、同金融組合、同商工協會各評議員、帝國海軍人旅順分會理事【本籍】山口市【生年月日】明治十七年二月【履歷】僕三郎二男昭和四年家督相續【經歷】明治四十一年來都里に於て國

書院實業を經營同四十二年渡滿現所に文英堂を起し後同市松村町二に出張所を開設す義に職檢香取轉投たり【趣味】義太夫旅行釣魚【家族】妻チヨ(明二六生山口縣林人吉女)二男實(大三生)四男幸雄(大一一生)長女靜枝(大五生)三女民子(大一一生)四女敏子(昭四生)五女康子(昭八生)【店舗】旅順市青葉町四ノ二電二〇七



山内 丈夫

勤八等、滿鐵職員
鐵道總局勤務【出生地】北海道岩内郡
【本籍】福島縣耶麻郡
【生年月日】明治三十七年六月十一日【資格】
山内廣隆長男【學歷】昭和二年北海道帝國大學工學部卒業【經歷】昭和三年四月滿鐵に入社鐵道部工務課に勤務し爾來奉天保線事務所勤務青島古教線路局建設部工程設計科長を経て大同元年六月滿洲國交通部鐵道司路工科長昭和八年三月鐵道總局工務科勤務同九年五月總局工務課工務主任同十一年九月哈爾濱工務段長を歴職同十二年一月總局工務局勤務となり同四月現職に就く先是同十一年十一月滿一ヶ年半年の歐米各國留學を命ぜられ翌十二年シベリヤ鐵道經由出發す此同滿鐵社員會評議員總局分會組織部長福島縣人會幹事に推さる【功賞】滿洲事變の功に依り勳八等及び從軍記章滿洲建國功章を受く【特記】熱と誠とを處世訓とし北大第一回卒業生として滿鐵社員間の大先鞭たり鐵道土木方面の造詣深く著書「鐵道の科學的研究」あり尙ほ滿洲國官立當時陸軍王德林に師事するも等々心せり

【趣味】ゴルフスキー【信仰】禪宗【家族】父鹿熊(明八生)母ミサホ(明九生)妻シシエ(明四三、一)生東京府末廣宮久治長女長男伸夫(昭七、六生)二男邦夫(昭一〇、五生)【住所】奉天鐵道總局

田 藤

河村工務所、河村商會各務主任、諸機械煉房水道衛生材料販賣並工事請負業【公的關係】奉天聯合町會常任幹事、奉天稻葉町會長【本籍】大分縣大野郡東大野村【生年月日】明治廿二年五月廿三日舊姓河村【學歷】大正二年旅順工科學堂卒業【經歷】大正三年亞細亞製粉株式會社に入り漢口支店に勤務す同四年本溪湖煤鐵公司に轉じ機械課に勤務する事六ヶ年同十年奉天富士町に河村工務所を開設昭和五年奉天千代田通二二に河村商會を起し今日に至る【事業】河村工務所は諸機械煉房水道衛生材料販賣を營業課目とし四平街郵家屯に支店を有す仕入先は東京大阪小倉方面にして滿洲興業銀行に取引あり【特記】滿鐵及關東局役房工事指定請負人にして日滿各鐵道の列車給水装置工事一切を請負ふ【店舗】奉天稻葉町七電三三三〇一



布 施 忠 司

滿鐵副參事、鐵道研究所大連在勤【公的關係】工業標準規格委員會小委員、滿洲建築協會、滿洲技術協會各會員【本籍】新潟縣中頸城郡明治村大字手島南毛九一四【生年月日】明治廿四年十月十九日【資格】秀治長男



加 藤 忠 之 丞

愛知商會主、世帯道具電氣硝子衛生陶器タイク神佛具類及陶磁器雜貨直輸入卸小賣商、ガソリンコンロ石油ソノロアイチ號北滿總發賣元【公的關係】哈爾濱桃山小學校保護者會委員【出生地】瀋陽市大宇瀾戸三三九一【本籍】同上【生年月日】明治廿四年十一月一日【資格】三上二男【學歷】愛知縣師範學校卒業【經歷】鳳城瀋陽瀾戸町に於て陶磁器商に従事せしが實兄の經營する愛知縣瀾戸市の陶磁器雜貨輸出商加藤政谷商店(資本金廿萬圓)が昭和十年四月一日哈爾濱の現所に支店を開設するや之が主宰者として渡滿し爾來前掲の業務を統率して今日に及ぶ【事業】當店は資本金五萬圓にして従業員十餘名年商高百餘萬圓販賣滿洲全般の日滿露各商店

江支那幹事【本籍】愛知縣岡崎市小松町大字新屋【生年月日】明治廿二年六月七日【經歷】明治四十二年渡滿爾來一貫して土木建築請負業に従事し新國家建設後昭和八年牡丹江に居を定め爾後各租出張所の開設と共に其代表者に就任以て今日に及ぶ【事業】同出張所は開業昭和九年十二月前掲各指定請負人にして當時従業員千五百名内外を擁し同地方土建界に一頭地を拔く【特記】來住以來公共の事に盡瘁し常に幾多の公職を帯び昭和十二年四月民會議員に當選され同月商工會議所の創立と共に議員に列す滿洲事變の功に依り賞勳局賜杯を賜ふ【家族】妻悦子(明二八、四生)【住所】牡丹江開明街六ノ六種谷租電二二五

稻 葉 幸 太 郎

稻葉製作所(資)代表社員【公的關係】長崎縣人會々長【本籍】長崎市伊良林町三七【生年月日】明治卅一年七月【學歷】電機學校卒業【經歷】風に滿鐵旅順炭礦機械課に勤務し在職中電氣銲接棒を發案す昭和四年獨立開業後特殊銲接鋼の表面硬化法を研究し次で磨滅線路の銲接に成功名譽揚る【事業】合資會社稻葉製作所は旅順東三番町九にあり諸機械設計製作租立工事特殊銲造租立並電氣銲接を營む昭和四年四月の開業にして新京八島通四二奉天彌生町四五に各出張所を置き旅順城外南關門外に工場を有す【趣味】劍道刀劍【信仰】天照皇太神宮【家族】妻との間に一男二女あり【店舗】旅順東三番町九電二〇一四



中 山 秀 治

勤八等、滿鐵副參事、齊々哈爾濱路監理所監理員【本籍】福島縣田村郡船引町大字船引字安久津二〇【生年月日】明治廿九年二月十五日【資格】故民次郎長男昭和十一年二月家督相續【學歷】大正四年岩倉鐵道學校卒業【經歷】明治四十四年四月福島縣三春郵便局通信事務員を拜命翌年辭し大正四年十一月滿鐵に入り大連保線保固工同八年四月大連工務事務所勤務同十年四月命職員爾來大連鐵道事務所鐵道部線路課同計畫課大連鐵道事務所各勤務昭和五年六月命技術員大連保線事務所勤務同六年八月大連鐵道事務所勤務同十年四月同工務課工事係主任同十一年九月命職員を経て同十二年三月現職に就く【特記】鐵道技術關係に造詣深く義に滿洲事



立 石 嘉 三 郎

立石洋服店主、洋服商【本籍】福岡市天神下町六ノ二七【生年月日】明治四十四年三月三十日【資格】故清次郎五男【學歷】高等小學【經歷】故清次郎五男【學歷】高等小學校卒業【經歷】二歳淺鮮十五歳元山なる藤平洋服店に入り斯業の實地修業に努め廿一歳京城三中井に轉じ次で福岡吉田洋服店を経て廿二歳奉天十字屋に勤務其後齊々哈爾濱正陽大街に開業せるが次で海拉爾橋頭街に移り更に現所に轉じ今日に及ぶ【事業】現に従業員十四名を擁しミシン三臺を携付奉天方面より仕入れ地場を販路とし軍御用を勤め年商内高三萬圓を超え業界の新興勢力たり【家族】妻幹枝(大一生)【店舗】興安北省海拉爾北大街



藤 田 篤 次

土木建築業總務各租牡丹江出張所代表滿鐵、國道局、鐵道總局、滿洲炭礦各指定請負人【公的關係】牡丹江居留民會議員、同查定豫算社建設各委員、牡丹江商工會議所議員牡丹江防衛團團長、滿洲土木建築業協會牡丹

大連汽船(株)取締役兼總務部長【本籍】島取市【生年月日】明治廿三年三月【學歷】大正三年東京高等商業學校卒業【經歷】學事修了後青島に在り大正十二年大連汽船株式會社に入社同十三年九月同社安東支店長となる爾來各地支店に歴任後本社庶務課長となり昭和十年十二月同社職制改革

島 田 信 吉

大連汽船(株)取締役兼總務部長【本籍】島取市【生年月日】明治廿三年三月【學歷】大正三年東京高等商業學校卒業【經歷】學事修了後青島に在り大正十二年大連汽船株式會社に入社同十三年九月同社安東支店長となる爾來各地支店に歴任後本社庶務課長となり昭和十年十二月同社職制改革

に際し新制の職務部長に擧げられ翌十一年十二月取締役に就任今日に及ぶ尙現に塘沽運輸公司取締役に兼ぬ【趣味】觀世流曲【住所】大連市神明町九四電二一六〇七



宮田春信

勤八等、科亭松鶴 經營主【出生地】鹿兒島縣川邊郡西南方村坊【本籍】同上【生年月日】明治十六年十月【學歷】郡高等小學卒明治廿三年尋常小學校准教員免許を受く【經歷】郡小學校在職中同廿六年陸軍騎兵合格第六師團に入營次で日露戰役に出征同三十九年凱旋滿洲除隊と共に一旦歸國翌四十年七月再渡滿洲原を距る約十里の通江口に於て支那人相手の買商を營み後開原に出づ居る事七ヶ月雙廟子に轉じ其地に礦鑛を營む事約二ヶ年大正四年鄭家屯に轉住す次で鄭家屯事件其他幾多の事件を突破して着々歩を進め同十年再び開原に出て科亭松鶴を經營次で千島をも兼管昭和四年頃奉天に進出礦鑛館を繼承同六年松鶴と改稱傍ら在籍軍人會正副會長三州會副會長其他要職に就けり【事業】女中板前男衆等従業員六十五名を擁し年商高二十萬圓を計上奉天信託と取引あり【功賞】日露戰爭の功により勳八等又日本赤十字社に多額の金員を寄附して木杯を贈らる【家族】妻鶴子(明二五生鹿兒島縣松山下兼良長女)長男實積(大一一生)二男建朝(昭二生)三男逸朗(昭七生)長女松代(大三三生)二女貞代(大一一五生)【店舖】松鶴(奉天)同町六電二一四九八五(奉天)三〇二二

丸山捨吉

大陸科學院研究官【出生地】神戸市【本籍】東京市赤坂區青山南町六ノ一〇八【生年月日】明治卅一年六月廿五日【履歷】久吉長男【學歷】縣立神戸一中同山六高を擧て大正十四年東京帝國大學農學部農藝化學科卒業【經歷】大正十年六月武田製藥株式會社に入社研究部に於て翌九ヶ月同十年三月辭す十四年四月財團法人理化學研究所研究生となり農學博士鈴木梅太郎教授指導の下に研究に従事康徳二年八月滿洲國に轉出現職に就く聘任四等たり【特記】故三浦醫學博士辻村農學博士の協力發見による日本綠茶の榮養成分ウキタミンCに關し更に研究之が精製分離に成功日本茶業界に一大光明を齎せり茶業組合創立五十周年記念式に同組合中央會議所會頭より感謝狀及記念品を贈らる【信仰】基督敎【家族】母つる(明六生)妻輝子(明三八、七生東郷員武長女青山學院高等女學部專攻科卒)長男茂樹(昭四、四生)長女百子(昭九、二生)【住所】東京市赤坂區青山南町六ノ一〇八



幸貞雄

滿鐵職員、吉林總務段運轉助役【本籍】大分縣北海部郡白杵町【生年月日】明治卅四年八月廿八日【履歷】故休職長男【學歷】大正八年八幡製鐵所從事員養成所卒業【經歷】大正八年七月滿鐵に入り大連機關區に勤務すること十六年昭和十一年四月現職に就く【功賞】滿洲事變にて從軍記章及木杯を賜ふ【趣味】園作特棋盤

全滿實業大正博覽會全國食品共進會等に於て名譽特等大金牌金牌銅牌有功章等の獲得せるもの數ふべからず【趣味】寫眞登山【信仰】眞宗【家族】母貞(明二生)妻輝子(明四四生大阪府森田美三長女大連彌生高女卒)長女澄子(昭六生)【店舖】花乃屋本店 大連市浪速町一四八電二一四九五九・七二〇七



湯淺長四郎

長春座(株)專務取締役、帝都キネマ(株)取締役、筒井洋行(資)代表社員【出生地】德島縣阿波郡土成村【本籍】同上【生年月日】明治十九年二月二日【履歷】林吉二男【學歷】德島縣立脇町中學校卒業【經歷】大正七年渡滿し長春取引所仲買人となり又各會社に投資して役員となり實業界に活躍同十三年東京に引揚げ著書出版業を營む滿洲事變に再赴して昭和八年三月新京古野町に資本金六萬圓の合資會社筒井洋行を設立し物品販賣有價証券買賣金貸付土地家屋の投資並に之に附隨する業務を營み尙食料店をも經營せしが昭和十一年春閉鎖す目下家賃収入年額一萬圓を超え特に最近専ら土地を購入し貸家建築をなす【事業】長春座は從來資本金廿萬圓なりしが同十二年二月増資廿萬圓の新株持込金を徴し三角地帯に工費十萬圓のビルを建築すべく三百坪の土地を購入準備中なり【趣味】讀書著作【家族】妻貞子(明三三生德島高女卒)長男志郎男(大九生)【住所】新京古野町三ノ五長春

山口本生

滿洲電業(株)參事、工務部計畫課長【公的關係】電業社員俱樂部理事長、帝國在滿軍人新京電業分會副會長【本籍】高知市水道町四六【生年月日】明治廿五年十一月一日【學歷】高知縣立中學海南學校を擧て大正六年旅順工科學堂電氣工學科卒業【經歷】大正六年十二月關東都督府金州民政署電氣事業囑託を拜命し同七年十一月解職十二月一年志願兵として工兵第十一大隊に入營同九年一月滿鐵に入社電氣作業所に勤務同十五年滿洲電氣株式會社に轉じ隨後工務課天ノ川發電所長工務課運轉係主任大連發電所長甘井子臨時建設事務所長等に歷職し昭和四年三月發電機研究所爲め歐米に出張を命ぜられ翌年三月歸朝同九年十一月電業職員となり新京電業局營業課長に補し甘井子臨時建設事務所長を兼務す同年十二月參事に任じ次で現職に就く【住所】新京東安街一〇四ノ三電二一三〇四六



掛札幸晴

勤八等、滿鐵職員 新京驛構内助役【公的關係】社員會評議員【本籍】岐阜市多賀町一八【生年月日】明治廿六年六月廿日【履歷】幸太郎長男【學歷】大正九年岐阜商業學校卒業同十年三月滿鐵運輸從事員養成所卒業【經歷】大正十年三月滿鐵に入り安東驛に勤務次で同十五年九月遼陽列車區勤務に轉じ昭和三年二月馬仲河

段運動【信仰】眞宗【家族】妻五月(明四一、五生大分縣野登平二女縣立高女東京家政女學院各卒)長男一彦(昭六生)二男照久(昭九生)二女君子(昭四生)【住所】吉林縣島街一六ノ一七ノ五



白木正雄

花乃屋本店主、東京式菓子製造販賣部部長【本籍】愛知縣海部郡鍋田村宇森津【生年月日】明治卅七年七月十日【履歷】庄太郎ノ男【學歷】大連商業學校三年修業【經歷】學事修了後東京市日本橋區八葉子街にて二ヶ年街業の實地修業を積み歸來家業菓子製造販賣部に従事父を扶け後業務一切を繼承す大正九年十二月營業を公開資本金二萬五千圓の合資會社に改組代表社員に就任す昭和七年十一月會社存立期間満了と共に資本金一萬五千圓を以て合資會社花乃屋を再組織す代表社員として大連市浪速町の本店はじめ同市伊勢町の分舖同市山縣通支店を擁し益々發展せしが昭和十一年十一月合資會社花乃屋を解散し各支店を分離氏は花乃屋本店主として之を經營し今日に及ぶ【特記】花乃屋は明治卅八年九月嚴父庄太郎氏が渡連岡女庵主と共同一小店舖を開設せるに始り同四十年分舖獨立して浪速町三丁目に花乃屋を開店せるに創まる大連製菓業界の一大老舖たり而して富店は滿洲特産物を以て製造せるきぬた羊羹記念餅滿洲の露葡萄酒林檎餡黃海の里高粱煎餅カキ、ス煎餅栗餡頭君が代饅頭豆ビスケット等を以て名譽を博し是等製品は全國菓子贈答會をはじめ長崎記

縣助役となり同五年七月四年街驛構内助役を擧て同九年十二月現職に就任今日に及ぶ【功賞】滿洲事變の功に依り勳八等授與實業軍功章並に滿洲國建國功勞章を受く【趣味】運動讀書【信仰】日蓮宗【家族】妻せつ(明四一、生岐阜縣人田中常四郎三女)長男弘(昭五生)長女順子(昭七生)二女正(昭九生)【住所】新京常盤町二ノ九ノ三



米林芳子

鄭家屯ホテル經營主【出生地】石川縣【本籍】同上【履歷】故業吉妻【經歷】夙に金澤市高岡町の米林榮吉に嫁し明治四十年夫と共に渡滿同四十四年以來湯岡子温泉ホテル經營に當り大正十一年鄭家屯に轉じ同五年の創業に係る現ホテルを譲り受け後來設備調度等凡ゆる方面に大改革を加へ同十四年には洗南に支店を開設せり而も齊東北軍閥の壓迫激しく昭和五年同支店は閉鎖の已むなきに至りしも當時在留邦人百五十名に過ぎざりし鄭家屯に在りて現店舖を固守し新國家建設後業務繁忙に向ひしが昭和八年八月夫の逝去に遭ふ爾來自ら同ホテルを主宰し克く今日の盛業を確保す【事業】鄭家屯ホテルは現に滿鐵助成旅館として客室十二外に卅疊の廣間あり團體收容力普通四十名學生七十名宿泊料三圓乃至八圓施設内容其他他地一流の業者たり納税年額二百五十圓を計上す【特記】御客本意報恩主義を家憲とせり【趣味】音樂【信仰】佛敎【家族】亡夫の姉【店舖】鄭家屯ホテル 奉天省鄭家屯東街電六三・二二六



赤羽柳吉
天龍公司炭礦主、
炭礦業【公的關係】
牛心炭炭販賣相互
組合理事【本籍】長
野縣【生年月日】明
治十二年七月四日
【遺稿】一妻二男

【學歴】明治七年早稻田大學法科法律科卒業同
年八月日本大學高等專攻科卒業【經歷】明治廿八
年鐵道作業局計理部に勤務次で同廿九年野戰
鐵道提理部附として渡滿後同提理部の滿鐵引繼
と共に入社せしが同四十四年四月辭して實業界
に投じ中央商事大信商事の各代表取締役中電
氣工業日華製糖の各取締役大連信託代表取締役
スミス自動車の監査役たりし事あり又昭和四年
以來奉天省本溪縣牛心炭に無煙炭礦二礦區及同
縣大王廟煤礦(有煙炭)二礦區の探採權を獲得
し天龍公司炭礦と稱し探採に従事す【事業】開坑
以來探採の發展を受くる事數回昭和七年六月に
は大連部に買通鉄鋼を蒙り又休業する等幾多の
難題に遭遇したるも不撓不屈遂に年産額六萬噸
の出炭を見るに至れりコルムニツシム及ランカシ
ヤポイター徑六尺長廿尺以下六基及捲揚機二臺
運轉中にして附屬鐵工場二ヶ所を有し従業員五
百名に達せるが時運に鑑み積極的に經營すべく
昭和十年來重工業用炭(本溪湖炭同質)二三の礦
區を租備して探採を始め頗る良績を収めつゝあ
り【信仰】純神統【家族】妻コト子(明)一女生富山
縣野田茂右衛門長女(長男勇男(大)二生京都帝大
法科在)長女美智子(明)四〇生大連神高女日本
女子大東北帝大法科各卒(二)女女子(明)四二生大
連神高女女子大文部省調停官格(四)女順子(大)四



宮本權彌
勳八等、滿鐵職員
撫順炭礦製油工場
工作部主任【本籍】
石川縣石川郡宮保
村字宮保ヌ一七一
【生年月日】明治二
十七年十一月十七

日【遺稿】故權三郎五男【學歴】大正四年南滿洲工
業學校機械科卒業【經歷】大正四年四月滿鐵に入
社し撫順炭礦製油工場に勤務し昭和二年十月同機
械工場同三年二月臨時製油工場建設事務所同四
年十一月同製油工場等に歷勤し同九年十二月現
職に就く【特記】入社以來哈ど一貫して機械設計
方面を擔當し實際家として知られ【功賞】復讐車
式チツプラー回轉裝置考案により創立廿周年記
念に表章次で勳章を受く昭和六年四月十五年
勳章表章を受く又滿洲事變にて勳八等及從軍記
章並滿洲國建國功勞章を賜ふ【趣味】スケートゴ
ルフ【信仰】眞宗【家族】母ふゆ(文久三、一)生



井原重雄
勳八等、滿鐵職員
吉林檢車段西安分
段檢車助役【公的
關係】前新京弓道
部幹事【本籍】山口
縣德山市幸町【生
年月日】明治廿六
年一月五日【遺稿】故助次郎四男【學歴】大正十三
年滿鐵講習所檢車科卒業【經歷】大正八年七月大
連檢車段檢車手として滿鐵入社昭和七年一月四
洗線部家屯檢務段に派遣され同年九月大連檢車

段に就く【特記】昭和七年關東軍の委嘱に依り日
本帝國地政班長として匪徒の危險と未曾有の本
害の難を冒し青島線沿線施設に従事功に依り木
杯を賜ふ【趣味】盆栽寫眞劍道【住所】吉林省德惠
縣密門滿鐵診療所主任社宅

生大連神高女卒(二)男龍夫(大)六生一高文科
在(三)男羊治(大)九生大連中在【住所】大連市橋
津町八一電二一五〇一九

吉和崎藤
日滿商事(株)東京支店石炭係主任【本籍】
福島縣若松市片柳町二六【生年月日】明治
卅一年九月廿一日【學歴】大正十五年東京
商科大学本科卒業【經歷】大正十五年三月
撫順炭礦製油株式會社に入社昭和十一年十
月日滿商事株式會社に入社し今日に及ぶ
【趣味】讀書【家族】妻及二男二女【住所】東
京市日暮區株ヶ丘二三四三

妻藤(明)三三、三生石川縣中野中二女(長女喜美
子(明)六、二生)【住所】撫順南臺町二ノ八ノ一二
電四一〇五

林 節
滿鐵哈爾濱鐵路醫院密門診療所主任兼醫
員、通達ベスト調査所在密門防疫醫
務【出生地】福岡縣京都郡行橋町大字大橋
【本籍】同【生年月日】明治卅四年七月十三
日【遺稿】モト養子孫姓宮本【學歴】昭和六
年滿洲醫科大學本科卒業【經歷】昭和六年
七月滿洲醫科大學附屬醫院密門診療所主任兼醫員同十
命奉天婦人醫院醫務顧問八年七月滿洲醫科大學
手兼醫員同九年七月滿鐵瓦房店醫院院長同十年
六月哈爾濱鐵路醫院密門診療所主任兼醫員同十
一年九月命診療所主任兼醫員等を經て同十月現
職に就く【特記】昭和七年關東軍の委嘱に依り日
本帝國地政班長として匪徒の危險と未曾有の本
害の難を冒し青島線沿線施設に従事功に依り木
杯を賜ふ【趣味】盆栽寫眞劍道【住所】吉林省德惠
縣密門滿鐵診療所主任社宅

保 戸 央
大同林業(株)教化事務所長【公的關係】敦
化居留民會議員【本籍】福島縣信夫郡島川
村大字上島渡【生年月日】明治廿四年二月
十八日【遺稿】野根兄【經歷】明治卅九年福
島縣廳に奉職同四十年福島地方裁判所會
計課に轉じ勤続六年大正二年八月渡滿土
木建築請負業に従事後郵便局民團等に奉
職大正七年六月三井物産に入り安東出張員た
る事久しく後大同林業に轉じ今日に及ぶ【家族】
妻キミ(明)四二、二生(及)五男あり【住所】吉林省
敦化東門外

最古参たり最古城內三遺蹟に於て發掘せるも
埠地の發展と共に現地に移轉せるものにして昭
和十年五月大馬路に支店つるやを開設せり【趣
味】圍碁將棋【信仰】眞宗【家族】妻タミ(明)二〇、
三生(長男篤徳(昭)八生)【店舖】吉林大馬路三五
電二一四六



高須進一
勳六位、專賣署事
務官、奉天專賣署
勤務【本籍】宮城縣
【生年月日】明治卅
一年【遺稿】故長七
郎長男【學歴】上海
東亞同文書院卒業
【經歷】同上卒業後遼陽總督府に奉職同技手同書
記臺北南門工場等に歷任大同二年滿洲國に轉出
後も財政部事務官專賣總署勤務を経て康徳四年
三月現職に就く【特記】任官五等たり【趣味】野球
麻雀【信仰】曹洞宗【家族】妻マサ(明)三五生千葉
縣江津吉太郎二女(長男恒夫(大)一)生(長女淳
子(明)二生)二男和夫(昭)四生【住所】奉天城内奉
天專賣署

原 藤
石川哈爾濱支店主任【本籍】愛媛縣宇摩郡
三島町【生年月日】明治四十二年二月廿六
日【經歷】學校卒業後渡滿石川新京本店に
入り勤続多年に及ぶ其に其哈爾濱支店主
任となり今日に及ぶ【事業】清酒(日本晴
福鶴)の販賣を専らとし賣賣街に營業所
を置き日滿人六名を使用す其の營業は昭
和九年十月より【店舖】哈爾濱買賣街二六ノ一電
四三一六・六四五七



吉田吉
吉田日進堂主、和
洋菓子製造販賣業
【本籍】長崎縣南高
來郡西郷村【生年
月日】明治廿年一
月四日【遺稿】佐一
長男【經歷】夙に郷

里にて學業を卒へ後渡滿はじめ哈爾濱に在り其
後新京を経て吉林に來り一時某製菓所に勤務せ
しが後獨立して吉田日進堂を開く【事業】其の開
業は大正五年十二月にして在吉林人菓子店中の

山口民治
從五位勳六等、審判官、哈爾濱高等法院
次長【本籍】佐賀縣杵島郡六角村大字東郷
一三七【生年月日】明治二十七年九月六日
【學歴】大正八年東京帝國大學法學部英法
科卒業【經歷】大正八年七月三井物産に入
社同十年十月退社司法官試補を拜命同年
十二月長崎區裁判所檢事代理同十二年六
月任判事後備判事東京地方同區各裁判所判事代
理同十三年一月大坂地方裁判所判事同十四年四



中野幸市
滿蒙製米、鞍山印
刷各(株)社長、滿
蒙棉花紡機(株)監
查役【公的關係】鞍
山地方委員會副議
長、鞍山商工會議
所常議員、鞍山縣
合町會顧問【出生地】佐賀縣神埼郡西郷村【本籍】
同上【生年月日】明治八年七月廿日【經歷】夙に印
刷業の研究を積み明治四十二年渡滿直ちに遼陽
に居を定めて新業を開始し爾來努力奮闘業運向
上の一途を辿り業運逐年大を加ふ大正八年之を

理同十三年一月大坂地方裁判所判事同十四年四